

第4回県立高等学校の在り方検討委員会 次第

日時：令和6年2月20日（火） 9:30～12:00

場所：高知県人権啓発センター 6階 ホール

1 開会

(1) 教育長挨拶

2 議事

- ・学校の適正規模と適切配置について
- ・課程・学科の適切配置について
- ・学校の魅力化・特色化について
- ・入試制度の在り方について

3 閉会

- (1) 教育次長挨拶
- (2) 諸連絡

第4回 県立高等学校の在り方検討委員会資料 目次

資料1 第3回県立高等学校の在り方検討委員会のご意見等の概要

資料2 第4回県立高等学校の在り方検討委員会検討資料について

資料2-1 第4回県立高等学校の在り方検討委員会 検討状況確認表

資料2-2 第4回県立高等学校の在り方検討委員会 検討資料

資料3 入試制度の在り方について

資料3-1 県立高等学校の在り方検討委員会における入試制度の検討について

資料3-2 入試制度の在り方に関する検討のポイント等について

資料3-3 高知県公立高等学校入学者選抜制度の改善の流れについて

資料3-4 現行の高知県公立高等学校入学者選抜制度の概要について

資料3-5 県立高等学校の在り方検討委員会 第1回専門部会について

資料3-6 県立高等学校の在り方についてのアンケート 調査結果（中高校長対象：概要版）

資料3-7 高知県公立高等学校入学者選抜 合格者数等の状況（課程別）

資料3-8 令和5年度高知県公立高等学校入学者選抜 合格者数等の状況（学校別）

資料3-9 令和6年度A日程等志願先変更後の状況（学校別）

資料3-10 他県における公立高等学校入学者選抜について

【参考資料】

参考資料1 第3期教育等の振興に関する施策の大綱／第4期高知県教育振興基本計画（概要）（案）等

参考資料2 分校等の学びについて

参考資料3 高知県の併設型中高一貫教育校、連携型中高一貫教育校について

参考資料4 令和5年度高知県産業教育審議会の報告

参考資料5 通信制高等学校について

参考資料6 太平洋学園高等学校訪問報告書

参考資料7 県立高等学校の在り方についてのアンケート結果報告書

第 3 回県立高等学校の在り方検討委員会のご意見等の概要

○ご意見等

適正規模・最低規模	<ul style="list-style-type: none"> 最低規模に満たない学校も増えており、今後さらに少子化により、増えるのではないかとと思う。また、適正規模・最低規模の言葉や数字的なものを根本的に変えていかなければならないのではないかと。 感覚以上に少子化が進み、適正規模という考え方もなくても良いのではないかと考えている。最低規模もある程度のラインを構えておかないと、1人や2人での高等学校は想像しにくく、子ども達にとってそのような学びが良いのか疑問がある。 最低規模は、望ましいという数字であれば柔らかいものになると思う。そのような形で最低規模を残すことは必要ではないか。 適正規模・最低規模という言い方はやめて、過疎化の著しいところであれば、地域の振興のため学校は残すが、集団活動における社会性の育成など高校で育まれる能力のため、生徒数1学年1学級20人以上あるいは、分校は10人以上が望ましいというような目標値をつくる。
普通科	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達は、普通科と総合学科の違いがはっきり分かっていない状況であり、将来のことがイメージできずに、高校へ行けば何とかするという感覚がある。 特に高知市以外で普通科が定員を満たせず、高知市に流れてしまっている。対応するためには、地域との繋がりを持った何か尖ったものがないといけない。学校をさらに活性化するために、地域で取り組むことや少し尖った内容にしていく方向が魅力化に繋がるのではないかと。普通科ばかりやるとも普通科をやめるともならないが、普通科が魅力的に映るような改革をしていく必要があると思う。
産業系専門学科	<ul style="list-style-type: none"> 最低規模を下回る学校に、高知海洋高校が入っているが、地域に留まらず広いところからアプローチし、高知県の産業を維持するためにも必要な役割を持っていると考え、最低規模の議論から外れ、別の観点から魅力化を考えていかなければならないと思う。 水産科・看護科については現状の体制は良いが、工業や農業等は、少し学科の見直しを行うことも必要になるかもしれない。
定時制・通信制	<ul style="list-style-type: none"> 私立を選んでいる生徒が多いことをみると、公立のシステムも見直し、生徒から選んでもらえるものにしていく必要がある。また、生徒や保護者に対して、もっとPRをしていくべきだと思う。 公立の場合、定時制と通信制と組み合わせ、全体で多様な学びを提供できることをネガティブではなく、ポジティブに学び方ができるアピールをしていくことが重要である。 多様な学びをする中の1つに、仕事をしながらも学べるという位置付けの転換や逆転の発想が必要である。 ギフテッドのような、特殊な能力で秀でている才能を持っているが、みんなとの生活は苦手という人達にも学びの場を確保することは、これからの将来大事だと思う。通信制・定時制という定義を決めず、特殊な勉強を様々な形で受け入れる学校を、高知県でも先進的につくことも考えていくと良いのではないかとと思う。 スクーリングを中心とした面接指導での人間関係形成や、試験などによる学力保障は重要なため、公立で作るときには十分に気を配り、議論いただければ良いと思う。 セーフティネットは、ネガティブな感じであるため、ジャンピングボードのようなさらに伸びていく、非常に能力はあるが集団的な学びの中ではうまくいかなくても、個別の学びができ、郵便制ではなく、本当の意味でのこれからの通信制をアピールしていく、コンテンツをどうしていくかが大事である。 公立の通信制で民間活力やノウハウを一部活用して、魅力化を図ることができないか。他の通信制と違った色を出すことができれば、公立の良さ、特に費用面等の部分での選択肢の1つにもなるのではないかとと思う。
学力	<ul style="list-style-type: none"> 高校を出て就職した生徒が、会社の中で力をつけていくことができず、成長することができない現状がある。様々な特色や多様性に対処していかなければならないが、現代において、本当に必要である基本的な力や能力を身につけていける教育システム等が必要ではないかとと思う。 学力がついていない状態で働いても、伸ばそうと思っても伸びず、いい子はどんどん出ていくと思うが、様々な層の子を引き上げていかないと、高知県の経済にも繋がっていかないのではないかとと思う。

検討状況確認表

青色の部分：前回のご意見等であり、確認をしていただきたい項目。

赤色の部分：議論を深めていただきたい項目。下線部は特にご意見をいただきたい項目。

u003c/divu003e

検討状況確認表

項目	現計画（学校の適正規模・適切配置、課程・学科の適切配置）	検討委員会のご意見等（◆：ご意見等、▼：まとめとされた意見等、▽：▼に関連する意見等）
県立高等学校について 全日制課程について 普通科系	<p>H26 再編振興計画 〈適正規模〉 1 学年 4 学級以上（上限 8 学級）、高知市及びその周辺地域： 1 学年 6 学級以上 〈本校の最低規模〉 本校の最低規模は 1 学年 2 学級以上 過疎化が著しく近隣に他の高等学校がない学校： 1 学年 1 学級以上 不登校や発達障害等柔軟な対応が必要な学校： 1 学年 1 学級以上 ※教育の質を維持していくための集団としては少なくとも 1 学級 20 人以上が必要。 〈分校の最低規模〉 1 学年 1 学級 20 人以上が少なくとも必要</p> <p>H30 再編振興計画後期計画 〈本校の最低規模の特例校〉 過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校であり、特例として 1 学年 1 学級（20 人以上）を最低規模とする。不登校経験者や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整えた学校であり、特例として 1 学年 1 学級（20 人以上）を最低規模とする。</p>	<p>【適正規模・最低規模】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 実態からみても適正規模や最低規模は設定しなくともよいのではないか。 ▼ 過疎化が著しい地域の学校は、地域振興のためにも学校が必要ではないか。 ▼ 教育の質を担保することや、集団における社会性の育成など高校で育まれる能力育成のため、目標値としての学級数（人数）を設定する必要はあるのではないか。1 学年 1 学級（20 人）以上、分校は 1 学年 1 学級（10 人）程度を望ましい学級数（生徒数）としてはどうか。 ▽ 最低規模に満たない学校が増え、今後少子化によりさらに増える可能性がある。 ▽ 望ましいという数字であれば柔らかいものになる。 ▽ ICT は、単にコンテンツを配信するだけでなく、他校の生徒と切磋琢磨する環境が作れる。小規模であっても教育効果をあげられる可能性は十分にあり、従来とは学校規模の考え方が変わってきて良い。 <p>【取組の発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 高校の特色を明確にアピールし、保護者に地元の学校の良さを認識してもらうことが必要。 ◆ 日本語を母語としない生徒への支援や様々な取組の魅力化が必要。
	<p>卒業後の多様な進路選択の保障と地域を担う人材の育成という観点から、県全体のバランスを考慮した適切な配置に努める。難関大学や医学部等への進学も実現できる進学拠点校を県全体のバランスも考慮しながら配置する。連携型中高一貫教育校については、地域の学校の状況等も踏まえながら、現在設置されていない地域への配置も検討する。併設型中高一貫教育校については、東部、中央部、西部の 3 地域での配置を維持する。</p>	<p>【普通科の在り方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 普通科がより魅力的なものになるように学校の改革が必要ではないか。 ◆ 特に高知市以外で普通科が定員を満たせず、高知市に流れてしまっている。対応するためには、地域との繋がりを持った何か尖ったものがないといけない。 ◆ 中学生は普通科と総合学科の違いがはっきり分かっていない。高校に行けば何とかなるという感覚で選んでいるのではないか。 <p>【遠隔教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ICT は、単にコンテンツを配信するだけでなく、他校の生徒と切磋琢磨する環境が作れる。 ◆ ICT の普及により、小規模であっても教育効果をあげられる可能性は十分にあり、従来とは学校規模の考え方が変わってきて良い。 ◆ 子ども達と先生の繋がりを大事にしながら進んでいくと良い。 <p>【地域等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 高校を地域と一緒にブランディングしていくことが必要。 ◆ 小中学校と地域を巻き込んだ活動が必要。 ◆ 普通科で広く勉強することがあまりメリットになっておらず、普通科の議論も非常に重要。 ◆ 多様性を認めることができる新しい学校を創ってもらえたらという意見もある。 <p>【地域みらい留学等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 少しずつ高知県を PR しながら、県外からの志願者を増やしてほしい。

1

項目	現計画（学校の適正規模・適切配置、課程・学科の適切配置）	検討委員会のご意見等（◆：意見等、▼：まとめとされた意見等、▽：▼に関連する意見等）
<p>県立高等学校について</p> <p>全日制課程</p> <p>産業系専門学科</p>	<p>本県の産業を担う人材の育成及び産業振興のため、現状の学校の配置を維持することに努める。ただし、生徒数の減少等により、現在の配置が維持できない場合には、他の高等学校との統合による複数学科の併置も含め、県全体のバランスを考えた計画的な改編を実施する。</p> <p>産業系高等学校の専門学科や普通科高等学校で産業系科目を設置しているコースにおいては、各校の活性化と教育内容の充実、適切な定員管理の実施に向けて、入学者数の状況や生徒のニーズ、産業構造の変化や就業形態の多様化などの社会環境の変化も見据えうえて、随時、設置科やコースについての見直しを進める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【統合・学科改編】</p> <p>H29：須崎工業高校の4学科を3学科に学科改編</p> <p>H30：安芸桜ヶ丘高校環境エネルギー科を募集停止</p> <p>H31：須崎工業高校と須崎高校を、須崎総合高校に統合</p> <p>R3：山田高校商業科をビジネス探究科に学科改編</p> <p>R4：安芸桜ヶ丘高校環境建築科を機械土木科に、情報ビジネス科をビジネス科にそれぞれ学科改編</p> <p>R5：安芸高校と安芸桜ヶ丘高校を、安芸高校に統合</p> </div>	<p>【適切配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 高知海洋高校は、室戸岬水産高校、高岡高校宇佐分校、清水高校漁業科を統合し、県内唯一の水産高校となった経緯がある。高知県の産業を維持するためにも必要な役割を持っている。看護科も同様である。 ◆ 工業や農業等は学科の見直しを行うことも必要かもしれない。 <p>【地域等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 県内の産業について興味を持ち、それを目指した子ども達の育成が必要。 ◆ 県内の産業の充実と日本語を母語としない生徒への支援等の取組が必要。
	<p>総合学科は、生徒が興味関心に応じて系列を選択することで多様な進路希望に対応できるという特色を生かすために、現在の各地域での配置を維持することに努める。ただし、生徒数の減少等により、学校によって複数の系列を置くことが困難な場合には、生徒数や地域の状況も踏まえつつ必要に応じて普通科への改編も検討する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【統合・学科改編等】</p> <p>H29：須崎高校の総合学科を普通科に学科改編</p> <p>H31：須崎工業高校と須崎高校を、須崎総合高校に統合</p> <p>室戸高校</p> <p>地域からは多様な進路希望に応じた教育を選択することができる総合学科の取組に対する評価は高いことから、現計画期間中は総合学科を維持し、地域の特色を生かした教育プログラムの推進、更なる地元中学校との連携に取り組むこととする。</p> </div>	
<p>定時制・通信制課程について</p>	<p><u>〈夜間の最低規模〉</u> 学校全体の生徒数 20 人以上</p> <p><u>〈昼間の最低規模〉</u> 1 学年 1 学級 20 人以上</p> <p>定時制は、働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴の生徒に柔軟に対応するため、各地域での定時制課程の維持に努める。ただし、生徒数の減少に伴い統廃合を検討する場合は、学校の役割や地域の実態、学科の内容、通学手段なども考慮した配置を検討する。多部制単位制は、生徒数の減少によって多部制の機能を十分に果たせない状況になった場合は、その在り方について見直しを検討する。</p> <p>通信制は、生徒のニーズに対応するため、現在の中央部と西部の2校の配置を維持するとともに、東部の生徒のニーズに対応するために通信制と定時制の併修の在り方を検討する。</p>	<p>【適切配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 定時制と通信制とを組み合わせ、多様な学び（高度で専門的な学習、学び直し、ギフトドや不登校生徒等への対応等）を提供できる学校が必要ではないか。 <p>【魅力化・特色化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ネガティブなイメージではなく、ポジティブに学べることをアピールしていくことが重要ではないか。 ◆ 働きながら学ぶという位置付けの転換や逆転の発想が必要ではないか。 ◆ 公立高等学校のシステムを見直し、生徒から選んでもらえるものにしていくことが必要ではないか。 <p>【ICT 活用等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 定時制・通信制は、高校の学びの最後の砦であり大事である。 ◆ ICT を活用し、学びやすい環境をつくるべきである。 ◆ ICT の画面へ出るだけでも難しい子どももいる。単に ICT で繋がるだけではなく、気持ちと気持ちが繋がる人と繋がっていききたい生徒もいる。 <p>【取組の発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 高校の特色を明確にアピールし、保護者に地元の学校の良さを認識してもらうことが必要。 ◆ 日本語を母語としない生徒への支援や様々な取組の魅力化が必要。

項目		現状と課題 (○：現状、●：課題)		検討項目 (◇：論点、◆：前回までのご意見)															
				適正規模・最低規模															
県立高等学校について	全日制課程について	○ 全日制高等学校：31校 (うち併設型中高一貫教育校3校、連携型中高一貫教育校4校)																	
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>東部</th> <th>中部</th> <th>北部</th> <th>高吾</th> <th>幡多</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2校</td> <td>15校</td> <td>2校</td> <td>5校</td> <td>7校</td> </tr> </tbody> </table>	東部	中部	北部	高吾	幡多	2校	15校	2校	5校	7校							
東部	中部	北部	高吾	幡多															
2校	15校	2校	5校	7校															
		○ 公立私立高等学校全日制の生徒数にみる各学科の割合 (R5年度高校1年生) (%)																	
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>普通科</th> <th>産業系専門学科</th> <th>産業系専門学科以外の専門学科</th> <th>総合学科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高知県</td> <td>64.3</td> <td>24.8</td> <td>2.3</td> <td>8.5</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>74.0</td> <td>17.1</td> <td>3.7</td> <td>5.2</td> </tr> </tbody> </table>	学科	普通科	産業系専門学科	産業系専門学科以外の専門学科	総合学科	高知県	64.3	24.8	2.3	8.5	全国	74.0	17.1	3.7	5.2		
学科	普通科	産業系専門学科	産業系専門学科以外の専門学科	総合学科															
高知県	64.3	24.8	2.3	8.5															
全国	74.0	17.1	3.7	5.2															
		※端数処理のため、100%にならないことがある。																	
		○ 現計画の適正規模・最低規模等の要件を満たしていない学校がある																	
		適正規模：1学年4～8学級 最低規模：全日制1学年2学級以上 全日制1学年1学級(20人)以上※																	
		※本校の特例校及び分校：過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校 不登校経験者や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を備えた学校																	
		・最低規模を下回る学校：城山、嶺北、吾北分校、高岡、高知海洋、佐川、窪川、大方、西土佐分校、清水																	
		・特例校規模(1学年20人)を下回る学校：吾北分校、西土佐分校																	
		・本県全日制の適正規模、最低規模に関する考え方																	
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">全日制</th> </tr> <tr> <th>本校</th> <th>分校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26 再編振興計画</td> <td> <p>〈適正規模〉</p> <p>・1学年4学級以上(上限8学級)、高知市及びその周辺地域：1学年6学級以上</p> <p>生徒の個性や進路希望などが多様化する状況に対応し、習熟度別の学習指導や総合選択制を取り入れた教育課程の編成などきめ細かい指導ができる体制を確保するため。</p> <p>また、一定の生徒数の確保が見込まれる高知市及びその周辺地域については、生徒の個性・能力や進路希望等に対応した類型を設けるなど多様な教育課程の編成が可能であり、特別活動や部活動においても切磋琢磨し、より活気あふれる学校づくりができる1学年6学級以上の学校規模の維持に努める必要がある。</p> <p>〈最低規模〉</p> <p>・本校の最低規模は1学年2学級以上</p> <p>高等学校としての教育の質を確保するためには、生徒の多様な学習ニーズに応え、集団活動による社会性の育成を図ることが大切である。</p> <p>過疎化が著しく近隣に他の高等学校がない学校：1学年1学級以上</p> <p>不登校や発達障害等柔軟な対応が必要な学校：1学年1学級以上</p> <p>※教育の質を維持していくための集団としては少なくとも1学級20人以上が必要。</p> </td> <td> <p>〈最低規模〉</p> <p>・1学年1学級20人以上が少なくとも必要</p> <p>高等学校としての教育の質を維持していくため。</p> <p>猶予期間を2年連続して20人を満たない状況となった場合に緩和</p> </td> </tr> <tr> <td>H30 再編振興計画 後期実施計画</td> <td> <p>〈本校の最低規模の特例校〉</p> <p>過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校であり、特例として1学年1学級(20人以上)を最低規模とする。</p> <p>不登校経験者や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整えた学校であり、特例として1学年1学級(20人以上)を最低規模とする。</p> </td> <td> <p>基準としては尊重するが、分校は小規模ということが前提となっていることから、本校との連携、分校としての活性化策、地域からの支援を含め、本計画期間中はその取組の成果を検証しながら、基本的に継続する。</p> </td> </tr> </tbody> </table>			全日制		本校	分校	H26 再編振興計画	<p>〈適正規模〉</p> <p>・1学年4学級以上(上限8学級)、高知市及びその周辺地域：1学年6学級以上</p> <p>生徒の個性や進路希望などが多様化する状況に対応し、習熟度別の学習指導や総合選択制を取り入れた教育課程の編成などきめ細かい指導ができる体制を確保するため。</p> <p>また、一定の生徒数の確保が見込まれる高知市及びその周辺地域については、生徒の個性・能力や進路希望等に対応した類型を設けるなど多様な教育課程の編成が可能であり、特別活動や部活動においても切磋琢磨し、より活気あふれる学校づくりができる1学年6学級以上の学校規模の維持に努める必要がある。</p> <p>〈最低規模〉</p> <p>・本校の最低規模は1学年2学級以上</p> <p>高等学校としての教育の質を確保するためには、生徒の多様な学習ニーズに応え、集団活動による社会性の育成を図ることが大切である。</p> <p>過疎化が著しく近隣に他の高等学校がない学校：1学年1学級以上</p> <p>不登校や発達障害等柔軟な対応が必要な学校：1学年1学級以上</p> <p>※教育の質を維持していくための集団としては少なくとも1学級20人以上が必要。</p>	<p>〈最低規模〉</p> <p>・1学年1学級20人以上が少なくとも必要</p> <p>高等学校としての教育の質を維持していくため。</p> <p>猶予期間を2年連続して20人を満たない状況となった場合に緩和</p>	H30 再編振興計画 後期実施計画	<p>〈本校の最低規模の特例校〉</p> <p>過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校であり、特例として1学年1学級(20人以上)を最低規模とする。</p> <p>不登校経験者や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整えた学校であり、特例として1学年1学級(20人以上)を最低規模とする。</p>	<p>基準としては尊重するが、分校は小規模ということが前提となっていることから、本校との連携、分校としての活性化策、地域からの支援を含め、本計画期間中はその取組の成果を検証しながら、基本的に継続する。</p>					
	全日制																		
	本校	分校																	
H26 再編振興計画	<p>〈適正規模〉</p> <p>・1学年4学級以上(上限8学級)、高知市及びその周辺地域：1学年6学級以上</p> <p>生徒の個性や進路希望などが多様化する状況に対応し、習熟度別の学習指導や総合選択制を取り入れた教育課程の編成などきめ細かい指導ができる体制を確保するため。</p> <p>また、一定の生徒数の確保が見込まれる高知市及びその周辺地域については、生徒の個性・能力や進路希望等に対応した類型を設けるなど多様な教育課程の編成が可能であり、特別活動や部活動においても切磋琢磨し、より活気あふれる学校づくりができる1学年6学級以上の学校規模の維持に努める必要がある。</p> <p>〈最低規模〉</p> <p>・本校の最低規模は1学年2学級以上</p> <p>高等学校としての教育の質を確保するためには、生徒の多様な学習ニーズに応え、集団活動による社会性の育成を図ることが大切である。</p> <p>過疎化が著しく近隣に他の高等学校がない学校：1学年1学級以上</p> <p>不登校や発達障害等柔軟な対応が必要な学校：1学年1学級以上</p> <p>※教育の質を維持していくための集団としては少なくとも1学級20人以上が必要。</p>	<p>〈最低規模〉</p> <p>・1学年1学級20人以上が少なくとも必要</p> <p>高等学校としての教育の質を維持していくため。</p> <p>猶予期間を2年連続して20人を満たない状況となった場合に緩和</p>																	
H30 再編振興計画 後期実施計画	<p>〈本校の最低規模の特例校〉</p> <p>過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校であり、特例として1学年1学級(20人以上)を最低規模とする。</p> <p>不登校経験者や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整えた学校であり、特例として1学年1学級(20人以上)を最低規模とする。</p>	<p>基準としては尊重するが、分校は小規模ということが前提となっていることから、本校との連携、分校としての活性化策、地域からの支援を含め、本計画期間中はその取組の成果を検証しながら、基本的に継続する。</p>																	
				<p>◇ 実態からみても適正規模や最低規模は設定しなくともよいのではないか。</p> <p>◇ 過疎化が著しい地域の学校は、地域振興のためにも学校が必要ではないか。</p> <p>◇ 教育の質を担保することや、集団における社会性の育成など高校で育まれる能力育成のため、目標値としての学級数(人数)を設定する必要はあるのではないか。1学年1学級(20人)以上、分校は1学年1学級(10人)程度を望ましい学級数(生徒数)としてはどうか。</p>															
				<p>○ 適正規模の考え方</p> <p>〈21世紀を展望した高知県立高等学校の在り方について(H12.11.27報告)より一部抜粋〉</p> <p>・H6報告では、「1学年6～8学級が望ましい」としたが、今後5年間を見通すと、生徒数の減少から中規模校においても6学級の編成が難しくなる可能性がある。</p> <p>現在、高等学校では、生徒の個性・能力や進路希望等の多様化に対応した学習習熟度別指導別の柔軟な学習集団の編成や総合学科・総合選択制等により弾力的な教育課程の編成が行われるようになってきた。このような方法を有効に活用すれば4学級規模であっても、個に応じた教育を行うことができ、6学級規模と同様の教育効果をあげることも期待できる。従って、現時点では1学年4～8学級が適正規模と考えられる。</p>															

※ 全日制・定時制課程には学年制や単位制がある。県立高等学校では定時制は単位制であるが、全日制は学年制が多い。

学年制：学年ごとに履修すべき科目等を履修し、きめられた単位数を修得した場合に次の学年に進むことができる。

単位制：学年による教育課程の区分を設けないため、原級留置(留年)の考えをとらない。一定期間(全日制では3年、定時制通信制では3年以上)在学し、必要な単位の修得などの条件を満たせば、卒業することができる。全日制の一部(室戸、城山、高知東(総合学科)、高知丸の内(普通科)、伊野商業、春野、高岡、大方、宿毛)と定時制・通信制が採用。

項目		現状と課題 (○：現状、●：課題)						検討項目 (◇：論点、◆：前回までのご意見)			
								適正規模・適切配置	魅力化・特色化		
県立高等学校について	全日制課程について	普通科系	普通科系とは、普通科及び専門学科のうち産業系専門学科以外の学科（グローバル探究科、音楽科、理数科、グローバル科）を含む。						【適切配置】 ◇ 普通科系の配置について 【適正規模】 ◇ 現計画における適正規模・最低規模等の見直しの必要性について 【遠隔教育】 ◆ ICT は、単にコンテンツを配信するだけでなく、他校の生徒と切磋琢磨する環境が作れる。 ◆ ICT の普及により、小規模であっても教育効果をあげられる可能性は十分にあり、従来とは学校規模の考え方が変わってきて良い。	◇ デジタル化、グローバル化などこれからの社会への対応について ・普通科の学科改編 ◇ 生徒の進路が多岐にわたる中で、地域や高等教育機関等と連携した取組や、魅力的な教育活動について ◇ 地域資源を生かした探究的な学びやSTEAM 教育等による学びの特色化について ◇ 遠隔教育の効果的な活用方法について ◇ 転・編入学への柔軟な対応について ◇ 定時制や通信制との連携について ◇ 人種、国籍、障害等に関係なく高校に通える仕組みづくり（インクルーシブ教育）について 【地域等との連携】 ◆ 高校を地域と一緒にブランディングしていくことが必要。 ◆ 小中学校と地域を巻き込んだ活動が必要。 ◆ 普通科で広く勉強することがあまりメリットになっておらず、普通科の議論も非常に重要。 ◆ 多様性を認めるような新しい学校を創ってもらえたらという意見もある。 【地域みらい留学等】 ◆ 少しずつ高知県をPRしながら、県外からの志願者を増やしてほしい。 【取組の発信】 ◆ 高校の特色を明確にアピールし、保護者に地元の学校の良さを認識してもらうことが必要。 ◆ 日本語を母語としない生徒への支援や様々な取組の魅力化が必要。 【遠隔教育】 ◆ 子ども達と先生の繋がりを大事にしながら進んでいくと良い。 ◆ 普通科がより魅力的なものになるように学校の改革が必要ではないか。 ◆ 特に高知市以外で普通科が定員を満たせず、高知市に流れてしまっている。対応するためには、地域との繋がりを持った何か尖ったものがないといけない。 ◆ 中学生は普通科と総合学科の違いがはっきり分かっていない。高校に行けば何とかできるという感覚で選んでいるのではないか。	
			○ 普通科：31 校中 20 校（うち専門学科を併置している学校 6 校） 総合学科で普通科系の系列がある学校：4 校 ・1 年生の生徒数（5 月 1 日現在）								
			地域	校名	学 科	R5 入学定員	H26	R1			R5
			東部	安芸	普通	120	(114)	(82)			95
			北部	嶺北	普通	80	33	37			27
				吾北分校	普通	40	15	13			11
			中部	城山	普通	80	45	38			25
				山田	普通	80	(121)	(89)			61
					グローバル探究	80					9
				岡豊	普通	320	297	274			277
高知追手前	普通	280		255	265	234					
高知丸の内	普通	150		149	152	147					
	音楽	30		22	18	12					
高知小津	普通	240		221	241	228					
	理数	40		39	40	25					
高知国際	普通	200				201					
	グローバル	80			75						
高岡	普通	80	32	30	23						
高吾	須崎総合(須崎)	普通(総合学科)	120	(103)	78	75					
	佐川	普通	80	48	34	37					
	窪川	普通	80	38	27	22					
	構原	普通	80	29	43	42					
	四万十	普通	80	23	28	25					
幡多	大方	普通(昼間部・普通科)	80	(55)	37	36					
	中村	普通	200	185	166	168					
	西土佐分校	普通	40	14	12	8					
	清水	普通	80	42	41	22					
※ 総合学科で普通科系の系列がある学校 室戸高校総合学科：文理総合系列、商工業・芸術系列 高知東高校総合学科：Advanced（文系）・（理系）、Global Communication Skill（国際教養）、Social Skill 文系（保育理美容調理福祉）・理系（医療看護）、Flexible Future（幅広い進路に対応） 春野高校総合学科：人文系列 宿毛高校総合学科：人文・自然系列、教養系列、芸術・スポーツ系列											
○ 普通科以外の学科の開設が可能となり、清水高校が学際領域に関する学科改編に向けて検討中											
○ 小規模校の 1 コース当たりの生徒数（2 年次で選択するコースのみ）											
学級規模*	学校数	平均コース数	1 コース当たりの生徒数								
1	9	2.8	8.4								
2	1	3	14								
※学級規模は実学級数で示している。											
● 生徒数減少に伴う普通科の在り方 ● 特色ある普通科改革の推進 ● 多様な学習ニーズを持つ生徒への対応 ● 各地域の資源を生かした、より特色のある学校の在り方											

項目		現状と課題 (○：現状、●：課題)	検討項目 (◇：論点、◆：前回までのご意見)																																																																																																											
			適正規模・適切配置	魅力化・特色化																																																																																																										
県立高等学校について	全日制課程について	<p>産業系専門学科</p> <p>○ 産業系専門学科を設置している学校：11校 総合学科で産業系の系列がある学校：4校</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>東部</th> <th>北部・中部</th> <th>高吾</th> <th>幡多</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業科</td> <td></td> <td>高知農業</td> <td></td> <td>幡多農業</td> </tr> <tr> <td>工業科</td> <td>安芸</td> <td>高知東工業、高知工業</td> <td>須崎総合</td> <td>宿毛工業</td> </tr> <tr> <td>商業科</td> <td>安芸</td> <td>山田、伊野商業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水産科</td> <td></td> <td>高知海洋</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護科</td> <td></td> <td>高知東</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>県立高等学校では、農業・工業・商業・水産・看護に関する学科を設置し、総合学科の系列に福祉系・家庭系を設置</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【統合・学科改編】</p> <p>H29：須崎工業高校の4学科を3学科に学科改編 H30：安芸桜ヶ丘高校環境エネルギー科を募集停止 H31：須崎工業高校と須崎高校を、須崎総合高校に統合 R3：山田高校商業科をビジネス探究科に学科改編 R4：安芸桜ヶ丘高校環境建築科を機械土木科に、情報ビジネス科をビジネス科にそれぞれ学科改編 R5：安芸高校と安芸桜ヶ丘高校を、安芸高校に統合</p> </div> <p>農業科 2校 10学科</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生の生徒数（5月1日現在） <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>校名</th> <th>学 科</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">北部・中部</td> <td rowspan="5">高知農業</td> <td>農業総合</td> <td>40</td> <td>34</td> <td>40</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>畜産総合</td> <td>40</td> <td>27</td> <td>33</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>森林総合</td> <td>40</td> <td>18</td> <td>20</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>環境土木</td> <td>40</td> <td>15</td> <td>27</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>食品ビジネス</td> <td>40</td> <td>33</td> <td>31</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">幡多</td> <td rowspan="5">幡多農業</td> <td>生活総合</td> <td>40</td> <td>30</td> <td>35</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>園芸システム</td> <td>40</td> <td>36</td> <td>28</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>アグリサイエンス</td> <td>40</td> <td>30</td> <td>29</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>グリーン環境</td> <td>40</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>生活コーディネート</td> <td>40</td> <td>37</td> <td>30</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 総合学科で農業系の系列がある学校：春野（園芸系列、食農系列） ※ 普通科のうち農業に関するコース等を設置している学校：吾北分校、嶺北、窪川、檜原、四万十</p> <ul style="list-style-type: none"> 進学者の割合及び就職者の割合 <table border="1"> <thead> <tr> <th>農業科</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進学者の割合 (%)</td> <td>59.2</td> <td>61.1</td> <td>66.2</td> <td>70.8</td> </tr> <tr> <td>就職者の割合 (%)</td> <td>35.0</td> <td>36.0</td> <td>32.0</td> <td>24.6</td> </tr> </tbody> </table>		東部	北部・中部	高吾	幡多	農業科		高知農業		幡多農業	工業科	安芸	高知東工業、高知工業	須崎総合	宿毛工業	商業科	安芸	山田、伊野商業			水産科		高知海洋			看護科		高知東			地域	校名	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5	北部・中部	高知農業	農業総合	40	34	40	38	畜産総合	40	27	33	30	森林総合	40	18	20	14	環境土木	40	15	27	19	食品ビジネス	40	33	31	40	幡多	幡多農業	生活総合	40	30	35	38	園芸システム	40	36	28	18	アグリサイエンス	40	30	29	15	グリーン環境	40	20	19	15	生活コーディネート	40	37	30	22	農業科	R1	R2	R3	R4	進学者の割合 (%)	59.2	61.1	66.2	70.8	就職者の割合 (%)	35.0	36.0	32.0	24.6	<p>【適切配置】</p> <p>◇ 各地域における産業系専門学科の配置について</p> <p>【適正規模】</p> <p>◇ 現計画における適正規模・最低規模等の見直しの必要性について</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆ 高知海洋高校は、室戸岬水産高校、高岡高校宇佐分校、清水高校漁業科を統合し、県内唯一の水産高校となった経緯がある。高知県の産業を維持するためにも必要な役割を持っている。看護科も同様。</p> </div> <p>【現計画の適切な配置の考え方】</p> <p>本県の産業を担う人材の育成及び産業振興のため、現状の学校の配置を維持することに努める。ただし、生徒数の減少等により、現在の配置が維持できない場合には、他の高等学校との統合による複数学科の併置も含め、県全体のバランスを考えた計画的な改編を実施する。</p> <p>産業系高等学校の専門学科や普通科高等学校で産業系科目を設置しているコースにおいては、各校の活性化と教育内容の充実、適切な定員管理の実施に向けて、入学者数の状況や生徒のニーズ、産業構造の変化や就業形態の多様化などの社会環境の変化も見据えたうえで、随時、設置科やコースについての見直しを進める。</p>	<p>◇ デジタル化、グローバル化などこれからの社会への対応について</p> <p>◇ 地域での役割、他の専門科との連携等について</p> <p>◇ 中学生や保護者等への魅力の発信について</p> <p>◇ 高等教育機関との連携について</p> <p>◇ 人種、国籍、障害等に関係なく高校に通える仕組みづくり（インクルーシブ教育）について</p> <p>◇ 産業界等のニーズについて</p> <p>【地域等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 県内の産業について興味を持ち、それを目指した子ども達の育成が必要。 ◆ 県内の産業の充実と日本語を母語としない生徒への支援等の取組が必要。
				東部	北部・中部	高吾	幡多																																																																																																							
農業科		高知農業		幡多農業																																																																																																										
工業科	安芸	高知東工業、高知工業	須崎総合	宿毛工業																																																																																																										
商業科	安芸	山田、伊野商業																																																																																																												
水産科		高知海洋																																																																																																												
看護科		高知東																																																																																																												
地域	校名	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5																																																																																																								
北部・中部	高知農業	農業総合	40	34	40	38																																																																																																								
		畜産総合	40	27	33	30																																																																																																								
		森林総合	40	18	20	14																																																																																																								
		環境土木	40	15	27	19																																																																																																								
		食品ビジネス	40	33	31	40																																																																																																								
幡多	幡多農業	生活総合	40	30	35	38																																																																																																								
		園芸システム	40	36	28	18																																																																																																								
		アグリサイエンス	40	30	29	15																																																																																																								
		グリーン環境	40	20	19	15																																																																																																								
		生活コーディネート	40	37	30	22																																																																																																								
農業科	R1	R2	R3	R4																																																																																																										
進学者の割合 (%)	59.2	61.1	66.2	70.8																																																																																																										
就職者の割合 (%)	35.0	36.0	32.0	24.6																																																																																																										

項目	現状と課題 (○:現状、●:課題)	検討項目 (◇:論点、◆:前回までのご意見)																																																																																																																																																																									
		適正規模・適切配置	魅力化・特色化																																																																																																																																																																								
	<p>工業科 5校 19学科 12専攻</p> <p>・1年生の生徒数(5月1日現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>学校</th> <th>学 科</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東部</td> <td>安芸 (安芸桜ヶ丘)</td> <td>機械土木:機械専攻、土木専攻 (環境建設:土木専攻、建築専攻)</td> <td>40</td> <td>(15)</td> <td>(6)</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">北部・中部</td> <td rowspan="4">高知東工業</td> <td>機械</td> <td>40</td> <td>34</td> <td>37</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>機械生産システム</td> <td>40</td> <td>22</td> <td>9</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>電子</td> <td>40</td> <td>33</td> <td>16</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>電子機械</td> <td>40</td> <td>35</td> <td>18</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">高知工業</td> <td>機械</td> <td>40</td> <td>39</td> <td>37</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>電気</td> <td>40</td> <td>37</td> <td>29</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>情報技術</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>工業化学</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>41</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>土木</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>建築</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>総合デザイン</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>33</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">高吾</td> <td rowspan="3">須崎総合</td> <td>機械系:機械専攻、造船専攻</td> <td>40</td> <td></td> <td>39</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>電気情報系:電気専攻、電子情報専攻</td> <td>40</td> <td></td> <td>31</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>システム工学系:機械制御専攻、住環境専攻</td> <td>40</td> <td></td> <td>22</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">幡多</td> <td rowspan="4">宿毛工業</td> <td>機械:機械専攻、自動車専攻</td> <td>40</td> <td>38</td> <td>20</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>建設:土木専攻、建築専攻</td> <td>40</td> <td>38</td> <td>30</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>電気</td> <td>40</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>情報技術</td> <td>40</td> <td>33</td> <td>36</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 総合学科で工業系の系列がある学校:室戸(商工業・芸術系列)</p> <p>・進学者の割合及び就職者の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工業科</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進学者の割合(%)</td> <td>35.2</td> <td>34.8</td> <td>36.8</td> <td>37.5</td> </tr> <tr> <td>就職者の割合(%)</td> <td>59.1</td> <td>59.3</td> <td>58.0</td> <td>56.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>商業科 3校 3学科</p> <p>・1年生の生徒数(5月1日現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>学校</th> <th>学 科</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東部</td> <td>安芸(安芸桜ヶ丘)</td> <td>ビジネス(情報ビジネス)</td> <td>40</td> <td>(24)</td> <td>(14)</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">北部・中部</td> <td>山田</td> <td>ビジネス探究(商業)</td> <td>40</td> <td>(26)</td> <td>(19)</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>伊野商業</td> <td>キャリアビジネス</td> <td>160</td> <td>134</td> <td>112</td> <td>109</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 総合学科で商業系の系列がある学校: 室戸(商工業・芸術系列)、高知東(Business Skill(情報系))、宿毛(商業系列)</p> <p>※ 普通科のうち商業に関するコース等を設置している学校: 城山、嶺北、岡豊、須崎総合、窪川、檜原、大方</p> <p>・進学者の割合及び就職者の割合(高知商業を含む)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>商業科</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進学者の割合(%)</td> <td>68.3</td> <td>71.5</td> <td>68.9</td> <td>81.7</td> </tr> <tr> <td>就職者の割合(%)</td> <td>28.3</td> <td>24.9</td> <td>24.1</td> <td>16.1</td> </tr> </tbody> </table>	地域	学校	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5	東部	安芸 (安芸桜ヶ丘)	機械土木:機械専攻、土木専攻 (環境建設:土木専攻、建築専攻)	40	(15)	(6)	10	北部・中部	高知東工業	機械	40	34	37	40	機械生産システム	40	22	9	12	電子	40	33	16	18	電子機械	40	35	18	20	高知工業	機械	40	39	37	39	電気	40	37	29	40	情報技術	40	40	40	36	工業化学	40	40	41	40	土木	40	40	40	40	建築	40	40	40	40	総合デザイン	40	40	33	41	高吾	須崎総合	機械系:機械専攻、造船専攻	40		39	26	電気情報系:電気専攻、電子情報専攻	40		31	8	システム工学系:機械制御専攻、住環境専攻	40		22	16	幡多	宿毛工業	機械:機械専攻、自動車専攻	40	38	20	21	建設:土木専攻、建築専攻	40	38	30	35	電気	40	19	20	6	情報技術	40	33	36	27	工業科	R1	R2	R3	R4	進学者の割合(%)	35.2	34.8	36.8	37.5	就職者の割合(%)	59.1	59.3	58.0	56.0	地域	学校	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5	東部	安芸(安芸桜ヶ丘)	ビジネス(情報ビジネス)	40	(24)	(14)	20	北部・中部	山田	ビジネス探究(商業)	40	(26)	(19)	27	伊野商業	キャリアビジネス	160	134	112	109	商業科	R1	R2	R3	R4	進学者の割合(%)	68.3	71.5	68.9	81.7	就職者の割合(%)	28.3	24.9	24.1	16.1		
地域	学校	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5																																																																																																																																																																					
東部	安芸 (安芸桜ヶ丘)	機械土木:機械専攻、土木専攻 (環境建設:土木専攻、建築専攻)	40	(15)	(6)	10																																																																																																																																																																					
北部・中部	高知東工業	機械	40	34	37	40																																																																																																																																																																					
		機械生産システム	40	22	9	12																																																																																																																																																																					
		電子	40	33	16	18																																																																																																																																																																					
		電子機械	40	35	18	20																																																																																																																																																																					
	高知工業	機械	40	39	37	39																																																																																																																																																																					
		電気	40	37	29	40																																																																																																																																																																					
		情報技術	40	40	40	36																																																																																																																																																																					
		工業化学	40	40	41	40																																																																																																																																																																					
		土木	40	40	40	40																																																																																																																																																																					
		建築	40	40	40	40																																																																																																																																																																					
総合デザイン	40	40	33	41																																																																																																																																																																							
高吾	須崎総合	機械系:機械専攻、造船専攻	40		39	26																																																																																																																																																																					
		電気情報系:電気専攻、電子情報専攻	40		31	8																																																																																																																																																																					
		システム工学系:機械制御専攻、住環境専攻	40		22	16																																																																																																																																																																					
幡多	宿毛工業	機械:機械専攻、自動車専攻	40	38	20	21																																																																																																																																																																					
		建設:土木専攻、建築専攻	40	38	30	35																																																																																																																																																																					
		電気	40	19	20	6																																																																																																																																																																					
		情報技術	40	33	36	27																																																																																																																																																																					
工業科	R1	R2	R3	R4																																																																																																																																																																							
進学者の割合(%)	35.2	34.8	36.8	37.5																																																																																																																																																																							
就職者の割合(%)	59.1	59.3	58.0	56.0																																																																																																																																																																							
地域	学校	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5																																																																																																																																																																					
東部	安芸(安芸桜ヶ丘)	ビジネス(情報ビジネス)	40	(24)	(14)	20																																																																																																																																																																					
北部・中部	山田	ビジネス探究(商業)	40	(26)	(19)	27																																																																																																																																																																					
	伊野商業	キャリアビジネス	160	134	112	109																																																																																																																																																																					
商業科	R1	R2	R3	R4																																																																																																																																																																							
進学者の割合(%)	68.3	71.5	68.9	81.7																																																																																																																																																																							
就職者の割合(%)	28.3	24.9	24.1	16.1																																																																																																																																																																							

項 目			現状と課題 (○：現状、●：課題)				検討項目 (◇：論点、◆：前回までのご意見)																
							適正規模・適切配置	魅力化・特色化															
県立高等学校について	全日制課程について	産業系専門学科	水産科 1校1学科 ・1年生の生徒数(5月1日現在)																				
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>学 校</th> <th>学 科</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北部・中部</td> <td>高知海洋</td> <td>海洋</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>35</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>					地域	学 校	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5	北部・中部	高知海洋	海洋	80	48	35	30		
			地域	学 校	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5														
北部・中部	高知海洋	海洋	80	48	35	30																	
・進学者の割合及び就職者の割合																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>水産科</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進学者の割合(%)</td> <td>28.3</td> <td>32.4</td> <td>30.3</td> <td>51.6</td> </tr> <tr> <td>就職者の割合(%)</td> <td>66.0</td> <td>55.9</td> <td>60.6</td> <td>29.0</td> </tr> </tbody> </table>					水産科	R1	R2	R3	R4	進学者の割合(%)	28.3	32.4	30.3	51.6	就職者の割合(%)	66.0	55.9	60.6	29.0				
水産科	R1	R2	R3	R4																			
進学者の割合(%)	28.3	32.4	30.3	51.6																			
就職者の割合(%)	66.0	55.9	60.6	29.0																			
看護科 1校1学科 ・1年生の生徒数(5月1日現在)																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>学 校</th> <th>学 科</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北部・中部</td> <td>高知東</td> <td>看護</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>22</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>					地域	学 校	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5	北部・中部	高知東	看護	30	30	22	30					
地域	学 校	学 科	R5 入学定員	H26	R1	R5																	
北部・中部	高知東	看護	30	30	22	30																	
・看護科は、看護専攻科(2年間)を合わせた5年一貫教育を行っている。																							
福祉系・家庭系 ※ 総合学科で福祉系・家庭系の系列がある学校： 室戸(生活福祉系列)、春野(生活クリエイト系列)、宿毛(保育・福祉系列) ※ 普通科のうち福祉・家庭に関するコースを設置している学校： 城山、岡豊、吾北分校、須崎総合、構原																							
<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒数減少に伴う専門学科の在り方 ● 生徒のニーズ、これからの社会を踏まえた専門学科改革への対応 ● 多様な学習ニーズを持つ生徒への対応 ● 県産業振興計画に基づいた産業系専門学科の在り方 <ul style="list-style-type: none"> ・企業との連携による県内担い手人材の育成 																							

項目			現状と課題 (○：現状、●：課題)				検討項目 (◇：論点、◆：前回までのご意見)																															
							適正規模・適切配置	魅力化・特色化																														
県立高等学校について	全日制課程について	総合学科	○ 総合学科：4校（東部1校、中部2校、西部1校）				<p>【適切配置】</p> <p>◇ 各地域における総合学科の配置について</p> <p>【適正規模】</p> <p>◇ 現計画における適正規模・最低規模等の見直しの必要性について</p>	<p>◇ デジタル化、グローバル化などこれからの社会への対応について</p> <p>◇ 中学生や保護者等への魅力の発信について</p> <p>◇ 人種、国籍、障害等に関係なく高校に通える仕組みづくり（インクルーシブ教育）について</p> <p>【取組の発信】</p> <p>◆ 高校の特色を明確にアピールし、保護者に地元の学校の良さを認識してもらうことが必要。</p> <p>◆ 日本語を母語としない生徒への支援や様々な取組の魅力化が必要。</p>																														
			<p>・1年生の生徒数（5月1日現在）及び系列</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>学校</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> <th>系列</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東部</td> <td>室戸</td> <td>80</td> <td>52</td> <td>34</td> <td>49</td> <td>①文理総合、②商工業・芸術、③生活福祉</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中部</td> <td>高知東</td> <td>200</td> <td>195</td> <td>195</td> <td>200</td> <td>①Advanced(文系) ②Advanced(理系) ③Business Skill(情報系) ④Global Communication Skill(国際教養) ⑤Social Skill 文系(保育理美容調理福祉) ⑥Social Skill 理系(医療看護) ⑦Flexible Future(幅広い進路に対応)</td> </tr> <tr> <td>春野</td> <td>160</td> <td>160</td> <td>121</td> <td>132</td> <td>①園芸、②食農、③生活クリエイト、④人文</td> </tr> <tr> <td>西部</td> <td>宿毛</td> <td>120</td> <td>92</td> <td>86</td> <td>62</td> <td>①人文・自然、②教養、③保育・福祉、④商業、⑤芸術・スポーツ</td> </tr> </tbody> </table> <p>【統合・学科改編等】</p> <p>H29：須崎高校の総合学科を普通科に学科改編 H31：須崎工業高校と須崎高校を、須崎総合高校に統合</p> <p>室戸高校</p> <p>地域からは多様な進路希望に応じた教育を選択することができる総合学科の取組に対する評価は高いことから、現計画期間中は総合学科を維持し、地域の特色を生かした教育プログラムの推進、更なる地元中学校との連携に取り組むこととする。</p> <p>● 総合学科はどのような内容で、どのような取り組みをしているのが見えにくい</p> <p>● 多様な学習ニーズを持つ生徒への対応</p> <p>● 生徒数の減少に伴い、多くの系列を維持することが困難となる中での総合学科の在り方</p>						地域	学校	R5 入学定員	H26	R1	R5	系列	東部	室戸	80	52	34	49	①文理総合、②商工業・芸術、③生活福祉	中部	高知東	200	195	195	200	①Advanced(文系) ②Advanced(理系) ③Business Skill(情報系) ④Global Communication Skill(国際教養) ⑤Social Skill 文系(保育理美容調理福祉) ⑥Social Skill 理系(医療看護) ⑦Flexible Future(幅広い進路に対応)	春野	160	160	121	132	①園芸、②食農、③生活クリエイト、④人文	西部	宿毛	120
地域	学校	R5 入学定員	H26	R1	R5	系列																																
東部	室戸	80	52	34	49	①文理総合、②商工業・芸術、③生活福祉																																
中部	高知東	200	195	195	200	①Advanced(文系) ②Advanced(理系) ③Business Skill(情報系) ④Global Communication Skill(国際教養) ⑤Social Skill 文系(保育理美容調理福祉) ⑥Social Skill 理系(医療看護) ⑦Flexible Future(幅広い進路に対応)																																
	春野	160	160	121	132	①園芸、②食農、③生活クリエイト、④人文																																
西部	宿毛	120	92	86	62	①人文・自然、②教養、③保育・福祉、④商業、⑤芸術・スポーツ																																

※ 総合学科

- ・普通教育と専門教育の選択。生徒自身の興味・関心や進路の方向に沿った科目履修ができる。
- ・科目群としてまとめたものを系列という（人文系列、園芸系列等）。
- ・単位制による課程とすることが原則。
- ・「産業社会と人間」の科目を全ての生徒が履修する必要がある。

項目	現状と課題 (○：現状、●：課題)	検討項目 (◇：論点、◆：前回までのご意見)																																																																																																							
		適正規模・適切配置	魅力化・特色化																																																																																																						
県立高等学校について 定時制課程について	○ 定時制：12校（うち多部制（昼間部・夜間部）2校） ・全校の在籍者数（5月1日現在） <table border="1" data-bbox="394 331 1299 886"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>学校</th> <th>学科</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">東部</td> <td rowspan="2">室戸</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>12</td> <td>16</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>昼間部普通科</td> <td>40</td> <td>57</td> <td>48</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>夜間部普通科</td> <td>40</td> <td>11</td> <td>18</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">中部</td> <td rowspan="2">山田</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>41</td> <td>20</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>高知東工業</td> <td>機械科</td> <td>40</td> <td>36</td> <td>27</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">高知工業</td> <td>機械科</td> <td>40</td> <td>31</td> <td>8</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>電気科</td> <td>40</td> <td>20</td> <td>13</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>土木科</td> <td>40</td> <td>22</td> <td>15</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高知北</td> <td>昼間部普通科</td> <td>80</td> <td>245</td> <td>234</td> <td>163</td> </tr> <tr> <td>夜間部普通科</td> <td>40</td> <td>127</td> <td>64</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高岡</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>27</td> <td>21</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>須崎総合</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>27</td> <td>18</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高吾</td> <td>佐川</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>24</td> <td>18</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>大方</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>25</td> <td>10</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">幡多</td> <td>宿毛</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>51</td> <td>16</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>清水</td> <td>普通科</td> <td>40</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	地域	学校	学科	R5 入学定員	H26	R1	R5	東部	室戸	普通科	40	12	16	8	昼間部普通科	40	57	48	35	夜間部普通科	40	11	18	20	中部	山田	普通科	40	41	20	22	高知東工業	機械科	40	36	27	12	高知工業	機械科	40	31	8	9	電気科	40	20	13	20	土木科	40	22	15	11	高知北	昼間部普通科	80	245	234	163	夜間部普通科	40	127	64	40	高岡	普通科	40	27	21	16	須崎総合	普通科	40	27	18	19	高吾	佐川	普通科	40	24	18	17	大方	普通科	40	25	10	13	幡多	宿毛	普通科	40	51	16	12	清水	普通科	40	17	15	8	【適切配置】 ◇ <u>各地域における定時制高校の配置について</u> ◇ <u>通信制との連携について</u> 【適正規模】 ◇ <u>現計画における最低規模等の見直しの必要性について</u> ◆ <u>定時制と通信制とを組み合わせ、多様な学び（高度で専門的な学習、学び直し、ギフテッドや不登校生徒等への対応等）を提供できる学校が必要ではないか。</u>	◇ デジタル化、グローバル化などこれからの社会への対応について ◇ ICT 機器の効果的な活用方法と、遠隔教育の活用について ◇ 学びたい時間を選ぶことのできる3部制等の導入の検討について ◇ 転・編入学への柔軟な対応について ◇ 通信制や全日制単位制との連携について ◇ 人種、国籍、障害等に関係なく高校に通える仕組みづくり（インクルーシブ教育）について 【ICT活用等】 ◆ 定時制・通信制は、高校の学びの最後の砦であり大事である。 ◆ ICTを活用し、学びやすい環境をつくるべきである。 ◆ ICTの画面へ出るだけでも難しい子どももいる。単にICTで繋がるだけではなく、気持ちと気持ちが繋がる人と繋がっていききたい生徒もいる。 【取組の発信】 ◆ 高校の特色を明確にアピールし、保護者に地元の学校の良さを認識してもらうことが必要。 ◆ 日本語を母語としない生徒への支援や様々な取組の魅力化が必要。 ◆ <u>ネガティブなイメージではなく、ポジティブに学べることをアピールしていくことが重要ではないか。</u> ◆ <u>働きながら学ぶという位置付けの転換や逆転の発想が必要ではないか。</u> ◆ <u>公立高等学校のシステムを見直し、生徒から選んでもらえるものにしていくことが必要ではないか。</u>
	地域	学校	学科	R5 入学定員	H26	R1	R5																																																																																																		
	東部	室戸	普通科	40	12	16	8																																																																																																		
			昼間部普通科	40	57	48	35																																																																																																		
		夜間部普通科	40	11	18	20																																																																																																			
	中部	山田	普通科	40	41	20	22																																																																																																		
			高知東工業	機械科	40	36	27	12																																																																																																	
		高知工業	機械科	40	31	8	9																																																																																																		
			電気科	40	20	13	20																																																																																																		
			土木科	40	22	15	11																																																																																																		
高知北		昼間部普通科	80	245	234	163																																																																																																			
		夜間部普通科	40	127	64	40																																																																																																			
高岡	普通科	40	27	21	16																																																																																																				
	須崎総合	普通科	40	27	18	19																																																																																																			
高吾	佐川	普通科	40	24	18	17																																																																																																			
	大方	普通科	40	25	10	13																																																																																																			
幡多	宿毛	普通科	40	51	16	12																																																																																																			
	清水	普通科	40	17	15	8																																																																																																			
○ 現計画の最低規模の要件を満たしていない学校がある 最低規模を下回る学校（夜間課程）：室戸、高知東工業、高岡、須崎総合、佐川、大方、宿毛、清水 ・本県定時制の最低規模に関する考え方 <table border="1" data-bbox="394 1066 1605 1619"> <tbody> <tr> <td>H26 再編振興計画</td> <td> 〈夜間の最低規模〉 ・学校全体の生徒数 20人以上 様々な学びを保障するため、1学年1学級 10人程度以上から緩和し学校の維持に努める。 〈昼間の最低規模〉 ・1学年1学級 20人以上 不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等に柔軟に対応できる支援体制の特徴を生かしながら、高等学校としての教育の質を保证するため。 </td> </tr> <tr> <td>H30 再編振興計画後期実施計画</td> <td> 規模よりも、働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴の生徒にとっての学びのセーフティネットとしての側面を重視する必要がある。 よって、「学校全体の生徒数が20人以上」としている最低規模の基準については、望ましい数字ではあるが、この数にこだわることなく、地域にとって必要な定時制は、維持すべきである。 なお、維持する手法として、ICTを活用した社会性の育成など、新たな学びの在り方について工夫する必要がある。 現状、最低規模を下回っている定時制は複数あるが、大きく20名を下回っている学校はないことから、本計画期間中は、基本的に継続する。 </td> </tr> </tbody> </table>	H26 再編振興計画	〈夜間の最低規模〉 ・ 学校全体の生徒数 20人以上 様々な学びを保障するため、1学年1学級 10人程度以上から緩和し学校の維持に努める。 〈昼間の最低規模〉 ・ 1学年1学級 20人以上 不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等に柔軟に対応できる支援体制の特徴を生かしながら、高等学校としての教育の質を保证するため。	H30 再編振興計画後期実施計画	規模よりも、働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴の生徒にとっての学びのセーフティネットとしての側面を重視する必要がある。 よって、「学校全体の生徒数が20人以上」としている最低規模の基準については、望ましい数字ではあるが、この数にこだわることなく、地域にとって必要な定時制は、維持すべきである。 なお、維持する手法として、ICTを活用した社会性の育成など、新たな学びの在り方について工夫する必要がある。 現状、最低規模を下回っている定時制は複数あるが、大きく20名を下回っている学校はないことから、本計画期間中は、基本的に継続する。	【現計画の適切な配置の考え方】 定時制は、働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴の生徒に柔軟に対応するため各地域での定時制課程の配置に努める。 ただし、生徒数の減少に伴い統廃合を検討する場合には、学校の役割や地域の実態、学科の内容、通学手段も考慮した配置を検討する。多部制単位制は、生徒数の減少によって多部制の機能を十分に果たせない状況になった場合は、その在り方について見直しを検討する。																																																																																																				
H26 再編振興計画	〈夜間の最低規模〉 ・ 学校全体の生徒数 20人以上 様々な学びを保障するため、1学年1学級 10人程度以上から緩和し学校の維持に努める。 〈昼間の最低規模〉 ・ 1学年1学級 20人以上 不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等に柔軟に対応できる支援体制の特徴を生かしながら、高等学校としての教育の質を保证するため。																																																																																																								
H30 再編振興計画後期実施計画	規模よりも、働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴の生徒にとっての学びのセーフティネットとしての側面を重視する必要がある。 よって、「学校全体の生徒数が20人以上」としている最低規模の基準については、望ましい数字ではあるが、この数にこだわることなく、地域にとって必要な定時制は、維持すべきである。 なお、維持する手法として、ICTを活用した社会性の育成など、新たな学びの在り方について工夫する必要がある。 現状、最低規模を下回っている定時制は複数あるが、大きく20名を下回っている学校はないことから、本計画期間中は、基本的に継続する。																																																																																																								
○ 公立高等学校の定時制夜間部生徒の就労状況 <table border="1" data-bbox="394 1692 1279 1843"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒数（人）</td> <td>332</td> <td>320</td> <td>270</td> <td>259</td> <td>263</td> </tr> <tr> <td>有職生徒数（人）</td> <td>230</td> <td>192</td> <td>158</td> <td>144</td> <td>135</td> </tr> <tr> <td>割合（％）</td> <td>69.3</td> <td>60.0</td> <td>58.5</td> <td>55.6</td> <td>51.3</td> </tr> </tbody> </table>		R1	R2	R3	R4	R5	生徒数（人）	332	320	270	259	263	有職生徒数（人）	230	192	158	144	135	割合（％）	69.3	60.0	58.5	55.6	51.3																																																																																	
	R1	R2	R3	R4	R5																																																																																																				
生徒数（人）	332	320	270	259	263																																																																																																				
有職生徒数（人）	230	192	158	144	135																																																																																																				
割合（％）	69.3	60.0	58.5	55.6	51.3																																																																																																				
	● 生徒数減少に伴う定時制の在り方 ● 有職生徒数の割合が減少しており、生徒の学習ニーズが多様化している中での定時制の在り方																																																																																																								

項目	現状と課題 (○：現状、●：課題)	検討項目 (◇：論点、◆：前回までのご意見)																																																																																																															
		適正規模・適切配置	魅力化・特色化																																																																																																														
県立高等学校について	<p>通信制課程について</p> <p>○ 通信制：2校（中部1校、幡多1校） 自学自習によるレポート・添削指導（郵送によるやり取り）、月数回程度のスクーリング（面接指導）、試験等により単位が認定される。 ・全校の在籍者数（5月1日現在）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>学校</th> <th>学科</th> <th>R5 入学定員</th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中部</td> <td>高知北</td> <td>普通科</td> <td>200</td> <td>448</td> <td>350</td> <td>305</td> </tr> <tr> <td>幡多</td> <td>大方</td> <td>普通科</td> <td>100</td> <td>84</td> <td>77</td> <td>77</td> </tr> </tbody> </table> <p>※私立の通信制高校：1校（高知県に本校のある学校のみ）</p> <p>○ 全国的な通信制課程の需要の高まり ・全国の通信制課程に在籍している生徒数（人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>R1</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公立</td> <td>71,180</td> <td>56,373</td> <td>57,437</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>112,574</td> <td>141,323</td> <td>207,537</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>183,754</td> <td>197,696</td> <td>264,974</td> </tr> </tbody> </table> <p>・全国の通信制課程の学校数（併置校は全日制・定時制の課程を併置している学校）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">H26</th> <th colspan="3">R1</th> <th colspan="3">R5</th> </tr> <tr> <th>独立校</th> <th>併置校</th> <th>合計</th> <th>独立校</th> <th>併置校</th> <th>合計</th> <th>独立校</th> <th>併置校</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公立</td> <td>8</td> <td>69</td> <td>77</td> <td>7</td> <td>71</td> <td>78</td> <td>6</td> <td>72</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>90</td> <td>64</td> <td>154</td> <td>106</td> <td>69</td> <td>175</td> <td>125</td> <td>86</td> <td>211</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>98</td> <td>133</td> <td>231</td> <td>113</td> <td>140</td> <td>253</td> <td>131</td> <td>158</td> <td>289</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 公立高等学校の通信制生徒の就労状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒数（人）</td> <td>427</td> <td>388</td> <td>359</td> <td>370</td> <td>382</td> </tr> <tr> <td>有職生徒数（人）</td> <td>217</td> <td>211</td> <td>175</td> <td>177</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>割合（%）</td> <td>50.8</td> <td>54.4</td> <td>48.7</td> <td>47.8</td> <td>49.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>● 全国的に通信制課程の需要の高まりがあるが、県立高等学校通信制の生徒は増えておらず、県内の生徒を十分に受け入れられていない可能性がある</p> <p>● 多様な学習ニーズを持つ生徒への対応</p>	地域	学校	学科	R5 入学定員	H26	R1	R5	中部	高知北	普通科	200	448	350	305	幡多	大方	普通科	100	84	77	77		H26	R1	R5	公立	71,180	56,373	57,437	私立	112,574	141,323	207,537	合計	183,754	197,696	264,974		H26			R1			R5			独立校	併置校	合計	独立校	併置校	合計	独立校	併置校	合計	公立	8	69	77	7	71	78	6	72	78	私立	90	64	154	106	69	175	125	86	211	合計	98	133	231	113	140	253	131	158	289		R1	R2	R3	R4	R5	生徒数（人）	427	388	359	370	382	有職生徒数（人）	217	211	175	177	190	割合（%）	50.8	54.4	48.7	47.8	49.7	<p>【適切配置】</p> <p>◇ 通信制の配置について</p> <p>◇ 定時制との連携について ・サテライト校設置等の検討</p> <p>◆ 定時制と通信制とを組み合わせ、多様な学び（高度で専門的な学習、学び直し、ギフトドや不登校生徒等への対応等）を提供できる学校が必要ではないか。</p> <p>【現計画の適切な配置の考え方】 通信制は、生徒のニーズに対応するため、現在の中央部と西部の2校の配置を維持するとともに、東部のニーズに対応するために通信制と定時制の併修の在り方を検討する。</p>	<p>◇ デジタル化、グローバル化などこれからの社会への対応について</p> <p>◇ ICT 機器の効果的な活用方法と、遠隔教育の通信制への活用について</p> <p>◇ 転・編入学への柔軟な対応について</p> <p>◇ 定時制や全日制単位制との連携について</p> <p>◇ 人種、国籍、障害等に関係なく高校に通える仕組みづくり（インクルーシブ教育）</p> <p>【ICT 活用等】</p> <p>◆ 定時制・通信制は、高校の学びの最後の砦であり大事である。</p> <p>◆ ICT を活用し、学びやすい環境をつくるべきである。</p> <p>◆ ICT の画面へ出るだけでも難しい子どももいる。単に ICT で繋がるだけではなく、気持ちと気持ちが繋がる人と繋がっていききたい生徒もいる。</p> <p>【取組の発信】</p> <p>◆ 高校の特色を明確にアピールし、保護者に地元の学校の良さを認識してもらうことが必要。</p> <p>◆ 日本語を母語としない生徒への支援や様々な取組の魅力化が必要。</p> <p>◆ ネガティブなイメージではなく、ポジティブに学ぶことをアピールしていくことが重要ではないか。</p> <p>◆ 働きながら学ぶという位置付けの転換や逆転の発想が必要ではないか。</p> <p>◆ 公立高等学校のシステムを見直し、生徒から選んでもらえるものにしていくことが必要ではないか。</p>
		地域	学校	学科	R5 入学定員	H26	R1	R5																																																																																																									
中部	高知北	普通科	200	448	350	305																																																																																																											
幡多	大方	普通科	100	84	77	77																																																																																																											
	H26	R1	R5																																																																																																														
公立	71,180	56,373	57,437																																																																																																														
私立	112,574	141,323	207,537																																																																																																														
合計	183,754	197,696	264,974																																																																																																														
	H26			R1			R5																																																																																																										
	独立校	併置校	合計	独立校	併置校	合計	独立校	併置校	合計																																																																																																								
公立	8	69	77	7	71	78	6	72	78																																																																																																								
私立	90	64	154	106	69	175	125	86	211																																																																																																								
合計	98	133	231	113	140	253	131	158	289																																																																																																								
	R1	R2	R3	R4	R5																																																																																																												
生徒数（人）	427	388	359	370	382																																																																																																												
有職生徒数（人）	217	211	175	177	190																																																																																																												
割合（%）	50.8	54.4	48.7	47.8	49.7																																																																																																												

県立高等学校の在り方検討委員会における入試制度の検討について

1 専門部会の設置について

「県立高等学校の在り方検討委員会設置要綱」（第1回検討委員会 資料1）第5条の規定に基づき、高校入試制度の在り方に関する専門部会を設置。

2 専門部会委員名簿

※五十音順

	職 名	氏 名
1	高知県立檮原高等学校 校長	足達 昇
2	高知市教育委員会 学校教育課 学力向上指導監	岩城 多加仁
3	高知県立高知工業高等学校 校長	北村 晋助
4	元 高知県立高知西高等学校 校長	竹村 謙
5	宿毛市立小筑紫中学校 校長	森 和也
6	室戸市立佐喜浜中学校 校長	來 節子

3 主な日程等（令和5～6年度）

日程		検討委員会	専門部会
9月	19日	<第1回> ○県立高等学校の在り方に関する基本的な考え方の確認 ○県立高等学校の在り方に関する検討のポイントの確認	
11月	14日	<第2回> ○現計画の取組及び現状等について ○検討ポイントの整理について	
1月	16日	<第3回> ○学校の適正規模と適切配置について ○課程・学科の適切配置について ○学校の魅力化・特色化について	
1月	30日		<第1回> ○現行の入試制度における課題等について
2月	20日	<第4回> ○学校の適正規模と適切配置について ○課程・学科の適切配置について ○学校の魅力化・特色化について ○入試制度の在り方について	
3月			<第2回>（予定） ○入試制度の改善の方向性等について
4月		<第5回>（予定） ○入試制度の在り方について ○中間報告とりまとめ 他	
6月		<第6回>（予定）	
7月		<第7回>（予定） ○報告書とりまとめ	
12月		次期計画策定、新入試制度の公表	

入試制度の在り方に関する検討のポイント等について

1 高知県公立高等学校入学者選抜制度の改善の流れについて (→ 資料 3 - 3)

年度	1 月	2 月	3 月		
～H17	推薦入学 定員 50%上限 ○報告書 ○推薦書 ○面接 ○適性検査又は作文		第1次募集 欠員数 ○報告書 ○面接 ○5教科の学力検査	第2次募集 欠員数 ○報告書 ○面接 ○第1次募集の 学力検査の結果	
H18 ～H21	前期選抜 (自己推薦型) 定員 50%上限 ○調査書 ○志願理由書 ○学校独自の検査		後期選抜 (一般入試型) 欠員数 ○報告書 ○面接 ○5教科の学力検査	再募集 欠員数 ○報告書 ○面接 ○3教科の 基礎学力検査	
H22 ～H26		前期選抜 (一般入試型) 定員 80%上限 ○調査書 ○志願理由書 ○面接 ○5教科の学力検査	後期選抜 (特色化選抜型) 欠員数 ○報告書 ○面接 ○3教科の学力検査	再募集 欠員数 ○報告書 ○面接 ○3教科の 基礎学力検査	
H27～			A 日程 全・昼の定員 100% ○調査書 ○志願理由書 ○面接 ○5教科の学力検査	B 日程 全・昼の欠員数 定・夜の定員 100% ○調査書 ○面接 ○学力検査	C 日程 定・夜の欠員数 ○学校の定める 方法

※ 現行の高知県公立高等学校入学者選抜制度の概要について (→ 資料 3 - 4)

2 現行の入試制度における課題等について (→ 資料 3 - 5 ・ 資料 3 - 6)

- 全ての公立高校がほぼ同じ選抜方法で実施しているため、各校のスクール・ポリシー (今後、策定及び公表予定) に十分対応できる入試制度となっていない。
- 入試日程が3月に集中していることから、県内の私立高校や高等専門学校、県外の高校等にすでに進学先が決定し、公立高校の受検につながらない場合がある。
- 県外からの志願については、他県が3月以前に入試を実施することが多く、本県の受検が敬遠される傾向にある。
- 多様な生徒の可能性を伸ばすことを視野に入れた入試制度の見直しが必要である。

3 入試制度の在り方に関する検討のポイントについて

(1) 学校の魅力化・特色化を踏まえた入試制度の導入について

ア 「特色化選抜 (仮称)」について

イ 不登校や特別支援、日本語が母語ではない生徒等に関する選抜について

(2) 県外 (及び海外) 生徒の受入れの拡充について

(3) 入試の実施時期の見直しについて

高知県公立高等学校入学者選抜制度の改善の流れについて

資料3-3

◆印：課題 ◇印：改善点

	推薦入学	課題	第1次募集	課題	第2次募集	課題	通学区域	課題
平成17年度 入学者選抜まで	<募集人員> ○ 入学定員の50%を上限とする。 <選考資料> ○ 中学校からの報告書、推薦書、面接、適性検査又は作文の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 1月下旬検査 ○ 2月上旬合格発表	◆ 推薦入学において推薦基準が抽象的で数値等の明確な基準ではないため、中学校から推薦する際に指導が困難であったり、学校により対応に違いがみられたりした。	<募集人員> ○ 入学定員から推薦入学の合格者を差し引いた数。 <選考資料> ○ 中学校からの報告書、5教科の学力検査、面接の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月上旬検査 ○ 3月中旬合格発表		<募集人員> ○ 第1次募集までで入学定員に満たない数。 <選考資料> ○ 中学校からの報告書、面接、第1次募集の学力検査の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月中旬検査 ○ 3月下旬合格発表	◆ 第2次募集は第1次募集の学力検査の結果を引き継ぐ形になっているため、第1次募集を受検していない生徒は、第2次募集に出願できない。	① 東部学区、高知学区、高吾学区、幡多学区の四つの通学区域。通学区域があるのは普通科高校(高知東高校の総合学科を含む。)であり、専門学科及び総合学科は全県一区。 ② 学区外枠は、普通科のみを設置する高校は入学定員の6.65%、専門学科を併置する高校は入学定員の3.8%を超えないものとする。	◆ 交通機関の発達によって通学可能な地域が広がり、高校の規模を含めて、各学校の特色が明確になってきていることから、通学区域を見直す必要がある。
改善点	◇ 自己推薦型とし、中学校長の推薦によらないものとした。				◇ 再募集でも基礎学力検査などの検査を課し、再募集からでも出願できることとした。		◇ H13の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、通学区域の設定は教育委員会が判断できるようになったことを受けて、生徒の「行きたい学校選び」を重視した入試制度の改善が必要である。 ◇ 全国と比べて、高知県の学区外枠は入学定員に対する割合が少ない。	
平成18年度 入学者選抜から 平成21年度 入学者選抜まで	<募集人員> ○ 入学定員の50%を上限とする。 <選考資料> ○ 中学校からの調査書、志願理由書、学校独自の3教科までの教科検査や作文、実技、面接などの検査の結果に基づき選抜。 ○ 教科検査の実施校 H18:7校、H19:10校、H20:13校、H21:17校 <実施時期> ○ 1月下旬検査 ○ 2月上旬合格発表	◆ 学力検査というハードルがないまま高校に入学してくるため、中学校までの学習内容が定着していない者が多くなった。 ◆ 前期選抜の志願率が高くなり、不合格体験をすることで、生徒の学習意欲や受検意欲を維持することが難しくなった。 ◆ 特定の高校に志願者が集中する傾向が強くなった。	<募集人員> ○ 入学定員から前期選抜の合格者を差し引いた数。 <選考資料> ○ 中学校からの報告書、5教科の学力検査、面接の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月上旬検査 ○ 3月中旬合格発表	◆ 前期選抜実施後、後期選抜までの期間が長いこと、さらに、前期選抜の合格者が増加したことにより、後期選抜までの間に合格者と不合格者が教室の中に混在することから、中学校での指導が困難になった。 ◆ 前期選抜で多くの志願者を集めた高校でも、後期では出願を避けられ、定員割れが起こるようになった。 ◆ 後期選抜には、「行ける学校」選びの傾向が残っている。	<募集人員> ○ 入学定員から後期選抜までの合格者を差し引いた数。 <選考資料> ○ 中学校からの報告書、3教科の基礎学力検査、面接の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月中旬検査 ○ 3月下旬合格発表		① 東部学区、高知学区、高吾学区、幡多学区の四つの通学区域。通学区域があるのは普通科高校(高知東高校の総合学科を含む。)であり、専門学科及び総合学科は全県一区。 ② 学区外枠は、入学定員の10%を超えないものとする。	◆ 通学区域は、真に中学生が「行きたい学校」を主体的に選択できるよう、撤廃することが望ましい。 ◆ 高知市内の高校への志願者が増加することが予想されるため、高知市周辺の高校に影響が出てくる可能性がある。 ◆ 遠距離通学等の生徒が増えることも予想され、保護者の経済的負担が増すことが考えられる。 ◆ 高知市内の生徒が、周辺の学校に進学することが予想される。
改善点	◇ 5教科の学力検査を課すこととした。 ◇ 募集人員を80%にすることで、不合格体験者が減少するよう配慮した。		◇ 受検者の負担を軽減するために、学力検査を3教科とした。 ◇ 前期選抜の実施時期を遅くして、後期選抜までの期間を短くした。			◇ 高知県の全ての生徒が、それぞれの興味・関心、適性・進路希望に応じた高校を選択できるようにするためには、通学区域を撤廃する必要がある。 ◇ 通学区域を撤廃するに際して、デメリットをできる限り補完しつつ、段階的に進める方法をとることを考える。		
平成22年度 入学者選抜から 平成26年度 入学者選抜まで	<募集人員> ○ 入学定員の80%を上限とする。 <選考資料> ○ 中学校からの調査書、志願理由書、5教科の学力検査、面接等の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 2月上旬検査 ○ 2月中旬合格発表	◆ 前期選抜合格発表から後期選抜入試日までの期間に、合格者と不合格者が教室の中に混在することから、クラスが落ち着かない期間があり、中学校での学力の定着が十分でない状況があった。 ◆ 前期選抜で不合格となる生徒がクラス単位では少数であることから、精神的なプレッシャーが大きく、後期選抜や再募集に取り組む気持ちを保ちにくい状況があった。	<募集人員> ○ 入学定員から前期選抜の合格者を差し引いた数。 <選考資料> ○ 中学校からの報告書、3教科の学力検査、面接の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月上旬検査 ○ 3月中旬合格発表	◆ 前期選抜合格発表から中学校卒業までの期間に、合格者と不合格者が教室の中に混在することから、中学校の学級経営に支障があった。 ◆ 後期選抜の募集割合が少ないことから、中学生が後期選抜は狭き門という印象を持ち、志願倍率の高い高校に挑戦しにくい状況があった。	<募集人員> ○ 入学定員から後期選抜までの合格者を差し引いた数。 <選考資料> ○ 中学校からの報告書、3教科の基礎学力検査、面接の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月中旬検査 ○ 3月下旬合格発表		① 平成22年度入学者選抜から東部学区、高吾学区、幡多学区の三つの通学区域は撤廃する。 ② 高知学区は平成24年度入学者選抜から撤廃する。 ③ 影響緩和期間として平成22年度入学者選抜では学区外枠を15%、平成23年度入学者選抜では20%と段階的に拡大する。	◆ 地域の高校では、地域の生徒数が減少していることに加え、交通機関の発達に伴う通学圏の拡大により、旧通学区域外の高校に挑戦しやすくなったことから、志願者が減少した学校がある。
改善点	◇ 全ての検査の実施を3月とし、各課程の受検機会を2回とするとともに、志願先変更期間を設定した。 ◇ 全日制・昼間部の募集人員を100%とし、A日程では定時制・夜間部の募集を行わないこととした。		◇ 定時制・夜間部は、B日程から募集を行うこととした。					
平成27年度 入学者選抜から	A日程		B日程		C日程		通学区域	
	<募集人員> ○ 全日制・昼間部の入学定員の100%。 <選考資料> ○ 中学校からの調査書、志願理由書、5教科の学力検査、面接等の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月上旬検査 ○ 3月中旬合格発表		<募集人員> ○ 全日制・夜間部は、入学定員からA日程の合格者を差し引いた数。 ○ 定時制・夜間部は、入学定員の100%。 <選考資料> ○ 中学校からの調査書、学力検査(全日制・昼間部は5教科、定時制・夜間部は3教科)、面接等の結果に基づき選抜。 <実施時期> ○ 3月下旬検査 ○ 3月下旬合格発表		<募集人員> ○ 定時制・夜間部の入学定員からB日程の合格者を差し引いた数。 <選考資料> ○ 学校の定める方法により選抜。 <実施時期> ○ 3月末検査 ○ 3月末合格発表		なし	

現行の高知県公立高等学校入学者選抜制度の概要について

1 入試の実施時期（令和6年度入試）

選抜方法	12月	1月	2月	3月
公立 A日程等		県外手続	出願 変更	3/5・6 検査 3/14 発表
公立 B日程等			県外手続	出願 変更 3/22 検査 3/26 発表
公立 C日程				出願 3/27 検査 3/28 発表
私立 推薦入試	出願	1/11 検査 1/12 発表		
私立 一般入試	出願	1/19 検査 1/20 発表		
高専 推薦選抜	出願	1/13 検査 1/19 発表		
高専 学力検査選抜			出願 2/11 検査 2/16 発表	
高専 第2次募集A			出願 2/25 検査 2/27 発表	
高専 第2次募集B			出願	3/2 検査 3/4 発表

※ 上記の公立高等学校のC日程、私立高等学校の推薦入試及び一般入試については、主な日程を示す(学校により異なる)。
 ※ 「県外手続」とは、他の都道府県の中学校等の在学者又は出身者が本県の公立高等学校を志願する場合に、事前に行う手続の期間を示す。
 ※ 「変更」とは、出願後に志願先の変更ができる期間を示す。なお、志願先変更は、所定の期間内に1回に限り可能である。

2 県外からの志願

	対象校 (志願することができる高等学校)	
(1) 家族での転居 (保護者の転勤等)	34校	全ての公立高等学校
(2) 隣接県からの通学	5校	檮原、四万十、中村西土佐分校、宿毛工業、宿毛 (全日制及び定時制)
(3) 身元引受人制度の活用 (全日制のみ)	13校	<令和5年度入試まで> 室戸、嶺北、高知追手前吾北分校、高知海洋、須崎総合 (機械系学科造船専攻のみ)、檮原、四万十、大方、中村西土佐分校 <令和6年度入試から追加> 城山、山田 (グローバル探究科、ビジネス探究科)、岡豊 (普通科 (芸術コース)、普通科 (体育コース))、幡多農業 ※ 下線部は、「地域みらい留学」に掲載している高等学校

<身元引受人制度について>

- 保護者が高知県に居住しなくても、親戚の方など身元引受人になってくれる高知県在住の方がいれば、高知県教育委員会 (県立高等学校を志願する場合) から入学志願承認を受け、受検することができる制度のこと。
- 親戚の方などがいない志願者には、身元引受人を紹介する高等学校もある。

3 入試の選抜方法等

○印……全ての高等学校に該当するもの
 △印……学校や学科・科等によるもの
 ×印……全ての高等学校に該当しないもの

対象	募集定員	実施時期	選抜方法	合格者の決定に係る検査内容等						志願先変更
				志願理由書	調査書	学力検査	面接	実技検査	その他の検査	
全日制 昼間部	入学定員の100%	3月上旬	A日程	○	○	○	○	△	×	○
			連携型中高一貫教育校に係る特別選抜	○	○	○	○	△	×	×
			チャレンジ選抜A	○	○	○	○	△	×	×
定時制 夜間部	入学定員を満たすために必要な人数	3月下旬	B日程	×	○	○	○	△	×	○
			成人特別選抜	×	○	○	○	△	×	○
	入学定員を満たすために必要な人数	3月末	C日程	学校の定める方法						

(1) 学力検査について (A日程等及びB日程)

- ◇ 全日制・昼間部……5教科 (国語、社会、数学、理科、英語)
- ◇ 定時制・夜間部……3教科 (国語、数学、英語)

(2) 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜について

<実施校> (4校)

連携型高等学校	連携型中学校
嶺北高等学校	本山町立嶺北中学校, 土佐町立土佐町中学校
檮原高等学校	檮原町立檮原中学校, 津野町立東津野中学校
四万十高等学校	四万十町立大正中学校, 四万十町立十川中学校
清水高等学校	土佐清水市立清水中学校

※ 連携型中高一貫教育校において、連携型高等学校を該当する連携型中学校から志願する場合は、原則としてこの選抜方法によるものとする。

(3) チャレンジ選抜Aについて

<実施校> 高知丸の内高等学校の普通科のみ

<A日程とチャレンジ選抜Aとの違い>

選抜方法	『入学志願者取扱要領』において例年定めている内容
A日程	調査書中の「各教科の学習の記録」は、合計して取り扱わなければならない。
チャレンジ選抜A	調査書における「各教科の学習の記録」及び「出欠の記録」については、選抜資料としない。

(4) 成人特別選抜について

<検査内容>

学校、学科・科の特性に応じて必要と認められる場合は、面接に加えてその他の検査を実施する。

県立高等学校の在り方検討委員会 第1回専門部会について

1 概要

日 時	令和6年1月30日(火)
開催方法	オンライン会議
議 題	現行の入試制度における課題等について

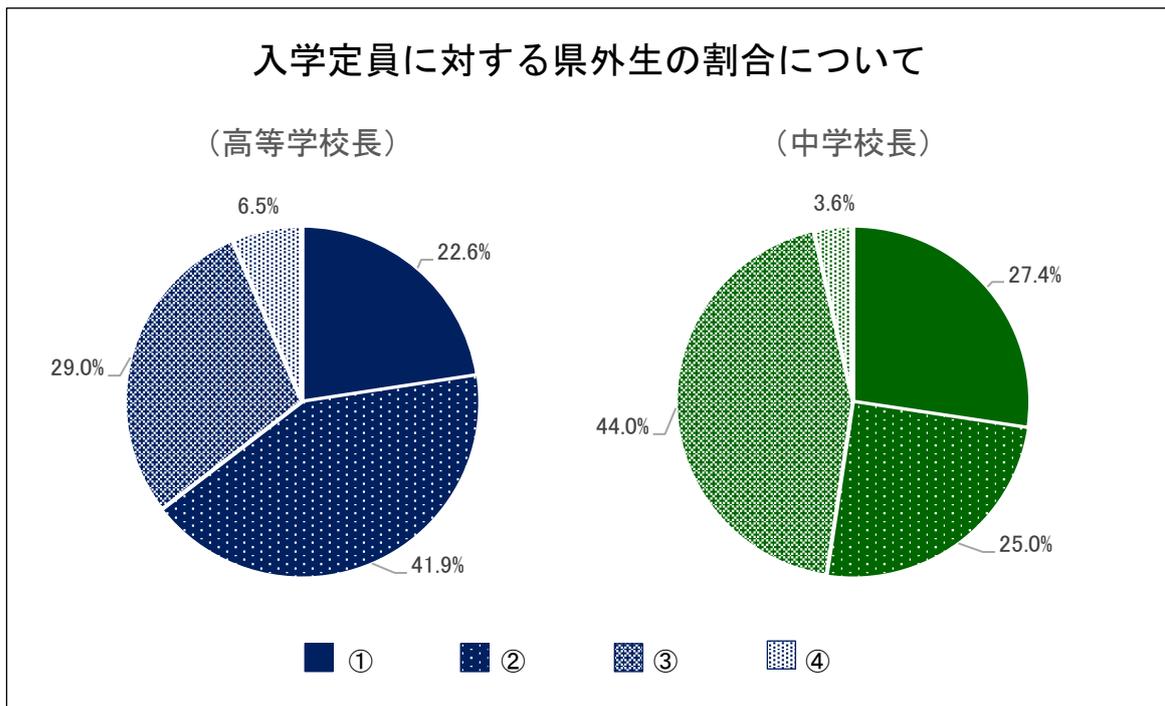
2 現行の入試制度の課題等に関する主な意見

- 中学校の生徒数に対して県立高等学校の入学定員が多いため、定員充足率が低い状況となっている。
- スクール・ミッションやスクール・ポリシーが各校から示される中、入試については全ての県立高等学校で共通の内容が実施されており、各校の特色を踏まえた生徒募集が十分にはできていない。
- 「地域みらい留学」(全国相互の他県への高校進学)への関心は高まっている傾向にあるが、本県の場合は、学校の魅力化・特色化を取り入れた入試制度ではないため、新たな方法を考えていかなければならない。
- 不登校や特別支援のニーズに応じた、そういう生徒の受入れとなる高等学校が必要ではないだろうか。
- 現在、中学校現場では、学力の定着と向上が求められているが、中には特性を抱えている生徒もいる。そういった子供たちを受入れて伸ばしていけるような体制が高等学校にほしいと思う。選考の基準も含めた入試制度の見直しを行うなど、高等学校に入ってから支援してもらいたい。
- 全ての子供たちの可能性を伸ばし、探究的な学びの中で、子供たちが自分の特性を理解しながら、自己選択し、主体的に学ぶ学校生活を送れるように、生徒を育成していけるとよい。学習指導要領で求められている資質・能力は全国学力・学習状況調査などで測られているが、学力調査の検査問題と高校入試の検査問題とでは、その目的や性格が異なることから、中学校の学習や学力の在り方と併せて、一体的に考えていくことも必要ではないか。
- 現行の入試制度では、生徒が、2番目に行きたいと考えている学校がA日程で定員を充足しB日程で生徒募集が行われなくなるのではないかとこのことを恐れ、A日程の段階で生徒が本当に行きたい学校にチャレンジすることが十分できていないところがある。
- 新たな入試制度を検討する場合、過去の入試制度では、早期の入試における募集人員の割合が大きすぎると、合格とならなかった者が、その後、非常にしんどくなったということがあったため、そういったことも踏まえて検討してはどうか。
- 入試日程については、中学校と高等学校とで意見に格差がある。中学校側は、現行の入試制度の日程に大きな変更は望んでいない。
- 現行の入試制度では、県内の私立高校や高等専門学校の入試が全て終わった後に公立高校の入試を行うという日程になっている。
- 高等学校側は、3月に入試日程が集中していることにより、時間をかけてじっくり検討するというよりは、短期間で全てを決定しなければならないという状況である。

県立高等学校の在り方についてのアンケート 調査結果
 (中高校長対象：概要版)

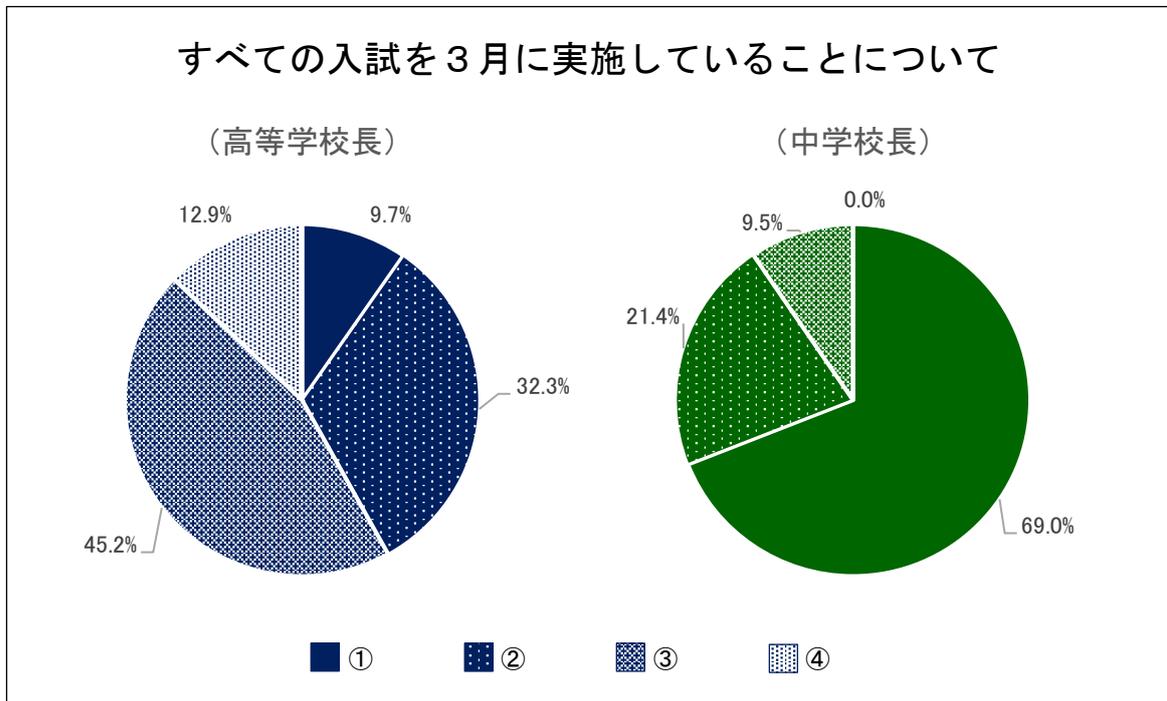
設問 1 県立高校の入学定員に対する県外生の割合（一家転住を除く）について、どう思いますか。ご自身の考えに最も近いものを1つ選んでください。

- ① すべての県立高校で、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）は特に定めずに、募集した方がよいと思う。
- ② 近年の志願者数や定員充足率等を踏まえたうえで、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）を定める県立高校と定めない県立高校とをそれぞれ決定し、募集した方がよいと思う。
- ③ すべての県立高校で、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）を決定した方がよいが、その割合については、近年の志願者数や定員充足率等を踏まえたうえで、学校により異なる割合とし、募集した方がよいと思う。
- ④ すべての県立高校で、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）を統一したうえで、募集した方がよいと思う。



設問2 公立高校入試のA日程、B日程、C日程をすべて3月に実施していることについて、どう思いますか。ご自身の考えに最も近いものを1つ選んでください。

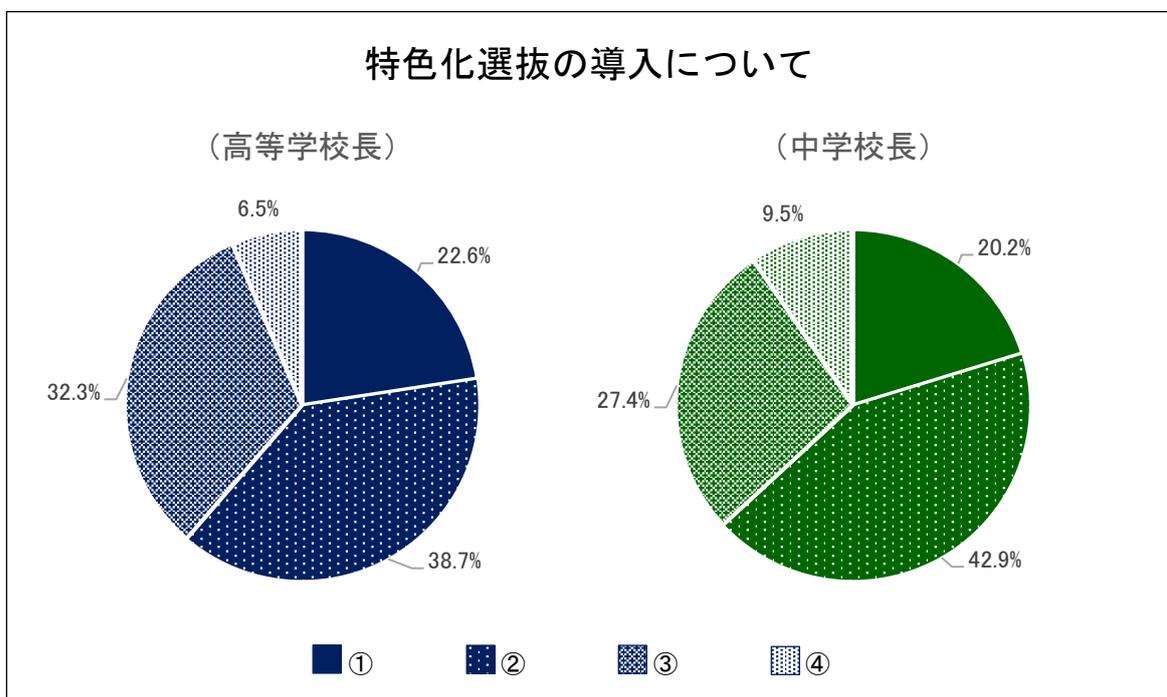
- ① よいと思う
- ② どちらかといえばよいと思う
- ③ どちらかといえばよくないと思う
- ④ よくないと思う



設問3 他県においてすでに実施している特色化選抜の導入について、どう思いますか。ご自身の考えに最も近いものを1つ選んでください。

※ 特色化選抜とは、志願者の目的意識や主体性をより重視する選抜方法のことで、志願者は、熱心に取り組んできたことや、志願先高等学校が示す「求める生徒像」に向けて努力したことを生かして受験することができます。また、各高等学校は、各校が実施する検査や志願理由書等を通して、「目的意識」や「学びに向かう力」、「思考力、判断力、表現力等」を総合的に判断します。

- ① 導入した方がよいと思う
- ② どちらかといえば導入した方がよいと思う
- ③ どちらかといえば導入しない方がよいと思う
- ④ 導入しない方がよいと思う



設問2-1【中学校長のみ】

設問2で「① よいと思う」又は「② どちらかといえばよいと思う」と回答した方にお聞きします。その理由について、記入してください。

- 日程的にはタイトですが、授業進度や卒業式との関係を考えて、現状の方法がベターと考えます。これまでも、様々な考えで入試方法が変遷してきましたが、結局推薦制度前の日程や方法に戻ったことから、現状がベターと考えています。
- 入試が早く終わると卒業までの時間を持て余し、校内での秩序が保たれない可能性が大いに考えられる。現時点でも、私立合格者の中にはそういった傾向がみられる。
- 以前のように前期選抜でほとんどの合格者を出すとその後の学習に身が入らない。また、後期選抜に残った生徒が大変な思いをすることになる。
- 入試後から卒業に至るまでの期間が長くなればなるほど学習への意欲の低下も大きくなると考えられるため。
- 前倒しにされると、中学校側の授業時数の問題が生じてくる。
- 中学校課程で身につけておくべき内容にかけられる時間をできるだけ多く確保することができる。
- 1～2月に実施となると進路指導計画が1～2ヶ月早まり、現状の様々な学校の取組に影響してくる事が考えられるので、3月に実施が良いと考えます。2月下旬なら可能かとも思いますので、どちらかといえばよいを選択しました。
- 現行の教育課程どおりの学習をしていけば、どうしても3月入試でないこと全ての内容が履修できないため。ただし、教科書の内容をもっと早く終わらせることが可能になれば、入試を早くすることも検討できるのでは。
- 近年の本校の状況から、特段の不具合は生じていないため。ただし、大規模の生徒数が多い中学校では、事務手続き等の過密さなどから、全体の日程を少し早めるなどの配慮が必要かもしれない。

設問2-2【高等学校長のみ】

設問2で「③ どちらかといえばよくないと思う」又は「④ よくないと思う」と回答した方にお聞きします。その理由について、記入してください。

- 1～2月に推薦入試のような学校の特色が生かされる多様な入試形態が必要ではないかと考える。
- 現行の入試日程は、私立や他県の公立高校の入試日程に比べて遅いため、私立に行く生徒や県外生徒もすでに他県の高校入試が終わっており確保が難しくなるため。
- 設問1にあったように、県外生の入学割合を設定するならば、3月では遅すぎ、受験を敬遠されるのではないかと思う。
- もう少し早めに実施することで、新年度の準備（新入生支援情報聞き取り等）に充てたい。
- A日程は私立、高専との関係、高校教員の業務（卒業式、入試業務、在校生の年度末の成績処理、指導要録など）が大変多忙でミスが許されない内容がこの時期重なりすぎる。中学3年生の進路選択の幅を広くという思いはわかりますが。
- 3月に入試業務が集中し、入試を中心として行事予定を組まなければならない。この間の学校業務が滞ることがある。入試業務は確認作業が多く、慎重に行う必要があることから時間を要するため、分散して欲しい。
- C日程がかなり遅い時期の実施となっているので、年度末及び年度初めの業務に支障をきたすことが想定される。
- 特にC日程が年度末ギリギリなので、人事異動になった先生の場合、住居を移動しないといけない場合は準備期間が少なすぎる。

設問2-3【高等学校長のみ】

設問2で「③ どちらかといえばよくないと思う」又は「④ よくないと思う」と回答した方にお聞きします。公立高校入試のA日程、B日程、C日程をそれぞれの時期に実施した方がよいと思うか、記入してください。

- 1～2月推薦入試(定員の一部分)、3月A又はB日程、C日程
- それぞれの日程を1週間程度早めての実施。
- A日程を2月20日前後、B日程を現在のA日程の時期、C日程を現在のB日程の時期
- A日程の始まりを2月として2～3週間おきに実施したほうがよい。また、A日程一回の試験の結果のうち全部または理科・社会についてはB日程、C日程に生かしてもいいのではないかと。B、C日程では学科に応じた教科もしくは英・数・国に限定して実施してはどうか。
- 他県の状況調査したうえで、A、B、Cそのものの制度の見直しをお願いしたい。

設問3-1【中学校長・高等学校長共通】

設問3で「① 導入した方がよいと思う」又は「② どちらかといえば導入した方がよいと思う」と回答した方にお聞きします。特色化選抜をどの時期に実施した方がよいと思うか、記入してください。

なお、記入にあたっては、現行のA日程、B日程、C日程の実施時期に関わらず、特色化選抜の実施時期として適切だと考えられる時期を記入してください。

【中学校長】

- 時期は同じで、現行の日程が良い。
- 個に応じた教育が求められている以上、早い段階での選抜を望みます。
- 私学や国立の推薦入試と同等な位置づけとし、12月か1月に実施すると良い。
- 特色化選抜を志願する生徒は、早い段階から目的意識も高いと思われるため1月下旬が望ましいと考えます。不合格になった場合もA日程までには時間があり、気持ちを切り替えられると考えます。
- A日程の前に実施(1月) ※結果判明後にA日程に出願可能である時期
- 特色化選抜で不合格になった生徒が再度、同一校を受験できることは一定必要かと感じます。そう考えると、A日程よりは早い時期に実施することが必要になるかと思えます。そうなる前に実施していた推薦入試等と同じような考え方になるのではないかと思います。
- 1月末までにはやるべきと思う。
- A日程前の2月頃が良いと思う。あまりに早すぎると、入学までの学習が継続しづらくなり、入学後の学力面が心配である。
- 2月中旬に行う。また、一定の学力検査を実施したら良いと考える。
- 特性を持った生徒やこれからの時代を生きる子どもたちのことを考えて、また、形骸化された、面接試験の改善(自分がやってきことのアピールを活かせる)にもつながる。面接試験に時間をかけても2日間で影響なければ、今と同じでもいいのでは。
- 知識技能をはかるテスト以外のこのような内容のテストも大切だと考える。

【高等学校長】

- 12月か1月(入試が現在の3月にある場合)
- 私立の入試に合わせる。
- 諸々を勘案すると、1月実施が妥当だと考えられる。
- A日程の前に実施する(2月中旬ごろ)
- 県内全体への募集でなく、地域みらい留学制度を活用している学校において、県外特別枠の試験を他県の一般入試よりも早い時期に設定して、県外生徒の確保に努める。

設問3-2【中学校長・高等学校長共通】

設問3で「③ どちらかといえば導入しない方がよいと思う」又は「④ 導入しない方がよいと思う」と回答した方にお聞きします。その理由について、記入してください。

【中学校長】

- 合格と不合格の基準が明確にわかれば問題はないかと思うが、現状でも志願理由書を出しているので必要を感じない。
- 合否の判断基準について、中学校側は判断しにくい状態になると思われる。
- 中学校の段階で、求める生徒像をどこまで理解し、自分の適性進路に合っているかは難しいと思います。自己推薦の時代の反省を振り返って、合否の判定基準や入試内容、生徒の意識や取り組み方などを総合的に考える必要があると思います。
- 従前の推薦入試を思い出したから。特色化選抜の合格者数を絞り大多数が筆記試験で合格する内容なら良いかもしれないと考えます。
- 以前、自己推薦型の高校入試が行われていた時、願書を提出したことによって、合格できるかもしれないと考え、学習面がおろそかになった生徒も多かった。もし導入するのであればできるだけ、目的意識を明確にして、何かに特化した内容で、募集人員を少なくしてほしい。
- 以前あった推薦制度のように、学校間での温度差が必ず出てくる。最初から勉強は置いといて、特色選抜1本でチャレンジして合格できると勘違いする者が出てくる。実施するならば、学力審査も必須にするべき。
- 特色化選抜が本来の目的に反して、一般選抜試験を回避するための手段として活用されるようにならないか懸念される。
- 生徒は自分をアピールできる生徒とそれが苦手な生徒に分かれています。こういった形でアピールすることが進路確定に近づくという考えが、そういった生徒への新たな心理的負担と不安につながると心配します。広島県で導入を進めていると聞きましたが、そういった点での情報も提供していただけたらと思います。

【高等学校長】

- 現行の入試も、総合的判断により合否を決定している。学力検査により、学力の状況は把握しておきたい。
- 特色化選抜では各校で独自で選抜基準を定め、選考も各校で自由に行うという裁量権があるのかどうか、また、各中学校が各高校の選抜基準を十分把握できるかが不安な点である。
- 学校規模が大きく、教職員の数が多い学校と比べると、職員数の少ない中山間の学校においては、一人の教員にかかる仕事量が増えることを含め、準備等に負担がかかる恐れがある。
- 今の選抜方法で、志願者の目的意識や主体性を十分に図ることができていると思う。また、A日程、B日程、C日程に加えての新たな制度ならば業務負担が大きい。
- 現行に加えての実施は負担が大きい。

設問4【中学校長・高等学校長共通】

現行の入試制度に関する課題や改善点等について、ご意見等があれば記入してください。
(実施時期、選抜方法、事務手続、県外からの志願承認など)

【中学校長】

- 高校の卒業式(3月1日)のように、曜日に関係なく入試日を固定してもらいたい。
- 入試制度をA日程・B日程・C日程とせず、A日程のときに第1希望・第2希望まで記載し、第1希望校が不合格になれば、第2希望校へ入試の成績を回して、合否を決定する。その方法をとるなら、現行のB日程は廃止し、C日程のみ残す。また、同一校での第1希望・第2希望を選択した場合は、第2希望校は選択できないとする。
- 公立高校入試が全国学調や県版学テの延長線上にある系統だったものになっているのか。また、県下統一模試など塾に頼っている風潮が高知県にはあると感じるが、県としてそれで良いものなのかと思う。
- 特色化選抜のように目的意識や主体性をもたせる選抜方法になればと思う。また、入試問題等も学習指導要領の内容を反映した、全国学調のような内容になればと思う。
- 時間的に難しいことかと思いますが、面接時間をもう少し長くしていただき、生徒の人の柄やコミュニケーション力等を見ていただきたいと思います。
- 面接方法を従来のもとは違う形にして、そこで、中学時代に頑張ってきたことや、高校時代にやりたいこと、将来に向けての夢などを、自らプレゼン(タブレット端末を利用して)する方式にしてみてもどうかと思う。一方的に面接官からの質問に、事前に暗記したものを答える面接ではなく、プレゼン面接があることが事前にわかっているならば、日々の中学校での色々な学びも意識して取り組めるのではないかと考える。
- 今求められている資質能力をどうやって測るのか。どうしても知識重視の教科もあるので、授業を大きく変えていくことが難しいと思う。入試にグループ協議とか共同制作、討論、タブレットを使っただけの試験などは高校入試には難しいと思うので、授業も入試に向けてのものになっても仕方がない面もある。時期、手続きは現行のままでいいと思う。
- 志願者数と定員合計の差が大きすぎる。
- 教師の配置の数に関わってくると思いますが、あまりにも定員が多すぎて、受験生とのバランスが取れていない。高校にもう少し特色ある高校をつくり、定員数も少子化に合わせて削減すべきだと思う。このままでは勉強をしない中学生、高校生がたくさん出てくるように思う。
- 近年は少子化の影響もあり、定員オーバーをする学校がほとんどない状態である。定員内不合格を出さない取り組みもわかるが、あまりにも極端であれば、次年度の入試にも影響し中学校にとっても、あまり良い影響をあたえないのではないかと心配な面はある。
- 県内の生徒数も年々減少している中で、ある程度の学校数を維持するためにも、県外からの入学生を積極的に受け入れていく必要がある。
- 県外からの山村留学生で高知県内の中学校を卒業予定の生徒については、公立高校の受験を可能にしてほしい。
- 今後、入試における特別措置(特に合理的配慮にかかる内容)を要する生徒が増加することが予想されます。本校では定期テストにおけるパソコン入力の要望があり、今後検討していくことにしています。現在の対応[拡大・ルビ振り・時間延長(最長+15分)・読み上げ(本人の希望があれば)]を実施しています。個別の対応が必要な生徒が増加した際、さまざまな課題が生じることが予想されます。
- 不登校の生徒が増加しています。不登校であっても、高等学校進学には意欲を持っている生徒も多数います。入試に当たって、不登校生徒の扱いについて明確にできない部分が多いかとも思いますが、県教委としての考え方を非公式にでも中学校長にお伝えいただく機会があればと思います。
- さらにユニバーサルな視点に基づいて実施していただければと思います。

【高等学校長】

- 連携型中高一貫教育校においては、地域ごとに特色ある入試を実施すればどうか。(入試というよりは多様な選抜方法を用いる等)
- 設問2-2で記述していますが、入試を3月に集中すると業務が多く、学校業務と並行もしくは入試業務優先となるため、2月、3月に分散していただきたい。また、3月は年度末による進路指導、生徒指導・支援、教科・資格等の補習、異動による引継ぎ、新入生を迎える準備等、生徒、教職員の多様な時期であることも考慮していただくとありがたいです。
- B日程の時期をもう少し早めてもらいたい。また、志願先変更期間について検証してもらいたい。
- 年度末に業務が集中するため、人事異動と含めて1週間程度早めてもらいたい。また、入試採点業務に自動採点システム導入を検討してはどうでしょうか。
- 中学校の実情から考えると今の試験実施時期でよい。選抜方法は試験の問題数、種類は再検討をするべき時期であると考え。事務手続等は、ネット申込を導入してもよいのではないかと思う。
- 入学定員と充足率を検討し、各校の実情を聞く場を設定するということをしてはいかがでしょうか。
- 学区制については、一度議論してもいいのではないかと思います。
- 県外からの志願者の受け入れについて、承認条件の緩和。
- 9割の高校が定員割れをしている現状を勘案すると県外や海外から積極的に受けて入れても問題はないと考える。できるだけ簡便な手続きにしていきたい。
- 県外からの生徒の募集について、高知県の費用を使って生徒を育て、県外に帰すことに、本県としてどんなメリットがあるのか、根本的に見直す必要があるのではないか。その費用をもっと県内高校生のために活用すべき(教員数の確保など)では、と考えています。特別な配慮を必要とする生徒が普通高校に入学し、教職員の業務負担となっている。入試制度の見直しなど、早急に検討していただきたい。

高知県公立高等学校入学者選抜 合格者数等の状況（課程別）

資料 3 - 7

1 全体 (人)

	H27			H28			H29			H30			H31			R2			R3			R4			R5		
	入学定員	合格者総数	定員充足率																								
全日制	5,410	4,250	78.6%	5,410	4,285	79.2%	5,370	4,288	79.9%	5,330	4,084	76.6%	5,330	3,993	74.9%	5,330	3,831	71.9%	5,090	3,655	71.8%	5,090	3,677	72.2%	5,090	3,577	70.3%
多部制	360	192	53.3%	360	175	48.6%	240	112	46.7%	200	123	61.5%	200	118	59.0%	200	94	47.0%	200	86	43.0%	200	96	48.0%	200	75	37.5%
定時制	520	81	15.6%	520	75	14.4%	560	68	12.1%	560	51	9.1%	560	49	8.8%	560	39	7.0%	560	40	7.1%	560	45	8.0%	560	47	8.4%
合計	6,290	4,523	71.9%	6,290	4,535	72.1%	6,170	4,468	72.4%	6,090	4,258	69.9%	6,090	4,160	68.3%	6,090	3,964	65.1%	5,850	3,781	64.6%	5,850	3,818	65.3%	5,850	3,699	63.2%

※全日制的合格者総数には、併設中学校から併設高等学校への進学者数を含む。

2 全日制 (人)

	H27			H28			H29			H30			H31			R2			R3			R4			R5		
	募集定員	受検者数	合格者数																								
A日程	5,410	4,131	3,745	5,410	4,194	3,752	5,370	4,136	3,770	5,330	3,933	3,618	5,330	3,784	3,524	5,330	3,665	3,385	5,090	3,476	3,209	5,090	3,492	3,177	5,090	3,406	3,172
連携型		126	117		101	92		117	108		92	89		109	107		95	91		78	77		117	115		71	71
B日程	1,339	285	178	1,366	325	238	1,275	263	193	1,396	196	149	1,484	178	147	1,666	201	170	1,594	191	160	1,590	198	170	1,657	173	145
計			4,040			4,082			4,071			3,856			3,778			3,646			3,446			3,462			3,388

※連携型中高一貫教育校に係る特別選抜の募集定員については、入学定員内とし、特に定めない。

3 (1) 多部制単位制（昼間部） (人)

	H27			H28			H29			H30			H31			R2			R3			R4			R5		
	募集定員	受検者数	合格者数																								
A日程	200	152	124	200	139	118	120	96	89	120	99	92	120	117	97	120	76	69	120	78	70	120	87	74	120	66	53
B日程	76	21	18	82	22	14	31	4	2	28	8	6	23	5	2	51	19	15	50	11	8	48	15	9	67	9	6
計			142			132			91			98			99			84			78			83			59

(2) 多部制単位制（夜間部） (人)

	H27			H28			H29			H30			H31			R2			R3			R4			R5		
	募集定員	受検者数	合格者数																								
B日程	160	51	42	160	39	32	120	19	14	80	21	18	80	19	14	80	9	5	80	4	4	80	15	12	80	16	13
C日程	79	15	8	128	16	11	106	10	7	62	12	7	66	10	5	75	6	5	76	5	4	68	5	1	67	5	3
計			50			43			21			25			19			10			8			13			16

4 定時制 (人)

	H27			H28			H29			H30			H31			R2			R3			R4			R5		
	募集定員	受検者数	合格者数																								
B日程	520	84	52	520	78	46	560	72	47	560	50	34	560	44	35	560	34	29	560	33	31	560	35	32	560	39	33
C日程	468	53	29	474	41	29	513	42	21	526	25	17	525	16	14	531	13	10	529	10	9	528	17	13	527	16	14
計			81			75			68			51			49			39			40			45			47

<県立高等学校の改編等による入学定員の変更について>

H29	○ 安芸高等学校(全日制)及び宿毛高等学校(全日制)において、各1学級減(各40人減)となった。 ○ 須崎工業高等学校(全日制)において、学科改編により4科から3科6専攻に変更となり、40人減となった。
H30	○ 大方高等学校において、多部制単位制(昼間部)(80人)が全日制に、多部制単位制(夜間部)(40人)が定時制に、それぞれ改編された。
R3	○ 安芸桜ヶ丘高等学校(全日制)の環境エネルギー科及び高知北高等学校(多部制単位制(夜間部))の衛生看護科が募集停止となった。 ○ 高知南高等学校(全日制)及び高知西高等学校(全日制)が募集停止となり、高知国際高等学校(全日制)が募集開始となった。

令和5年度 高知県立高等学校入学者選抜 合格者数等の状況 (学校別)

1 全日制

学校名	学科(科)名	入学定員	A日程			B日程			合格者総数	空き定員	入学許可者数	定員充足率	
			志願者数	受検者数	合格者数	B日程定員	志願者数	受検者数					合格者数
室戸	総合	80	52	52	49	31	1	1	0	49	31	49	61.3%
安芸	普通	120 (81)	54	54	54	27	2	2	2	95	25	95	79.2%
	工業(機械土木科)	20 (18)	5	5	4	14	0	0	0	6	14	6	30.0%
	工業(機械専攻)												
	工業(土木専攻)	20 (18)	3	3	2	16	0	0	0	4	16	4	20.0%
商業(ビジネス科)	40 (32)	14	14	13	19	0	0	0	20	20	20	50.0%	
城山	普通	80	22	22	19	61	8	8	6	25	55	25	31.3%
山田	普通	80	64	64	59	21	2	2	2	61	19	61	76.3%
	探究(グローバル探究科)	80	7	6	7	74	2	2	2	9	71	9	11.3%
	商業(ビジネス探究科)	40	21	21	24	16	3	3	3	27	13	27	67.5%
嶺北	普通	80	10	10	10	53	0	0	0	27	53	27	33.8%
	<連携型中高一貫教育校に係る特別選抜>	[入学定員内]	17	17	17								
高知農業	農業(農業総合科)	40	40	40	38	2	0	0	0	38	2	38	95.0%
	農業(畜産総合科)	40	29	29	29	11	0	0	0	29	11	29	72.5%
	農業(森林総合科)	40	15	15	14	26	1	1	0	14	26	14	35.0%
	農業(環境土木科)	40	19	19	19	21	0	0	0	19	21	19	47.5%
	農業(食品ビジネス科)	40	42	42	40	なし				40	0	40	100.0%
高知東工業	農業(生活総合科)	40	38	37	36	4	2	2	2	38	2	38	95.0%
	工業(機械科)	40	38	38	38	2	1	1	1	39	1	39	97.5%
	工業(機械生産システム科)	40	10	10	10	30	2	2	2	12	28	12	30.0%
	工業(電子科)	40	16	16	16	24	2	2	2	18	22	18	45.0%
岡豊	工業(電子機械科)	40	17	17	17	23	3	3	3	20	20	20	50.0%
	普通	240	187	186	184	56	35	35	35	219	21	219	91.3%
	普通(芸術コース)	40	23	23	22	18	3	3	2	24	16	24	60.0%
高知東	普通(体育コース)	40	37	37	32	8	1	1	0	32	8	32	80.0%
	総合	200	210	208	200	なし				200	0	200	100.0%
高知工業	看護(看護科)	30	33	33	30	なし				30	0	30	100.0%
	工業(機械科)	40	37	35	37	3	1	1	1	38	2	38	95.0%
	工業(電気科)	40	44	44	40	なし				40	0	40	100.0%
	工業(情報技術科)	40	39	37	36	4	0	0	0	36	4	36	90.0%
	工業(工業化学科)	40	32	32	38	2	2	2	2	40	0	40	100.0%
	工業(土木科)	40	40	40	40	なし				40	0	40	100.0%
	工業(建築科)	40	55	52	40	なし				40	0	40	100.0%
工業(総合デザイン科)	40	53	52	40	なし				40	0	40	100.0%	
高知追手前 吾北分校	普通	280	235	234	234	46	1	1	1	235	45	234	83.6%
	普通	40	10	9	9	31	2	2	2	11	29	11	27.5%
高知丸の内	普通	140	190	189	140	なし				140	0	140	98.0%
	<チャレンジ選抜A>	10	8	8	7					7	3	7	
高知小津	音楽(音楽科)	30	12	12	12	18	0	0	0	12	18	12	40.0%
	普通	240	227	222	222	19	9	8	6	228	12	228	95.0%
高知国際	理数(理数科)	40	28	26	25	15	0	0	0	25	15	25	62.5%
	普通	200 (152)	195	194	152	なし				200	0	200	100.0%
	国際(グローバル科) 探究コース	80 (26)	15	15	21	5	0	0	0	75	5	75	93.8%
伊野商業	国際(DPコース)	[20] ([若干名])	[3]	[3]	[1]	[若干名]	[0]	[0]	[0]	[1]			
	商業(キャリアビジネス科)	160	105	104	92	68	23	23	16	108	52	108	67.5%
春野	総合	160	120	118	113	47	22	22	19	132	28	132	82.5%
高岡	普通	80	25	24	20	60	4	4	3	23	57	23	28.8%
高知海洋	水産(海洋学科)	80	28	28	27	53	4	4	3	30	50	30	37.5%
須崎総合	普通	[10]	[2]	[2]	[2]	[8]	[0]	[0]	[0]	[2]	[8]	[2]	
	普通	120	67	66	65	55	10	10	9	74	46	74	61.7%
	工業(機械系学科)	20	20	20	なし					20	0	20	100.0%
	工業(機械専攻)												
	工業(造船専攻)	20	5	5	5	15	1	1	1	6	14	6	30.0%
	工業(電気情報系学科)	20	3	3	3	17	0	0	0	3	17	3	15.0%
	工業(電子情報専攻)	20	5	5	5	15	0	0	0	5	15	5	25.0%
工業(システム工学系学科)	20	10	10	9	11	1	1	1	10	10	10	50.0%	
工業(機械制御専攻)	20	6	6	5	15	1	1	1	6	14	6	30.0%	
佐川	普通	80	29	29	29	51	8	8	6	35	45	35	43.8%
	普通	80	23	23	22	58	1	1	0	22	58	22	27.5%
橋原	普通	80	22	22	18	40	5	5	2	42	38	42	52.5%
四万十	<連携型中高一貫教育校に係る特別選抜>	[入学定員内]	22	22	22								
	普通	40	5	4	4	29	0	0	0	11	29	11	27.5%
	<連携型中高一貫教育校に係る特別選抜>	[入学定員内]	7	7	7								
	普通(自然環境コース)	40	8	8	8	26	0	0	0	14	26	14	35.0%
大方	<連携型中高一貫教育校に係る特別選抜>	[入学定員内]	6	6	6								
	普通	80	33	32	30	50	7	6	6	36	44	36	45.0%
幡多農業	農業(園芸システム科)	40	19	19	18	22	0	0	0	18	22	18	45.0%
	農業(アグリサイエンス科)	40	17	17	15	25	0	0	0	15	25	15	37.5%
	農業(グリーン環境科)	40	16	16	15	25	0	0	0	15	25	15	37.5%
	農業(生活コーディネート科)	40	22	22	22	18	0	0	0	22	18	22	55.0%
中村 西土佐分校	普通	200 (164)	133	132	130	34	1	1	1	167	33	167	83.5%
	普通	40	9	9	8	32	1	1	0	8	32	8	20.0%
宿毛工業	工業(機械科)	20	7	7	7	13	0	0	0	7	13	7	35.0%
	工業(機械専攻)												
	工業(自動車専攻)	20	13	13	13	7	0	0	0	13	7	13	65.0%
	工業(建設科)	20	21	20	20	なし				20	0	20	100.0%
	工業(建築専攻)	20	15	15	15	5	0	0	0	15	5	15	75.0%
工業(電気科)	40	6	6	6	34	0	0	0	6	34	6	15.0%	
工業(情報技術科)	40	27	27	27	13	0	0	0	27	13	27	67.5%	
宿毛	総合	120	63	63	61	59	1	1	1	62	58	62	51.7%
	普通	80	1	1	1	60	2	2	2	22	58	22	27.5%
清水	<連携型中高一貫教育校に係る特別選抜>	[入学定員内]	19	19	19								
県立計		4810 (4621)	3180	3147	2963	1657	175	173	145	3296	1514	3295	68.5%
高知商業	商業(総合マネジメント科)	140	173	171	140	なし				140	0	140	100.0%
	商業(社会マネジメント科)	70	83	83	70	なし				70	0	70	100.0%
	商業(情報マネジメント科)	35	40	39	35	なし				35	0	35	100.0%
	商業(スポーツマネジメント科)	35	37	37	35	なし				35	0	35	100.0%
市立計		280	333	330	280	0	0	0	0	280	0	280	100.0%
公立計		5090 (4901)	3513	3477	3243	1657	175	173	145	3576	1514	3575	70.2%

資料 3 - 8

2 多部制単位制

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	A 日程			B 日程			C 日程			合格者総数	空き定員	入学許可者数 [成人]	定員充足率		
			志願者数	受検者数	合格者数	B 日程定員 [成人]	志願者数 [成人]	受検者数 [成人]	合格者数 [成人]	C 日程定員	志願者数					受検者数	合格者数
中 芸	普通 (昼間部)	40	10	10	8	32	3	3	1				9	31	9	22.5%	
	普通 (夜間部)	40 [4]				40 [4]	5 [0]	5 [0]	4 [0]	36	4	4	2	6	34	6 [0]	15.0%
高知北	普通 (昼間部)	80	59	56	45	35	6	6	5				50	30	50	62.5%	
	普通 (夜間部)	40 [4]				40 [4]	13 [1]	11 [0]	9 [0]	31	1	1	1	10	30	10 [0]	25.0%
県立計		200 [8]	69	66	53	147 [8]	27 [1]	25 [0]	19 [0]	67	5	5	3	75	125	75 [0]	37.5%

3 定時制

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	A 日程			B 日程			C 日程			合格者総数	空き定員	入学許可者数 [成人]	定員充足率		
			志願者数	受検者数	合格者数	B 日程定員 [成人]	志願者数 [成人]	受検者数 [成人]	合格者数 [成人]	C 日程定員	志願者数					受検者数	合格者数
室 戸	普通	40 [4]				40 [4]	3 [0]	3 [0]	3 [0]	37	0	0	0	3	37	3 [0]	7.5%
山 田	普通	40 [4]				40 [4]	4 [0]	4 [0]	4 [0]	36	0	0	0	4	36	4 [0]	10.0%
高知東工業	工業 (機械科)	40 [4]				40 [4]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	1	1	1	2	38	2 [0]	5.0%
高知工業	工業 (機械科)	40 [20]				40 [20]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]	2.5%
	工業 (電気科)	40 [20]				40 [20]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	2	2	1	2	38	2 [0]	5.0%
	工業 (土木科)	40 [20]				40 [20]	6 [0]	5 [0]	3 [0]	37	1	1	1	4	36	4 [0]	10.0%
	工業 (建築科)	40 [20]				40 [20]	2 [1]	2 [1]	1 [1]	39	0	0	0	1	39	1 [1]	2.5%
高 岡	普通	40 [8]				40 [8]	3 [0]	3 [0]	2 [0]	38	3	3	3	5	35	5 [0]	12.5%
須崎総合	普通	40 [4]				40 [4]	5 [0]	5 [0]	3 [0]	37	2	2	2	5	35	5 [0]	12.5%
佐 川	普通	40 [8]				40 [8]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	2	2	2	4	36	4 [0]	10.0%
大 方	普通	40 [4]				40 [4]	3 [0]	3 [0]	3 [0]	37	0	0	0	3	37	3 [0]	7.5%
宿 毛	普通	40 [4]				40 [4]	4 [0]	4 [0]	4 [0]	36	0	0	0	4	36	4 [0]	10.0%
清 水	普通	40 [4]				40 [4]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]	2.5%
県立計		520 [124]				520 [124]	36 [1]	35 [1]	29 [1]	491	11	11	10	39	481	39 [1]	7.5%
高知商業	商業 (商業科)	40 [4]				40 [4]	4 [0]	4 [0]	4 [0]	36	5	5	4	8	32	7 [0]	17.5%
公立計		560 [128]				560 [128]	40 [1]	39 [1]	33 [1]	527	16	16	14	47	513	46 [1]	8.2%

【全日制について】

- (注1) 安芸、高知国際、中村の入学定員における()内の数字は、A日程の募集定員を示したものである。
- (注2) 安芸、高知国際、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む。
- (注3) 高知国際のDPコース、高知海洋の船舶職員養成課程の[]内の数字は、内数を示す。
- (注4) 嶺北、橋原、四万十、清水の合格者総数には、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜における合格者数を含む。
- (注5) A日程の合格者数には、A日程の追検査による合格者を含む。

【多部制単位制及び定時制について】

- (注1) []内の数字は、成人特別選抜に係る内数を示す。

令和6年度 A日程等志願先変更後の状況（学校別）

No. 1 全日制

(令和 6年 2月 8日)

学 校 名	学 科 (科) 名	入学定員	募集定員	第 1 志望者数		志 願 率	第 2 志望者数
				学校計			
室 戸	総 合	80	80	26	26	0.33	
安 芸	普 通	120	89	29	62	0.33	3
	工 業 (機士)	20	19	2		0.11	6
	工 業	20	20	6		0.30	5
	商 業 (ビジネス)	40	36	25		0.69	11
城 山	普 通	80	80	22	22	0.28	
山 田	普 通	80	80	47	76	0.59	17
	探 究 (グローバル)	80	80	13		0.16	1
	商 業 (ビ探)	40	40	16		0.40	36
嶺 北	普 通	80	80	11 注3	11	0.14	
高知農業	農 業 (農総)	40	40	48	231	1.20	25
	農 業 (畜総)	40	40	42		1.05	33
	農 業 (森総)	40	40	25		0.63	37
	農 業 (環土)	40	40	21		0.53	27
	農 業 (食ビ)	40	40	39		0.98	44
	農 業 (生総)	40	40	56		1.40	22
高知東工業	工 業 (機械)	40	40	41	97	1.03	7
	工 業 (機械ソ)	40	40	9		0.23	32
	工 業 (電子)	40	40	32		0.80	17
	工 業 (電機)	40	40	15		0.38	30
岡 豊	普 通	240	240	235	298	0.98	20
	普 通 (芸術コース)	40	40	28		0.70	13
	普 通 (体育コース)	40	40	35		0.88	40
高知東	総 合	200	200	183	208	0.92	13
	看 護 (看護)	30	30	25		0.83	0
高知工業	工 業 (機械)	40	40	53	302	1.33	23
	工 業 (電気)	40	40	44		1.10	44
	工 業 (情技)	40	40	53		1.33	22
	工 業 (工化)	40	40	34		0.85	85
	工 業 (土木)	40	40	37		0.93	48
	工 業 (建築)	40	40	53		1.33	5
	工 業 (総デ)	40	40	28		0.70	31
高知追手前	普 通	280	280	199	199	0.71	
吾北	普 通	40	40	11	11	0.28	
	普 通	140	140	145	158	1.04	1
高知丸の内	チャレンジ A	10	10	7		0.70	
	音 楽 (音楽)	30	30	6	0.20	4	
高知小津	普 通	240	240	253	279	1.05	22
	理 数 (理数)	40	40	26		0.65	104
高知国際	普 通	200	200	250	259	1.25	5
	国 際 (グローバル) 探究	80	若干名	9		25	[0]
	DP	[20]	[若干名]	[2]			
伊野商業	商 業 (キャリア)	160	160	116	116	0.73	
春 野	総 合	160	160	132	132	0.83	
高 岡	普 通	80	80	30	30	0.38	
高知海洋	水 産 (海洋)	80	80	24	24	0.30	
	船舶職員養成課程	[10]	[10]	[5]		0.50	
須崎総合	普 通	120	120	62	131	0.52	3
	工 業 (機械系) 機械	20	20	26		1.30	6
	工 業 (造船)	20	20	8		0.40	12
	工 業 (電情系) 電気	20	20	8		0.40	7
	工 業 (電情)	20	20	9		0.45	15
	工 業 (シ工系) 機制	20	20	3		0.15	13
	工 業 (住環)	20	20	15		0.75	9
佐 川	普 通	80	80	22	22	0.28	
窪 川	普 通	80	80	28	28	0.35	
構 原	普 通	80	80	33 注3	33	0.41	
四 万 十	普 通	40	40	5 注3	10	0.13	3
	普 通 (自環コース)	40	40	5 注3		0.13	5

(注1) 高知国際高校グローバル科DPコース、高知海洋高校船舶職員養成課程の [] は内数

(注2) 志願率=第1志望者数÷募集定員
高知国際高校グローバル科の志願率は、募集定員を若干名としていることから、記載しない。

(注3) 嶺北、構原、四万十、清水は、A日程と同時に連携型中高一貫教育校に係る特別選抜を実施する。

資料 3 - 9

No. 2 全日制

学校名	学科(科)名	入学定員	募集定員	第1志望者数		志願率	第2志望者数
					学校計		
大 方	普通	80	80	35	35	0.44	
幡多農業	農業 (園芸)	40	40	23		0.58	15
	農業 (アグリ)	40	40	12		0.30	12
	農業 (グリーン)	40	40	19		0.48	10
	農業 (コデイト)	40	40	31	85	0.78	4
中 村	普通	200	150	127	127	0.85	
	西土佐 普通	40	40	3	3	0.08	
宿毛工業	工業 (機械)	20	20	9	108	0.45	8
	工業 (自動車)					20	20
	工業 (建設)	20	20	23		1.15	4
	工業 (土木建築)					20	20
	工業 (電気)	40	40	9		0.23	12
	工業 (情技)	40	40	32		0.80	5
宿 毛	総合	120	120	63	63	0.53	
清 水	普通	80	80	0 注3	0	志願者なし	
県 立 計		4810	4644	3186		0.69	1027
高知商業	商業 (総合マネ)	140	140	192		1.37	61
	商業 (社会マネ)	70	70	86		1.23	120
	商業 (情報マネ)	35	35	42		1.20	60
	商業 (スポマネ)	35	35	37	357	1.06	8
市 立 計		280	280	357		1.28	249
合 計		5090	4924	3543		0.72	1276

多部制単位制

学校名	学科名	入学定員	募集定員	第1志望者数		志願率	第2志望者数
					学校計		
中 芸	普通(昼)	40	40	15	15	0.38	
高知北	普通(昼)	80	80	65	65	0.81	
合 計		120	120	80		0.67	

(注1) 志願率=第1志望者数÷募集定員

令和6年度 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜志願者等の状況(学校別)

学校名	学科(科)名	入学定員	募集定員	第1志望者数		志願率	第2志望者数
					学校計		
嶺 北	普通	80	80	30	30	0.38	
構 原	普通	80	80	17	17	0.21	
四 万 十	普通	40	40	1		0.03	0
	普通 (自環コース)	40	40	1	2	0.03	0
清 水	普通	80	80	40	40	0.50	
合 計		320	320	89		0.28	0

(注1) 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜の募集定員は、入学定員内とし、特に定めない。

(注2) 志願率=第1志望者数÷募集定員

他県における公立高等学校入学者選抜について

◇ 令和6年度入試における選抜方法等（全日制及び定時制の選抜方法等に関する主な内容）

県名	選抜方法（下線：全日制のみ）	募集人員	検査内容等（◎印：全員対象、○印：学校・学科による）	実施時期	県外生徒の受入れ
鳥取県	(1) 特色入学者選抜	定員の50%以内 ※校長が特に必要と認める場合は、県教委と協議のうえ定める	◎面接又は口頭試問、志望理由書、実施校が定める出願書類、調査書 ◎学力検査、作文又は小論文、プレゼンテーション及び実技検査のいずれか一つ以上	2月1日	<対象者> ○隣接県の指定地域から一部の高校への志願者 ○県内居住で県外の中学校を卒業した者 ○県外居住で県外からの通学を前提とする者 <人数制限等> ○特色入学者選抜において、一部の高校で合格者数の程度（定員の内数）を定めている
	(2) 一般入学者選抜	定員から(1)の入学確約者数を除いた数 ※入学辞退者があった場合は繰上合格あり	◎学力検査、面接、調査書 ○作文、実技検査	3月5・6日	
	(3) 再募集入学者選抜	欠員数	◎面接、調査書 ○学力検査、作文、実技検査 ※(2)の学力検査結果を利用可能	3月25日	
島根県	(1) 推薦入学者選抜	定員の40%程度まで	◎面接、個人調査報告書等 ○作文、実技検査等	1月中旬～下旬	<対象者> ○身元引受人制度の活用による志願者 <人数制限等> ○松江市内、出雲市内、分校、定時制課程は原則として合格者数4名以内 ○上記以外の高校は合格者数4名を超えて各校で定めることができる
	(2) 中高一貫教育校(連携型)に係る入学者選抜	定員内で各実施校が定める	◎面接、自己報告書 ○個人調査報告書、課題レポート、作文	1月中旬～下旬	
	(3) スポーツ推進指定校推薦入学者選抜	1校1指定競技当たり4名以内	◎面接、書類(校長推薦書、個人調査報告書等)	1月中旬～下旬	
	(4) 一般入学者選抜	定員から(1)～(3)の合格内定者数を除いた数	◎学力検査、個人調査報告書等の諸資料 ○面接、実技検査 ※求める生徒像、選抜において重視する点、傾斜配点等を学校別の募集要項に記載	3月5・6日	
	(5) 第2次募集入学者選抜	欠員数	◎校長が定める(面接、作文、基礎学力をみる検査等)	3月19日	
徳島県	(1) 育成型選抜	(A) 活動重視枠(※各校が定めた分野) ○普通科、理数科、外国語科：定員の7%以内 ○専門学科、総合学科：定員の14%以内	◎学力検査、調査書、活動記録 ◎「実技、意見発表又は口頭試問等」若しくは面接の一つ以上	2月6日	<対象者> ○四国他県の自宅からの通学を予定している者 ○身元引受人制度の活用による志願者 <人数制限等>(計20校) ○定員の25%以内(1校)、定員の20%以内(1校)、5人以内(4校)、3人以内(4校)2人以内(6校)、制限なし(5校) ※学科により人数制限が異なる学校があるため、延べ数では21校となる
		(B) 実績重視枠(※県教委が指定した競技及び分野) ○体育科、芸術科：定員100% ○県教委が定める指定校：別に定める	◎学力検査、実技、意見発表又は口頭試問等、調査書、活動記録 ○面接		
	(2) 連携型選抜	定員の範囲内で別に定める	◎学力検査、面接、志望理由書	2月6日	
	(3) 一般選抜	定員から(1)・(2)の合格者数を減じた数	◎学力検査、面接、調査書 ○実技検査、活動記録	3月5・6日	
(4) 第2次募集選抜	欠員数	◎作文、面接、調査書 ○教科の検査、実技検査、活動記録	3月26日		
香川県	(1) 自己推薦選抜	定員の5～50%以内	◎面接、調査書、自己PR書等 ○総合問題、作文、適性検査(実技等)、自己PR	2月1日	<対象者> ○県外居住で県外の自宅からの通学を予定している者 ○身元引受人制度の活用による志願者 <人数制限等> ○自己推薦選抜及び一般選抜において、合格者数の上限を定めている
	(2) 一般選抜	定員から(1)の合格者数を除いた数	◎学力検査、面接、調査書 ○適性検査(実技等)	3月7・8日	
	(3) 第2次募集	定時制の欠員数	◎基礎学力検査、面接、調査書	3月26日	
	(4) 別日程募集	三木高校定時制の定員から(2)の合格者数を除いた数	◎基礎学力検査、面接	3月26日	
愛媛県	(1) 推薦入学者選抜	○普通科、理数科、国際文理科等：5～15%程度 ○専門学科、総合学科：20～30%程度 ※上記範囲内で各高等学校が定める	◎作文又は小論文、面接又は集団討論、実技テスト、自己アピール書、調査書、推薦書	2月8日	<人数制限等> ○全国募集を行う一部の高校の区域外定員の割合は、10～50%以内(ただし、通学区域内の志願者数の状況により、この割合を超えることができる)
	(2) 一般入学者選抜	全日制の定員から(1)の入学確約者数を差し引いた数、定時制の定員100%	◎学力検査、面接、調査書、学習成績等一覧表 ○実技テスト	3月7・8日	
	(3) 第2次募集	定時制の欠員数	◎学力検査、面接、調査書	3月28日	
高知県	(1) A日程	全日制及び昼間部の定員100%	◎学力検査、面接、志願理由書、調査書 ○実技検査	3月5・6日	<対象者> ○隣接県からの通学による志願者 ○身元引受人制度の活用による志願者 <人数制限等> ○人数制限なし
	(2) 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜	定員内			
	(3) チャレンジ選抜A	高知丸の内高校のみ10名			
	(4) B日程	全日制及び昼間部の欠員数、定時制及び夜間部の定員100%	◎学力検査、面接、調査書	3月22日	
	(5) 成人特別選抜	定時制及び夜間部の定員の10～50%			
	(6) C日程	定時制及び夜間部の欠員数			

第3期教育等の振興に関する施策の大綱 / 第4期高知県教育振興基本計画 (概要) (案)



- ◆ 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人
- ◆ 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人
- ◆ 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人



目指す人間像（基本理念）を実現することで、個人が持続的に幸せを感じ、また、地域や社会もよい状態が続く「ウェルビーイング（Well-being）」の実現にもつながる。

目指す人間像 (基本理念)

目指す人間像を実現するための基本目標と、それを測るための測定指標

基本目標 1

確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開

社会に出て自らの夢や志を実現していくための基礎となる知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲を育む。

【義務教育段階】：学習の基盤となる資質・能力の確実な育成を図る。

(測定指標)

- 全国学力・学習状況調査（小学6年、中学3年）において、
 - 小学校の学力は全国平均を継続的に1ポイント以上上回る。
 - 中学校の学力は全国平均に引き上げる。
- <小学校> D層の児童の割合は全国の割合を継続的に下回る。
- <中学校> D層の生徒の割合は全国の割合まで引き下げる。

【高等学校段階】：社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力を育む。

※進路決定の指標は、全日制・定時制・通信制の生徒
その他の指標は、全日制と定時制昼間部の生徒が対象

(測定指標)

- 県調査において、
 - 学力定着把握検査（高校2年）におけるC層以上の生徒の割合を65%以上とする。
 - 高校卒業時に進路を決定して卒業する生徒の割合を97%以上とする。
 - 高校3年で「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」と回答する生徒の割合を90%以上とする。



基本目標 2

健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着

生涯にわたって、たくましく生き抜いていくための基礎となる、体力や健康的な生活習慣を育む。

(測定指標) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学5年、中学2年）において、

- 小・中学校の体力合計点は、継続的に全国平均を上回る。平成30年度の全国平均値まで改善させる。
- 総合評価でDE群の児童生徒の割合を、平成30年度の全国平均値まで改善させる。
- 「中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」と思う生徒の割合が継続的に全国平均を上回る。

(測定指標) 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査（小学6年、中学3年）において、

- 規則正しい睡眠や食事などの基本的な生活習慣に関する項目の肯定的割合が全国平均を上回る。
 - ・ 「朝食を毎日食べる」と回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。
 - ・ 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。
 - ・ 「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。



©やなせたかし/スタジオ

社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、自尊感情、夢や志、他者への思いやりや人権意識、規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性・社会性を育む。また、「不登校」については、決して問題行動ではないことを前提として、「魅力ある学校づくり」「早期発見・早期支援」「多様な教育機会の確保」による支援を行う。



(測定指標) 【義務教育段階】

全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査 (小学6年、中学3年) において、

- 道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。
 - 「自分には、よいところがあると思う」
 - 「将来の夢や目標を持っている」
 - 「人が困っているときは、進んで助けている」
 - 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」
 - 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」

(測定指標) 【高等学校段階】

県調査 (高校3年) において、

※指標は、全日制・多部制昼間部の生徒が対象

- 道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。
 - 「自分という存在を大切に思える」
 - 「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」
 - 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」
 - 「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」

(測定指標) 児童生徒問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査 (国公立) において、

- 生徒指導上の諸課題 (いじめ、暴力行為) の状況を改善させる。
 - ・いじめの解消率を全国平均以上にする (小・中・高・特)。〔参考値：いじめの認知件数、いじめの重大事態発生件数〕
 - ・暴力行為の発生件数を全国平均以下を維持する (小・中・高)。

(測定指標) 児童生徒問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査 (国公立) において、

- 不登校について、
 - ・1,000人あたりの新規不登校児童生徒数を全国平均以下を維持する (小・中・高)。〔参考値：不登校児童生徒数〕
 - ・不登校児童生徒のうち、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けている割合を向上させる (小・中・高)。

第3期教育等の振興に関する施策の大綱/第4期高知県教育振興基本計画の体系

(「目的」⇒「目標」⇒「取組・手法」)

目指す人間像 (基本理念)

- ◆多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人
- ◆郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人
- ◆学ぶ意欲にあふれ、心豊かにたくましく夢に向かって羽ばたく人

基本目標

- 1 確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開
- 2 健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着
- 3 豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進

基本方針・政策・施策等

> 4つの基本方針

- I: 「予測困難な社会を生き抜く力を育成する」
- II: 「子どもたちの多様な背景・事情を踏まえた支援を行う」
- III: 「生涯にわたる学びの環境をつくる」
- IV: 「学びの充実のための基礎・基盤の整備を行う」

> 各方針に位置付けられる政策・施策、各取組・事業

※各取組・事業が位置付けられるのは、高知県教育振興基本計画のみ

詳細は次頁以降に

基本方針 I

「高知家」の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進



政策

施策

個別最適・協働的な学びの一体的な充実に向けた、授業づくりの推進

授業改善サイクルの確立・授業と授業外学習を切れ目なくつなぐシームレス化（義務教育段階）

問題解決型学習の推進、ICTの効果的な活用、端末の持ち帰りによる家庭学習の充実、放課後等による学習支援 など

授業改善サイクルの確立・授業と授業外学習を切れ目なくつなぐシームレス化（高等学校段階）

指導と評価の一体化の充実、デジタル技術の活用、学習支援員 など

社会とつながるキャリア教育・職業教育の推進と、それを前提とした進路指導の充実

体系的なキャリア教育・職業教育の推進

「キャリア・パスポート」の活用、職場体験、上級学校訪問等の体験的な学習、学校での事業所説明やキャリア講演 など

多様な進路希望等に応じた進路指導・就労支援の充実

就職アドバイザーの活用、遠隔教育等を活用した資格取得の推進 など

高知県や我が国の伝統・歴史・文化等を学ぶとともに、グローバル社会で活躍する人材を育成

地域や日本の伝統・歴史・文化等の教育の促進

地域に根ざした道德教育・キャリア教育、県内文化施設の活用促進 など

グローバル教育の推進・強化

グローバル教育推進校の取組の成果普及、県海外派遣プログラム、留学フェア、英語教育の強化 など

主体性に社会参画を行い、社会的な課題解決等に取り組んでいく人材を育成

児童生徒が自ら課題を探究し、多様な人と協働しながら、課題を解決・提案する主体性等の育成

総合的な学習（探究）の時間、地域協働学習、生徒の自発的・自治的な活動（特別活動） など

現代的諸課題や制度・仕組み等を体系的に学び、社会参画を図るうえでの基礎的基盤を育成

主権者教育、消費者教育、男女共同参画に向けた教育、環境教育、情報活用能力の育成 など

今後の高知県や日本のイノベーションを担うための教育の充実

理科教育、「科学の甲子園」、プログラミング教育、STEAM教育、教科「情報」の教育、起業家教育 など



自尊感情や他者への思いやりを育み、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現の両立を図るための教育の推進・指導強化

- 規範意識や自尊感情などを育むための道徳教育の推進
 - 「考え、議論する道徳」への質的な転換、「地域ぐるみの道徳教育」の展開 など
- 自分の大切さとともに他の人の大切さを認める人権教育の推進
 - 「高知県人権教育推進プラン」、人権教育研修の支援・充実 など
- 児童生徒が自発的・自主的に自らを発達させるよう指導・支援する発達支持的生徒指導の推進
 - 発達支持的生徒指導の推進、生徒の声を生かした校則見直し等の取組の推進 など
- 生徒指導上の諸課題の未然防止のための教育プログラムの実施
 - SOSの出し方に関する教育、関係機関と連携した未然防止 など
- いじめ・不登校等の早期発見対応及び課題改善に向けた組織的な指導・支援体制の強化
 - スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、いじめの未然防止、早期発見・対応 など

生涯にわたる心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの充実

- 体力の向上や体育授業改善の推進
 - 「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」 など
- 運動部活動の改革、運営の適正化
 - 「高知県部活動ガイドライン」、適切な休養をとった運動部活動の適正な運営 など
- 保健教育の充実
 - いのちの教育、性に関する指導 など
- 基本的な生活習慣の向上・確立
 - 基本的な生活習慣の定着、保護者に向けた学習会、食育の充実 など

今後の社会を見据えた高等学校改革

- 「県立高等学校再編振興計画」の次期計画の検討
 - 「県立高等学校再編振興計画」の次期計画の策定に向けた検討 など
- 高等学校のさらなる魅力化を推進するための環境整備と情報発信
 - 地域コンソーシアム、高校魅力化コーディネーター、魅力の県内外の発信、遠隔教育 など
- 社会の変化等に対応した入学者選抜の改革
 - 資質・能力を、より多面的・多角的に評価できる入試制度の在り方について検討 など

就学前教育・保育の質の向上

- 保育所保育指針・幼稚園教育要領等を踏まえた就学前教育・保育の充実
 - 園内研修の支援、園評価の支援、市町村の行政職員向けの研修 など
- 保幼小の円滑な連携・接続の推進
 - モデル地域の「架け橋期のカリキュラムづくり」の成果の普及 など

親育ち支援の充実

- 保育者の親育ち支援力の向上
 - 親育ち支援地域リーダーの育成、園内の親育ち支援担当者のスキルアップ など
- 保護者の子育て力向上のための支援の充実
 - 保護者を対象とした研修の実施支援、子育てについての解説動画の作成・PR など

基本方針 II

「高知家」の子どもたちを誰一人取り残さない、
多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進



政策

施策

切れ目のない特別支援教育の推進

インクルーシブ教育の推進

インクルーシブで多様な教育的ニーズに柔軟に対応した学校運営モデル、居住地校交流・共同学習 など

特別支援学校における専門性・教育内容充実（キャリア教育・就労支援を含む）

自立活動の指導、ICT活用による学び、地域と協働したキャリア教育の推進 など

保幼・小・中・高等学校における特別支援教育の推進、体制の強化

ユニバーサルデザインに基づく保育や授業、校種間の確実な引き継ぎ、教員の専門性の向上 など

医療的ケア児に対する支援の充実

看護師による巡回支援の実施、看護職員等の専門性の向上・配置の支援など

重層的な支援体制の整備・強化による不登校対策の推進

魅力ある学校づくりの推進

不登校に対する組織的な取組の推進、高知夢いっぱいプロジェクトの推進、児童生徒理解に向けた研修 など

早期発見・早期支援の実施

きもちメーター、校務支援システム、SC、SSW、校内サポートルーム、心の教育センターの支援の充実 など

多様な教育機会の確保

市町村教育支援センター、ICTを活用した学習支援、校内サポートルーム、「学びの多様化学校」等の検討 など

虐待や貧困、ヤングケアラー等の家庭的な事情等による多様な背景を持つ児童生徒の早期発見、組織的な対応

多様な背景を持つ児童生徒の早期発見

児童生徒の状況理解のための研修、児童生徒が自らの状況を正確に理解する取組の支援 など

専門家や関係機関と連携した組織的な支援体制の充実

学校・SSWと市町村福祉部署との連携強化 など

教育費負担の軽減に向けた経済的な支援

就学援助の活用についての周知

就学援助制度の周知・広報 など

高等学校等就学支援金事業、高校生等奨学給付金事業等の実施、周知

高等学校等就学支援金事業、高校生等奨学給付金事業による支援と周知 など

多子世帯保育料軽減事業の実施

多子世帯保育料軽減事業 など

私立学校に通う児童生徒の保護者の経済的負担の軽減

私立高等学校等就学支援金事業、私立高校生等奨学給付金事業等の実施、学校法人の授業料減免措置への補助 など

地域間格差を解消し、
中山間地域等をはじめとする
各地域において魅力ある教育を実施

地域間格差を解消するための学びの支援

小規模校（複式学級等）における学習指導、
免許外指導担当教員への支援、遠隔教育
など

中山間地域等をはじめとした各地域における特色・魅力ある学校づくり、
教育活動の展開のための支援

地域コンソーシアム、
高校魅力化コーディネーター、
魅力の県内外の発信、
教育版「地域アクションプラン」
など

多様な児童生徒や若者が学ぶことが
できる機会の保障と自立支援

夜間中学の充実、広報・周知

公立夜間中学（夜間学級）の教育活動の充実、
生徒募集に向けた広報・周知活動
など

若者の学びなおしと自立支援

若者サポートステーション、
修学や就労に向けた支援
など

高等学校定時制・通信制課程の質の確保・向上

校内外での体験活動や企業・学校見学等の
充実、就学・就労に向けた関係機関と連携
した支援
など

外国人児童生徒等に対する日本語教育の推進

公立学校における受入体制の整備、
日本語指導教員等の資質・能力の向上、
就学機会の確保
など

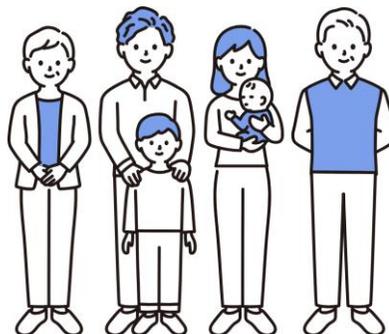
特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援

ICTの活用や外部機関との連携等による
特異な才能のある児童生徒に対する指導・
支援
など

多様な保育サービスの充実

子どもや子育て家庭のニーズに応じた支援

多機能型保育支援、家庭支援推進保育士、
親育ち・特別支援保育コーディネーター、
地域子ども・子育て支援
など



基本方針 III

「高知家」の誰もが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進



政策

施策

共に学び支え合う
生涯学習・社会教育の推進

全ての県民が生涯にわたって学び、学びを生かす機会と環境の充実

社会教育団体の活動やネットワークづくり、社会教育関係者への研修の実施、社会教育主事・社会教育士等の養成 など

学びを育む体験活動の推進

自然体験学習、森林環境教育などの学びを育む体験活動、森林活用指導者の育成 など

オーテピア高知図書館を核とした県民の読書環境・情報環境の充実

オーテピア高知図書館を核とした県民の読書環境・情報環境の充実

オーテピア高知図書館を核とした県民の読書環境・情報環境の充実、読書ボランティアの養成 など

家庭教育支援の充実

家庭教育支援の充実

基本的な生活習慣の向上・確立に向けた学習会や講演会の実施、生活点検 など

放課後等における子どもたちの安全・安心な居場所づくりや学びの場の充実

放課後等における子どもたちの安全・安心な居場所づくりや学びの場の充実

放課後子ども教室、放課後児童クラブ等への支援、放課後児童支援員等の人材育成 など

私立学校の振興

私立学校の教育環境の維持・向上に向けた支援

私立学校の学校経営の健全化や特色ある学校づくりへの支援、教員の指導力向上、防災・安全機能の強化 など

大学の魅力向上

地域活性化の核となる大学づくりの推進

地域活性化の核となる大学づくり、学び直しの機能の充実、若者の県内定着の促進 など

県民一人一人が文化芸術に親しむ環境づくりの推進

県立文化施設への来館機会の充実

魅力的な企画展や常設展、イベントの開催、教育普及活動の推進、出前講座 など

文化芸術に親しむ機会の充実

高知県芸術祭の開催、国民文化祭の開催（令和8年度） など

文化財の保存・活用

文化財の保存と活用の推進

文化財の所有者・管理団体が行う保存・修理への支援、文化財を活用した地域振興等の取組の推進 など

県史編さん事業の推進

新たな「高知県史」の刊行、調査した歴史資料の電子データ保存、編さんの成果の歴史教への積極的な活用など

スポーツの振興

スポーツ参加の拡大

子どものスポーツ環境の整備、障害者スポーツの推進 など

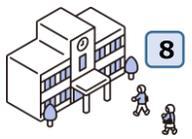
競技力の向上

競技スポーツ選手の育成強化、指導者の育成、スポーツ医科学の推進 など

スポーツを通じた活力ある県づくり

スポーツツーリズムの推進、スポーツを通じた国際交流 など





政策

施策

教育公務員としての
自覚と遵法意識の徹底及び
教職員としての資質・能力の向上

教職員の不祥事の防止強化と、発生した場合の対応体制の強化

市町村教育委員会や学校等と連携した事案の迅速な把握や対応体制の確立、不祥事根絶のための啓発の充実 など

教員育成指標等を踏まえた各段階における
教職員の教科指導・生徒指導・学校運営等の対応力向上に向けた体系的な研修の実施

体系的な教員研修、教育事務職員研修、次世代リーダー育成研修 高知「志」塾、ICT活用指導力の向上 など

「学校における働き方改革」、
「チーム学校の推進・強化」、
「教員等の人材確保に向けた取組」の
一体的推進

学校におけるワークライフバランスを確保した働き方改革の推進

業務の効率化・削減、教員業務支援員の配置 若年教職員へのサポート体制、学校事務体制の強化 など

校長の主導のもと、全ての教職員が「自分事」として参画し、かつ、
学校内外のリソースを効率的に活用した学校組織体制・経営体制の強化（義務教育段階）

学校経営計画の策定、小学校教科担任制、中学校における教科のタテ持ち、チーム学校の取組強化 など

校長の主導のもと、全ての教職員が「自分事」として参画し、かつ、
学校内外のリソースを効率的に活用した学校組織体制・経営体制の強化（高等学校段階）

カリキュラム・マネジメント、学校支援チームによる訪問、主幹教諭の配置 など

教員等の人材確保に向けた取組の推進

教員採用審査方法の見直し、教職員等の魅力発信、求職者と保育職場のマッチング、保育士を目指す学生への修学資金の貸付けなど

教職員のメンタルヘルス対策

メンタルヘルスに関する相談体制の充実、働き方改革と連動した業務の負担軽減 など

児童生徒・教職員にとって、
安全・安心で、円滑な教育活動等が
展開できる環境整備や機運醸成

教育施設等の耐震化、防災対策の促進

県立学校の体育館への空調整備、保育所・幼稚園等の高台移転、高層化への支援 など

学校施設等の長寿命化改修や、省エネルギー化、バリアフリー化等の実施

学校施設等の老朽化対策、LED照明の設置、エレベーターの整備等のバリアフリー化 など

学校等の防犯対策

防犯教育、不審者侵入訓練、安全管理の徹底、放課後等の子どもたちの居場所づくり など

登下校の安全対策の促進

通学路等の見守り活動の充実、自転車ヘルメットの着用推進 など

防災教育の推進

「高知県安全教育プログラム」に基づく防災教育の推進、放課後子ども教室や放課後児童クラブにおける防災対策 など

ICT・デジタル環境の整備、校務DXの推進

1人1台タブレット端末の計画的な更新、校務支援システム、校務効率化ツール など

学校と、様々な関係者として連携・協働して、取組促進や課題解決を図る仕組みの展開・強化

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進、地域学校協働活動推進員の配置等の支援、「高知県版地域学校協働本部」への展開など

PTA活動の振興

PTAの研修会の開催、PTA活動の支援 など

部活動の地域連携・地域移行に向けた取組の推進

部活動の地域連携・地域移行に向けた段階的な取組の検討や実施、部活動指導員の配置 など

※「施策」ごとに「達成の目安となる指標」を毎年度設定し、設定した指標の数値が達成できなかった場合には、当該施策に位置付ける各取組・事業の進捗に課題がなかったか等について、年次改訂の検討の際に分析を実施し、必要に応じて施策や取組・事業の内容等について見直しを行ったうえで、年次改訂の内容に反映させる。

施策（2）を実現するために実施する各取組・事業

No,9 学力向上推進事業（高等学校課）

【概要】「高校生のための学びの基礎診断[※]」を活用して各校生徒の基礎学力の定着度を測り、結果を授業改善サイクルの充実、授業外学習習慣の定着につなげる。あわせて、学校支援チームの定期的な学校訪問により、学力向上の取組を支援する。

【KPI】県オリジナルアンケート（高校2年2回目）の下記項目における肯定的回答の割合を80%以上とする。（全日制及び多部制昼間部）

①学校の授業では、学習のねらいが示されている。

②学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある。

③学校の授業では、学習活動や学習状況を自ら振り返る場面が設定されている。

＜基準値＞ R4 ①：74.7%、②：76.3%、③：68.7%

＜県オリジナルアンケート＞

【KPI】学校経営計画「学力の向上」の項目において、A評価（十分に達成している）の学校の割合を30%以上にする。（全日制及び多部制昼間部）

＜基準値＞ R4：8.3%（3/36校）

＜学校経営計画＞

No,10 「指導と評価の一体化[※]」の促進（高等学校課）

【概要】各校の授業や学習評価に係る実践事例及び学習評価に関する県版参考資料の内容等について、各教科の協議会を通して県全体で情報共有を行うことにより、各校の「指導と評価の一体化」の一層の推進を図る。

【KPI】学校経営計画における「授業改善」関連項目の肯定的回答を100%とする。

（全日制及び多部制昼間部）

＜基準値＞ R4：100%（36/36校）

＜学校経営計画＞

No,11 マネジメント力強化事業（高等学校課）

【概要】全教職員が「自分事」として学校経営に参画し、組織的な取組の充実が図られるよう、「学校支援チーム[※]」が各学校を訪問し、学校経営に関する具体的な指導、助言を行う。

【KPI】学校経営計画の学校関係者評価において、「学力の向上」、「社会性の育成」、「チーム学校」の3項目でA評価（目標を十分に達成している）が1項目以上ある学校の割合を増加させる。（R9年度：60.0%以上）（全日制及び多部制昼間部）

＜基準値＞ R4：50%（18/36校）

＜学校経営計画＞

No,12 【新】デジタル技術を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実（高等学校課）

【概要】1人1台タブレット端末やデジタルツールを活用し、生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていく。また、デジタルツールを活用した授業と授業外学習を切れ目なくつなぐシームレス化を行うことで授業外学習時間の充実を図る。

【KPI】学校経営計画において、全ての県立高等学校で、個々の学習状況や理解度に応じて、ICTを活用した個別最適な学習や協働的な学びを取り入れた授業を実践している教員の割合を前年度より増加させる。（R9年度：70%以上）（全日制及び多部制昼間部）

＜基準値＞ —（※新設の質問項目であるため基準値なし。「授業でICTを効果的に活用している教員の割合」（R4：86.3%）が参考値）

＜学校経営計画＞

【KPI】全生徒アンケートにおいて、ICTを活用した授業外学習に取り組んだ生徒の割合を前年度より増加させる。（R9年度：70%以上）（全日制及び多部制昼間部）

＜基準値＞ R5：31.4%

＜県調査＞

【再掲】(No, 3) 学習支援プラットフォームの活用促進 (教育政策課)

【概要】学習支援プラットフォーム「高知家まなびばこ」の活用を促進し、スタディログダッシュボードやきもちメーター等を活用することで、児童生徒一人一人の強みを伸ばしてつまづきをサポートする教員の指導の充実を図り、児童生徒の主体的・自主的な学習につなげる。

【KPI】県調査で「高知家まなびばこの機能（きもちメーター、スタディログダッシュボード、Google フォームのアンケートなど）により、児童生徒の状況を把握して指導に生かしている」と答えた教員の割合を令和9年度に100%とする。

<基準値> ー ※ R 6より新設 KPI

<県調査>

No,13 学習支援員事業 (高等学校課)

【概要】地域の人材や大学生等による学習支援員を配置し、放課後補習や授業支援を通じたきめ細かな指導・支援による個別最適な学び・協働的な学びを充実させることで、生徒の学習習慣の定着や学力の向上を図る。

【KPI】学習支援員が必要とされる学校への配置率を100%とする。

<基準値> R 5 : 100% (34/34校)

<県調査>

施策名称	I-政策2	施策 No,	(3)												
	体系的なキャリア教育・職業教育の推進	担当課	高等学校課・小中学校課 教育センター・特別支援教育課												
概要	「キャリア・パスポート」の効果的な活用、上級学校や県内企業、地元自治体等との連携を図りながら、上級学校訪問や講演会、職場体験等の体験的な学習を重視するとともに、教職員の資質・指導力向上のための各種研修会や連絡協議会等を行うことにより、体系的なキャリア教育や職業教育を推進する。														
施策(3)の達成の目安となる指標															
①「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答した高校3年生の割合を90%以上とする。 <div style="text-align: right;"><県オリジナルアンケート 1月公表></div> <ul style="list-style-type: none"> ○ R 9年度末の指標の達成に向けた年度別の実績目標 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>R 4 (基準値)</td><td>87.0%</td></tr> <tr><td>R 5</td><td>88.0%</td></tr> <tr><td>R 6</td><td>88.5%</td></tr> <tr><td>R 7</td><td>89.0%</td></tr> <tr><td>R 8</td><td>89.5%</td></tr> <tr><td>R 9</td><td>90.0%以上</td></tr> </table>				R 4 (基準値)	87.0%	R 5	88.0%	R 6	88.5%	R 7	89.0%	R 8	89.5%	R 9	90.0%以上
R 4 (基準値)	87.0%														
R 5	88.0%														
R 6	88.5%														
R 7	89.0%														
R 8	89.5%														
R 9	90.0%以上														
②県立特別支援学校において高等部3年の卒業時に「行きたい進路が決まっている」、「卒業後の生活に楽しみがある」と肯定的に回答した生徒の割合を90%以上とする。 <div style="text-align: right;"><県キャリア教育に関するアンケート調査 4月公表></div> <ul style="list-style-type: none"> ○ R 9年度末の指標の達成に向けた年度別の実績目標 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>R 5 (基準値)</td><td>ー ※ R 6より新設指標</td></tr> <tr><td>R 6</td><td>75%以上</td></tr> <tr><td>R 7</td><td>80%以上</td></tr> <tr><td>R 8</td><td>85%以上</td></tr> <tr><td>R 9</td><td>90%以上</td></tr> </table>				R 5 (基準値)	ー ※ R 6より新設指標	R 6	75%以上	R 7	80%以上	R 8	85%以上	R 9	90%以上		
R 5 (基準値)	ー ※ R 6より新設指標														
R 6	75%以上														
R 7	80%以上														
R 8	85%以上														
R 9	90%以上														

施策（62）の達成の目安となる指標

- ①「若年教員育成プログラム」で実施する各年次研修における「高知県教員育成指標」（教諭）に基づく自己評価票の達成状況の自己評価及び校長評価を、初任者研修では、自己評価を 3.0 以上、校長評価を 3.2 以上、2年・3年・7年経験者研修では、自己評価を 3.1 以上、校長評価を 3.3 以上とする。（4件法）
 <自己評価票 2月公表>

- R 9 年度末の指標の達成に向けた年度別の実績目標 ※以下の数値は初任、2年、3年、7年の順

R 4（基準値）	自己評価：3.0、3.1、3.1、3.1 校長評価：3.2、3.3、3.3、3.4
R 5	自己評価：3.0、3.1、3.1、3.1 以上 校長評価：3.2、3.3、3.3、3.3 以上
R 6	自己評価：3.0、3.1、3.1、3.1 以上 校長評価：3.2、3.3、3.3、3.3 以上
R 7	自己評価：3.0、3.1、3.1、3.1 以上 校長評価：3.2、3.3、3.3、3.3 以上
R 8	自己評価：3.0、3.1、3.1、3.1 以上 校長評価：3.2、3.3、3.3、3.3 以上
R 9	自己評価：3.0、3.1、3.1、3.1 以上 校長評価：3.2、3.3、3.3、3.3 以上、

- ②中堅教諭等資質向上研修における「高知県教員育成指標」（教諭）に基づく自己評価票の達成状況の自己評価を 3.1 以上、校長評価を 3.3 以上とする。（4件法）
 <自己評価票 2月公表>

- R 9 年度末の指標の達成に向けた年度別の実績目標

R 4（基準値）	自己評価：3.1、校長評価：3.2
R 5	自己評価：3.1 以上、校長評価：3.3 以上
R 6	自己評価：3.1 以上、校長評価：3.3 以上
R 7	自己評価：3.1 以上、校長評価：3.3 以上
R 8	自己評価：3.1 以上、校長評価：3.3 以上
R 9	自己評価：3.1 以上、校長評価：3.3 以上

- ③新任用校長研修における「高知県教員育成指標」に基づく自身の力量を測るアンケートの達成状況の自己評価を 3.2 以上とする。（4件法）
 <力量形成に係るアンケート 2月公表>

- R 9 年度末の指標の達成に向けた年度別の実績目標

R 4（基準値）	3.2
R 5	3.2 以上
R 6	3.2 以上
R 7	3.2 以上
R 8	3.2 以上
R 9	3.2 以上

施策（62）を実現するために実施する各取組・事業

No,149 採用候補者への啓発（採用前研修）（教育センター）

【概要】早期から教育公務員としての意識の醸成を図るとともに、授業づくりの基本を徹底するため、採用候補者への講座を実施するとともに、臨時的任用教員等を対象とした研修を実施する。

【KPI】採用前講座の受講者アンケートの肯定的評価を平均 3.8 以上とする。（4件法）

<基準値> R 4：3.8

<受講者アンケート>

【KPI】臨時的任用教員の受講者アンケートの肯定的評価を平均 3.8 以上とする。（4件法）

<基準値> R 5：3.8

<受講者アンケート>

No,150 若年教員育成プログラム（教育センター）

【概要】若年教員の実践的指導力及びマネジメント力を育成するために、初任者から7年経験者までの研修を「高知県教員育成指標」に基づき体系化した「若年教員育成プログラム」を実施する。

【KPI】「若年教員育成プログラム」で実施する各年次研修における「高知県教員育成指標」（教諭）に基づく自己評価票の達成状況の自己評価及び校長評価を、初任者研修では「学習指導力」の領域で、自己評価を3.0以上、校長評価を3.2以上、2年・3年経験者研修では「学習指導力」の領域、7年経験者研修では「チームマネジメント」の領域でそれぞれ、自己評価を3.1以上、校長評価を3.3以上とする。（4件法）

<基準値> R4 初任 2.9、3.1 2年 3.0、3.2 3年 3.0、3.2 7年 3.1、3.3（自己評価、校長評価）

<自己評価票>

No,151 中堅期以降の研修の充実（教育センター）

【概要】〔中堅期〕教育活動その他の学校運営において中核的な役割を果たせるように、より実践的・専門的な知識・技能を高めるとともに、ミドルリーダーとしての実践的指導力の向上とチームマネジメント力の確立を図る研修を実施する。

〔発展期〕高度な知識・技能を習得・活用したり、学校運営等の総括的・指導的な役割を果たしたりするために、これまでの教育実践を省察し、時代の変化にも対応できるよう探究心を持ちつつ自律的に学ぶ研修を実施する。

【KPI】中堅教諭等資質向上研修における「高知県教員育成指標」（教諭）に基づく自己評価票の「チームマネジメント力」と「セルフマネジメント力」の領域で、自己評価を3.1以上、校長評価を3.3以上とする。（4件法）

<基準値> R4 自己評価：3.0、校長評価：3.2

<自己評価票>

No,152 【新】次世代リーダー育成研修 高知「志」塾（教育センター）

【概要】広い識見や先見性、変革に挑む積極性を有し、本県教育を牽引する次世代のリーダーを育成する研修を実施する。

【KPI】次世代リーダー育成研修 高知「志」塾における評価票の自己評価を3.0以上、校長評価を3.1以上とする。（4件法）

<基準値> — ※R6より新設 KPI

<高知「志」塾評価票>

No,153 管理職等育成プログラム（教育センター）

【概要】管理職のマネジメント力に加え、アセスメント力、ファシリテーション力[※]を強化するため、主幹教諭から校長までを対象とする、学校組織マネジメントと人材育成を柱とした管理職育成プログラムを実施する。

【KPI】新任用教頭研修、任用2年次教頭研修における「高知県教員育成指標」に基づく自身の力量を測るアンケートの「マネジメント・ガバナンス」に係る項目で、自己評価を3.0以上、校長評価を3.1以上とする。（4件法）

<基準値>（参考）R4：自己評価3.0 校長評価 —※R6より新設 KPI<力量形成に係るアンケート>

【KPI】新任用校長研修における「高知県教員育成指標」に基づく自身の力量を測るアンケートの「マネジメント・ガバナンス」に係る項目で、自己評価の最終結果を年度当初より+0.3以上とする。（4件法）

<基準値> R4：+0.4

<力量形成に係るアンケート>

No,154 教員のICT活用指導力の向上

(教育センター、教育政策課、小中学校課、高等学校課、特別支援教育課)

【概要】ICTを活用した学習指導の充実を図るため、幅広い教員を対象とした指定研修の実施、情報教育の中核的な役割を担うリーダー教員の計画的養成、教員同士の学び合いや校内研修等の取組を推進する。

【KPI】「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」(文部科学省)の教員のICT活用指導力の状況、項目A～Dにおいて、肯定的回答をした公立学校の教員の割合を、全国平均+3%以上とする。

A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力 B 授業にICTを活用して指導する能力
C 児童生徒のICT活用を指導する能力 D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力

<基準値> R4 A: 89.4% (88.5%)、B79.0% (78.1%)、C: 80.3% (79.6%)、
D: 86.7% (86.9%) ※ () は全国平均

<学校における教育の情報化の実態等に関する調査>

No,155 教育事務職員研修の充実 (教育センター)

【概要】「高知県公立学校事務職員育成指標」に基づき、今後における人事交流の拡大も視野に入れ、若年期を中心に企画・計画力、課題把握・解決力及び調整力を高める研修を実施し、学校運営に積極的に参画できる事務職員の育成を図る。

【KPI】主査研修(小・中学校、県立学校)における受講者アンケート結果の評価平均を3.6以上とする。
(4件法)

<基準値> R4: 3.5

<受講者アンケート>

【KPI】県立学校においては、事務部以外の校務分掌を兼務し学校運営に参画している事務職員の割合を100%とする。また、県立学校教育事務職員研修における受講者アンケートにおいて、「学校運営に積極的に参画している」を80%以上とする。

<基準値> (参考) R5: 32.6% —※ R6より新設 KPI

<学校要覧> <受講者アンケート>

No,156 学校の力を高める中核人材育成事業 (教育政策課)

【概要】学校の力をもう一段高めるため、教職大学院や国が実施する中央研修等に現職教員を計画的に派遣することにより、本県の教育課題の解決に向けた取組を先導できる中核教員の育成を図る。

【KPI】県の派遣教員及び所属長に対する調査において「派遣先で研究したことや派遣先での学びが業務にいかされている」を100%とする。

<基準値> R5: 91.7%

【KPI】「派遣修了者が現在の所属における中核的役割を担うことができている」を100%とする。

<基準値> R5: 100%

<大学院派遣研修の成果活用等に関する調査>

施策名称	IV-政策2	施策 No,	(63)
	学校におけるワークライフバランスを確保した働き方改革の推進	担当課	教職員・福利課 教育政策課・小中学校課 高等学校課・特別支援教育課・ 保健体育課・教育センター
概要	学校組織のマネジメント力の向上と教職員の意識改革の推進、業務の効率化・削減、専門スタッフ・外部人材の活用などを行うとともに、若年教職員へのサポート体制を充実させながら、学校におけるワークライフバランスを確保した働き方改革を推進する。		

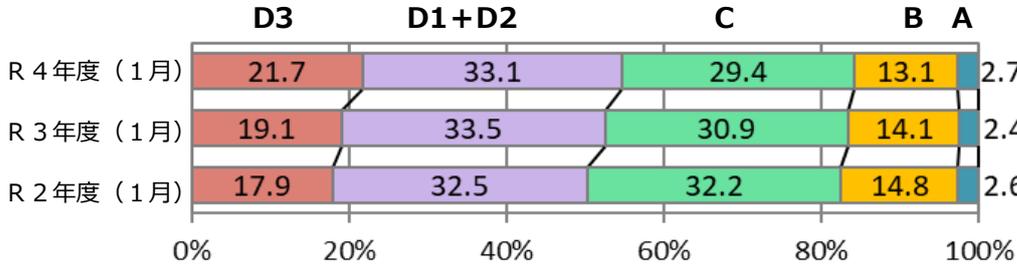
測定指標



高校2年生の1月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を10%以下とする

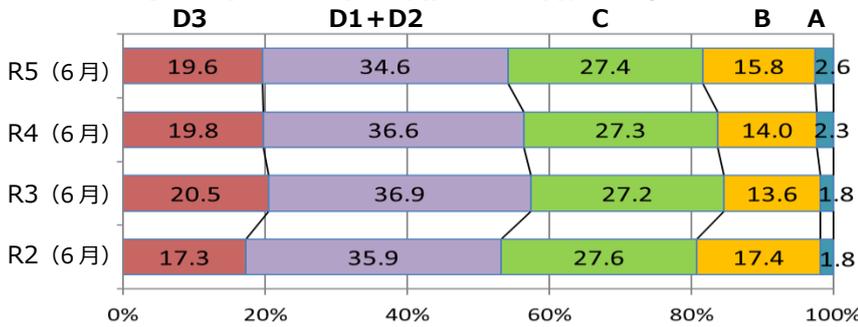
■ 学力定着把握検査 I の結果 ※数値は学力定着把握検査 I (29校) の結果 (その他6校 (R4年度)、7校 (R2~R3年度) では別検査を実施)

◇ 2年生1月 (2回目) の3教科総合の結果



R5年度 (2年生1月) の結果は、R6.3月上旬公表予定

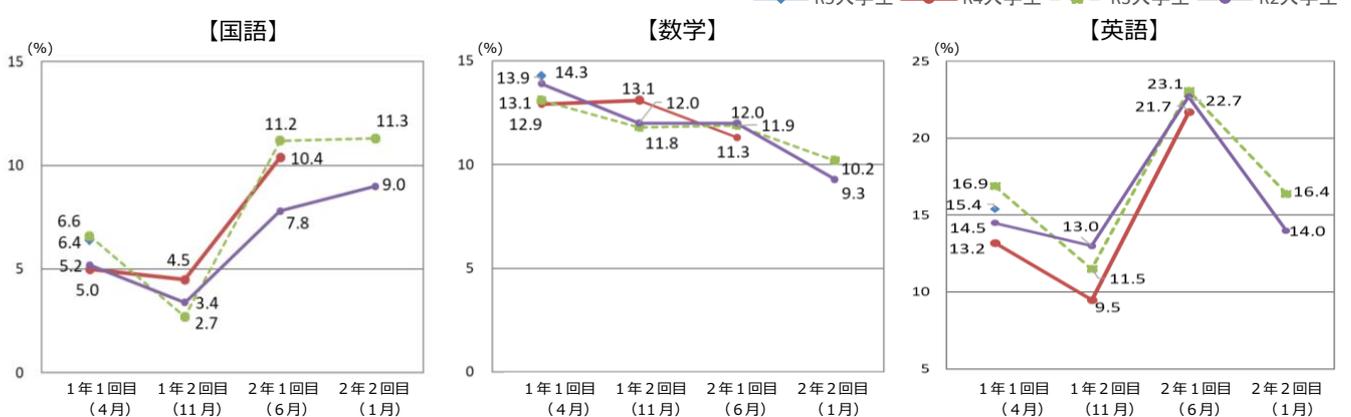
◆ 参考 < 2年生6月 (1回目) の3教科総合の結果 >



学力定着把握検査 I の評価尺度

学習到達ゾーン	進路選択肢	
	進学	就職
A	国立大合格レベル	上場企業などの大手の就職筆記試験や公務員試験に対応できるレベル
B	公立大学等合格レベル	就職筆記試験における平均的評価レベル
C	私大・短大・専門学校等の一般入試に対応可能なレベル	就職試験に必要な最低限のラインはクリアしているが、仕事をするうえで支障が出ることが多い (D1・D2)
D	上級学校に進学することはできるが、授業についていけず、苦勞する学生が多い	筆記試験が課される企業では不合格になることが多い (D3)

◇ 教科別にみた D3 層の占める割合の推移



県高等学校課調査 (国の「高校生のための学びの基礎診断」の認定を受けた測定ツールを活用)

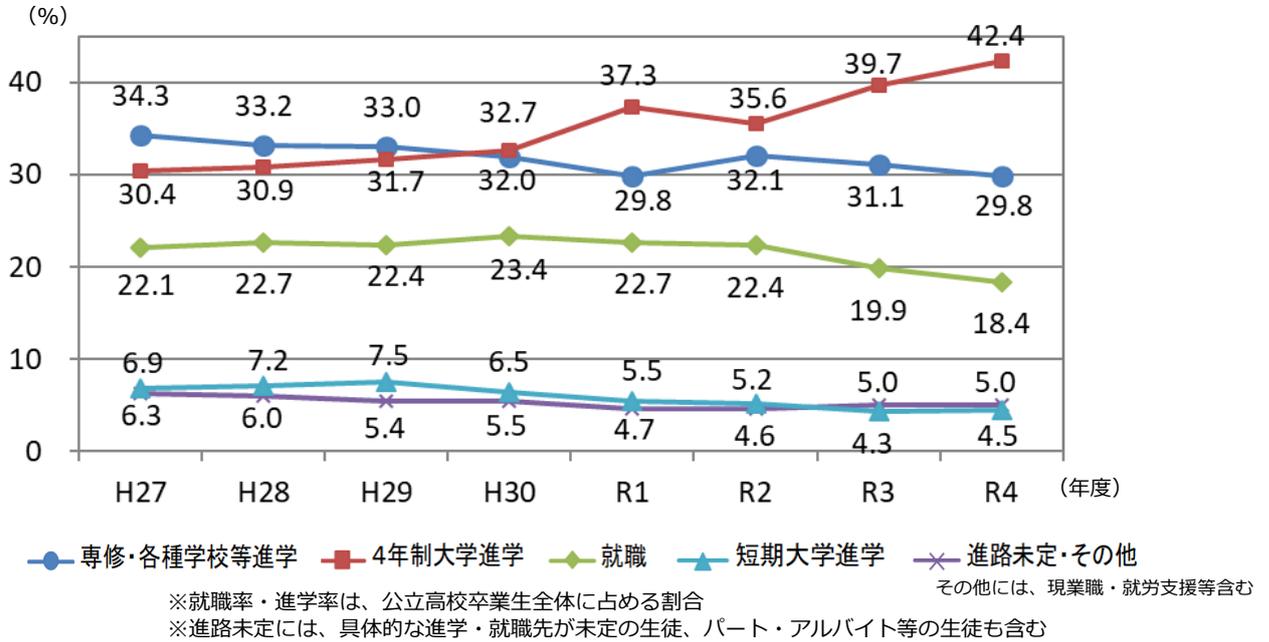
- 令和4年度2年生1月 (2回目) の検査結果で、D3層が21.7%となったことを踏まえ、学校支援チームが学校を訪問し、各教科における課題を周知するとともに、1年生から2年生への進級時期における既習内容の定着に向けた取組の徹底を図りました。
- 令和5年度2年生6月 (1回目) の検査結果では、D3層が19.6%となり、前年度と比較するとほぼ横ばいですが、D層全体としては、昨年度の56.4%から54.2%となり減少がみられます。また、成績上位層であるA・B層も、前年度より増加しています。
- 令和4年度入学生について、D3層の占める割合の推移を教科別にみると、1年生2回目 (11月) から2年生1回目 (6月) にかけての国語、英語は例年同様に増加し、数学では減少しています。特に、令和3年度入学生は、国語、英語において問題の変更があったことからD3層の増加が顕著であったと考えられますが、令和4年度入学生については、2年生1回目においてやや改善され、A・B層も増加しています。
- 各教科とも新学習指導要領の考え方に沿った実用問題、思考・判断・表現型問題への対応が課題であると考えられるため、新学習指導要領で求められる「思考力・判断力・表現力等」の資質・能力を育むために、ICTを効果的に活用した主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が一層進められるよう、学校支援チームによる学校訪問を充実させるとともに、管理職の学校経営力の強化に向けた支援の強化を図っていきます。

測定指標

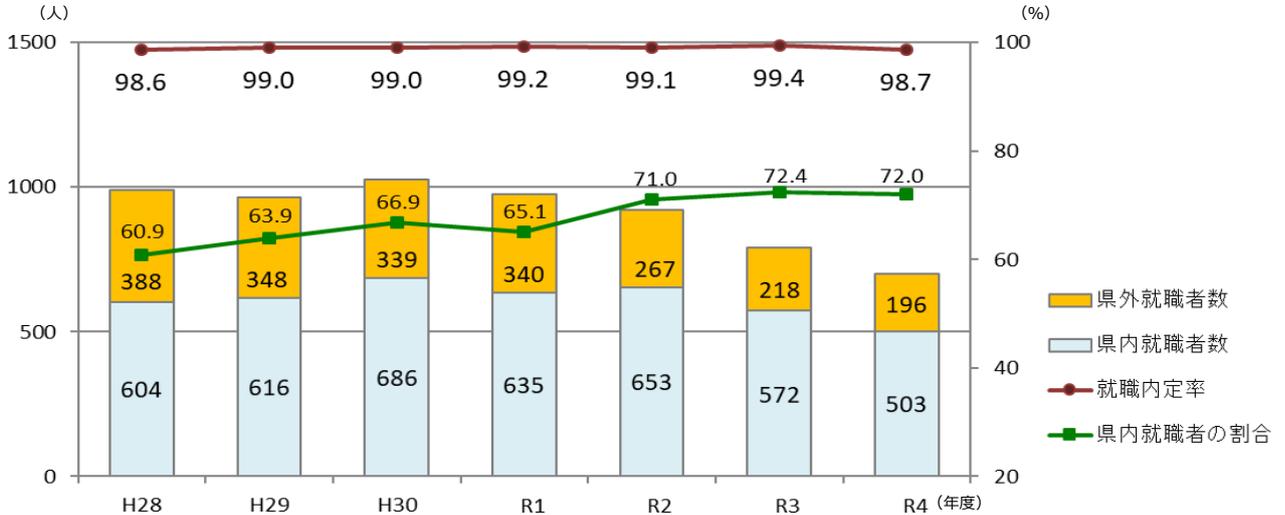


高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下とする

■ 公立高等学校卒業者（全日・定時・通信制）の進路状況（県高等学校課調査）



■ 公立高等学校卒業者（全日・定時制）の就職の状況（県高等学校課調査）



- 公立高等学校卒業者の進路の状況については、就職未内定等、進路未定で卒業する生徒の割合は減少傾向にあります。令和4年度は4.2%（その他：現業職・就労支援等0.8%除く）で、引き続き早い段階から、進路実現のための取組を強化しています。
- 4年制大学の進学者の割合は、着実に増加しており、令和4年度は42.4%となりました。学校における進学に向けた情報提供の強化と生徒の情報収集能力を高める取組を進めているとともに、生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実を図っています。
- 就職内定率が着実に改善してきたことにあわせ、県内就職者の割合は引き続き増加傾向にあり、令和4年度は72.0%となっています。生徒が地場産業や企業についての理解を深め、地場産業のニーズにも対応できる知識や技術を習得できるよう取組を進めています。

②授業改善サイクルの確立・授業と授業外学習を切れ目なくつなぐシームレス化

「高等学校課」
令和6年度当初予算額 105,445千円

現状・課題

- 県立高校の生徒のなかには、義務教育段階の学習内容が十分に定着していない生徒が一定数いる。
※ 2年1月 D3層の割合 R4:21.7% R3:19.1% R2:17.9%
- 学習習慣が未定着で、授業外ではほとんど学習しない生徒がいる。
※ 2年1月 授業外で学習をほとんどしない生徒の割合 R4:45.0%
- 「令和の日本型学校教育」の構築に向け、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが求められている。

要因

- 義務教育段階の学習内容が身につけていないのは、学習習慣が定着していないことが要因の一つに挙げられるのではないかと。そして、その背景には、
- 学習の必要性に迫られていない（希薄な目的意識、教員側の仕掛け不足）
 - 学習以外の時間に充てている（部活動やアルバイトを優先、スマホ等）
 - 学習の仕方が分からない
 - 家庭での学習環境が整っていないなどが挙げられる。

期待される効果

- 授業と授業外学習のシームレス化を実現することで…
- ★ 自立（自律）した学習者を育成することができる
学ぶことの意義を実感できる。学習の自己調整を図ることができる。
 - ★ 協働的な学びを推進することで、思考力・判断力・表現力等を育成することができる

対策のPoint

- ★ 生徒を学習に向かわせる環境づくり
授業と関連のある課題を、授業外で効果的に取りこませる。
独学が困難な生徒や学習環境が整わない生徒に学習支援員を充てる。
☞ 授業と授業外のつなぎ目のない「シームレス化」を目指す
- ★ 思考力・判断力・表現力等を育てる授業づくり

学力向上推進事業

- 「学びの基礎診断」を活用して生徒の学力定着度を把握
 - C層以上の割合を増加させるためにも、思考力・判断力・表現力等の育成に向けた授業改善サイクルを確立
- ➔ 学校支援チームの学校訪問では、生徒が主体的に活動する場面で授業で創出するよう重点化

支援

シームレス化が実現した授業モデル

- 例えば進学重点校では…
 - ・ 授業外で知識を教授する動画を視聴する
 - ・ 授業であらかじめ得た知識を活用した協働的な学びによる問題解決型授業



- 例えば多様な進路希望を持つ生徒が在籍する学校では…
 - ・ 基礎学力向上のための放課後補習などでの課題配信
 - ・ 独学が困難な生徒への個別支援

授業と関連のある課題を配信し、学習支援員が進捗を支援する。



- 課題の配信や進捗の管理において、デジタルツールは親和性が高い
- スタディ・ログを活用して、生徒が自己の学習状況を把握するとともに、教員は生徒の学習状況を把握する

「指導と評価の一体化」の促進

- 研究指定校（3校）での「指導と評価の一体化研究」の推進とその普及
- 研究指定校は予習を前提とした授業（反転学習など）の授業実践等についてのモデル校として取り組む

研究

学習支援員事業

- 放課後等の補習や授業でのチームティーチングなどに学習支援員を配置し、個別最適な学びと協働的な学びを支援

支援

デジタル技術を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- デジタルドリルを全ての学びの基礎診断（基本タイプ）受検校に導入して、授業・授業外で活用
- 基礎学力の向上を目的としたデジタルドリルを、シームレス化を実現するためのツールとして活用

導入

スタディ・ログ活用

- ★ 自身の学習状況を振り返って把握
- ★ 教員による生徒の学習状況の把握



分校等の学びについて

○教育活動の現状等について

※ 分校等とは、中芸高校、吾北分校、西土佐分校の1学年20人を下回っている学校。

	メリット	デメリット
学習面 生活面	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりにきめ細かな指導が行いやすい。 面接指導等の個別対応がしやすい。 授業等で、一人ひとりの発表・発言の機会が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 選択科目が少なく、学習したい科目を受けられないことがある。 10人を大きく下回ると、グループ活動等の多様な学習形態が行いにくくなる。また、多様な価値観に触れる機会が限定される。 人間関係等が固定化しやすい。
学校運営等 ・学校行事 ・部活動	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や部活動等では、生徒一人ひとりの役割を明確に設定しやすい。また、地域や中学校と一緒に活動ができる。 地域との連携が図りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事で、集団活動に制約が生じやすい。また、一人が担う役割が多くなる。 部活動の種類が少なく、団体競技等が行いにくい。

・生徒の進路を実現するために、大学受験等に必要な科目の授業を受けることができる遠隔教育を導入。また、放課後に大学進学対策の補習授業等を受講することもできる。

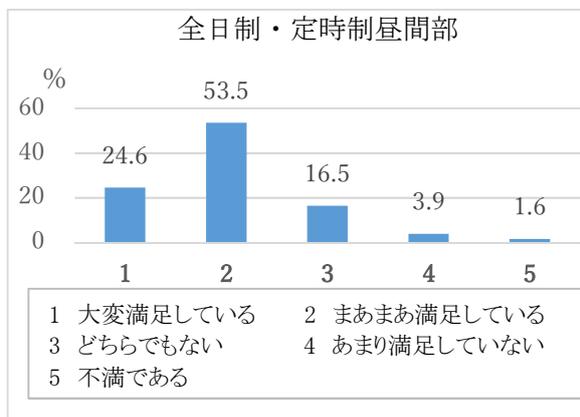
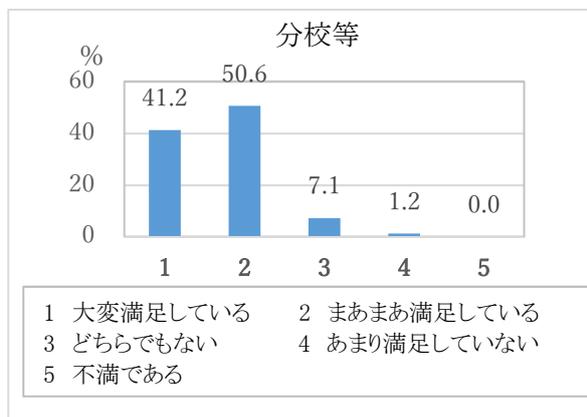
○社会性の育成について

地域との連携や、近隣の中学校との合同の学校行事等により、社会性を育んでいる。

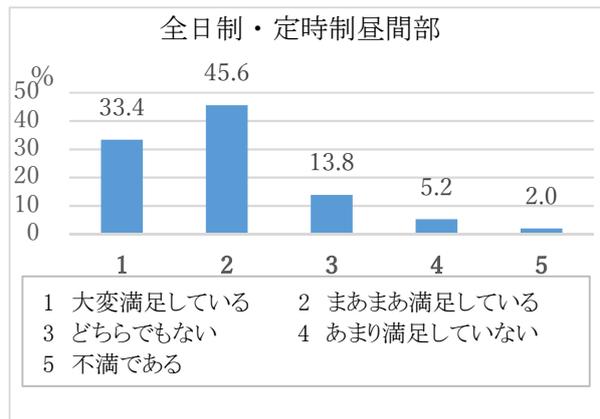
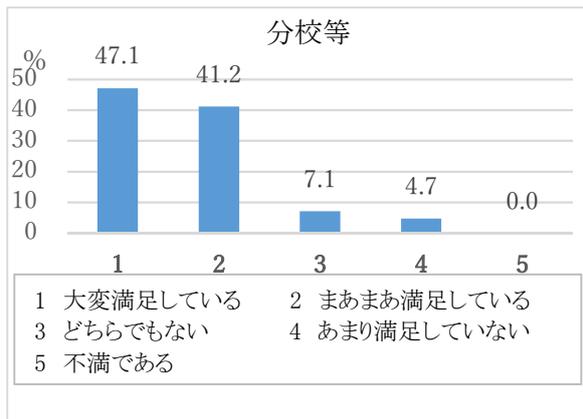
<p>中芸高校：総合的な学習・探究の時間の中高合同発表会、ピア・サポートホーム（1，2年混在のホーム）等</p> <p>吾北分校：地域学習（清流太鼓や土佐和紙）、中高合同田植え・稲刈り、小中高合同運動祭等</p> <p>西土佐分校：地域学習（川漁師体験等）、小中高合同農業体験（米ナスの栽培・加工）、清掃活動、地域ボランティアによる福祉施設訪問等</p>

○県立高等学校の在り方についてのアンケート結果（生徒の満足度の比較）

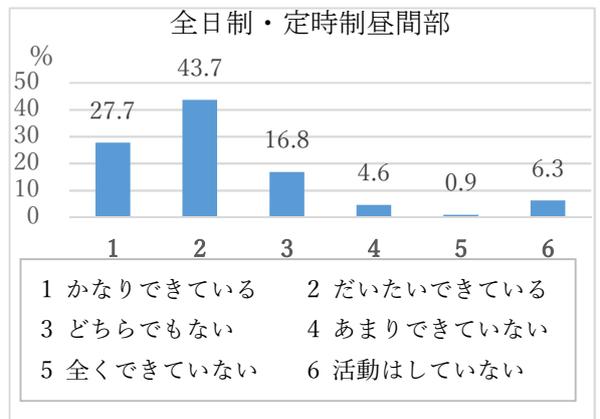
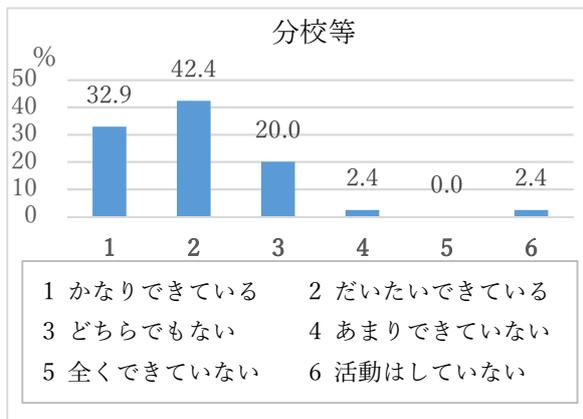
設問 8-1 授業や学習へのサポート体制には満足していますか。



設問 8-2 学校行事には満足していますか。



設問 8-3 授業や学校行事以外の活動（部活動や生徒会活動など）では、やりたいことができていますか。



高知県の併設型中高一貫教育校、連携型中高一貫教育校について

○併設型中高一貫教育校（5月1日現在の1年生の生徒数、（）内は入学定員）

地域	高等学校	併設中学校	H26	R1	R5
東部	安芸	県立安芸中	55(70)	59(60)	36(60)
中部	高知国際	県立高知国際中 [※]		60(60)	81(80)
西部	中村	県立中村中	70(70)	64(70)	43(60)

※夜間学級を除く。県立高知国際中学校はH30に開校。

- ・6年間同じ環境の中で、学校生活を送ることができる。
- ・中高合同での学校行事や部活動を行うことができる。
- ・大学進学等に向けた計画的な教育活動を行うことができる。
- ・中学生が高校生の姿を間近に見られる環境にあるため、自分の将来像を描くことができる。

○連携型中高一貫教育校（R5年度）

地域	高等学校	連携中学校	連携中学校からの進学率(%)
北部	嶺北	嶺北中、土佐町中	53.1
高吾	四万十	大正中、十川中	52.0
	禰原	禰原中、東津野中	52.4
幡多	清水	清水中	30.9

- ・中高教員の交流授業を行うことで、校種の垣根を越えて情報交換や学習状況の把握ができる。
- ・中高合同で部活動を行うことができる。
- ・総合的な探究の時間の発表会を中高合同で行うことで、お互いに刺激を受けることができる。
- ・学校によっては、学校行事や生徒会活動の一部を中高合同で行っている。

令和5年度高知県産業教育審議会の報告

令和6年2月9日開催

○県立高等学校の在り方に関するご意見等

県立高等学校 全体	<p>子供の数が毎年400人ずつくらい減っている。再編を考えるのであれば、今までのような計画では間に合わないのではないか。ICTに特化したような大胆な再編案を入れないと高知県の教育の質を維持できないのではないか。</p>
	<p>グローバル化ということを日本人に英語を教える発想だけでなく、いろんな国の人がいるなかで活用することを前提にグローバル化を進める必要がある。</p>
	<p>4年制大学へ進学する割合が4割というのは低い。県全体でもっと4年制大学への進学者数を増加させていかないと、基礎学力や今後の社会を担う能力を養うには不十分である。</p>
	<p>全国に県立大学付属高校は4校あり、県全体の大学進学率を上げるために設置されている。そこから一定数県立大学に進学できるようにすれば、県外に流出することを防ぎながら、県内事業所に就職できる仕組みを作っていくのではないかと。</p>
産業系全体	<p>外国人労働者数が前年度と比べて700人以上増えている。卒業してから外国出身者と働く機会が今後増えていく。グローバル化への対応として、文化面やコミュニケーションなどへの理解も含め、外国出身者と一緒に働く上で必要な要素を含めた教育活動も取り入れてほしい。</p>
	<p>産業教育の質や内容を考えるうえで、県や学校が専門学校や大学なども含めて、どれくらいのレベルのものを求めているかが表に出てきていないように思う。そういった部分が魅力化になってくるのではないかと。</p>
	<p>徳島県のある産業系専門高校では、県教委がかなり手を入れて、進学に特化した教育課程を作り、進学率が伸びている。上級学校に進み高いレベルの技術を学ぶ人材等を育成できるような教育課程を作っていくべき。</p>
	<p>少子化の中でも埋もれてしまう子どもたちがいる。なかには、能力は高いが特性を持っているため、生きづらさを感じる子どもたちがいる。そういった子どもたちにも、産業系を知る機会があれば、活躍できるようになるのではないかと。</p>
	<p>頭がいいではなく発想力を持つ。自由な発想ができること。思考を立体的に考えることが大事。技術は会社で教えるので、そのような人材を育ててほしい。</p>
農業	<p>農業を職業として選んでもらうことが難しい。保育園、小学校の小さい時期から体験学習をしていかないといけない。1次産業は体験しながら意識を高めていくことを目指していかないと、人材不足を解決できない。</p>
工業	<p>高知工業高校では、高度な職業人になるために、もっと大学に進学するようにして、大学と提携する仕組みを作っていくといいと思う。</p>
	<p>技術職の人で地場からの採用は普通科からがほとんどで、働きながら技術力を身につけている。高知で就職したいという生徒がいるので、地場の工業高校とかから採用できたらいいと思う。</p>
看護・福祉	<p>看護・介護を担う人材が不足している。職業を選択してもらうために、保育園、幼稚園と保護者対象にいろいろ取り組みをしているが、厳しい状況にある。県内の看護系専門学校には、東南アジアの方などからレベルの高い方々が来られて学ばれている。</p>

通信制高等学校について

○通信制課程での単位取得について

通信制課程で単位を取得するためには、スクーリングで一定回数の出席をすること、レポートを提出すること、試験で合格点を取る必要がある。全日制や定時制のように1単位あたり年間35時間の授業を受ける必要はなく、教科・科目によって定められた回数の授業（スクーリング）を受ければよい。レポートについても教科・科目によって定められた回数の課題を提出する。

スクーリング (面接指導)	登校して一定の回数の授業を受ける必要がある。 例：国語（1単位）・・・1単位時間 英語（1単位）・・・4単位時間
レポート (添削指導)	レポートを提出し、合格するまで指導を受ける。 例：数学（1単位）・・・3回 体育（1単位）・・・1回
メディア学習	視聴覚教材を使用し、報告書を提出することで、スクーリングの回数が減免される（減免できる回数には上限がある）。
試験	試験に合格すると、単位が認められる。 試験は本校や分校、技能連携校等で行われる。

※ スクーリングやレポートの方法は学校によって異なる。

○学校による特色について

高知北、大方高等学校	太平洋学園高等学校	広域通信制高等学校
<ul style="list-style-type: none"> ・体育館などの施設が充実している。 ・週1回は登校するので、生徒や教職員と対面しての交流ができる。 ・高知北高校では、定時制課程の生徒と一緒に学べる共通講座や、一般の方も学べる特別講座がある。 ・学費等[※]は、25単位約5,000～14,000円 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学科（普通系列、情報系列、家庭福祉系列）なので、専門科目も学ぶことができる。 ・科目によって、Web会議システムの活用や動画配信などを実施している。 ・週1回は登校するので、生徒や教職員と対面して交流ができる。 ・専属のスクールカウンセラーや公認心理師を取得している教員配置など、教育相談体制が充実している。 ・学費等は、25単位約190,000円 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットで学習するコースや通学できるコース、プログラミングなど専門的なことが学べるコース等がある。 ・集中スクーリングにより、毎週登校する必要がない。 ・インターネットを利用して、授業の質問をすることができる。また、全国や海外の生徒と交流できる。 ・随時、転入学を受け付けている。 ・学費等は、25単位約130,000～1,500,000円 学校・コースによって異なる。

※ 学費等には、授業料（受講費）、施設使用料等、年間や月額でかかる費用を含む。入学料や教科書代など初年度に係る費用や、履修する科目によってかかる費用、スクーリングにかかる費用等は含まない。選択するコースにより、学費が異なる。

就学支援金は公立336円/単位、私立4,812円/単位が支給されたものとして学費等を算出している。また、世帯収入により就学支援金以外の援助を受けられる場合がある。

太平洋学園高等学校訪問報告書

1 学校の概要・取組

定時制課程と通信制課程を併設した総合学科の高等学校である。定時制は昼間の時間帯を分けた2部制（Ⅰ部 9:00～、Ⅱ部 10:50～）をとっており、普通系列、情報系列、家庭福祉系列、軽音系列、美容系列（Ⅰ部のみ）の系列から選択できる。通信制のスクーリングは水曜昼間と夜間、土曜（昼間）の3つから選べ、普通系列、情報系列、家庭福祉系列の3系列がある。

教室や職員室などは廊下から中が見えるようになっており、遅れてきた生徒が教室に入りやすいようになっている。別室も複数用意されており、登校してきたけれども教室に入れない生徒に対応している。さらに、別室でもオンラインで授業参加ができるような工夫・研究に努めている。

前期（4～9月）後期（10月～3月）制をとっており、半期で単位が取得できるようになっている。秋に卒業する生徒もいるが、進学先や就職先の関係で春まで卒業を伸ばす生徒が多い。近年、入学者数が増えるとともに、中途退学者が減っている関係で、定時制の秋入学の受け入れが難しくなっている。

不登校経験者が多いため、生徒一人一人に応じたカリキュラムを考えたり、個別に相談したりしやすい体制を整えている。また、県立高等学校ではスクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)は他校と兼務をしているが、太平洋学園高等学校では1校専属の勤務になっている。そうすることで、お互いに連携がとりやすくなっている。

上記のように、不登校経験や経済的に厳しい家庭環境にある生徒に対し教育活動を行うことで、学びやすい環境を整え、卒業して社会参画ができることを目標にしている。

・在籍生徒数（5月1日現在）

	1年生入学定員	R1	R2	R3	R4	R5
定時制（定通併修を含む）	90	223	217	244	258	267
通信制	100	147	175	191	220	233

2 課程の状況

定時制

学年（クラス）毎に授業を組むのではなく、本来あるべき単位制として原級留置のない制度にしている。モデルの時間割はあるが、生徒一人ひとりにあった時間割を組んでいる。

昼間の2部制をとっており、生徒が登校できる部を選んでいる。半期ごとにⅡ部からⅠ部に変えることもできる。（例えば、昼夜逆転していた生徒が、1年生で徐々に朝起きることに慣れてきたら、2年生からⅠ部に変えることができる。）

併置課程である通信制の科目を併修することで、3年で卒業できるカリキュラムとしている。また、単位を取得できなかったとしても、通信制で再履修することができる。

通信制

レポートは手書きが基本で、指定のボックスに提出する。しかし、書くことが苦手な生徒や、レポート用紙等を人に触られることが嫌な生徒がいるので、提出方法は様々である。レポートの提出をICT化することについては現在研究中である。

スクーリング以外の学習指導については、スクーリング日以外にレポートの指導日を設けたり、教員によっては動画配信やWeb会議システムを使った個別指導を行っている。

県立高等学校の在り方についてのアンケート結果報告書（概要版）

1 調査の目的

本県では平成 26 年度に「県立高等学校再編振興計画」を策定し、計画に沿った取組を
実行してきた。令和 5 年度以降の次期計画策定に向けて、今後の県立高等学校の在るべき
姿を検討する材料とするために実施した。

2 調査の概要

実施時期：令和 5 年 7 月

調査対象：市町村（学校組合）立及び県立中学校生徒と中学 3 年生の保護者、校長
県立高等学校生徒（全課程）と全日制及び定時制昼間部の 1・2 年生の保護者、
校長

比較分析：設問毎の比較

平成 23 年に実施したアンケート調査との比較

中山間地域の学校とその他の地域の学校との比較

3 調査結果の概要

中学生と高校生（全課程）、保護者の設問に対する回答は以下の通りである。

〔問 1 高校までの通学時間（片道）はどれくらいまでなら可能であると考えていますか。〕

定時制の高校生の半数以上は「30 分未満」を選択し、その他の回答者は「30 分～
1 時間未満」とした割合がそれぞれ 40%以上と高い。中山間の高校生とその保護者
においては「30 分未満」が半数以上を占める。

〔問 2 高校を選ぶとき、参考にしている（したい）（した）ものは何ですか。〕

全体的に「体験入学」とした割合が約 15%以上と高いが、「高校の公式ホームペー
ジ」とした割合は 5%未満と低い。中学生と高校生の保護者で「子どもの意見」とした
割合は、それぞれ 35%以上である。

〔問 3 高校を選ぶとき、重視した（する）ことは何ですか。〕

定時制、通信制の高校生は「少人数での教育」とした割合がそれぞれ 22.0%、23.0%
と高く、その他の回答者は「学科やコースの内容」、「進学や就職の実績」とした割合
がそれぞれ約 20%以上と高い。また、中山間の高校生の保護者は「市町村などからの
進学支援」とした割合が、中山間以外では 0.1%であるのに対し 8.5%と高い。

〔問 4 高校入試のときに、学力検査以外で、どのようなことを評価してほしい（される
とよい）と思いますか。〕

高校生とその保護者は「高校入学後に取り組みたいこと」とした割合がそれぞれ
15%以上と高い。中学生とその保護者は「中学校の部活動で取り組んだこと」とした
割合が 10%以上であり、他と比べて高い

〔問 5 授業や学習へのサポート体制や学校行事には満足していますか。また、授業や学校行事以外の活動(部活動や生徒会活動など)では、やりたいことができますか。(高校生のみ)〕

高校生の70%以上が「満足している」、「できている」とした。

〔問 6 高校で身に付けたい(身に付けてもらいたい)力は何ですか。〕

全てにおいて「基礎的・基本的な知識や技能」とした割合が一番高い。高校生とその保護者で「進学に必要な学力」とした割合は、中山間でそれぞれ16.3%、8.2%であるのに対し、中山間以外ではそれぞれ21.6%、13.5%と高い。

〔問 7 高校で特に何を学びたいですか(現在、学んでいる授業以外にどんなことが学習できればよいと思いますか)。〕

通信制の高校生は「アート・デザイン系」とした割合が14.2%で最も高く、その他の回答者は「体育・スポーツ系」とした割合が10%以上と高い。

〔問 8 高校卒業後の進路をどのように考えていますか。〕

全日制の高校生は「大学」進学希望者の割合が48.8%と一番高く、定時制の高校生は「就職」希望者の割合が28.8%と一番高い。また、中学生、通信制の高校生は「未定」とした割合がそれぞれ38.3%、33.3%と高い。中山間以外の高校生は「大学」進学希望とした割合が、中山間では34.1%であるのに対し49.6%と高い。

〔問 9 あなたは将来どこで働くことを希望していますか。〕

定時制の高校生は「県外」が20.6%、「県内」が32.4%と「県内」の割合が高いが、その他の回答者はそれぞれ「県内」よりも「県外」の割合が高い。また、全体的に「地元」や「海外」への就職希望者は少ない。

〔問 10 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。〕

全日制の高校生は「医療・福祉」とした割合が最も高く16.0%である。その他の回答者は「アート・表現」とした割合が約15%と高い。全体的に「科学技術・ものづくり」とした割合も約10%と高い。

〔問 11 どのくらいの大きさの学校(規模の学校)で学びたいですか(学んでほしいと思っていますか)。(県立の高校の)1学年当たりの学級数(人数)を選んでください。(中学生と中学生の保護者のみ)〕

全体的に「2～3学級(41～120人)」、「4～5学級(121～200人)」の割合がそれぞれ30%を超えている。中学校3年生で「1学級(40人以下)」とした割合が、平成23年実施のアンケートでは8.0%に対して、令和5年実施のアンケートでは19.8%となっており、大幅に増加している。

県立高等学校の在り方についてのアンケート結果
報 告 書

令和6年2月20日

高等学校課・高等学校振興課

目 次

1	はじめに	1
2	調査の概要	1
3	アンケート回答状況	1
4	アンケート集計結果	2
	（1）市町村（学校組合）立中学校 生徒	
	（2）市町村（学校組合）立中学校 保護者	
	（3）県立中学校 生徒	
	（4）県立中学校 保護者	
	（5）高等学校 全課程 生徒	
	（6）高等学校 全日制 生徒	
	（7）高等学校 定時制 昼間部 生徒	
	（8）高等学校 定時制 夜間部 生徒	
	（9）高等学校 通信制 生徒	
	（10）高等学校 全日制 保護者	
	（11）県市町村（学校組合）立中学校の校長及び県立中学校・高等学校の校長	
5	設問毎の比較	44
6	高等学校再編振興に係るアンケート調査（平成23年実施）との比較	53
7	その他の分析	56
8	資料〈アンケート書式〉	61

県立高等学校の在り方についてのアンケート調査 結果

高知県教育委員会事務局
高等学校課（高校入試に関する設問）
高等学校振興課（その他の設問）

1. はじめに

本県では平成26年度から令和5年度までの10年間を見通した「県立高等学校再編振興計画」を策定し、平成26年度から平成30年度までを「前期実施計画」、平成31年度から令和5年度までを「後期実施計画」として、計画に沿った取組を実行してきた。しかし、令和5年度以降も生徒の減少が続くほか、デジタル技術の進展など高等学校を取り巻く環境の急激な変化への対応が必要であることから、次期計画の策定に向け取り組むこととした。

今回の調査は、市町村（学校組合）立及び県立中学校1～3年生と中学校3年生の保護者、県立高等学校の全課程の生徒と全日制1・2年生の保護者、市町村（学校組合）立中学校の校長及び県立中学校・高等学校の校長から県立高等学校に求めるものや高校生活の中で身に付けたい（身に付けてもらいたい）力、また、高校入試についての思い等を把握し、今後の県立高等学校の在るべき姿を検討する材料とするために実施した。

2. 調査の概要

(1) 実施時期

令和5年7月

(2) 調査対象

- ① 県内の市町村（学校組合）立中学校生徒（1～3年生）と中学校3年生の保護者
- ② 県内の県立中学校生徒（1～3年生）と中学校3年生の保護者
- ③ 県内の県立高等学校生徒（全課程）と高校生（全日制の1・2年生）の保護者
- ④ 県内の市町村（学校組合）立中学校の校長及び県立中学校・高等学校の校長

(3) 調査方法

中学生、高校生及び校長はGoogleフォームを用いて回答
保護者はGoogleフォームまたはアンケート用紙にて回答

3. アンケート回答状況

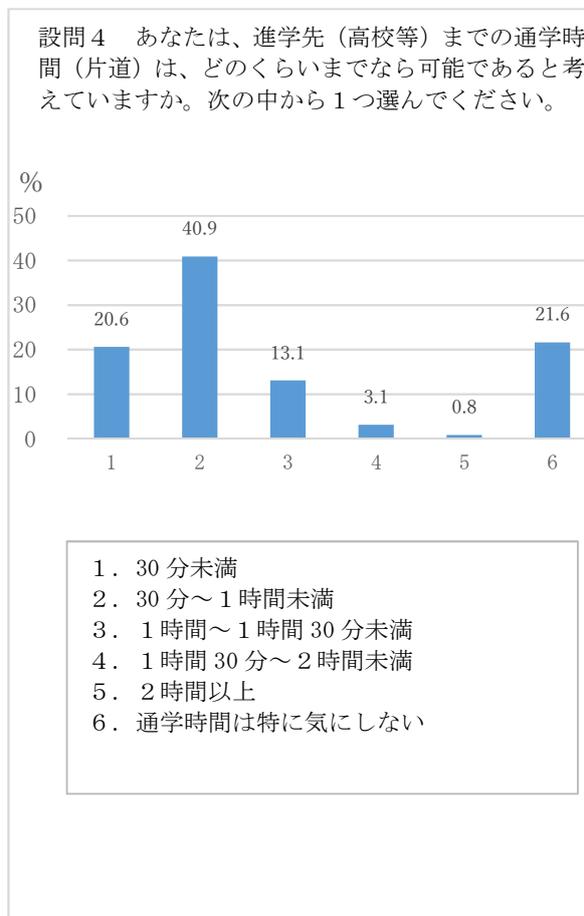
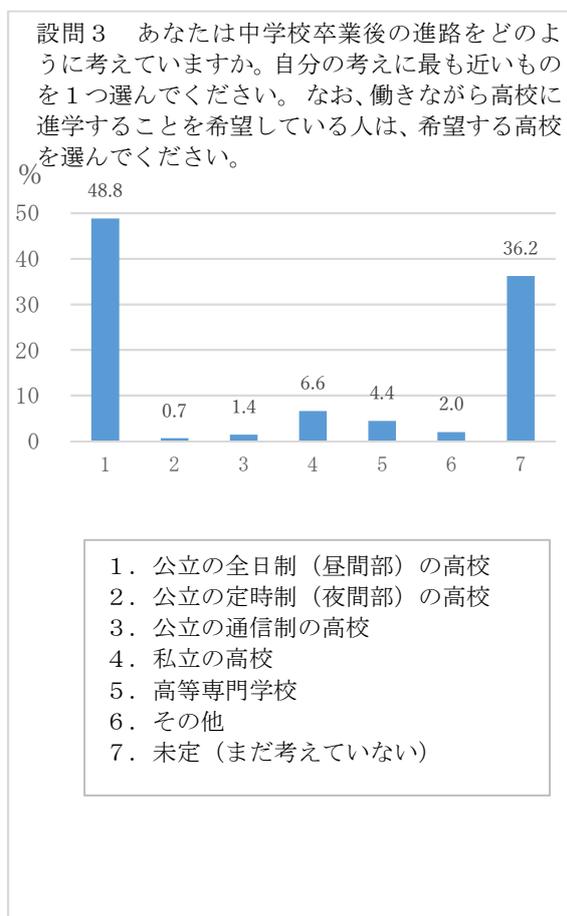
校種	対象	対象者数(人)	回答数(人)	回答率(%)	
県立・市町村立 中学校・義務教育学校	校長 全員	96	84	87.5	
	生徒	全学年	13,026	10,384	79.7
		1年生	4,219	3,339	79.1
		2年生	4,232	3,387	80.0
		3年生	4,575	3,658	80.0
	保護者 3年のみ	4,483	1,238	27.6	

県立 高等学校	校長	全員	31	31	100.0
	生徒	全学年(全・定・通)	10,877	8,240	75.8
		1年生	3,502	2,754	78.6
		2年生	3,533	2,848	80.6
		3年生	3,381	2,576	76.2
		4年生	73	33	45.2
		通信制課程	388	29	7.5
	保護者	全日制・昼間部の1・2年	6,616	2,126	32.1

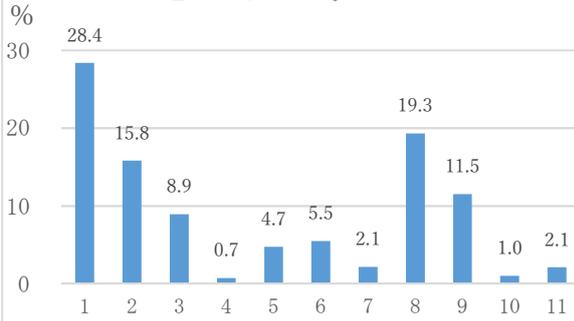
4. アンケート集計結果

(1) 市町村（学校組合）立中学校 生徒

設問1は学校名、設問2は学年を選択のため省略。

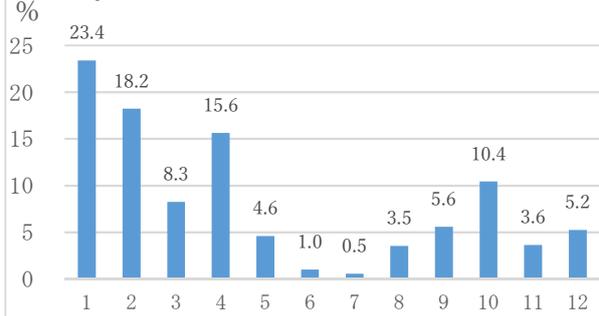


設問5 あなたが進学する高校等を選ぶとき、参考にしている（したい）ものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。



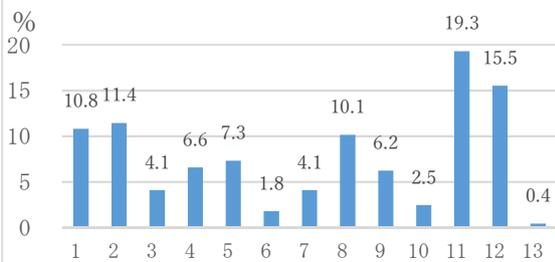
1. 高校の体験入学
2. 高校の先生による学校説明会
3. 高校の学校案内（パンフレットなど）
4. 「こうちハイスクールガイド」
5. 高校の公式ホームページや公式SNS
6. 中学校の先生による説明
7. 塾の先生の説明
8. 家族の意見
9. 友達や先輩の意見
10. 新聞やテレビの情報
11. その他

設問6 あなたが進学する高校等を選ぶとき、重視することは何ですか。次の中から2つまで選んでください。



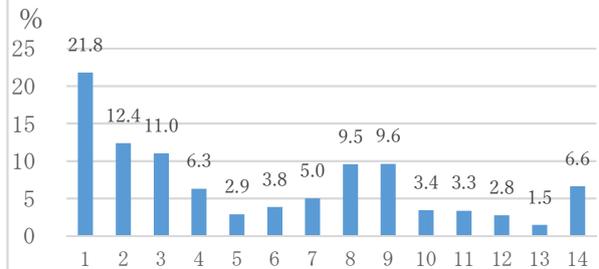
1. 学科やコースの内容
2. 進学や就職の実績
3. 学校行事の状況
4. 部活動の状況
5. 高校の伝統や印象
6. 少人数での教育
7. 高校と地域との連携
8. 学校周辺の環境
9. 施設や設備の充実
10. 通学のしやすさ
11. 資格取得への対応状況
12. 制服

設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、どのようなことを評価してほしいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。



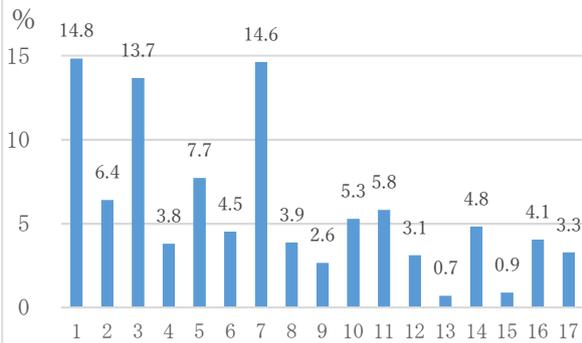
1. その高校や学科・コースに進学したい理由
2. 高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと
3. 進みたい学科・コースに関する知識や技術
4. 高校進学に向けて取り組んだことやがんばったこと
5. 中学校の学習で取り組んだことやがんばったこと
6. 中学校の総合的な学習の時間で取り組んだことやがんばったこと
7. 中学校の生徒会活動や学校行事で取り組んだことやがんばったこと
8. 中学校の部活動で取り組んだことやがんばったこと
9. 中学校の学校生活の中で取り組んだことやがんばったこと
10. 学校生活以外で取り組んだことやがんばったこと
11. 得意なことや好きなこと
12. 将来の夢や目標
13. その他

設問8 あなたが高校等で特に身に付けたい力は何か。次の中から2つまで選んでください。



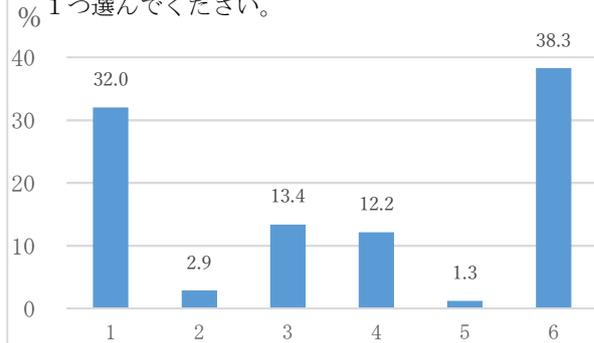
1. 基礎的・基本的な知識や技能
2. 大学等への進学に必要な学力
3. 就職に必要な知識・技能やビジネスマナー
4. 一般常識や社会常識
5. ICTや情報などを活用する力
6. 課題を見つけて解決していく力
7. 考えたことを表現する力
8. スポーツや芸術の知識や技能
9. 良好な人間関係を築く力
10. 様々な環境に適応する力
11. 自己を理解し管理する力
12. 規則正しい生活習慣
13. 地域や国際社会に貢献しようとする意欲や態度
14. 新しいことや困難なことにチャレンジする行動力

設問 9 あなたは高校等で特に何を学びたいですか。次の中から2つまで選んでください。



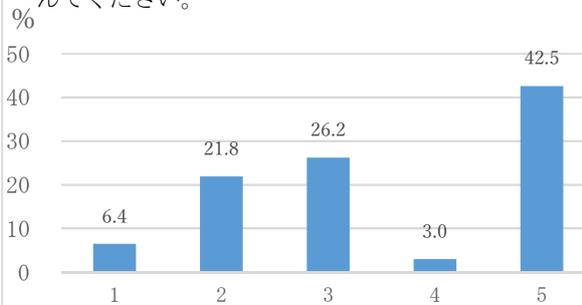
1. 人文学系 (国語、英語、地理、歴史など)
2. 社会科学系 (政治、経済、法律など)
3. 自然科学系 (理科、数学など)
4. 国際系 (実践的な語学、国際関係など)
5. アート・デザイン系
6. 音楽系
7. 体育・スポーツ系
8. 家庭系 (調理・被服など)
9. 農業系
10. 工業系
11. AI・ICT・デジタル系
12. 商業系
13. 水産系
14. 医療・看護系
15. 福祉系
16. 保育・教育系
17. その他 (上記の01~16にないもの)

設問 10 あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。



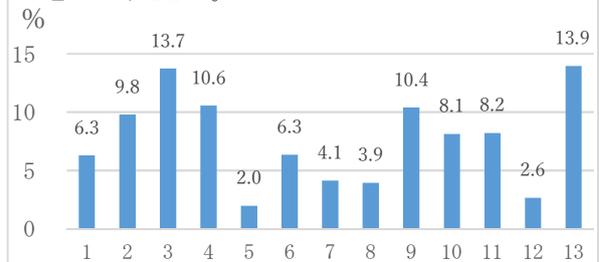
1. 大学
2. 短期大学
3. 専門学校
4. 就職
5. その他
6. 未定 (まだ考えていない)

設問 11 あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。

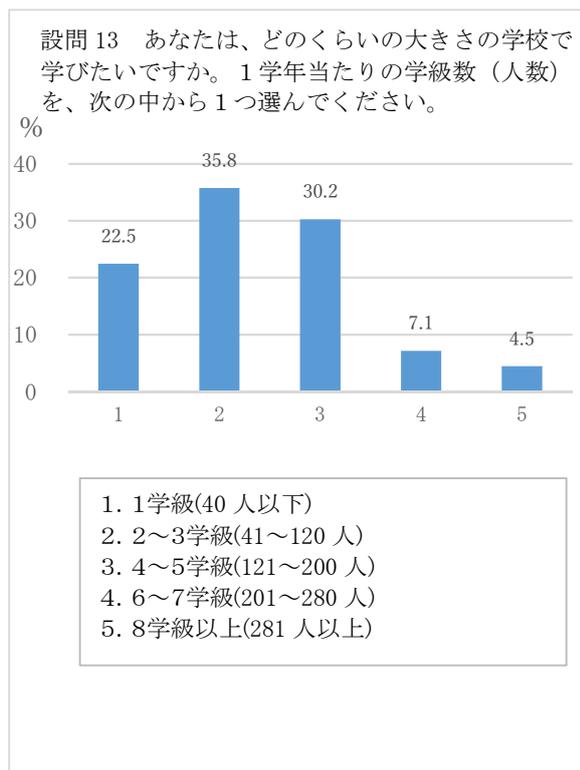


1. 地元 (あなたの出身地やその周辺)
2. 高知県内
3. 高知県外
4. 海外
5. 未定 (まだ考えていない)

設問 12 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。



1. 農林漁業、動植物、環境などに関する仕事 (自然に関すること)
2. 機械、電気、化学、ICT などに関する仕事 (科学技術・ものづくり)
3. デザイン、音楽、書籍、ゲームなどに関する仕事 (アート・表現)
4. スポーツ選手、インストラクターなど (スポーツに関すること)
5. 観光、プライダクル、車・電車の運転などに関する仕事 (旅・思い出・乗り物)
6. 理美容師、ファッションデザイナーなど (ファッション・ビューティー)
7. 調理師、栄養士、食品の製造・開発などに関する仕事 (飲食・調理)
8. 建築、道路工事、インテリアなどに関する仕事 (住まい・街づくり)
9. 医師、看護師、介護士、理学療法士など (医療・福祉)
10. 教員、保育士、図書館の司書、塾の講師など (教育)
11. 公務員、弁護士、翻訳者など (行政・法律・国際関係)
12. 銀行、不動産、接客、販売などに関する仕事 (金融・ビジネス)
13. その他



《設問 3 あなたは中学校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを 1 つ選んでください。なお、働きながら高校に進学することを希望している人は、希望する高校を選んでください。》

「公立の全日制（昼間部）の高校」が 48.8%、「未定」が 36.2%、「私立の高校」が 6.6%の順である。

《設問 4 あなたは、進学先（高校等）までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から 1 つ選んでください。》

「30 分～1 時間未満」が 40.9%、「通学時間は特に気にしない」が 21.6%、「30 分未満」が 20.6%の順である。

《設問 5 あなたが進学する高校等を選ぶとき、参考にしている（したい）ものは何ですか。次の中から 2 つまで選んでください。》

「高校の体験入学」が 28.4%、「家族の意見」が 19.3%、「高校の先生による学校説明会」が 15.8%の順である。「その他」としては、「部活動」「家からの距離」「インターネット」などの意見があった。

《設問 6 あなたが進学する高校等を選ぶとき、重視することは何ですか。次の中から 2 つまで選んでください。》

「学科やコースの内容」が 23.4%、「進学や就職の実績」が 18.2%、「部活動の状況」が 15.6%の順である。

《設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、どのようなことを評価してほしいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。》

「得意なことや好きなこと」が19.3%、「将来の夢や目標」15.5%、「高校入学後に組みたいことやがんばりたいこと」が11.4%の順である。

《設問8 あなたが高校等で特に身に付けたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「基礎的・基本的な知識や技能」が21.8%、「大学等への進学に必要な学力」が12.4%、「就職に必要な知識・技能やビジネスマナー」が11.0%の順である。

《設問9 あなたは高校等で特に何を学びたいですか。次の中から2つまで選んでください。》

「人文学系」が14.8%、「体育・スポーツ系」が14.6%、「自然科学系」が13.7%の順である。

《設問10 あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。》

「未定」が38.3%、「大学」が32.0%、「専門学校」が13.4%の順である。

《設問11 あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。》

「未定」が42.5%、「高知県外」が26.2%、「高知県内」が21.8%の順である。

《設問12 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。》

「その他」が13.9%、「デザイン、音楽、書籍、ゲームなどに関する仕事」が13.7%、「スポーツ選手、インストラクターなど」が10.6%の順である。

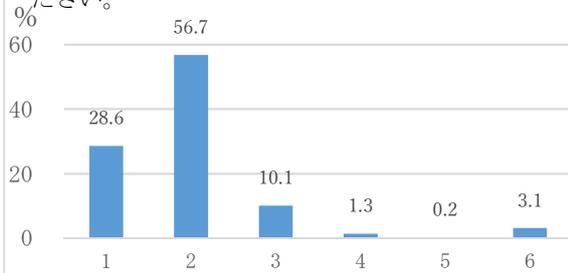
《設問13 あなたは、どのくらいの大きさの学校で学びたいですか。1学年当たりの学級数(人数)を、次の中から1つ選んでください。》

「2～3学級」が35.8%、「4～5学級」が30.2%、「1学級」が22.5%の順である。

(2) 市町村（学校組合）立中学校 保護者

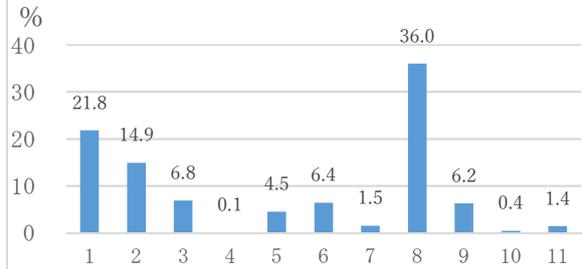
設問1は現在お住まいの市町村を選択のため省略。

設問2 お子様の進学先（高校等）までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。



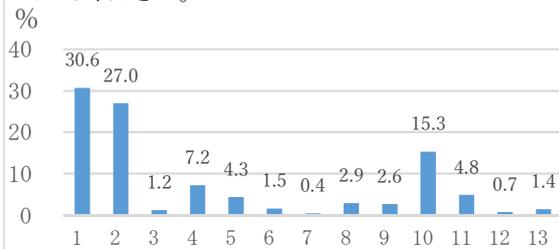
1. 30分未満
2. 30分～1時間未満
3. 1時間～1時間30分未満
4. 1時間30分～2時間未満
5. 2時間以上
6. 通学時間は特に気にしない

設問3 お子様が進学する高校を選ぶとき、参考にしている（したい）ものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。



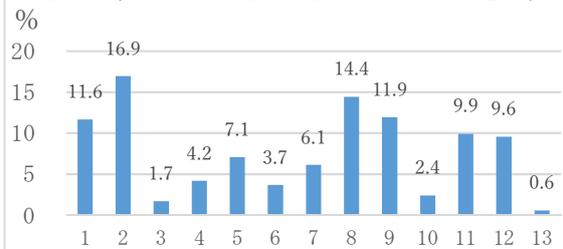
1. 高校の体験入学
2. 高校の先生による学校説明会
3. 高校の学校案内(パンフレットなど)
4. 「こうちハイスクールガイド」
5. 高校の公式ホームページや公式SNS
6. 中学校の先生による説明
7. 塾の先生の説明
8. 子どもの意見
9. 知人の意見
10. 新聞やテレビの情報
11. その他

設問4 お子様が進学する高校を選ぶとき、重視することは何ですか。次の中から2つまで選んでください。



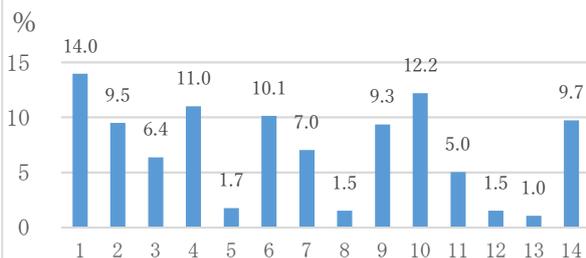
1. 学科やコースの内容
2. 進学や就職の実績
3. 学校行事の状況
4. 部活動の状況
5. 高校の伝統や印象
6. 少人数での教育
7. 高校と地域との連携
8. 学校周辺の環境
9. 施設や設備の充実
10. 通学のしやすさ
11. 資格取得への対応状況
12. 制服
13. 市町村などからの進学支援

設問5 高校入試のときに、学力検査以外で、お子様のどのようなところが評価されるとよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。



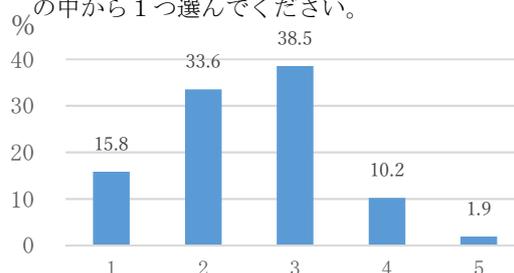
1. その高校や学科・コースに進学したい理由
2. 高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと
3. 進みたい学科・コースに関する知識や技術
4. 高校進学に向けて取り組んだことやがんばったこと
5. 中学校の学習で取り組んだことやがんばったこと
6. 中学校の総合的な学習の時間で取り組んだことやがんばったこと
7. 中学校の生徒会活動や学校行事で取り組んだことやがんばったこと
8. 中学校の部活動で取り組んだことやがんばったこと
9. 中学校の学校生活の中で取り組んだことやがんばったこと
10. 学校生活以外で取り組んだことやがんばったこと
11. 得意なことや好きなこと
12. 将来の夢や目標
13. その他

設問6 お子様に高校で特に身に付けてもらいたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。



1. 基礎的・基本的な知識や技能
2. 大学等への進学に必要な学力
3. 就職に必要な知識・技能やビジネスマナー
4. 一般常識や社会常識
5. ICTや情報などを活用する力
6. 課題を見つけて解決していく力
7. 考えたことを表現する力
8. スポーツや芸術の知識や技能
9. 良好な人間関係を築く力
10. 様々な環境に適応する力
11. 自己を理解し管理する力
12. 規則正しい生活習慣
13. 地域や国際社会に貢献しようとする意欲や態度
14. 新しいことや困難なことにチャレンジする行動力

設問7 あなたは、お子様にどのくらいの規模の学校で学んでほしいと思っていますか。県立の高校の1学年当たりの学級数(人数)を、次の中から1つ選んでください。



1. 1学級(40人以下)
2. 2~3学級(41~120人)
3. 4~5学級(121~200人)
4. 6~7学級(201~280人)
5. 8学級以上(281人以上)

《設問2 お子様の進学先(高校等)までの通学時間(片道)は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。》

「30分~1時間未満」が56.7%、「30分未満」が28.6%、「1時間~1時間30分未満」が10.1%の順である。

《設問3 お子様が進学する高校を選ぶとき、参考にしている(したい)ものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「子どもの意見」が36.0%、「高校の体験入学」が21.8%、「高校の先生による学校説明会」が14.9%の順である。「その他」としては、「家からの距離」「部活動」「実際に通学している子や親の意見」などの意見があった。

《設問4 お子様が進学する高校を選ぶとき、重視することは何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「学科やコースの内容」が30.6%、「進学や就職の実績」が27.0%、「通学のしやすさ」が15.3%の順である。

《設問5 高校入試のときに、学力検査以外で、お子様のどのようなところが評価されるとよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。》

「高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと」が16.9%、「中学校の部活動で取り組んだことやがんばったこと」が14.4%、「中学校の学校生活の中で取り組んだことやがんばったこと」が11.9%の順である。

《設問6 お子様に高校で特に身に付けてもらいたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

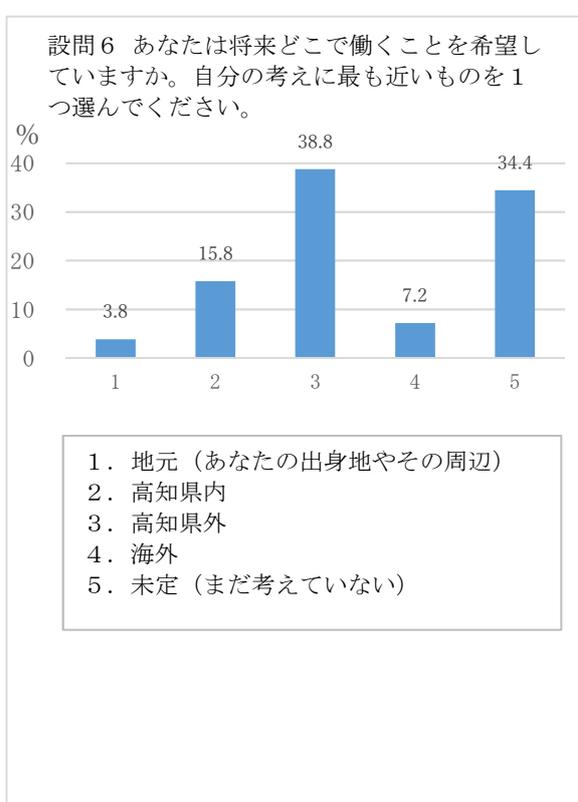
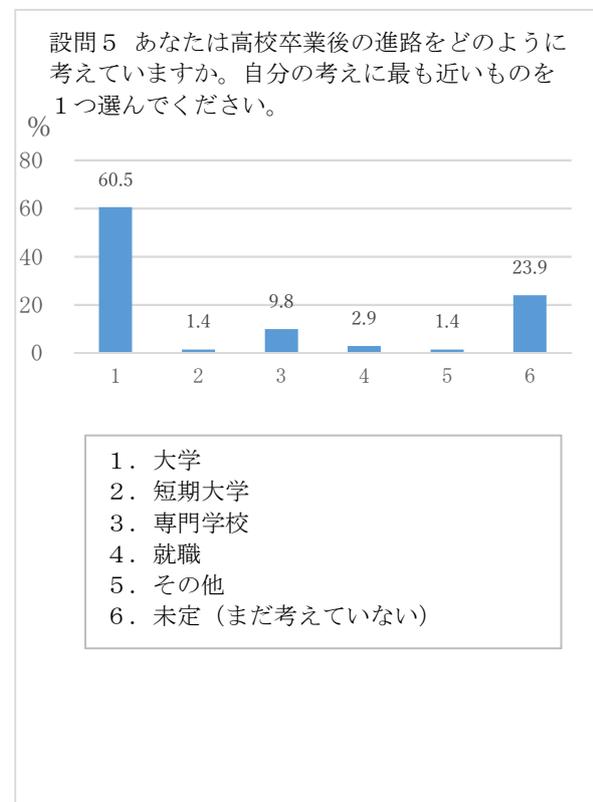
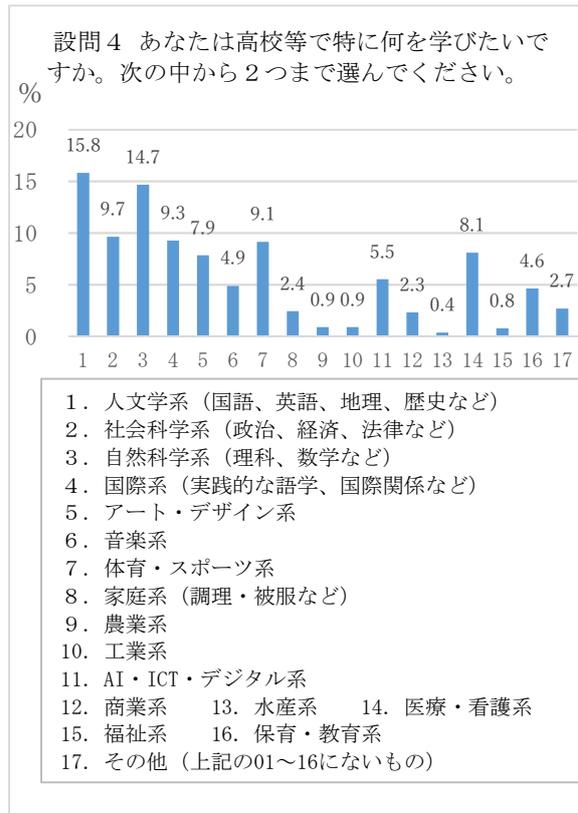
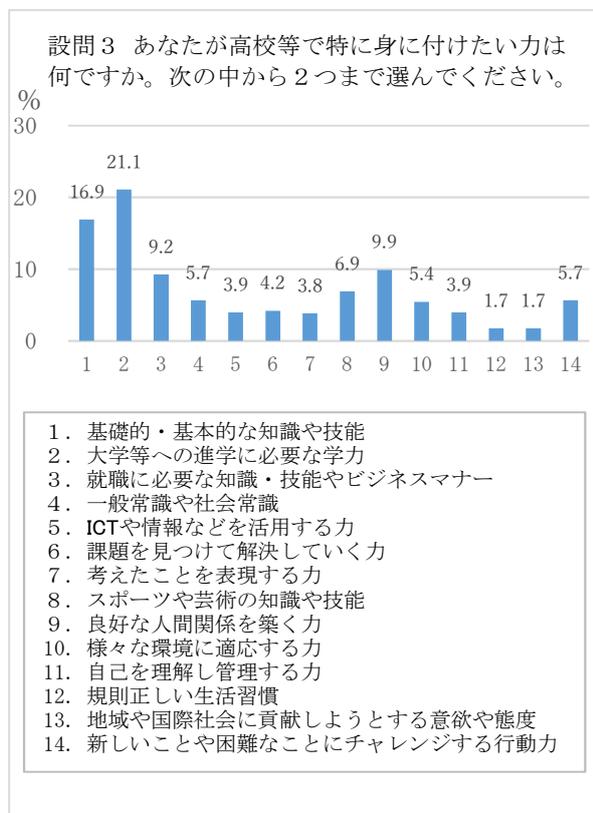
「基礎的・基本的な知識や技能」が14.0%、「様々な環境に適応する力」が12.2%、「一般常識や社会常識」が11.0%の順である。

《設問7 あなたは、お子様にどのくらいの規模の学校で学んでほしいと思っていますか。県立の高校の1学年当たりの学級数（人数）を、次の中から1つ選んでください。》

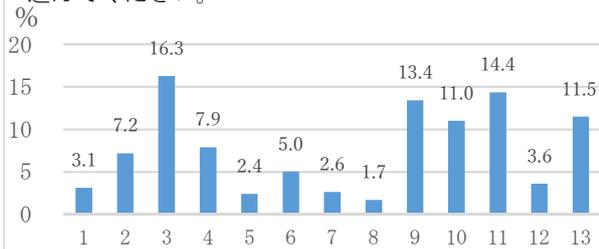
「4～5学級」が38.5%、「2～3学級」が33.6%、「1学級」が15.8%の順である。

(3) 県立中学校 生徒

設問1は学校名、設問2は学年を選択のため省略。



設問7 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。



1. 農林漁業、動植物、環境などに関する仕事(自然に関すること)
2. 機械、電気、化学、ICTなどに関する仕事(科学技術・ものづくり)
3. デザイン、音楽、書籍、ゲームなどに関する仕事(アート・表現)
4. スポーツ選手、インストラクターなど(スポーツに関すること)
5. 観光、プライダル、車・電車の運転などに関する仕事(旅・思い出・乗り物)
6. 理美容師、ファッションデザイナーなど(ファッション・ビューティー)
7. 調理師、栄養士、食品の製造・開発などに関する仕事(飲食・調理)
8. 建築、道路工事、インテリアなどに関する仕事(住まい・街づくり)
9. 医師、看護師、介護士、理学療法士など(医療・福祉)
10. 教員、保育士、図書館の司書、塾の講師など(教育)
11. 公務員、弁護士、翻訳者など(行政・法律・国際関係)
12. 銀行、不動産、接客、販売などに関する仕事(金融・ビジネス)
13. その他

《設問3 あなたが高校等で特に身に付けたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「大学等への進学に必要な学力」が21.1%、「基礎的・基本的な知識や技能」が16.9%、「良好な人間関係を築く力」が9.9%の順である。

《設問4 あなたは高校等で特に何を学びたいですか。次の中から2つまで選んでください。》

「人文学系」が15.8%、「自然科学系」が14.7%、「社会科学系」が9.7%の順である。

《設問5 あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。》

「大学」が60.5%、「未定」が23.9%、「専門学校」が9.8%の順である。

《設問6 あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。》

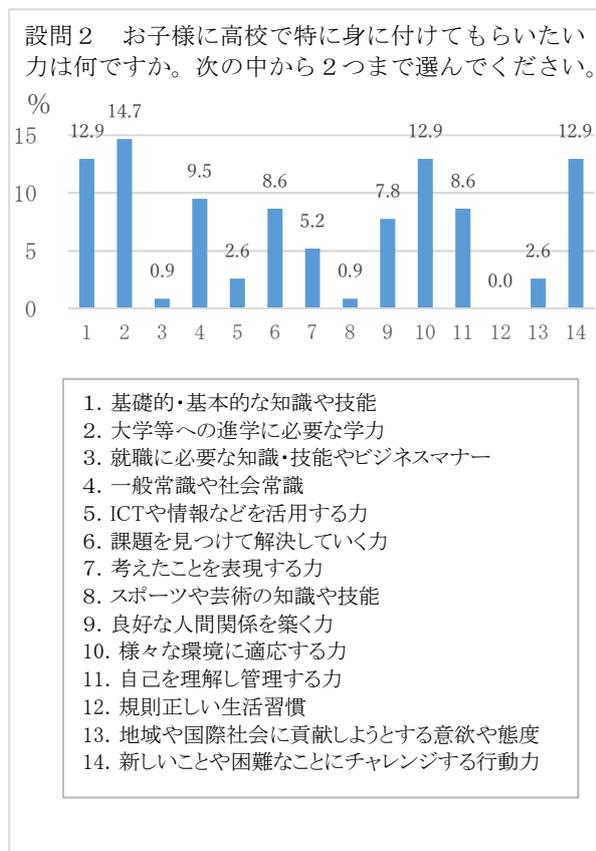
「高知県外」が38.8%、「未定」が34.4%、「高知県内」15.8%の順である。

《設問7 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。》

「デザイン、音楽、書籍、ゲームなどに関する仕事」が16.3%、「公務員、弁護士、翻訳者など」が14.4%、「医師、看護師、介護士、理学療法士など」が13.4%の順である。

(4) 県立中学校 保護者

設問1は現在お住まいの市町村を選択のため省略。



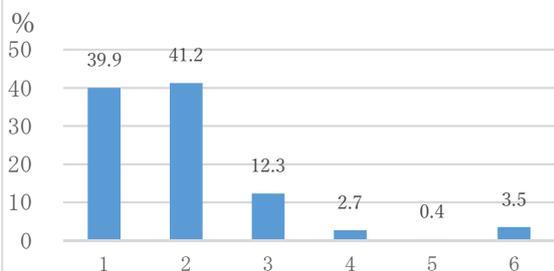
《設問2 お子様に高校で特に身に付けてもらいたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「大学等への進学に必要な学力」が14.7%、「基礎的・基本的な知識や技能」「様々な環境に適応する力」「新しいことや困難なことにチャレンジする行動力」がそれぞれ12.9%、「一般常識や社会常識」が9.5%の順である。

(5) 高等学校 全課程 生徒

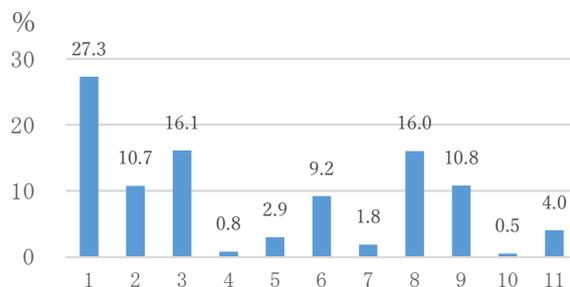
設問1～3は現在お住まいの市町村、学校名及び学年を選択のため省略。

設問4 あなたは、高校までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。



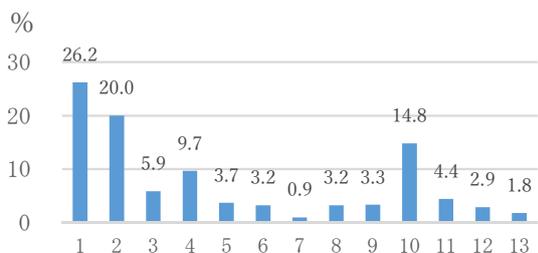
1. 30分未満
2. 30分～1時間未満
3. 1時間～1時間30分未満
4. 1時間30分～2時間未満
5. 2時間以上
6. 通学時間は特に気にしない

設問5 あなたが進学する高校を選ぶとき、参考にしたものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。



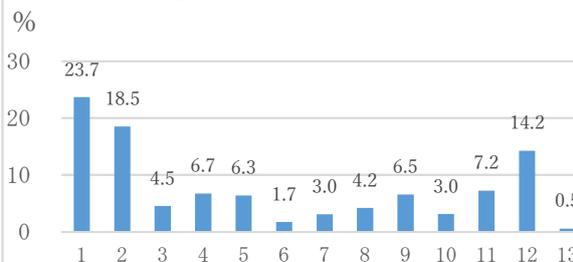
1. 高校の体験入学
2. 高校の先生による学校説明会
3. 高校の学校案内（パンフレットなど）
4. 「こうちハイスクールガイド」
5. 高校の公式ホームページや公式SNS
6. 中学校の先生による説明
7. 塾の先生の説明
8. 家族の意見
9. 友達や先輩の意見
10. 新聞やテレビの情報
11. その他

設問6 あなたが進学する高校を選ぶとき、重視したことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。



1. 学科やコースの内容
2. 進学や就職の実績
3. 学校行事の状況
4. 部活動の状況
5. 高校の伝統や印象
6. 少人数での教育
7. 高校と地域との連携
8. 学校周辺の環境
9. 施設や設備の充実
10. 通学のしやすさ
11. 資格取得への対応状況
12. 制服
13. その他

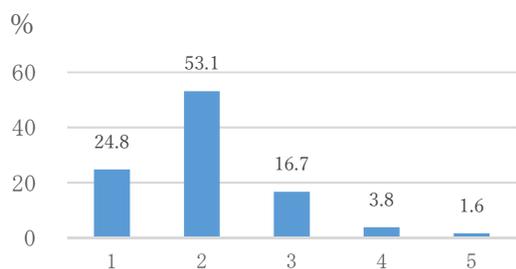
設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、どのようなことを評価してほしいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。



1. その高校や学科・コースに進学したい理由
2. 高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと
3. 進みたい学科・コースに関する知識や技術
4. 高校進学に向けて取り組んだことやがんばったこと
5. 中学校の学習で取り組んだことやがんばったこと
6. 中学校の総合的な学習の時間で取り組んだことやがんばったこと
7. 中学校の生徒会活動や学校行事で取り組んだことやがんばったこと
8. 中学校の部活動で取り組んだことやがんばったこと
9. 中学校の学校生活の中で取り組んだことやがんばったこと
10. 学校生活以外で取り組んだことやがんばったこと
11. 得意なことや好きなこと
12. 将来の夢や目標
13. その他

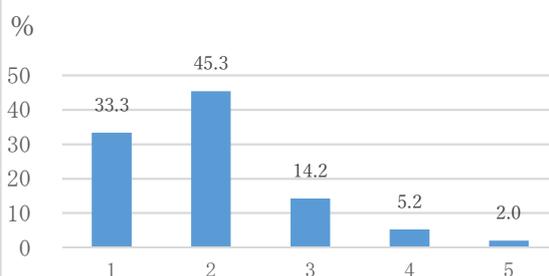
設問8 あなたの高校生活についてお聞きします。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。

設問8-1 授業や学習へのサポート体制には満足していますか。



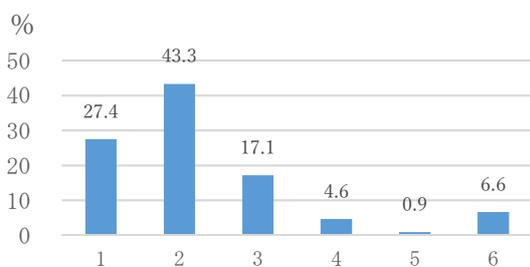
1. 大変満足している
2. まあまあ満足している
3. どちらでもない
4. あまり満足していない
5. 不満である

設問8-2 学校行事には満足していますか。



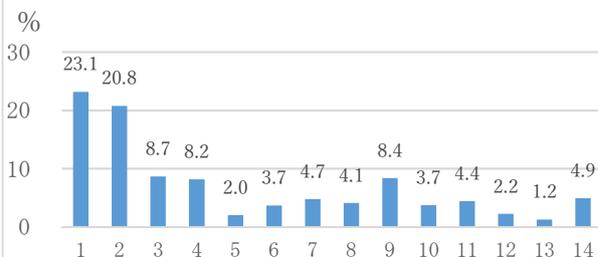
1. 大変満足している
2. まあまあ満足している
3. どちらでもない
4. あまり満足していない
5. 不満である

設問8-3 授業や学校行事以外の活動（部活動や生徒会活動など）では、やりたいことができますか。



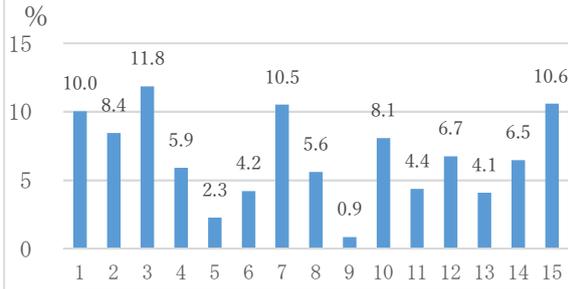
1. かなりできている
2. だいたいできている
3. どちらでもない
4. あまりできていない
5. 全くできていない
6. 活動はしていない

設問9 あなたが高校で特に身に付けたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。



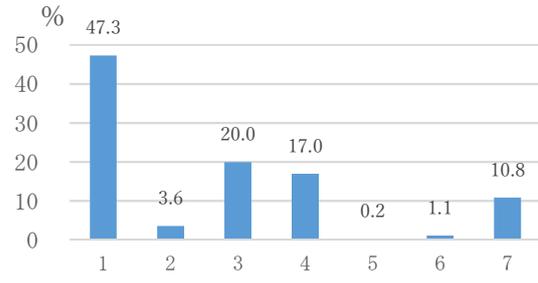
1. 基礎的・基本的な知識や技能
2. 大学等への進学に必要な学力
3. 就職に必要な知識・技能やビジネスマナー
4. 一般常識や社会常識
5. ICTや情報などを活用する力
6. 課題を見つけて解決していく力
7. 考えたことを表現する力
8. スポーツや芸術の知識や技能
9. 良好な人間関係を築く力
10. 様々な環境に適應する力
11. 自己を理解し管理する力
12. 規則正しい生活習慣
13. 地域や国際社会に貢献しようとする意欲や態度
14. 新しいことや困難なことにチャレンジする行動力

設問10 現在、学んでいる授業以外にどんなことが学習できればよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。



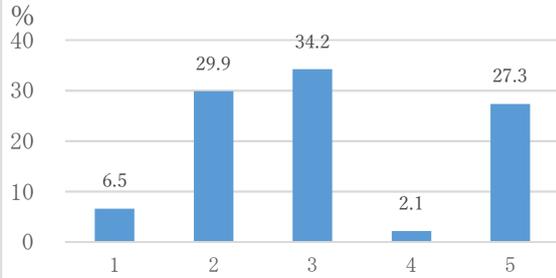
1. アート・デザイン系
2. 音楽系
3. 体育・スポーツ系
4. 家庭系 (調理・被服など)
5. 農業系
6. 工業系
7. AI・ICT・デジタル系
8. 商業系
9. 水産系
10. 医療・看護系
11. 福祉系
12. 保育・教育系
13. その他
14. 現状に満足している
15. 特にない

設問11 あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。



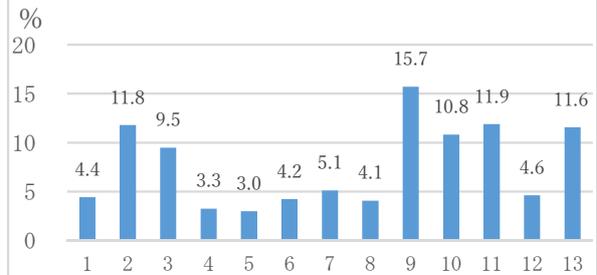
1. 大学
2. 短期大学
3. 専門学校
4. 就職
5. すでに働いている
6. その他
7. 未定 (まだ考えていない)

設問12 あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の勤務地を選んでください。



1. 地元(あなたの出身地やその周辺)
2. 高知県内
3. 高知県外
4. 海外
5. 未定(まだ考えていない)

設問13 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の職業に近いものを選んでください。



1. 農林漁業、動植物、環境などに関する仕事(自然に関すること)
2. 機械、電気、化学、ICTなどに関する仕事(科学技術・ものづくり)
3. デザイン、音楽、書籍、ゲームなどに関する仕事(アート・表現)
4. スポーツ選手、インストラクターなど(スポーツに関すること)
5. 観光、プライダル、車・電車の運転などに関する仕事(旅・思い出・乗り物)
6. 理美容師、ファッションデザイナーなど(ファッション・ビューティー)
7. 調理師、栄養士、食品の製造・開発などに関する仕事(飲食・調理)
8. 建築、道路工事、インテリアなどに関する仕事(住まい・街づくり)
9. 医師、看護師、介護士、理学療法士など(医療・福祉)
10. 教員、保育士、図書館の司書、塾の講師など(教育)
11. 公務員、弁護士、翻訳者など(行政・法律・国際関係)
12. 銀行、不動産、接客、販売などに関する仕事(金融・ビジネス)
13. その他

《設問4 あなたは、高校までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。》

「30分～1時間未満」が41.2%、「30分未満」が39.9%、「1時間～1時間30分未満」が12.3%の順である。

《設問5 あなたが進学する高校を選ぶとき、参考にしたものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「高校の体験入学」27.3%、「高校の学校案内」が16.1%、「家族の意見」が16.0%の順である。「その他」としては、「家からの距離」「中高一貫校」「部活動」「偏差値」などの意見があった。

《設問6 あなたが進学する高校を選ぶとき、重視したことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「学科やコースの内容」26.2%、「進学や就職の実績」20.0%、「通学のしやすさ」14.8%の順である。「その他」としては、「家からの距離」「部活動」「中高一貫校」などの意見があった。

《設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、どのようなことを評価してほしいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。》

「その高校や学科・コースに進学したい理由」が23.7%、「高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと」が18.5%、「将来の夢や目標」14.2%の順である。

《設問8 あなたの高校生活についてお聞きします。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。》

（設問8-1 授業や学習へのサポート体制には満足していますか。）

「まあまあ満足している」が53.1%、「大変満足している」が24.8%、「どちらでもない」が16.7%の順である。

（設問8-2 学校行事には満足していますか。）

「まあまあ満足している」が45.3%、「大変満足している」が33.3%、「どちらでもない」が14.2%の順である。

（設問8-3 授業や学校行事以外の活動（部活動や生徒会活動など）では、やりたいことができていますか。）

「だいたいできている」が43.3%、「かなりできている」が27.4%、「どちらでもない」が17.1%の順である。

《設問9 あなたが高校で特に身に付けたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「基礎的・基本的な知識や技能」が23.1%、「大学等への進学に必要な学力」が20.8%、「就職に必要な知識・技能やビジネスマナー」が8.7%の順である。

《設問 10 現在、学んでいる授業以外にどんなことが学習できればよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。》

「体育・スポーツ系」が 11.8%、「特にない」が 10.6%、「AI・ICT・デジタル系」10.5%の順である。

《設問 11 あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。》

「大学」が 47.3 %、「専門学校」が 20.0%、「就職」が 17.0%の順である。

《設問 12 あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の勤務地を選んでください。》

「高知県外」が 34.2%、「高知県内」が 29.9%、「未定」が 27.3%の順である。

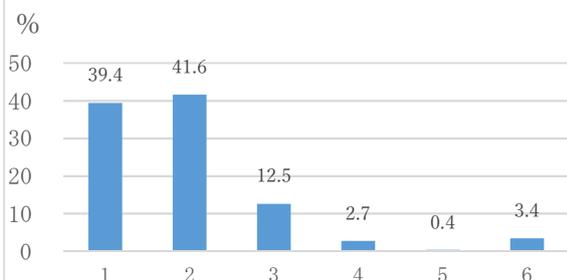
《設問 13 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の職業に近いものを選んでください。》

「医師、看護師、介護士、理学療法士など」が 15.7%、「公務員、弁護士、翻訳者など」が 11.9 %、「機械、電気、化学、ICT に関する仕事」が 11.8%の順である。

(6) 高等学校 全日制 生徒

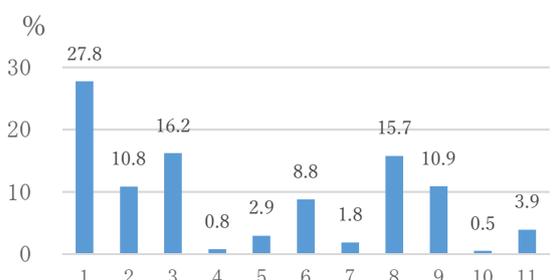
設問1～3は現在お住まいの市町村、学校名及び学年を選択のため省略。

設問4 あなたは、高校までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。



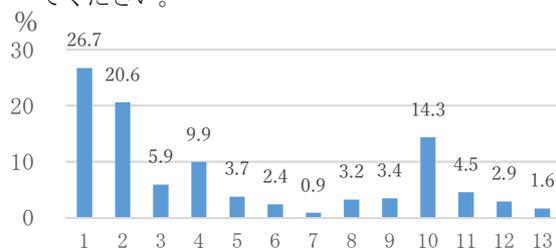
1. 30分未満
2. 30分～1時間未満
3. 1時間～1時間30分未満
4. 1時間30分～2時間未満
5. 2時間以上
6. 通学時間は特に気にしない

設問5 あなたが進学する高校を選ぶとき、参考にしたものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。



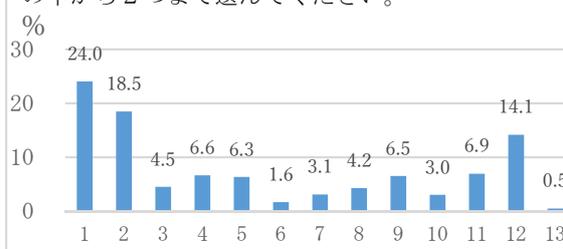
1. 高校の体験入学
2. 高校の先生による学校説明会
3. 高校の学校案内(パンフレットなど)
4. 「こうちハイスクールガイド」
5. 高校の公式ホームページや公式SNS
6. 中学校の先生による説明
7. 塾の先生の説明
8. 家族の意見
9. 友達や先輩の意見
10. 新聞やテレビの情報
11. その他

設問6 あなたが進学する高校を選ぶとき、重視したことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。



1. 学科やコースの内容
2. 進学や就職の実績
3. 学校行事の状況
4. 部活動の状況
5. 高校の伝統や印象
6. 少人数での教育
7. 高校と地域との連携
8. 学校周辺の環境
9. 施設や設備の充実
10. 通学のしやすさ
11. 資格取得への対応状況
12. 制服
13. その他

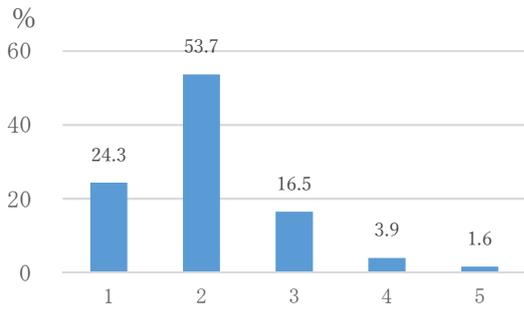
設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、どのようなことを評価してほしいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。



1. その高校や学科・コースに進学したい理由
2. 高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと
3. 進みたい学科・コースに関する知識や技術
4. 高校進学に向けて取り組んだことやがんばったこと
5. 中学校の学習で取り組んだことやがんばったこと
6. 中学校の総合的な学習の時間で取り組んだことやがんばったこと
7. 中学校の生徒会活動や学校行事で取り組んだことやがんばったこと
8. 中学校の部活動で取り組んだことやがんばったこと
9. 中学校の学校生活の中で取り組んだことやがんばったこと
10. 学校生活以外で取り組んだことやがんばったこと
11. 得意なことや好きなこと
12. 将来の夢や目標
13. その他

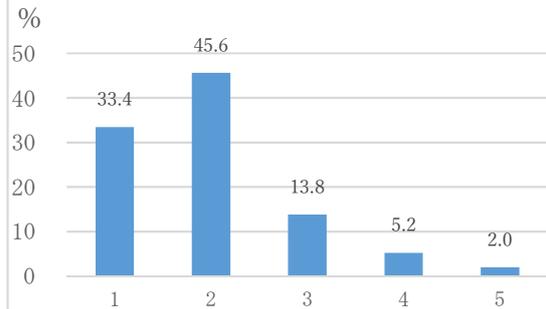
設問8 あなたの高校生活についてお聞きします。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。

設問8-1 授業や学習へのサポート体制には満足していますか。



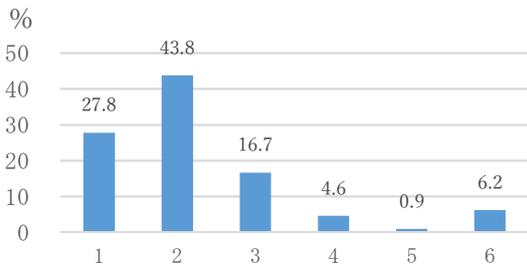
1. 大変満足している
2. まあまあ満足している
3. どちらでもない
4. あまり満足していない
5. 不満である

設問8-2 学校行事には満足していますか。



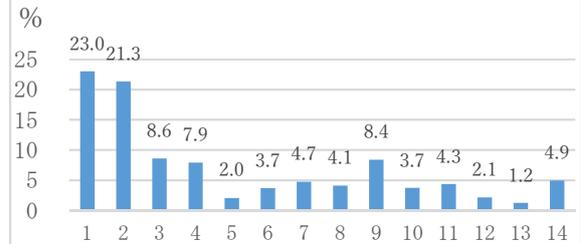
1. 大変満足している
2. まあまあ満足している
3. どちらでもない
4. あまり満足していない
5. 不満である

設問8-3 授業や学校行事以外の活動（部活動や生徒会活動など）では、やりたいことができますか。

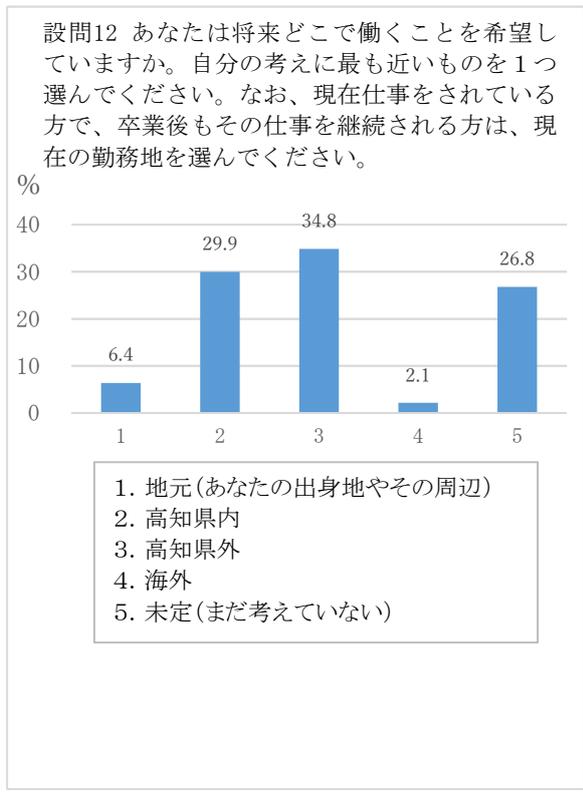
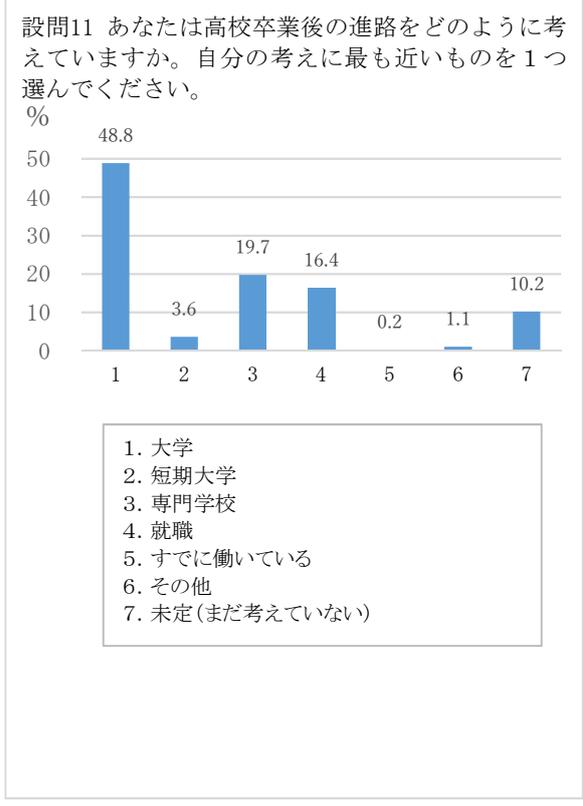
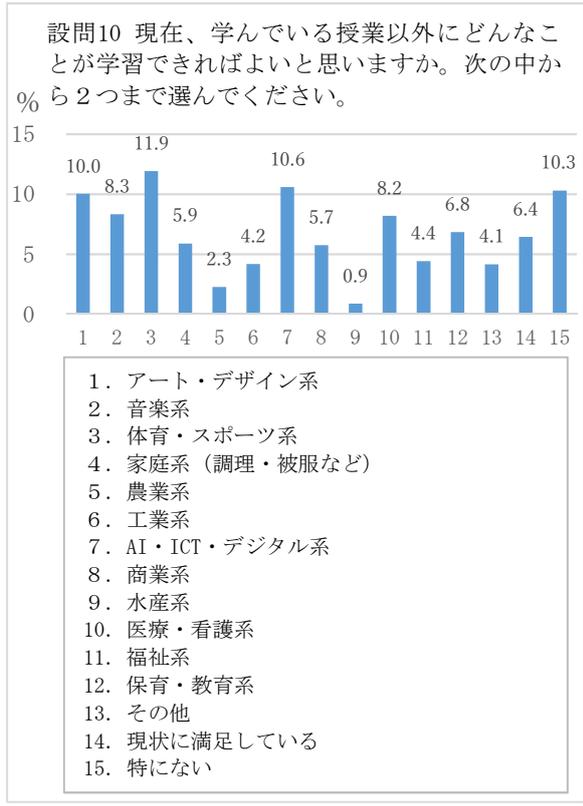


1. かなりできている
2. だいたいできている
3. どちらでもない
4. あまりできていない
5. 全くできていない
6. 活動はしていない

設問9 あなたが高校で特に身に付けたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。



1. 基礎的・基本的な知識や技能
2. 大学等への進学に必要な学力
3. 就職に必要な知識・技能やビジネスマナー
4. 一般常識や社会常識
5. ICTや情報などを活用する力
6. 課題を見つけて解決していく力
7. 考えたことを表現する力
8. スポーツや芸術の知識や技能
9. 良好な人間関係を築く力
10. 様々な環境に適応する力
11. 自己を理解し管理する力
12. 規則正しい生活習慣
13. 地域や国際社会に貢献しようとする意欲や態度
14. 新しいことや困難なことにチャレンジする行動力



《設問4 あなたは、高校までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。》

「30分～1時間未満」が41.6%、「30分未満」が39.4%、「1時間～1時間30分未満」が12.5%の順である。

《設問5 あなたが進学する高校を選ぶとき、参考にしたものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「高校の体験入学」が27.8%、「高校の学校案内」が16.2%、「家族の意見」が15.7%の順である。

《設問6 あなたが進学する高校を選ぶとき、重視したことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「学科やコースの内容」が26.7%、「進学や就職の実績」が20.6%、「通学のしやすさ」が14.3%の順である。

《設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、どのようなことを評価してほしいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。》

「その高校や学科・コースに進学したい理由」が24.0%、「高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと」が18.5%、「将来の夢や目標」が14.1%の順である。

《設問8 あなたの高校生活についてお聞きします。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。》

(設問8-1 授業や学習へのサポート体制には満足していますか。)

「まあまあ満足している」が53.7%、「大変満足している」が24.3%、「どちらでもない」が16.5%の順である。

(設問8-2 学校行事には満足していますか。)

「まあまあ満足している」が45.6%、「大変満足している」が33.4%、「どちらでもない」が13.8%の順である。

(設問8-3 授業や学校行事以外の活動（部活動や生徒会活動など）では、やりたいことができますか。)

「だいたいできている」が43.8%、「かなりできている」が27.8%、「どちらでもない」が16.7%の順である。

《設問9 あなたが高校で特に身に付けたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「基礎的・基本的な知識や技能」が23.0%、「大学等への進学に必要な学力」が21.3%、「就職

に必要な知識・技能やビジネスマナー」が8.6%の順である。

《設問10 現在、学んでいる授業以外にどんなことが学習できればよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。》

「体育・スポーツ系」が11.9%、「AI・ICT・デジタル系」が10.6%、「特にない」が10.3%の順である。

《設問11 あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。》

「大学」が48.8%、「専門学校」が19.7%、「就職」が16.4%の順である。

《設問12 あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の勤務地を選んでください。》

「高知県外」が34.8%、「高知県内」が29.9%、「未定」が26.8%の順である。

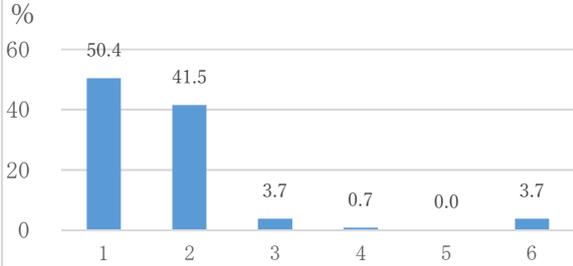
《設問13 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の職業に近いものを選んでください。》

「医師、看護師、弁護士、理学療法士など」が16.0%、「公務員、弁護士、翻訳者など」が12.2%、「機械、電気、化学、ICTなどに関する仕事」が11.8%の順である。

(7) 高等学校 定時制 昼間部 生徒

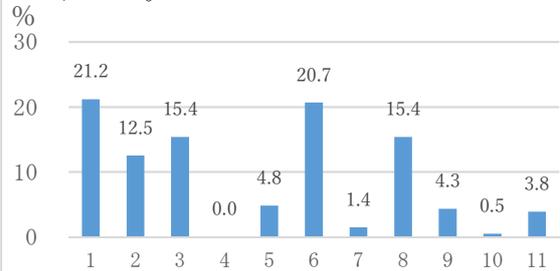
設問1～3は現在お住まいの市町村、学校名及び学年を選択のため省略。

設問4 あなたは、高校までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。



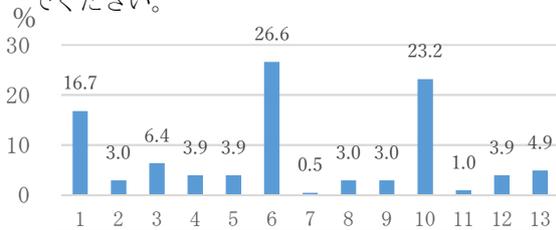
1. 30分未満
2. 30分～1時間未満
3. 1時間～1時間30分未満
4. 1時間30分～2時間未満
5. 2時間以上
6. 通学時間は特に気にしない

設問5 あなたが進学する高校を選ぶとき、参考にしたものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。



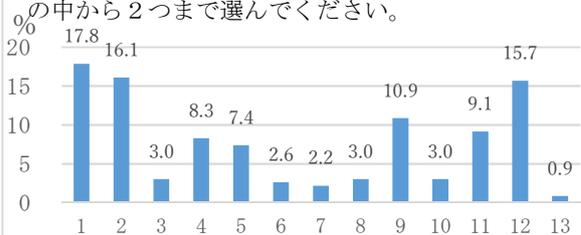
1. 高校の体験入学
2. 高校の先生による学校説明会
3. 高校の学校案内(パンフレットなど)
4. 「こうちハイスクールガイド」
5. 高校の公式ホームページや公式SNS
6. 中学校の先生による説明
7. 塾の先生の説明
8. 家族の意見
9. 友達や先輩の意見
10. 新聞やテレビの情報
11. その他

設問6 あなたが進学する高校を選ぶとき、重視したことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。



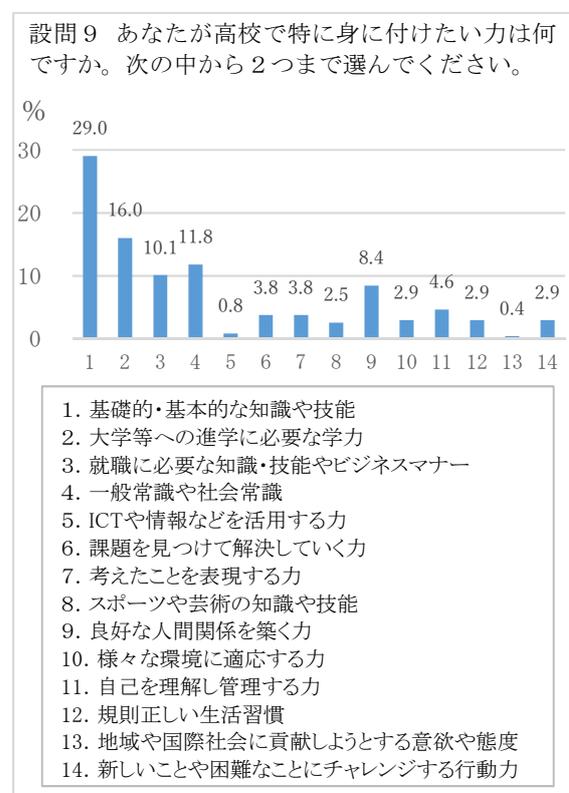
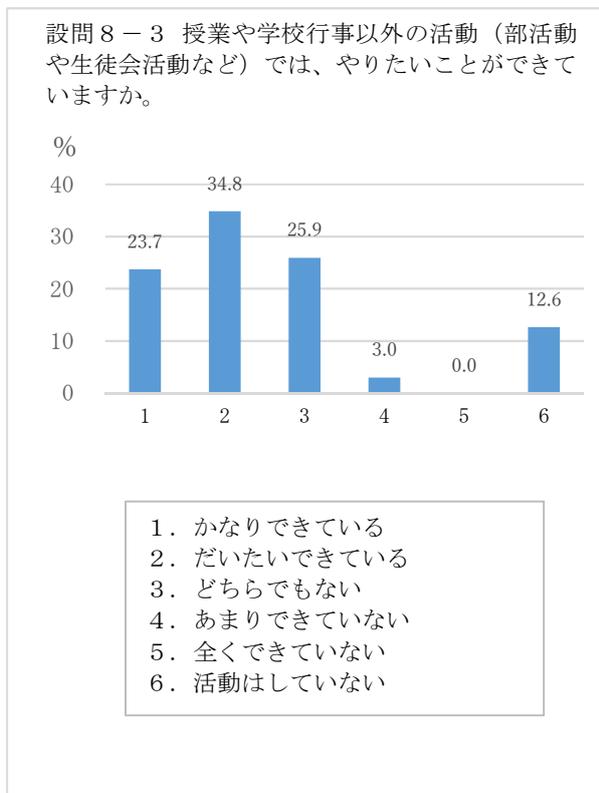
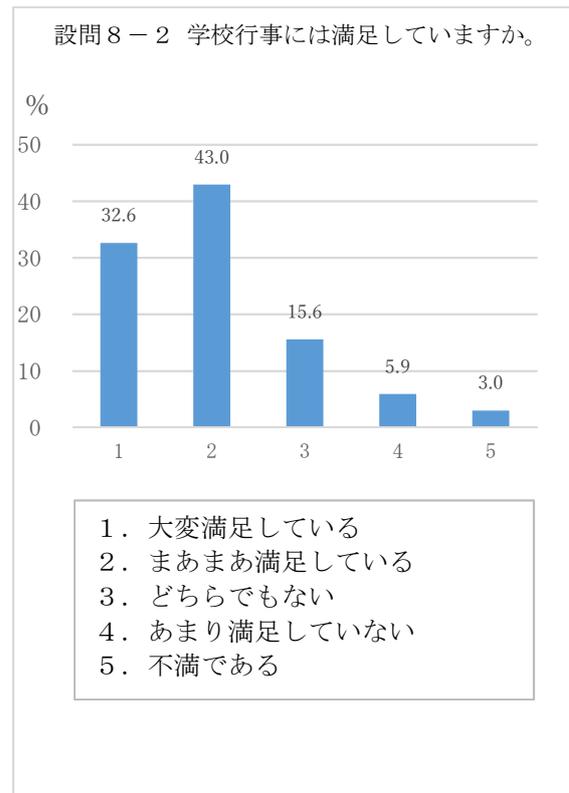
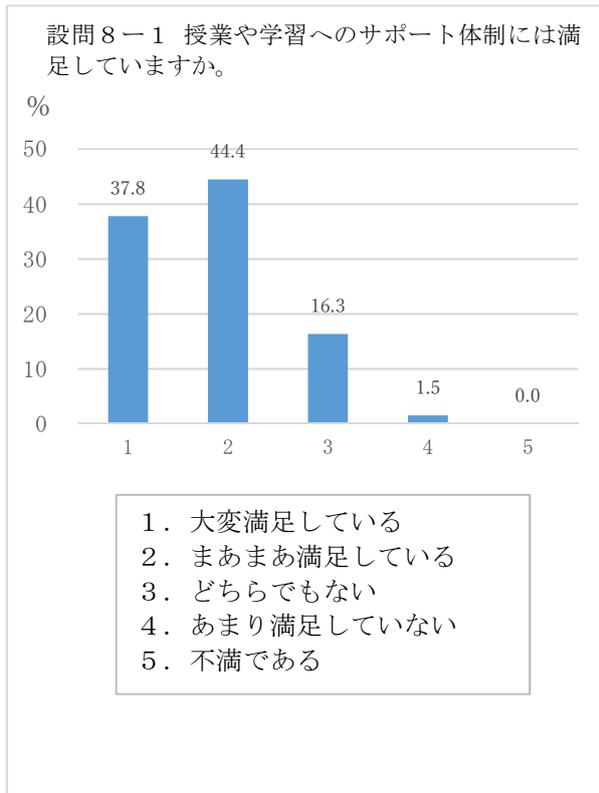
1. 学科やコースの内容
2. 進学や就職の実績
3. 学校行事の状況
4. 部活動の状況
5. 高校の伝統や印象
6. 少人数での教育
7. 高校と地域との連携
8. 学校周辺の環境
9. 施設や設備の充実
10. 通学のしやすさ
11. 資格取得への対応状況
12. 制服
13. その他

設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、どのようなことを評価してほしいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

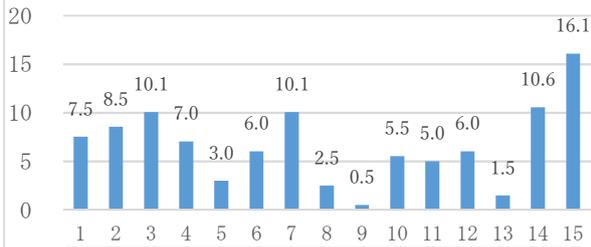


1. その高校や学科・コースに進学したい理由
2. 高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと
3. 進みたい学科・コースに関する知識や技術
4. 高校進学に向けて取り組んだことやがんばったこと
5. 中学校の学習で取り組んだことやがんばったこと
6. 中学校の総合的な学習の時間で取り組んだことやがんばったこと
7. 中学校の生徒会活動や学校行事で取り組んだことやがんばったこと
8. 中学校の部活動で取り組んだことやがんばったこと
9. 中学校の学校生活の中で取り組んだことやがんばったこと
10. 学校生活以外で取り組んだことやがんばったこと
11. 得意なことや好きなこと
12. 将来の夢や目標
13. その他

設問8 あなたの高校生活についてお聞きします。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。

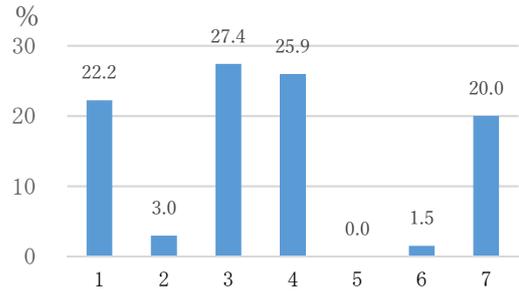


設問10 現在、学んでいる授業以外にどんなことが学習できればよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。



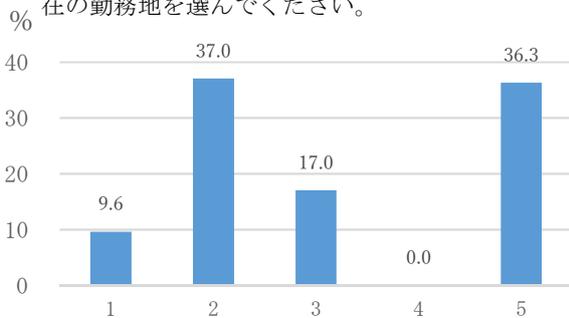
1. アート・デザイン系
2. 音楽系
3. 体育・スポーツ系
4. 家庭系 (調理・被服など)
5. 農業系
6. 工業系
7. AI・ICT・デジタル系
8. 商業系
9. 水産系
10. 医療・看護系
11. 福祉系
12. 保育・教育系
13. その他
14. 現状に満足している
15. 特になし

設問11 あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。



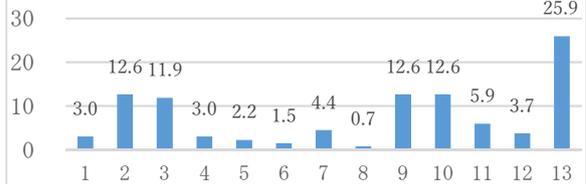
1. 大学
2. 短期大学
3. 専門学校
4. 就職
5. すでに働いている
6. その他
7. 未定(まだ考えていない)

設問12 あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の勤務地を選んでください。



1. 地元(あなたの出身地やその周辺)
2. 高知県内
3. 高知県外
4. 海外
5. 未定(まだ考えていない)

設問13 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方は、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の職業に近いものを選んでください。



1. 農林漁業、動植物、環境などに関する仕事(自然に関する)
2. 機械、電気、化学、ICTなどに関する仕事(科学技術・ものづくり)
3. デザイン、音楽、書籍、ゲームなどに関する仕事(アート・表現)
4. スポーツ選手、インストラクターなど(スポーツに関する)
5. 観光、プライダル、車・電車の運転などに関する仕事(旅・思い出・乗り物)
6. 理美容師、ファッションデザイナーなど(ファッション・ビューティー)
7. 調理師、栄養士、食品の製造・開発などに関する仕事(飲食・調理)
8. 建築、道路工事、インテリアなどに関する仕事(住まい・街づくり)
9. 医師、看護師、介護士、理学療法士など(医療・福祉)
10. 教員、保育士、図書館の司書、塾の講師など(教育)
11. 公務員、弁護士、翻訳者など(行政・法律・国際関係)
12. 銀行、不動産、接客、販売などに関する仕事(金融・ビジネス)
13. その他

《設問4 あなたは、高校までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。》

「30分未満」が50.4%、「30分～1時間未満」が41.5%、「1時間～1時間30分未満」「通学時間は特に気にしない」がそれぞれ3.7%の順である。

《設問5 あなたが進学する高校を選ぶとき、参考にしたものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「高校の体験入学」が21.2%、「中学生の先生による説明」が20.7%、「高校の学校案内（パンフレットなど）」「家族の意見」がそれぞれ15.4%の順である。

《設問6 あなたが進学する高校を選ぶとき、重視したことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「少人数での教育」が26.6%、「通学のしやすさ」が23.2%、「学科やコースの内容」が16.7%の順である。

《設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、どのようなことを評価してほしいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。》

「その高校や学科・コースに進学したい理由」が17.8%、「高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと」が16.1%、「将来の夢や目標」が15.7%の順である。

《設問8 あなたの高校生活についてお聞きします。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。》

（設問8－1 授業や学習へのサポート体制には満足していますか。）

「まあまあ満足している」が44.4%、「大変満足している」が37.8%、「どちらでもない」が16.3%の順である。

（設問8－2 学校行事には満足していますか。）

「まあまあ満足している」が43.0%、「大変満足している」が32.6%、「どちらでもない」が15.6%の順である。

（設問8－3 授業や学校行事以外の活動（部活動や生徒会活動など）では、やりたいことができますか。）

「だいたいできている」が34.8%、「どちらでもない」が25.9%、「かなりできている」が23.7%の順である。

《設問9 あなたが高校で特に身に付けたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「基礎的・基本的な知識や技能」が29.0%、「大学等への進学に必要な学力」16.0%、「一般常

識や社会常識」が 11.8%の順である。

《設問 10 現在、学んでいる授業以外にどんなことが学習できればよいと思いますか。次の中から 2 つまで選んでください。》

「特にない」が 16.1%、「現状に満足している」が 10.6%、「体育・スポーツ系」「AI・ICT・デジタル系」がそれぞれ 10.1%の順である。

《設問 11 あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを 1 つ選んでください。》

「専門学校」が 27.4%、「就職」が 25.9%、「大学」が 22.2%の順である。

《設問 12 あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを 1 つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の勤務地を選んでください。》

「高知県内」が 37.0%、「未定」が 36.3%、「高知県外」が 17.0%の順である。

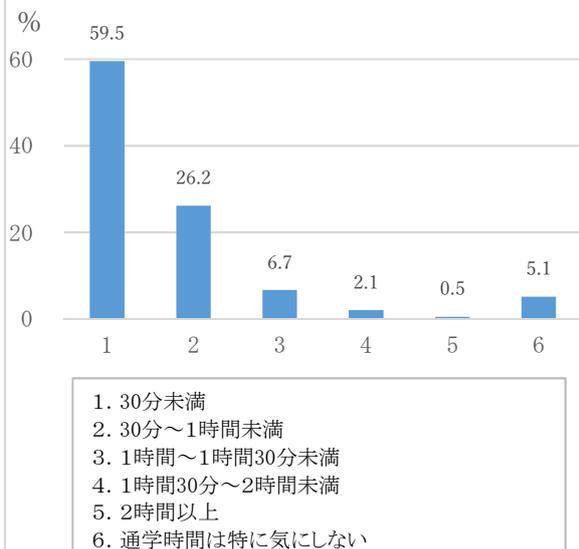
《設問 13 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを 1 つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の職業に近いものを選んでください。》

「その他」が 25.9%、「機械、電気、化学、ICT などに関する仕事」「医師、看護師、介護士、理学療法士など」「教員、保育士、図書館の司書、塾の講師など」がそれぞれ 12.6%、「デザイン、音楽、書籍、ゲームなどに関する仕事」が 11.9%の順である。

(8) 高等学校 定時制 夜間部 生徒

設問1～3は現在お住まいの市町村、学校名及び学年を選択のため省略。

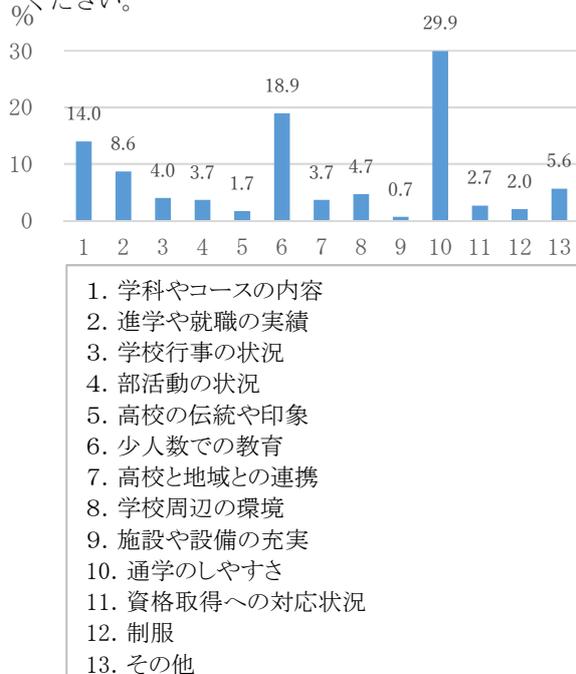
設問4 あなたは、高校までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。



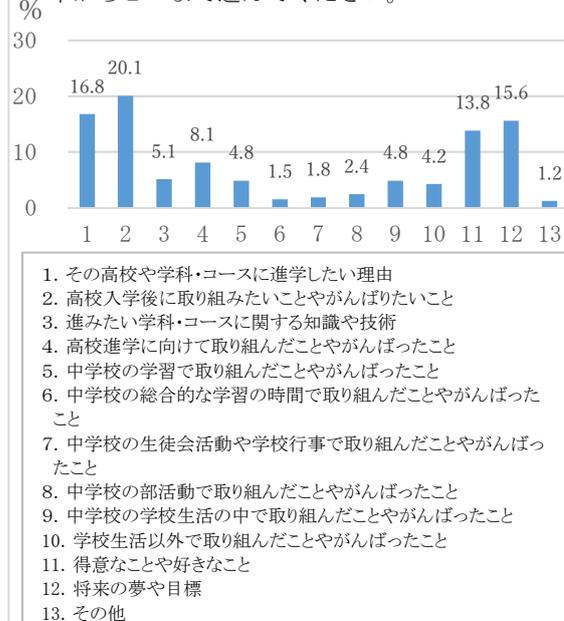
設問5 あなたが進学する高校を選ぶとき、参考にしたものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。



設問6 あなたが進学する高校を選ぶとき、重視したことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

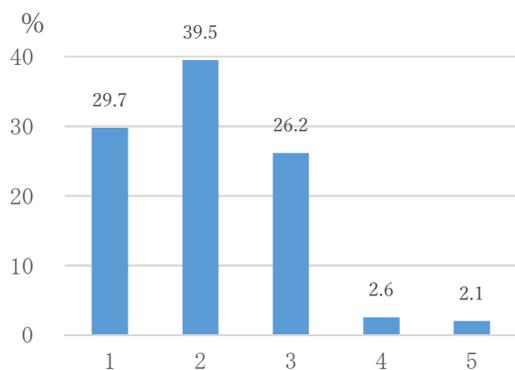


設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、どのようなことを評価してほしいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。



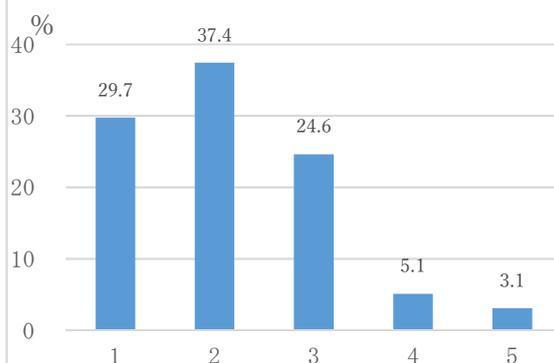
設問8 あなたの高校生活についてお聞きます。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。

設問8-1 授業や学習へのサポート体制には満足していますか。



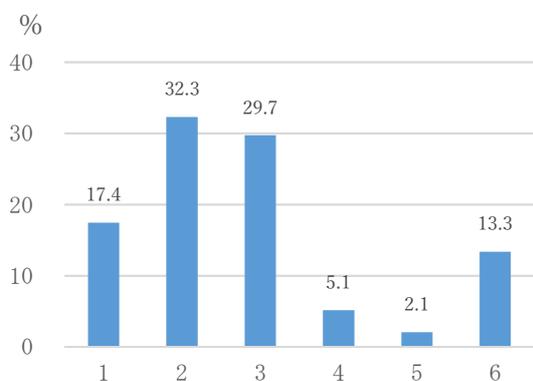
1. 大変満足している
2. まあまあ満足している
3. どちらでもない
4. あまり満足していない
5. 不満である

設問8-2 学校行事には満足していますか。



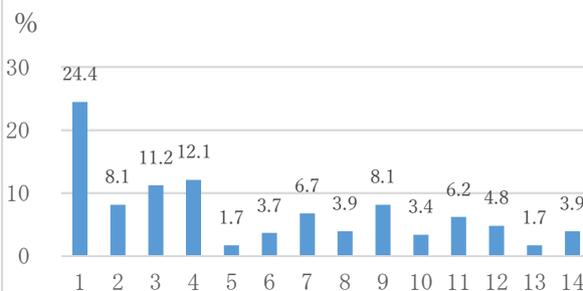
1. 大変満足している
2. まあまあ満足している
3. どちらでもない
4. あまり満足していない
5. 不満である

設問8-3 授業や学校行事以外の活動（部活動や生徒会活動など）では、やりたいことができていますか。



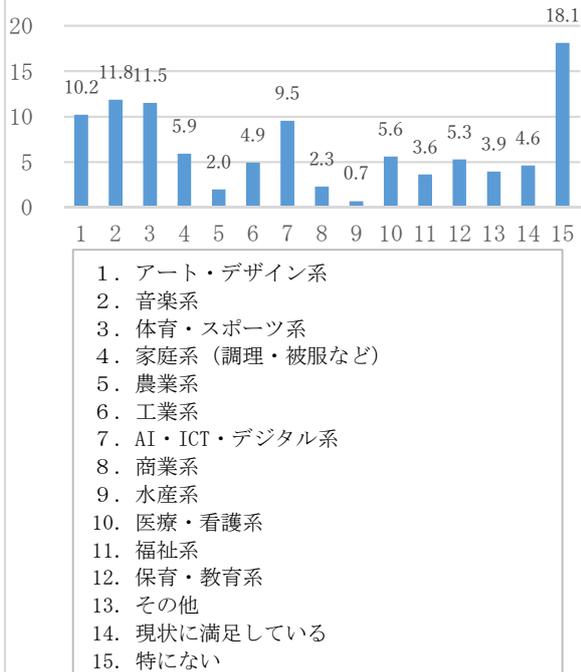
1. かなりできている
2. だいたいできている
3. どちらでもない
4. あまりできていない
5. 全くできていない
6. 活動はしていない

設問9 あなたが高校で特に身に付けたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

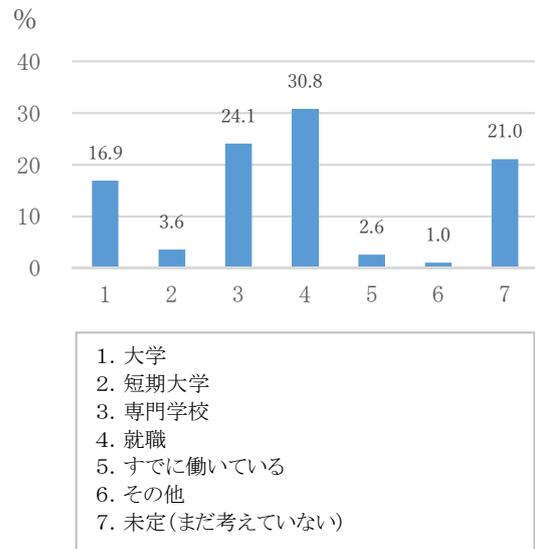


1. 基礎的・基本的な知識や技能
2. 大学等への進学に必要な学力
3. 就職に必要な知識・技能やビジネスマナー
4. 一般常識や社会常識
5. ICTや情報などを活用する力
6. 課題を見つけて解決していく力
7. 考えたことを表現する力
8. スポーツや芸術の知識や技能
9. 良好な人間関係を築く力
10. 様々な環境に適応する力
11. 自己を理解し管理する力
12. 規則正しい生活習慣
13. 地域や国際社会に貢献しようとする意欲や態度
14. 新しいことや困難なことにチャレンジする行動力

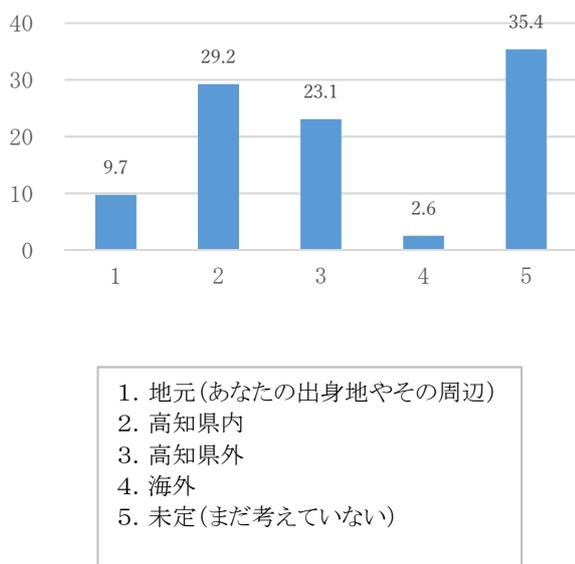
設問10 現在、学んでいる授業以外にどんなことが学習できればよいと思いますか。次%の中から2つまで選んでください。



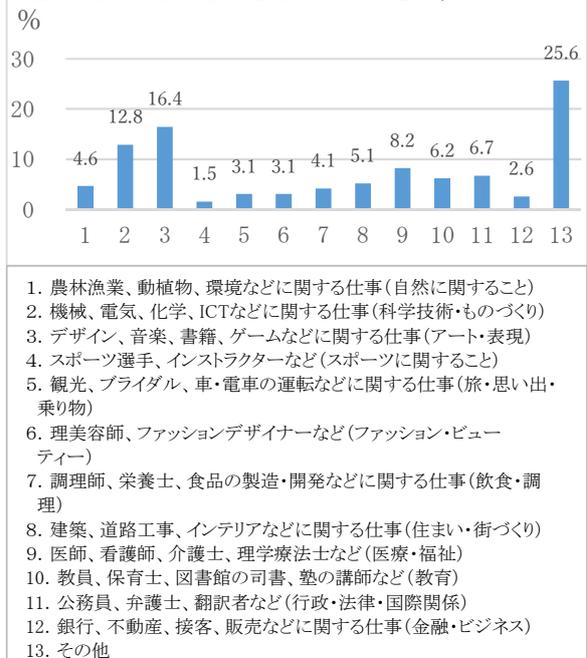
設問11 あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。



設問12 あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の勤務地を選んでください。



設問13 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の職業に近いものを選んでください。



《設問4 あなたは、高校までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。》

「30分未満」が59.5%、「30分～1時間未満」が26.2%、「1時間～1時間30分未満」が6.7%の順である。

《設問5 あなたが進学する高校を選ぶとき、参考にしたものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「家族の意見」が27.4%、「高校の体験入学」が17.1%、「中学校の先生による説明」が15.1%の順である。

《設問6 あなたが進学する高校を選ぶとき、重視したことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「通学のしやすさ」が29.9%、「少人数での教育」が18.9%、「学科やコースの内容」が14.0%の順である。

《設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、どのようなことを評価してほしいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。》

「高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと」が20.1%、「その高校や学科・コースに進学したい理由」が16.8%、「将来の夢や目標」が15.6%の順である。

《設問8 あなたの高校生活についてお聞きします。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。》

（設問8－1 授業や学習へのサポート体制には満足していますか。）

「まあまあ満足している」が39.5%、「大変満足している」が29.7%、「どちらでもない」が26.2%の順である。

（設問8－2 学校行事には満足していますか。）

「まあまあ満足している」が37.4%、「大変満足している」が29.7%、「どちらでもない」が24.6%の順である。

（設問8－3 授業や学校行事以外の活動（部活動や生徒会活動など）では、やりたいことができますか。）

「だいたいできている」が32.3%、「どちらでもない」が29.7%、「かなりできている」が17.4%の順である。

《設問9 あなたが高校で特に身に付けたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「基礎的・基本的な知識や技能」が24.4%、「一般常識や社会常識」が12.1%、「就職に必要な

知識・技能やビジネスマナー」11.2%の順である。

《設問10 現在、学んでいる授業以外にどんなことが学習できればよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。》

「特にない」が18.1%、「音楽系」が11.8%、「体育・スポーツ系」が11.5%の順である。

《設問11 あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。》

「就職」が30.8%、「専門学校」が24.1%、「未定」が21.0%の順である。

《設問12 あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の勤務地を選んでください。》

「未定」が35.4%、「高知県内」が29.2%、「高知県外」が23.1%の順である。

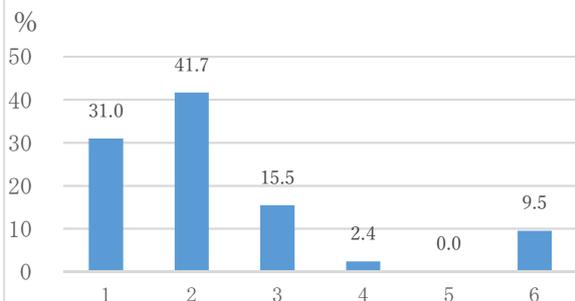
《設問13 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の職業に近いものを選んでください。》

「その他」が25.6%、「デザイン、音楽、書籍、ゲームなどに関する仕事」が16.4%、「機械、電気、化学、ICTなどに関する仕事」が12.8%の順である。

(9) 高等学校 通信制 生徒

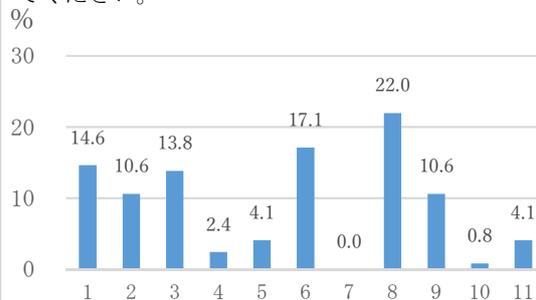
設問1～3は現在お住まいの市町村、学校名及び学年を選択のため省略。

設問4 あなたは、高校までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。



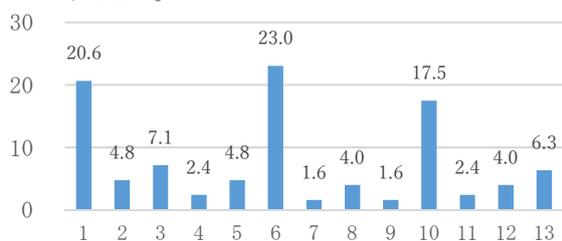
1. 30分未満
2. 30分～1時間未満
3. 1時間～1時間30分未満
4. 1時間30分～2時間未満
5. 2時間以上
6. 通学時間は特に気にしない

設問5 あなたが進学する高校を選ぶとき、参考にしたものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。



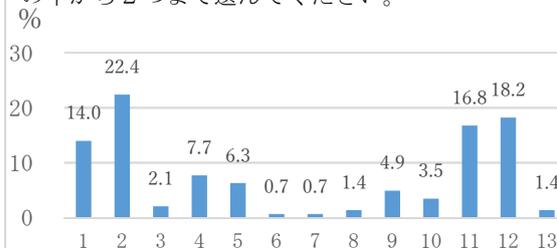
1. 高校の体験入学
2. 高校の先生による学校説明会
3. 高校の学校案内(パンフレットなど)
4. 「こうちハイスクールガイド」
5. 高校の公式ホームページや公式SNS
6. 中学校の先生による説明
7. 塾の先生の説明
8. 家族の意見
9. 友達や先輩の意見
10. 新聞やテレビの情報
11. その他

設問6 あなたが進学する高校を選ぶとき、重視したことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。



1. 学科やコースの内容
2. 進学や就職の実績
3. 学校行事の状況
4. 部活動の状況
5. 高校の伝統や印象
6. 少人数での教育
7. 高校と地域との連携
8. 学校周辺の環境
9. 施設や設備の充実
10. 通学のしやすさ
11. 資格取得への対応状況
12. 制服
13. その他

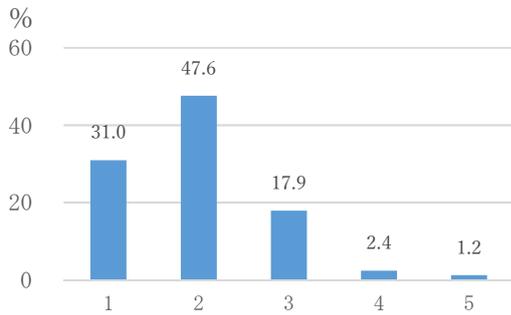
設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、どのようなことを評価してほしいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。



1. その高校や学科・コースに進学したい理由
2. 高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと
3. 進みたい学科・コースに関する知識や技術
4. 高校進学に向けて取り組んだことやがんばったこと
5. 中学校の学習で取り組んだことやがんばったこと
6. 中学校の総合的な学習の時間で取り組んだことやがんばったこと
7. 中学校の生徒会活動や学校行事で取り組んだことやがんばったこと
8. 中学校の部活動で取り組んだことやがんばったこと
9. 中学校の学校生活の中で取り組んだことやがんばったこと
10. 学校生活以外で取り組んだことやがんばったこと
11. 得意なことや好きなこと
12. 将来の夢や目標
13. その他

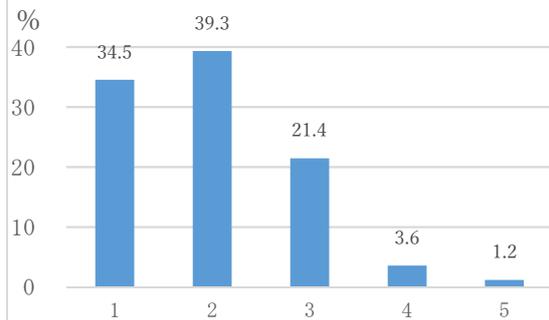
設問8 あなたの高校生活についてお聞きします。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。

設問8-1 授業や学習へのサポート体制には満足していますか。



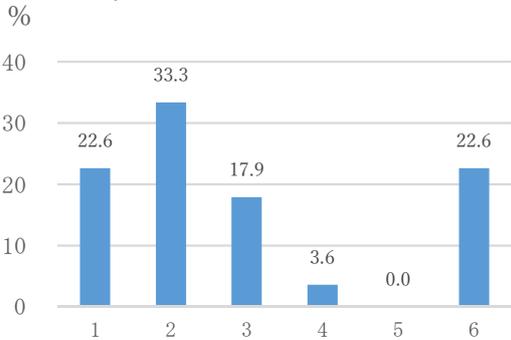
1. 大変満足している
2. まあまあ満足している
3. どちらでもない
4. あまり満足していない
5. 不満である

設問8-2 学校行事には満足していますか。



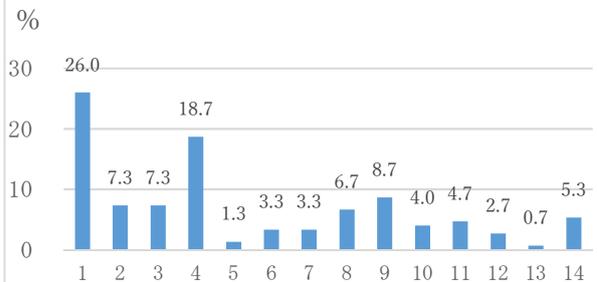
1. 大変満足している
2. まあまあ満足している
3. どちらでもない
4. あまり満足していない
5. 不満である

設問8-3 授業や学校行事以外の活動（部活動や生徒会活動など）では、やりたいことができますか。



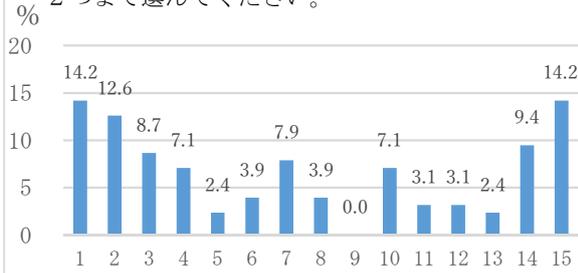
1. かなりできている
2. だいたいできている
3. どちらでもない
4. あまりできていない
5. 全くできていない
6. 活動はしていない

設問9 あなたが高校で特に身に付けたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。



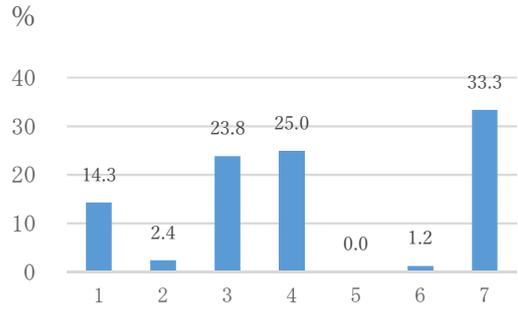
1. 基礎的・基本的な知識や技能
2. 大学等への進学に必要な学力
3. 就職に必要な知識・技能やビジネスマナー
4. 一般常識や社会常識
5. ICTや情報などを活用する力
6. 課題を見つけて解決していく力
7. 考えたことを表現する力
8. スポーツや芸術の知識や技能
9. 良好な人間関係を築く力
10. 様々な環境に適応する力
11. 自己を理解し管理する力
12. 規則正しい生活習慣
13. 地域や国際社会に貢献しようとする意欲や態度
14. 新しいことや困難なことにチャレンジする行動力

設問10 現在、学んでいる授業以外にどんなことが学習できればよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。



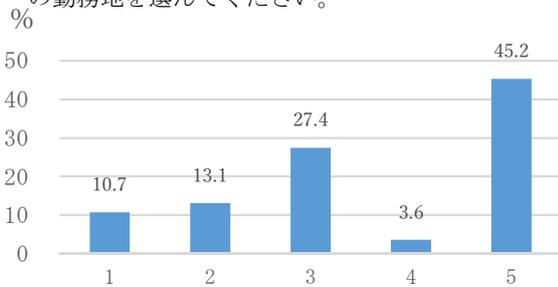
1. アート・デザイン系
2. 音楽系
3. 体育・スポーツ系
4. 家庭系（調理・被服など）
5. 農業系
6. 工業系
7. AI・ICT・デジタル系
8. 商業系
9. 水産系
10. 医療・看護系
11. 福祉系
12. 保育・教育系
13. その他
14. 現状に満足している
15. 特になし

設問11 あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。



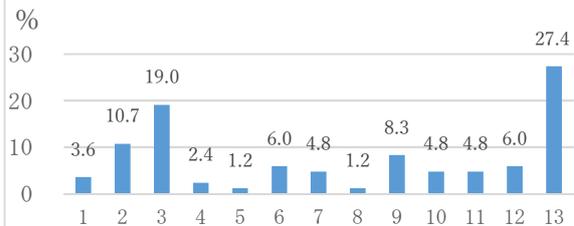
1. 大学
2. 短期大学
3. 専門学校
4. 就職
5. すでに働いている
6. その他
7. 未定(まだ考えていない)

設問12 あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の勤務地を選んでください。



1. 地元(あなたの出身地やその周辺)
2. 高知県内
3. 高知県外
4. 海外
5. 未定(まだ考えていない)

設問13 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の職業に近いものを選んでください。



1. 農林漁業、動植物、環境などに関する仕事(自然に関すること)
2. 機械、電気、化学、ICTなどに関する仕事(科学技術・ものづくり)
3. デザイン、音楽、書籍、ゲームなどに関する仕事(アート・表現)
4. スポーツ選手、インストラクターなど(スポーツに関すること)
5. 観光、プライダル、車・電車の運転などに関する仕事(旅・思い出・乗り物)
6. 理美容師、ファッションデザイナーなど(ファッション・ビューティー)
7. 調理師、栄養士、食品の製造・開発などに関する仕事(飲食・調理)
8. 建築、道路工事、インテリアなどに関する仕事(住まい・街づくり)
9. 医師、看護師、介護士、理学療法士など(医療・福祉)
10. 教員、保育士、図書館の司書、塾の講師など(教育)
11. 公務員、弁護士、翻訳者など(行政・法律・国際関係)
12. 銀行、不動産、接客、販売などに関する仕事(金融・ビジネス)
13. その他

《設問4 あなたは、高校までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。》

「30分～1時間未満」が41.7%、「30分未満」が31.0%、「1時間～1時間30分未満」が15.5%の順である。

《設問5 あなたが進学する高校を選ぶとき、参考にしたものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「家族の意見」が22.0%、「中学校の先生による説明」が17.1%「高校の体験入学」が14.6%の順である。

《設問6 あなたが進学する高校を選ぶとき、重視したことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「少数数での教育」が23.0%、「学科やコースの内容」が20.6%、「通学のしやすさ」が17.5%の順である。

《設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、どのようなことを評価してほしいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。》

「高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと」が22.4%、「将来の夢や目標」が18.2%、「得意なことや好きなこと」16.8%の順である。

《設問8 あなたの高校生活についてお聞きします。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。》

（設問8-1 授業や学習へのサポート体制には満足していますか。）

「まあまあ満足している」が47.6%、「大変満足している」が31.0%、「どちらでもない」が17.9%の順である。

（設問8-2 学校行事には満足していますか。）

「まあまあ満足している」が39.3%、「大変満足している」が34.5%、「どちらでもない」が21.4%の順である。

（設問8-3 授業や学校行事以外の活動（部活動や生徒会活動など）では、やりたいことができていますか。）

「だいたいできている」が33.3%、「かなりできている」「活動はしていない」がそれぞれ22.6%、「どちらでもない」が17.9%の順である。

《設問9 あなたが高校で特に身に付けたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「基礎的・基本的な知識や技能」26.0%、「一般常識や社会常識」18.7%、「良好な人間関係を築く力」8.7%の順である。

《設問 10 現在、学んでいる授業以外にどんなことが学習できればよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。》

「アート・デザイン系」「特にない」がそれぞれ 14.2%、「音楽系」が 12.6%、「現状に満足している」が 9.4%の順である。

《設問 11 あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。》

「未定」が 33.3%、「就職」が 25.0%、「専門学校」が 23.8%の順である。

《設問 12 あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の勤務地を選んでください。》

「未定」が 45.2%、「高知県外」が 27.4%、「高知県内」が 13.1%の順である。

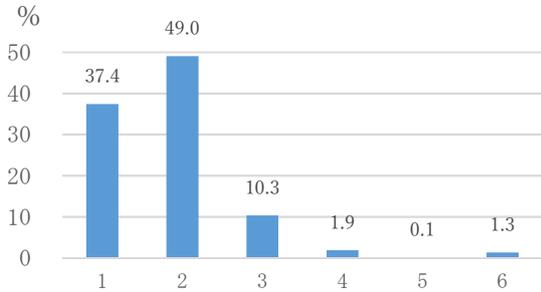
《設問 13 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の職業に近いものを選んでください。》

「その他」が 27.4%、「デザイン、音楽、書籍、ゲームなどに関する仕事」が 19.0%、「機械、電気、化学、ICT などに関する仕事」が 10.7%の順である。

(10) 高等学校 全日制 保護者

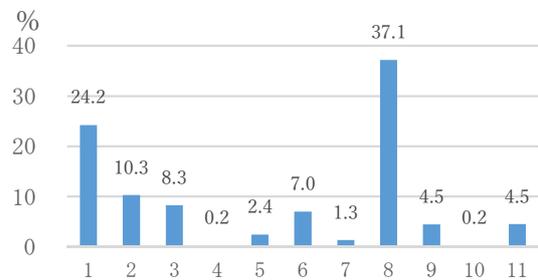
設問1～3は現在お住まいの市町村、学校名及び学科等を選択のため省略。

設問4 お子様のご高校までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。



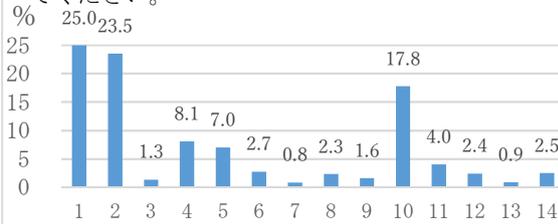
1. 30分未満
2. 30分～1時間未満
3. 1時間～1時間30分未満
4. 1時間30分～2時間未満
5. 2時間以上
6. 通学時間は特に気にしない

設問5 お子様が進学する高校を選ぶとき、参考にしたものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。



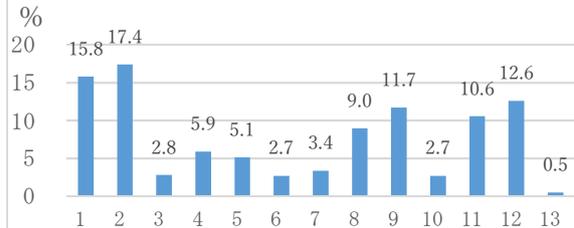
1. 高校の体験入学
2. 高校の先生による学校説明会
3. 高校の学校案内(パンフレットなど)
4. 「こうちハイスクールガイド」
5. 高校の公式ホームページや公式SNS
6. 中学校の先生による説明
7. 塾の先生の説明
8. 子どもの意見
9. 知人の意見
10. 新聞やテレビの情報
11. その他

設問6 お子様が進学する高校を選ぶとき、重視したことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。



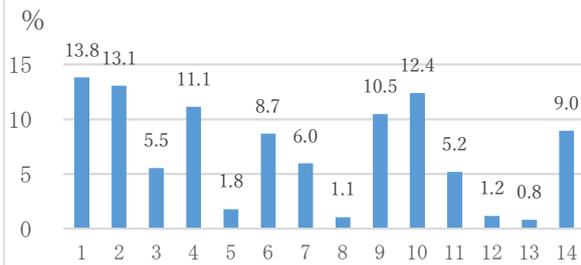
1. 学科やコースの内容
2. 進学や就職の実績
3. 学校行事の状況
4. 部活動の状況
5. 高校の伝統や印象
6. 少人数での教育
7. 高校と地域との連携
8. 学校周辺の環境
9. 施設や設備の充実
10. 通学のしやすさ
11. 資格取得への対応状況
12. 制服
13. 市町村などからの進学支援
14. その他

設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、受験生のどのようなところが評価されるとよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。



1. その高校や学科・コースに進学したい理由
2. 高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと
3. 進みたい学科・コースに関する知識や技術
4. 高校進学に向けて取り組んだことやがんばったこと
5. 中学校の学習で取り組んだことやがんばったこと
6. 中学校の総合的な学習の時間で取り組んだことやがんばったこと
7. 中学校の生徒会活動や学校行事で取り組んだことやがんばったこと
8. 中学校の部活動で取り組んだことやがんばったこと
9. 中学校の学校生活の中で取り組んだことやがんばったこと
10. 学校生活以外で取り組んだことやがんばったこと
11. 得意なことや好きなこと
12. 将来の夢や目標
13. その他

設問8 お子様に高校で特に身に付けてもらいたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。



1. 基礎的・基本的な知識や技能
2. 大学等への進学に必要な学力
3. 就職に必要な知識・技能やビジネスマナー
4. 一般常識や社会常識
5. ICTや情報などを活用する力
6. 課題を見つけて解決していく力
7. 考えたことを表現する力
8. スポーツや芸術の知識や技能
9. 良好な人間関係を築く力
10. 様々な環境に適応する力
11. 自己を理解し管理する力
12. 規則正しい生活習慣
13. 地域や国際社会に貢献しようとする意欲や態度
14. 新しいことや困難なことにチャレンジする行動力

《設問4 お子様の高校までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。》

「30分～1時間未満」が49.0%、「30分未満」が37.4%、「1時間～1時間30分未満」が10.3%の順である。

《設問5 お子様が進学する高校を選ぶとき、参考にしたものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「子どもの意見」が37.1%、「高校の体験入学」が24.2%、「高校の先生による学校説明会」が10.3%の順である。「その他」としては、「家からの距離」「親の母校」「兄弟（姉妹）が通っている」「中高一貫校」「部活動」などの意見があった。

《設問6 お子様が進学する高校を選ぶとき、重視したことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「学科やコースの内容」が25.0%、「進学や就職の実績」が23.5%、「通学のしやすさ」が17.8%の順である。「その他」としては、「子どもの希望」「学力」などの意見があった。

《設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、受験生のどのようなところが評価されるとよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。》

「高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと」が17.4%、「その高校や学科・コースに進学したい理由」が15.8%、「将来の夢や目標」が12.6%の順である。

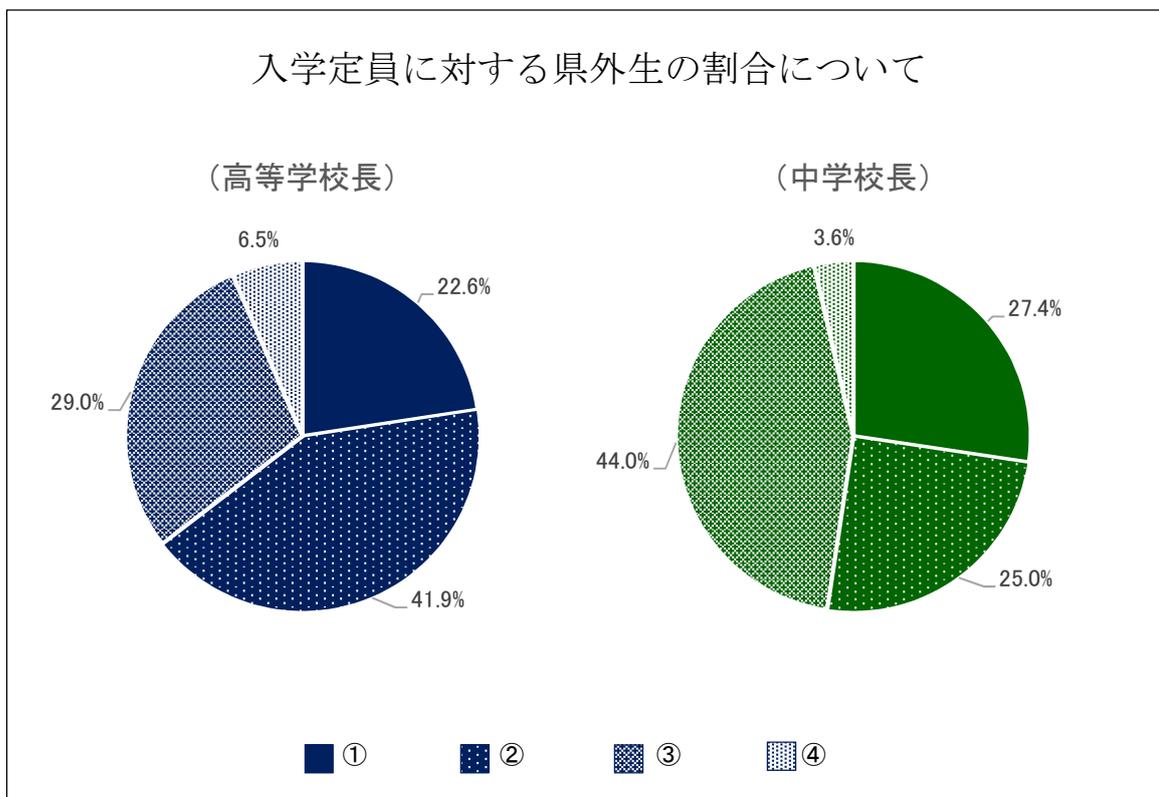
《設問8 お子様に高校で特に身に付けてもらいたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。》

「基礎的・基本的な知識や技能」が13.8%、「大学等への進学に必要な学力」が13.1%、「様々な環境に適応する力」が12.4%の順である。

(11) 縣市町村（学校組合）立中学校の校長及び県立中学校・高等学校の校長

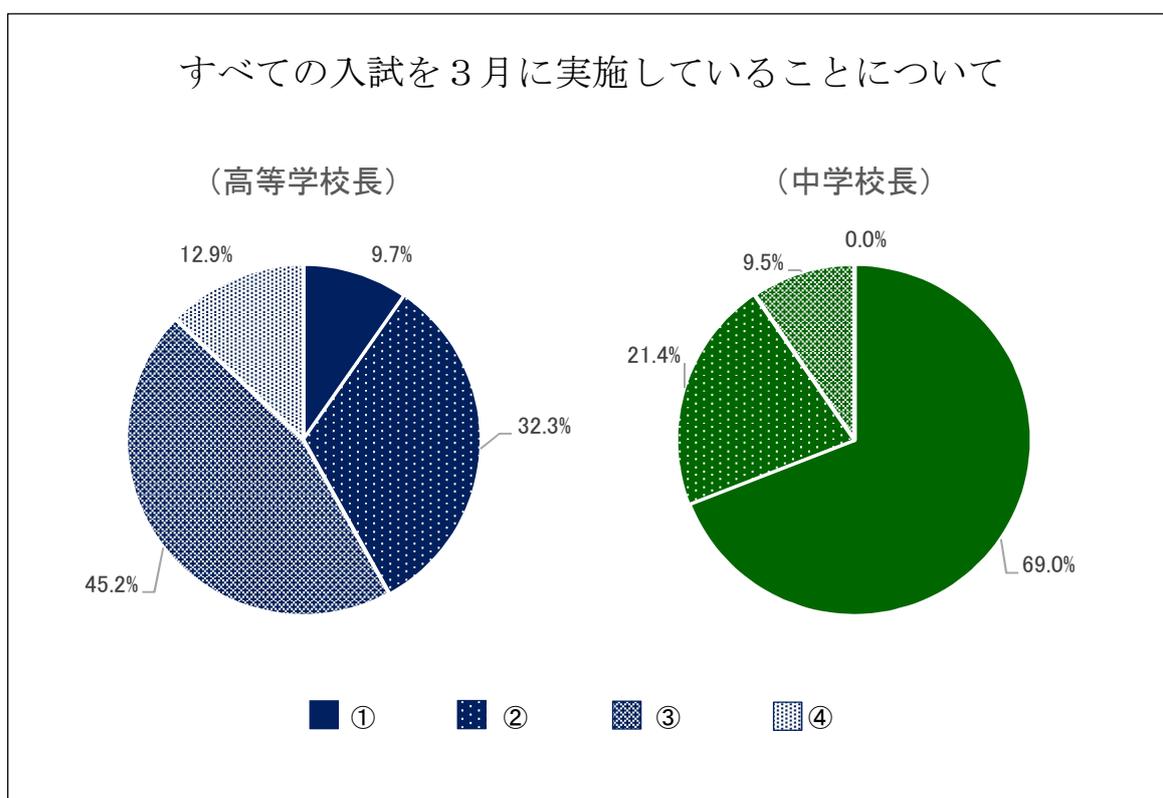
設問1 県立高校の入学定員に対する県外生の割合（一家転住を除く）について、どう思いますか。ご自身の考えに最も近いものを1つ選んでください。

- ① すべての県立高校で、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）は特に定めずに、募集した方がよいと思う。
- ② 近年の志願者数や定員充足率等を踏まえたうえで、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）を定める県立高校と定めない県立高校とをそれぞれ決定し、募集した方がよいと思う。
- ③ すべての県立高校で、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）を決定した方がよいが、その割合については、近年の志願者数や定員充足率等を踏まえたうえで、学校により異なる割合とし、募集した方がよいと思う。
- ④ すべての県立高校で、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）を統一したうえで、募集した方がよいと思う。



設問2 公立高校入試のA日程、B日程、C日程をすべて3月に実施していることについて、どう思いますか。ご自身の考えに最も近いものを1つ選んでください。

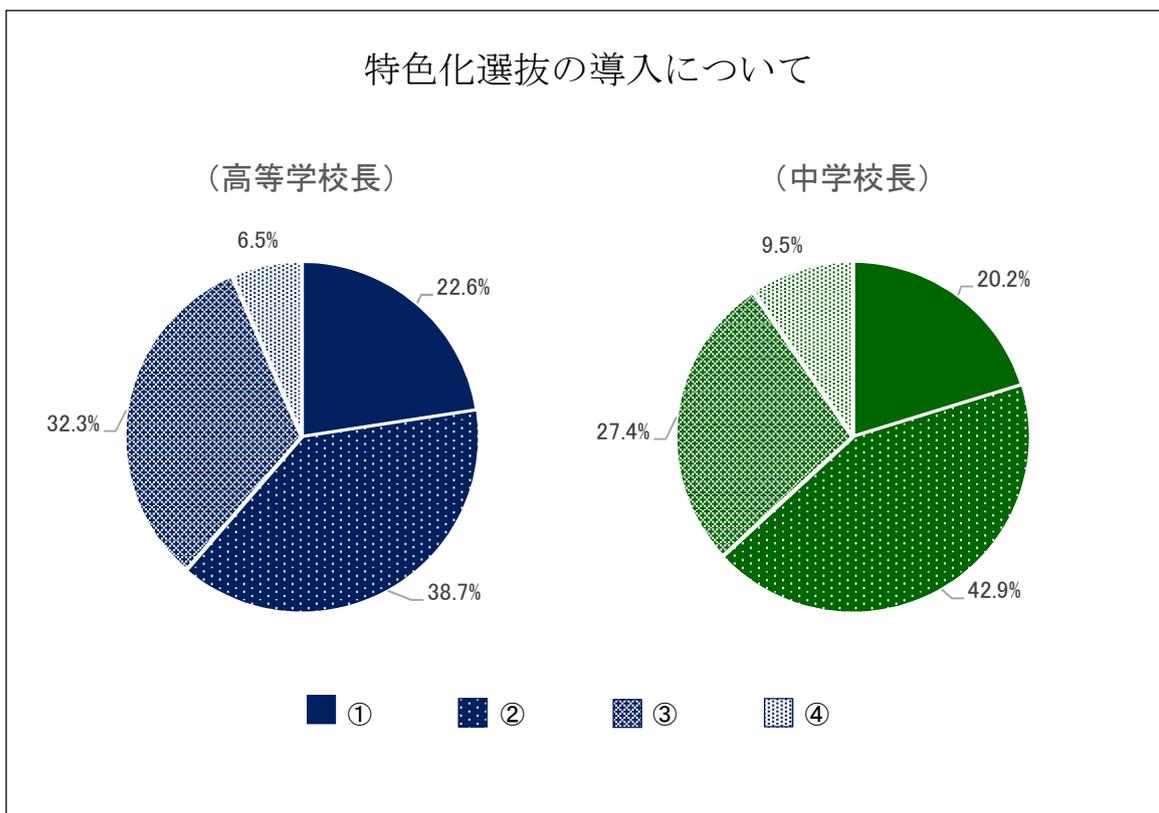
- ① よいと思う
- ② どちらかといえばよいと思う
- ③ どちらかといえばよくないと思う
- ④ よくないと思う



設問3 他県においてすでに実施している特色化選抜の導入について、どう思いますか。ご自身の考えに最も近いものを1つ選んでください。

※ 特色化選抜とは、志願者の目的意識や主体性をより重視する選抜方法のことで、志願者は、熱心に取り組んできたことや、志願先高等学校が示す「求める生徒像」に向けて努力したことを生かして受検することができます。また、各高等学校は、各校が実施する検査や志願理由書等を通して、「目的意識」や「学びに向かう力」、「思考力、判断力、表現力等」を総合的に判断します。

- ① 導入した方がよいと思う
- ② どちらかといえば導入した方がよいと思う
- ③ どちらかといえば導入しない方がよいと思う
- ④ 導入しない方がよいと思う

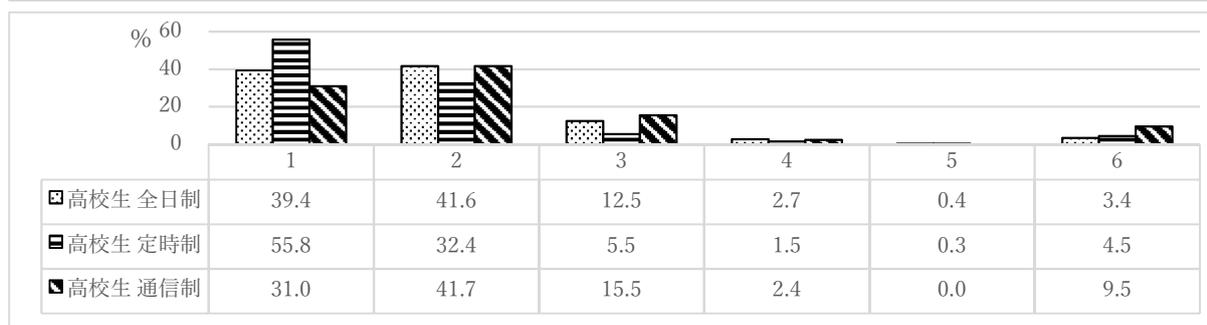
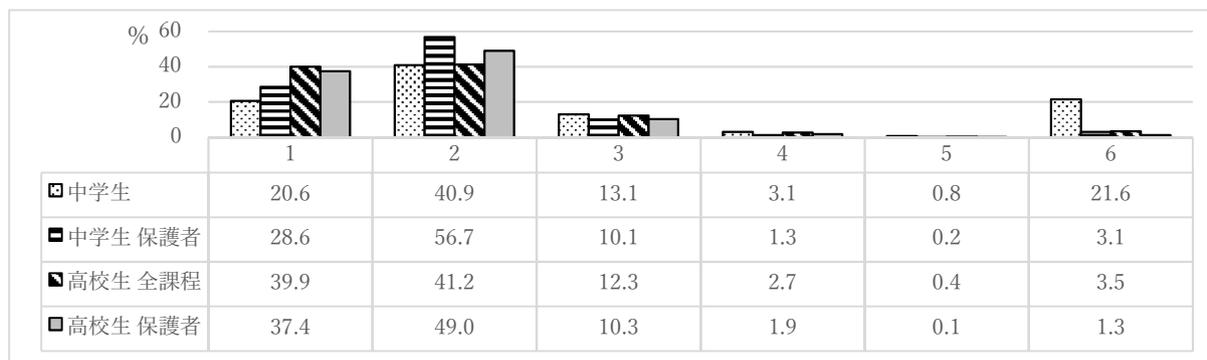


5 設問毎の比較（中学生・高校生 生徒と保護者）

（1）通学時間に関する設問

あなたは、（お子様の）進学先（高校等）までの通学時間（片道）は、どれくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合（％）>



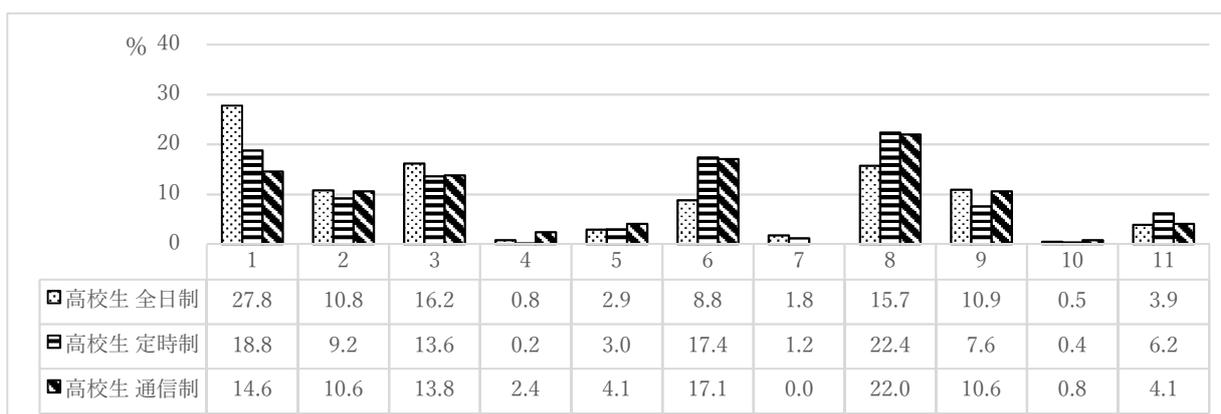
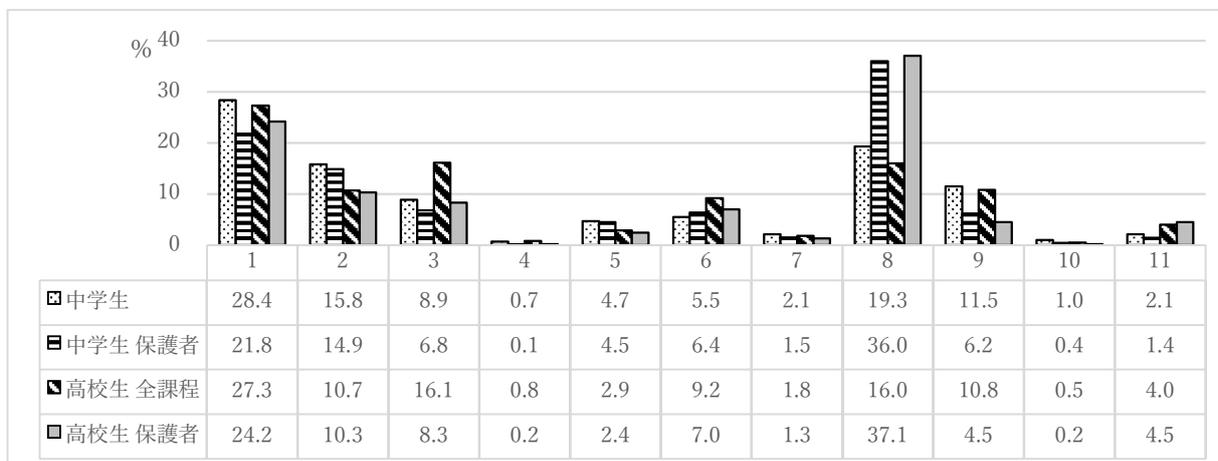
1. 30分未満 2. 30分～1時間未満 3. 1時間～1時間30分未満
4. 1時間30分～2時間未満 5. 2時間以上 6. 通学時間は特に気にしない

- ① 定時制の高校生以外の回答者は「30分～1時間未満」を一番多く選び、定時制の高校生は「30分未満」が半数以上を占めている。定時制課程は学科等を選ぶ選択肢が少ないことや、有職者は通学時間も限られることから、自宅または職場から最も近く通いやすいところを選んでいると考えられる。
- ② 中学生は「通学時間は特に気にしない」とした割合が他の回答者と比べて高く、自分の行きたい学校に対しては時間がかかっても通いたいと考えていると推察される。
- ③ 通信制の高校生は「1時間～1時間30分未満」とした割合が他の回答者と比べて高い。通信制は2校しかなくスクーリングで通う必要があるが、選択肢がないという状況から少し遠くてもやむを得ないと判断された可能性がある。

(2) 高校選びのポイントに関する設問

あなたが（お子様が）進学する高校等を選ぶとき、参考にしている（したい）（した）ものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合（％）>

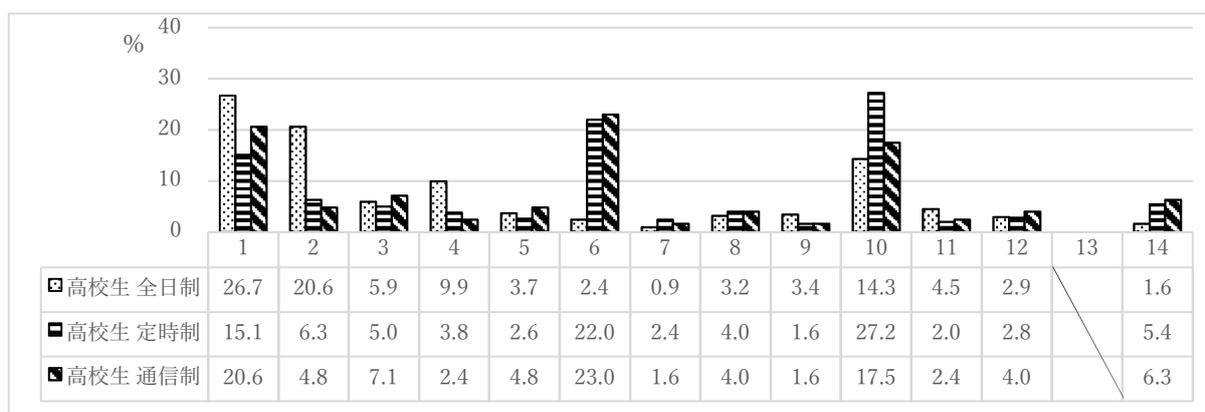
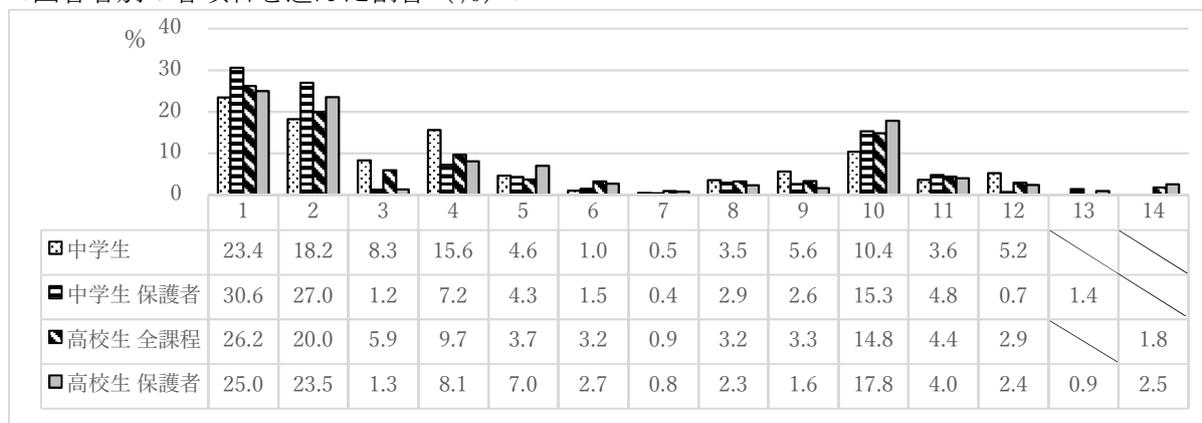


1. 高校の体験入学 2. 高校の先生による学校説明会 3. 高校の学校案内（パンフレットなど）
 4. 「こうちハイスクールガイド」 5. 高校の公式ホームページや公式SNS
 6. 中学校の先生による説明 7. 塾の先生の説明 8. 家族の意見（子どもの意見）
 9. 友達や先輩の意見（知人の意見） 10. 新聞やテレビの情報 11. その他

- ① どの回答者も「高校の体験入学」とした割合が高く、自ら体験して選択することが多い。また、中学生と高校生の保護者は「家族の意見（子どもの意見）」を一番多く選んでおり、子どもの思いを大切に高校選択をしていることがわかる。
- ② 全体的に「高校の先生による学校説明会」、「高校の学校案内（パンフレットなど）」とした割合も高く、高校から発信された情報をもとに学校を選んでいることがわかる。高校側の情報発信を充実させていく必要があると考えられる。

あなた（お子様）が進学する高校を選ぶとき、重視した（する）ことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合（％）>

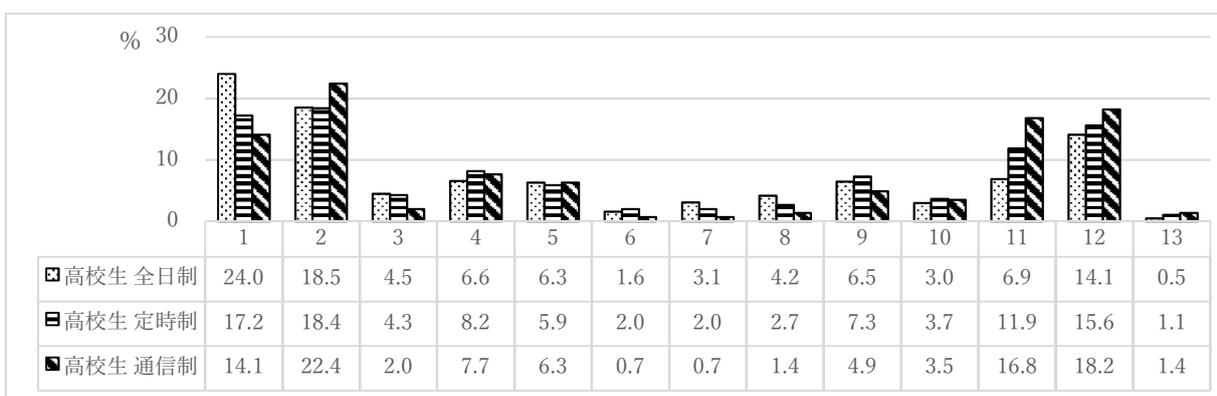
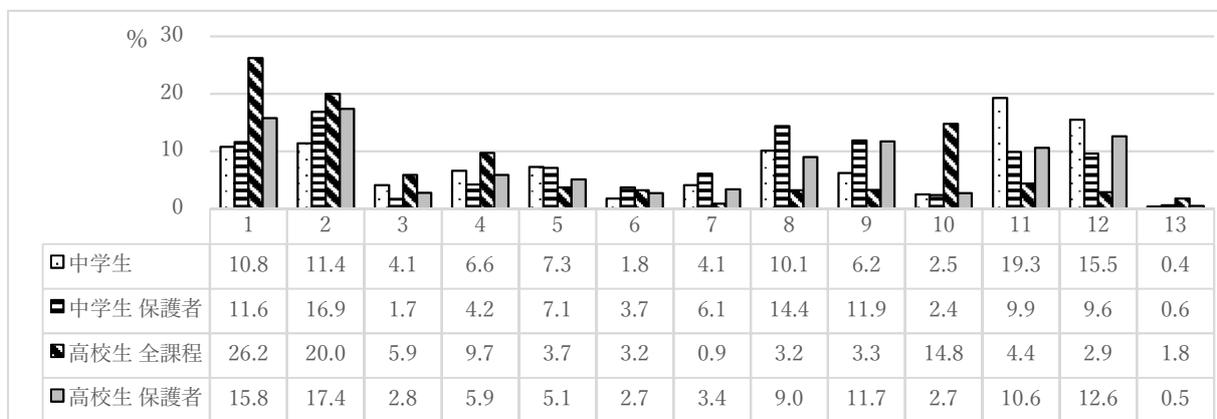


1. 学科やコースの内容 2. 進学や就職の実績 3. 学校行事の状況 4. 部活動の状況
 5. 高校の伝統や印象 6. 少人数での教育 7. 高校と地域との連携 8. 学校周辺の環境
 9. 施設や設備の充実 10. 通学のしやすさ 11. 資格取得への対応状況 12. 制服
 13. 市町村などからの進学支援 14. その他

- ① 定時制と通信制の高校生以外の回答者は「学科やコースの内容」を一番多く選んでおり、「進学や就職の実績」を二番目に選んでいる。学校で何を取り組めるか、卒業生の進路状況を踏まえて高校を選んでいると推察される。
- ② 定時制と通信制の高校生は「少人数での教育」、「通学のしやすさ」とした割合が高い。定時制、通信制の学校の特長に沿うものとなっている。
- ③ 中学生は「部活動の状況」とした割合も高く、部活動は高校選択の大きな理由の一つとなっている。また、「通学のしやすさ」とした割合も高いことから、通学できる場所に学校があるという意識も大きいと考えられる。

高校入試のときに、学力検査以外で、(お子様の) どのようなことを (どのようなところが) 評価してほしい (されるとよい) と思いますか。次の中から2つまで選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合 (%) >



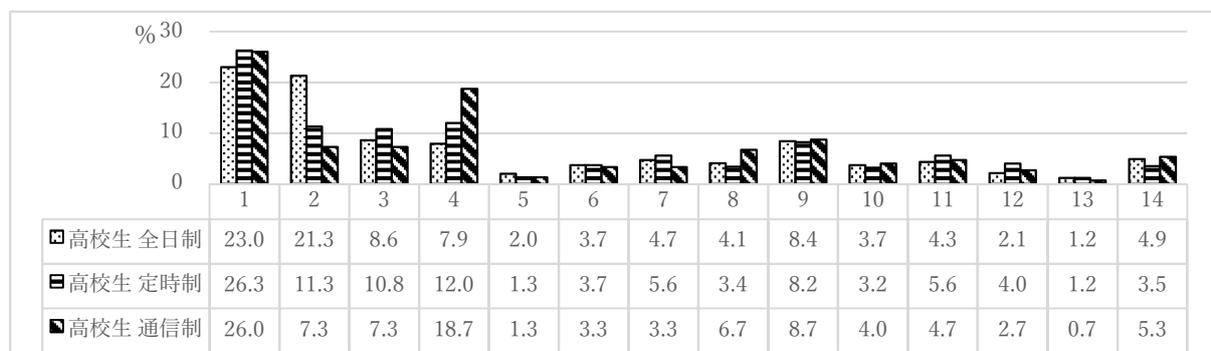
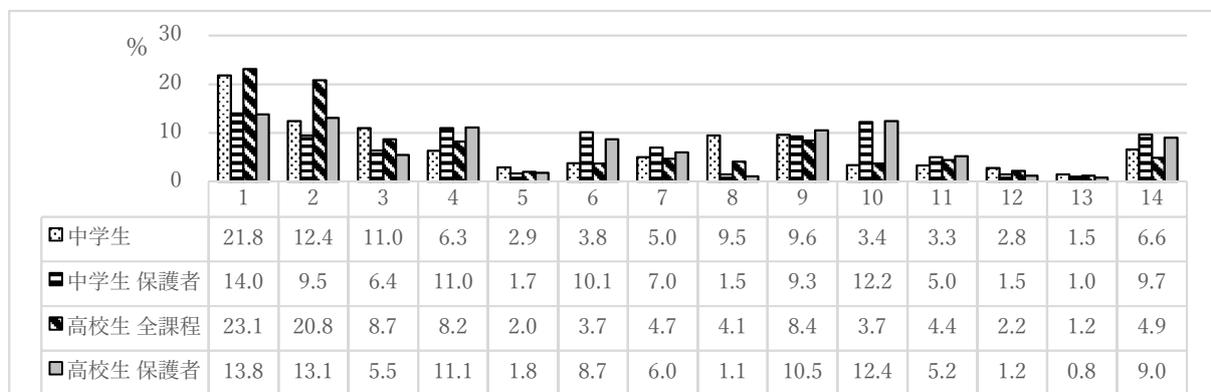
1. その高校や学科・コースに進学したい理由
2. 高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと
3. 進みたい学科・コースに関する知識や技術
4. 高校進学に向けて取り組んだことやがんばったこと
5. 中学校の学習で取り組んだことやがんばったこと
6. 中学校の総合的な学習の時間で取り組んだことやがんばったこと
7. 中学校の生徒会活動や学校行事で取り組んだことやがんばったこと
8. 中学校の部活動で取り組んだことやがんばったこと
9. 中学校の学校生活の中で取り組んだことやがんばったこと
10. 学校生活以外で取り組んだことやがんばったこと
11. 得意なことや好きなこと
12. 将来の夢や目標
13. その他

- ① 中学生とその保護者は「中学校の部活動で取り組んだことやがんばったこと」とした割合が他の回答者と比べて高く、高校入試において部活動での取り組みへの評価が重要であるという意識が高いと考えられる。
- ② 中学生は「得意なことや好きなこと」、「将来の夢や目標」とした割合が高く、抽象的なことを評価してほしいと考えている。また、高校生になると学校生活で体験したことも踏まえて、「その高校や学科・コースに進学したい理由」、「高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと」とした割合が高く、具体的なことを評価してほしいと考えている。

(3) 高校在学中に関する設問

あなたが（お子様に）高校等で身に付けたい（身に付けてもらいたい）力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合（％）>

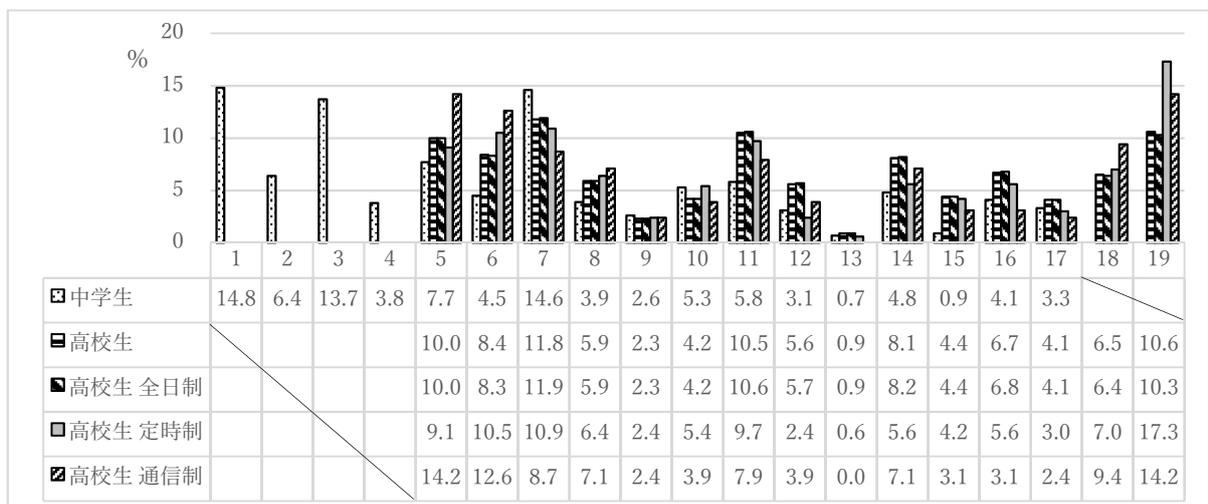


1. 基礎的・基本的な知識や技能 2. 大学等への進学に必要な学力
 3. 就職に必要な知識・技能やビジネスマナー 4. 一般常識や社会常識
 5. ICTや情報などを活用する力 6. 課題を見つけて解決していく力 7. 考えたことを表現する力
 8. スポーツや芸術の知識や技能 9. 良好な人間関係を築く力 10. 様々な環境に適応する力
 11. 自己を理解し管理する力 12. 規則正しい生活習慣
 13. 地域や国際社会に貢献しようとする意欲や態度 14. 新しいことや困難なことにチャレンジする行動力

- ① 中学生と全日制の高校生は「基礎的・基本的な知識や技能」、「大学等への進学に必要な学力」、「就職に必要な知識・技能やビジネスマナー」とした割合が高い。これは、高校卒業後の進路を見据えて力を付けていきたいと考えていると推測できる。
- ② 保護者は「一般常識や社会常識」、「課題を見つけて解決していく力」、「様々な環境に適応する力」とした割合も高く、社会に出て必要となる力を身に付けてほしいと考えている。
- ③ ①②より生徒は学力等を重視しているが、保護者はSociety5.0に代表される変化の激しい社会を生きていくための力を身に付けてほしいと考えている。
- ④ 定時制と通信制の生徒は「基礎的・基本的な知識や技能」に加えて「一般常識や社会常識」、「就職に必要な知識・技能やビジネスマナー」とした割合も高く、社会に出てからのことを意識していると考えられる。

あなたは高校等で特に何を学びたいですか（現在、学んでいる授業以外にどんなことが学習できればよいと思いますか）。次の中から2つまで選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合（％）>



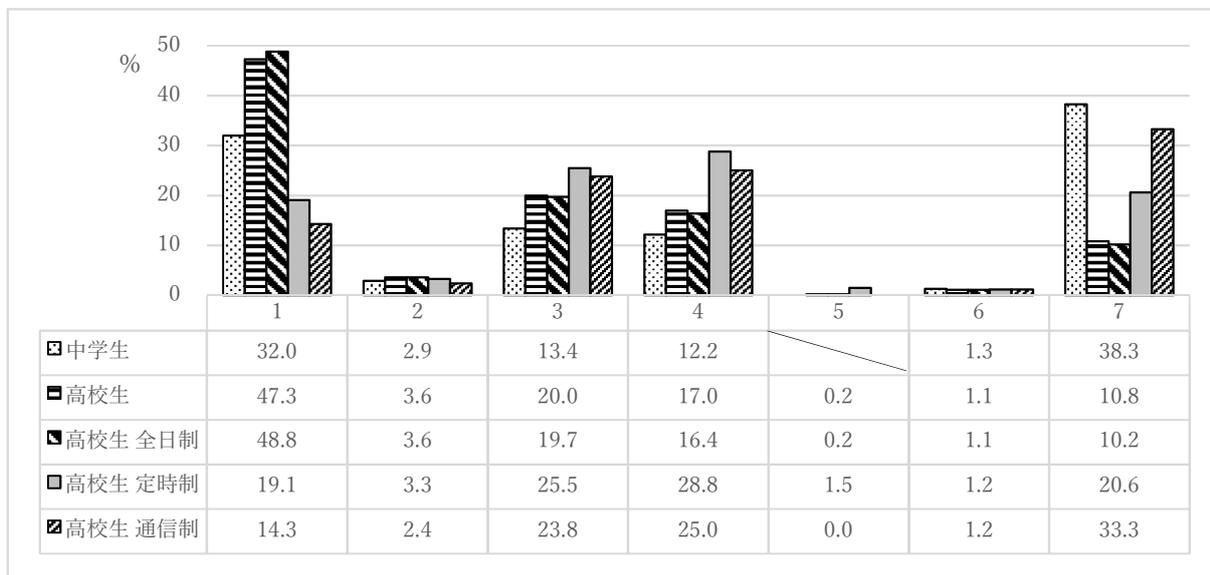
1. 人文系（国語、英語、地理、歴史など） 2. 社会科学系（政治、経済、法律など）
 3. 自然科学系（理科、数学など） 4. 国際系（実践的な語学、国際関係など）
 5. アート・デザイン系 6. 音楽系 7. 体育・スポーツ系 8. 家庭系（調理・被服など）
 9. 農業系 10. 工業系 11. AI・ICT・デジタル系 12. 商業系 13. 水産系
 14. 医療・看護系 15. 福祉系 16. 保育・教育系 17. その他 18. 現状に満足している
 19. 特になし

- ① 中学生はこれまで学んできた5教科を中心に学習をしていきたいと考えているほか「体育・スポーツ系」を学びたい生徒が多い。
- ② 全日制の高校生は、学んでいる授業以外で「AI・ICT・デジタル系」とした割合が他の回答者と比べて高く、今後社会に出たときに必要とされているスキルを身に付けたいと考えている。
- ③ 通信制の高校生は「アート・デザイン系」や「音楽系」に興味のある生徒が多いのに対し、「AI・ICT・デジタル系」とした割合は低く他の課程の生徒と異なる。

(4) 卒業後の進路に関する設問

あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合 (%)>

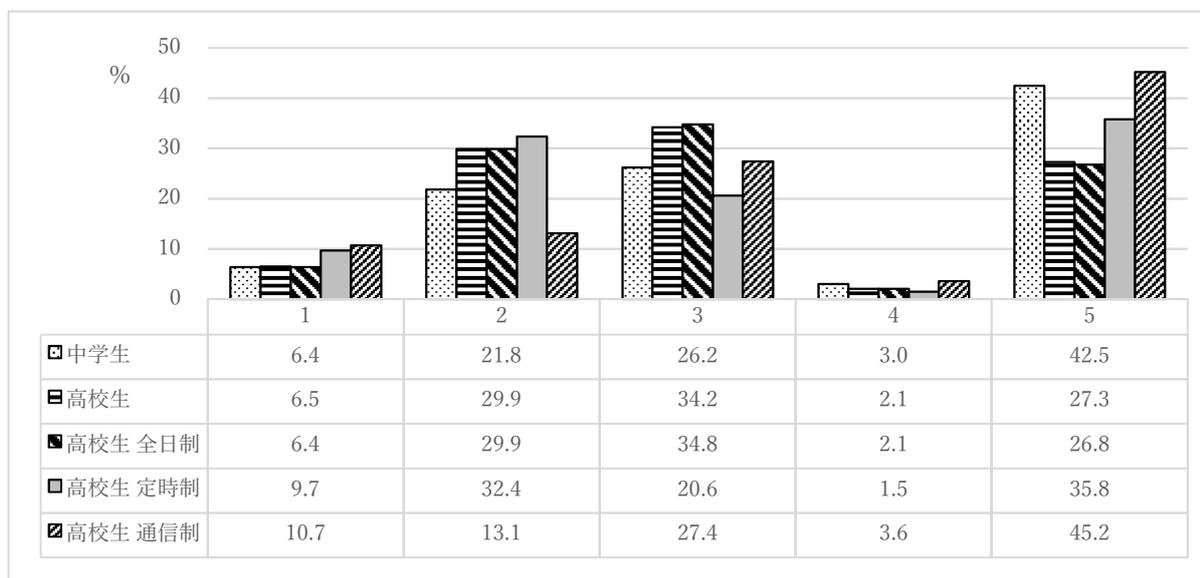


1. 大学 2. 短期大学 3. 専門学校 4. 就職 5. すでに働いている 6. その他
7. 未定 (まだ考えていない)

- ① 中学生は「未定 (まだ考えていない)」とした割合が高いが、高校生になると進路にも意識が高まり大学や専門学校への進学希望者が多くなっている。
- ② 定時制・通信制の高校生は、「大学」への進学希望者が少なく、「専門学校」と「就職」を希望している者が多い。また、「未定 (まだ考えていない)」の人も多い。定時制・通信制の高校生に対する進路意識の醸成について検討する必要がある。

あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の勤務地を選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合 (%)>

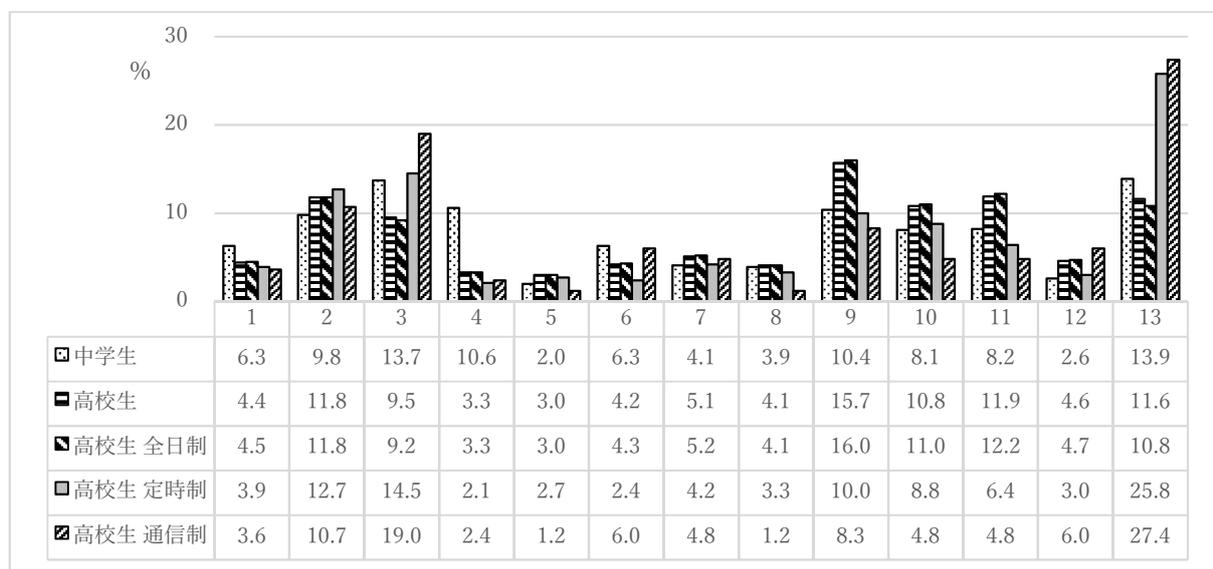


1. 地元（あなたの出身地やその周辺） 2. 高知県内 3. 高知県外 4. 海外
5. 未定（まだ考えていない）

- ① 全日制の高校生は「高知県外」への就職を希望している割合が高く、「地元」への就職を望む人は少ない。この結果から地域の担い手となる人が少なくなる可能性が高い。地元企業を知る機会の確保や選択する具体的理由を掘り下げた分析が必要である。
- ② 中学生及び定時制、通信制の高校生は「未定（まだ考えていない）」とした割合が一番高くなっている。また、定時制の高校生は「高知県内」での就職希望が多く、通信制の高校生は「高知県外」への就職希望が多い。

あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の職業に近いものを選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合 (%)>



1. 農林漁業、動植物、環境などに関する仕事（自然に関すること）
2. 機械、電気、化学、ICTなどに関する仕事（科学技術・ものづくり）
3. デザイン、音楽、書籍、ゲームなどに関する仕事（アート・表現）
4. スポーツ選手、インストラクターなど（スポーツに関すること）
5. 観光、ブライダル、車・電車の運転などに関する仕事（旅・思い出・乗り物）
6. 理美容師、ファッションデザイナーなど（ファッション・ビューティー）
7. 調理師、栄養士、食品の製造・開発などに関する仕事（飲食・調理）
8. 建築、道路工事、インテリアなどに関する仕事（住まい・街づくり）
9. 医師、看護師、介護士、理学療法士など（医療・福祉）
10. 教員、保育士、図書館の司書、塾の講師など（教育）
11. 公務員、弁護士、翻訳者など（行政・法律・国際関係）
12. 銀行、不動産、接客、販売などに関する仕事（金融・ビジネス）
13. その他

- ① 中学生は「アート・表現」、「スポーツに関すること」とした割合が高く、高校生は「医療・福祉」、「行政・法律・国際関係」とした割合が高い。高校生は現実を見て仕事として就きやすいところや、安定性を重視していることが推察される。
- ② 全日制の高校生は「行政・法律・国際関係」への就職を希望している割合が高く、定時制・通信制の高校生は「アート・表現」の職に就くことを希望している生徒が多い。定時制・通信制の高校生は発想力や表現力を要する仕事を希望している割合が高い。
- ③ 全体的に「その他」の割合が高いが、選択肢にない職業を希望している、或いは現在は存在していない職業で将来的に必要となってくる職業を希望している可能性があることが推察される。

6 高等学校再編振興に係るアンケート調査（平成 23 年実施）との比較

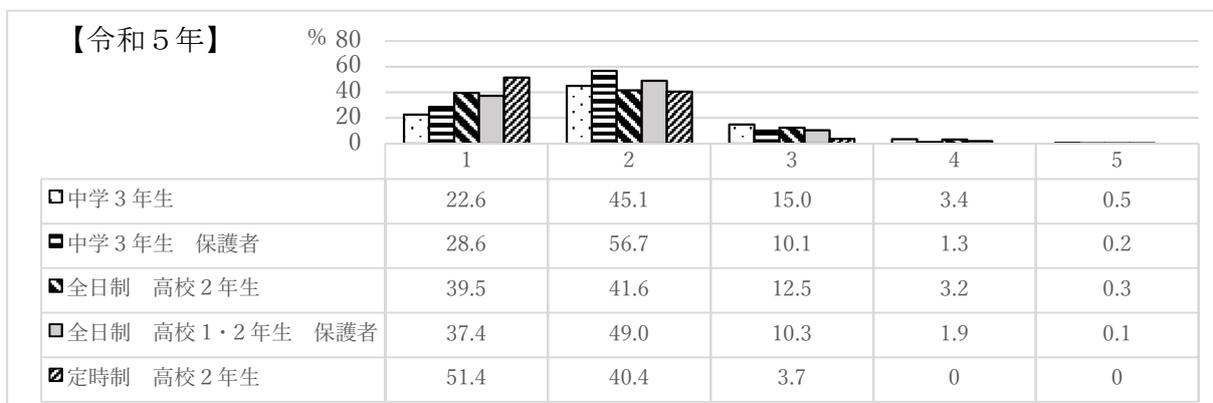
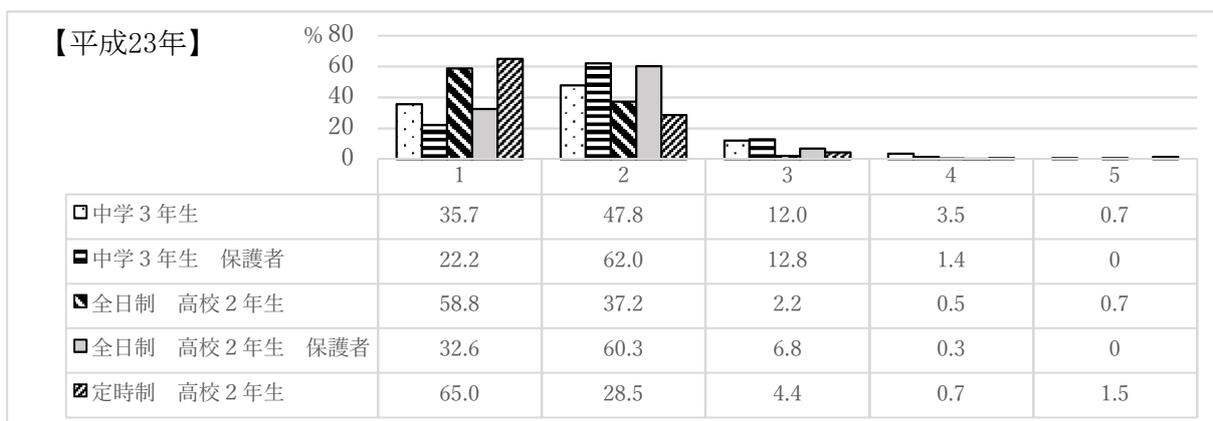
（中学生・高校生 生徒と保護者）

※両年度共通の設問、選択肢のみを抽出し比較しているため、全体の回答割合が 100%とならない場合があります。

（1）通学時間に関する設問

あなたは、（お子様の）進学先（高校等）までの通学時間（片道）は、どれくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から 1 つ選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合（％）>



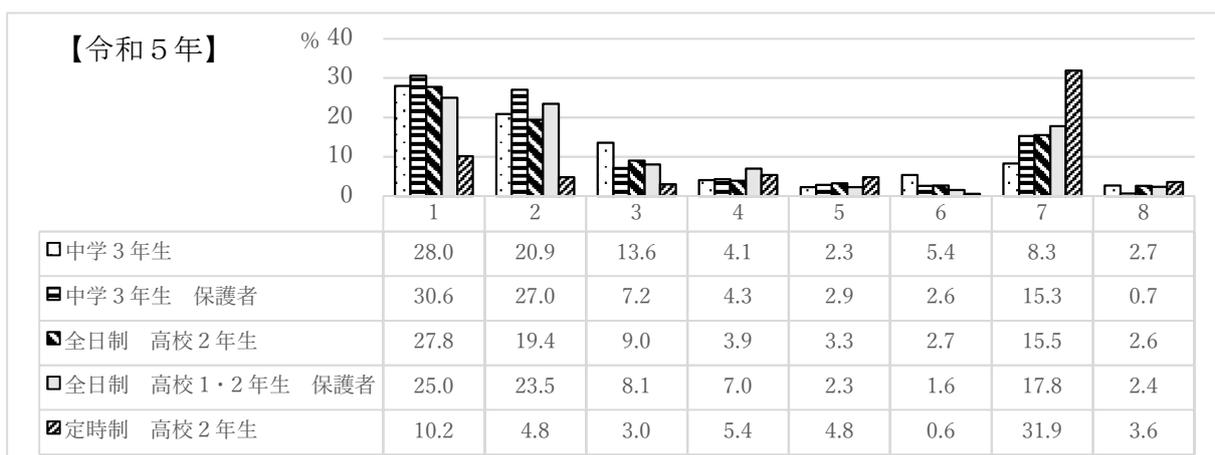
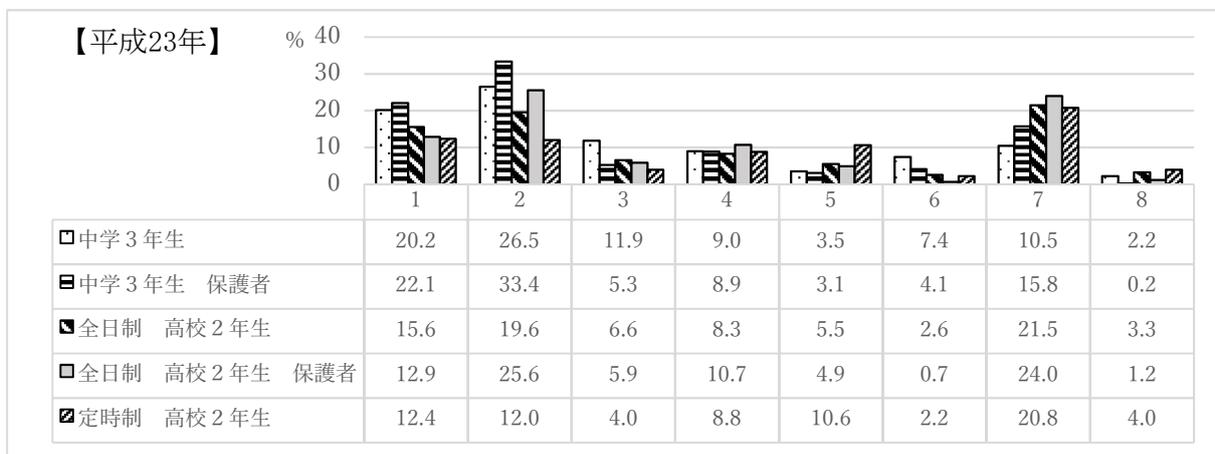
1. 30 分未満 2. 30 分～1 時間未満 3. 1 時間～1 時間 30 分未満 4. 1 時間 30 分～2 時間未満
5. 2 時間以上

- ① 「30 分未満」とした割合でみると、中学生、高校生は令和 5 年に比べて平成 23 年が高く、その保護者は平成 23 年に比べて令和 5 年が高い。通学時間が多少かかってもかまわないと考える生徒が増えている。それに対し、自宅から近く通いやすい高校を望んでいる保護者が増加したと推察できる。
- ② どちらにおいても定時制の高校生は「30 分未満」とした割合が半数以上を占めており、有職者は通学時間も限られることから依然として自宅または職場から最も近く通いやすいところを選んでいられると考えられる。

(2) 高校選びのポイントに関する設問

あなた（お子様）が進学する高校を選ぶとき、重視した（する）ことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合（％）>



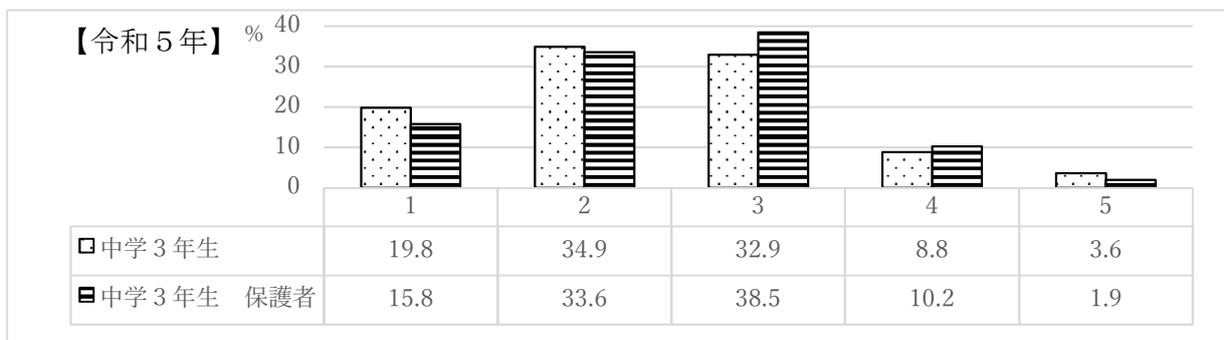
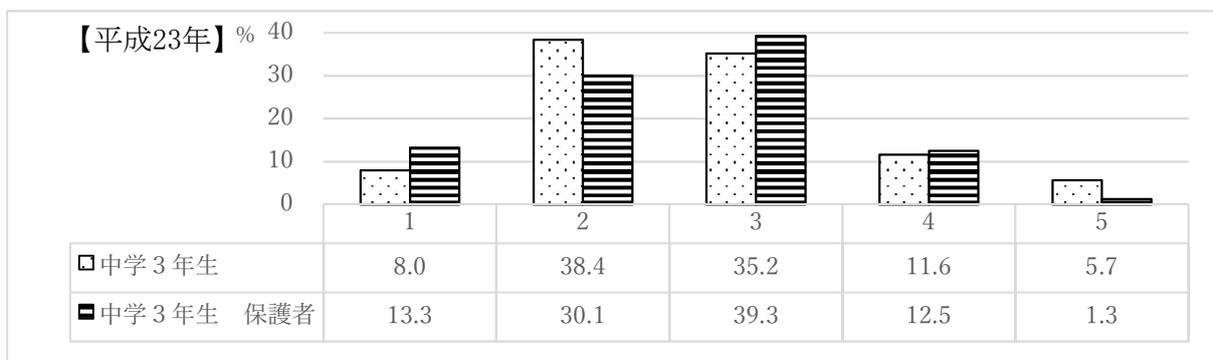
1. 学科やコースの内容 2. 進学や就職の実績 3. 部活動の状況 4. 高校の伝統や印象
5. 学校周辺の環境 6. 施設や設備の充実 7. 通学のしやすさ 8. 制服

- ① 定時制の高校生以外の回答者は、平成23年においては「進学や就職の実績」または「通学のしやすさ」を一番に選んでいるが、令和5年においては「学科やコースの内容」が一番多く選ばれている。生徒、保護者を含めて教育内容への関心が高まっていることがうかがえる。
- ② 定時制の高校生は、平成23年においては「通学のしやすさ」に加えて「進学や就職の実績」、「学校周辺の環境」の割合が高いが、令和5年においては「通学のしやすさ」のみに集中しており、通学の便利さがより重視されるようになったと考えられる。

(3) 1学年当たりの学級数(人数)に関する設問

あなたは、(お子様に)どのくらいの大きさの学校(規模の学校)で学びたいですか(学んでほしいと思っていますか)。(県立の高校の)1学年当たりの学級数(人数)を、次の中から1つ選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合(%)>



1. 1学級(40人以下) 2. 2～3学級(41～120人) 3. 4～5学級(121～200人)
 4. 6～7学級(201～280人) 5. 8学級以上(281人以上)

- ① どちらにおいても生徒とその保護者が「2～3学級(41～120人)」、「4～5学級(121～200人)」を多く選んでおり、部活動や学校行事がより充実していると考えうる学校規模を望んでいることは依然として変わらないと考えられる。
- ② 中学3年生で「1学級(40人以下)」とした割合は令和5年において大幅に増えており、少人数教育へのニーズが高まっていると考えられる。

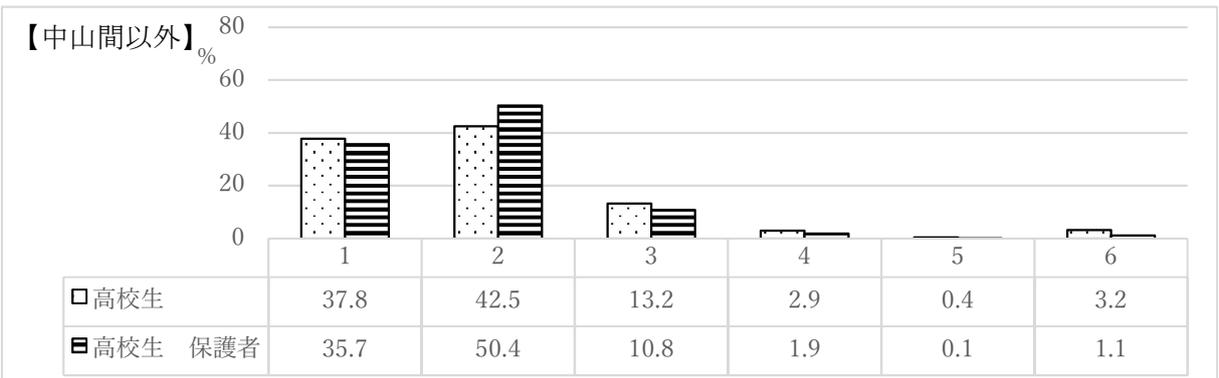
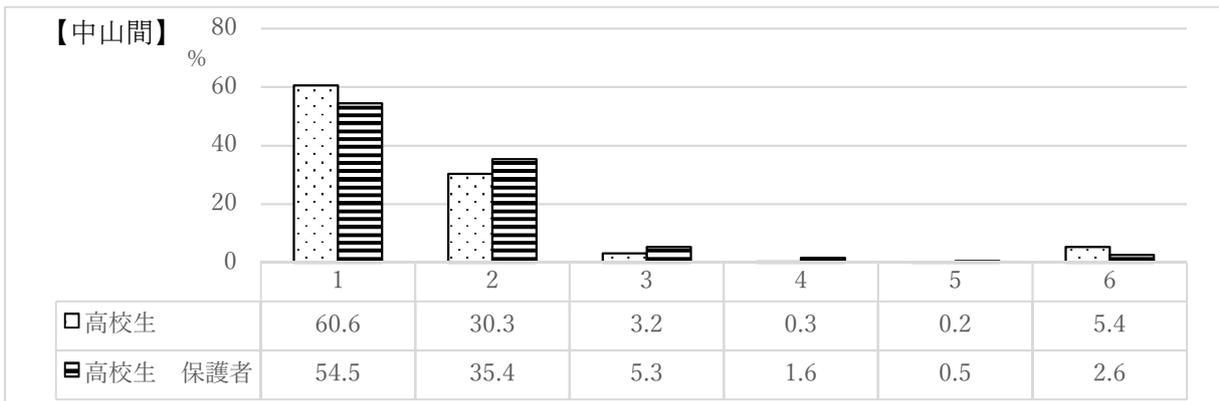
7 その他の分析

中山間地域の学校（室戸、中芸、嶺北、吾北分校、佐川、窪川、四万十、禰原、西土佐分校、清水）とその他の地域の学校（全日制及び定時制昼間部）との比較

（1）通学時間に関する設問

あなたは、（お子様の）進学先（高校等）までの通学時間（片道）は、どれくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合（％）>



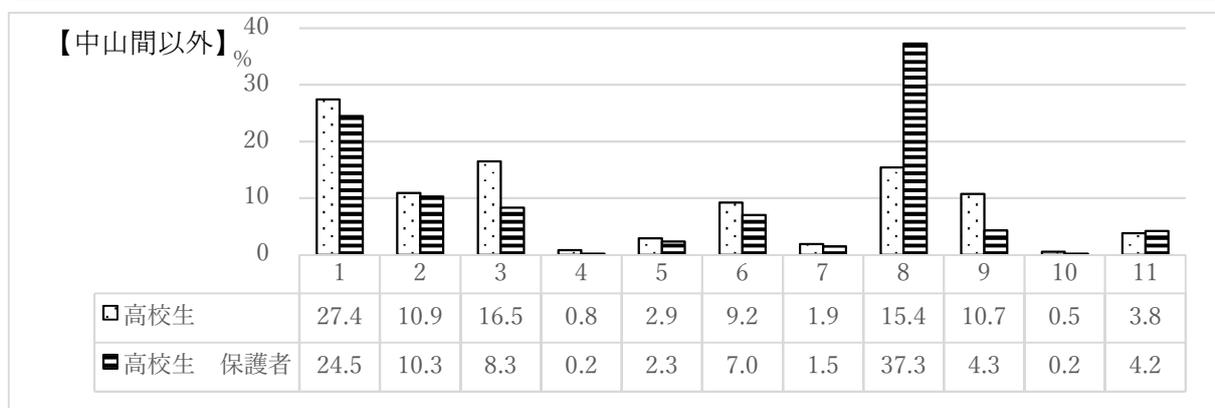
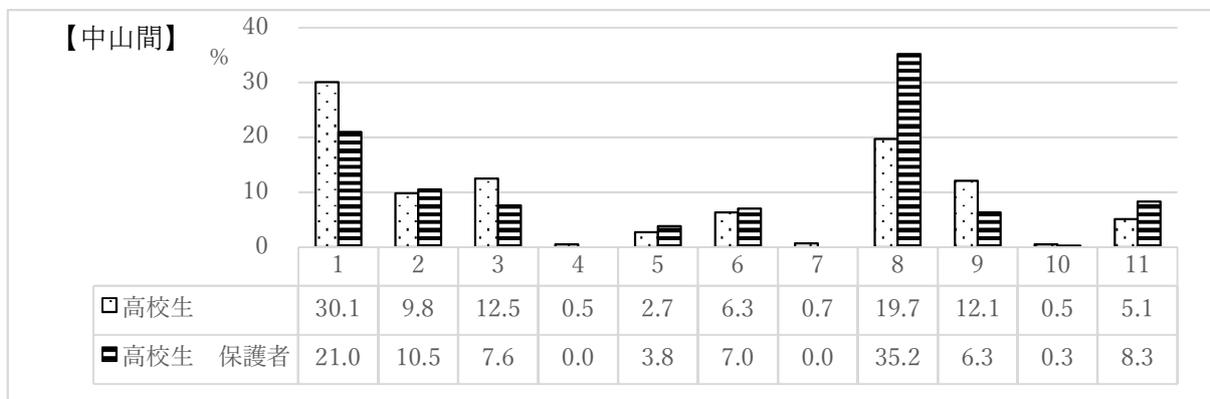
1. 30分未満 2. 30分～1時間未満 3. 1時間～1時間30分未満
 4. 1時間30分～2時間未満 5. 2時間以上 6. 通学時間は特に気にしない

中山間以外において「30分～1時間未満」が一番多く選ばれているが、中山間は「30分未満」が一番多く選ばれており半数以上を占めている。また、中山間では選択肢1もしくは2に回答が集中しており、その割合は全体の約9割である。中山間の高校生とその保護者は自宅から最も近く通いやすい高校を望んでいることがみてとれる。

(2) 高校選びのポイントに関する設問

あなたが（お子様が）進学する高校等を選ぶとき、参考にしている（したい）（した）ものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合（％）>



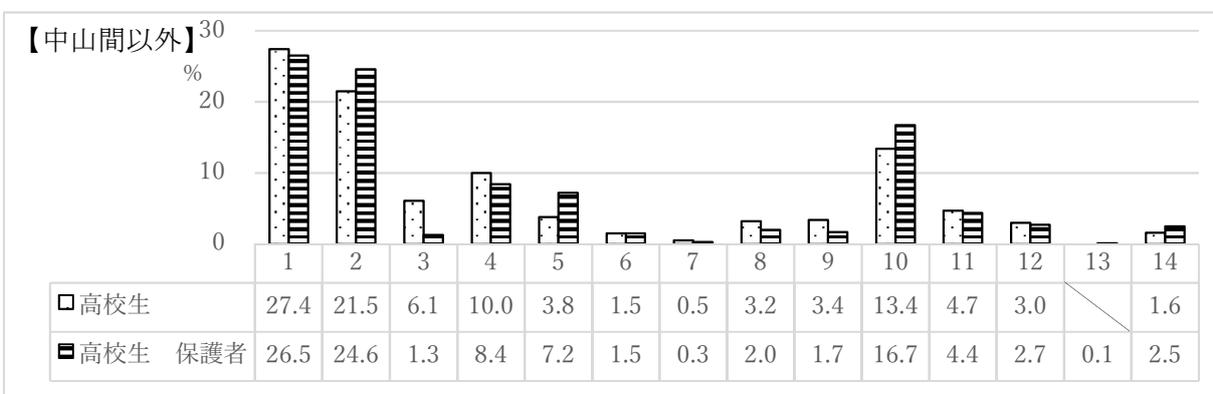
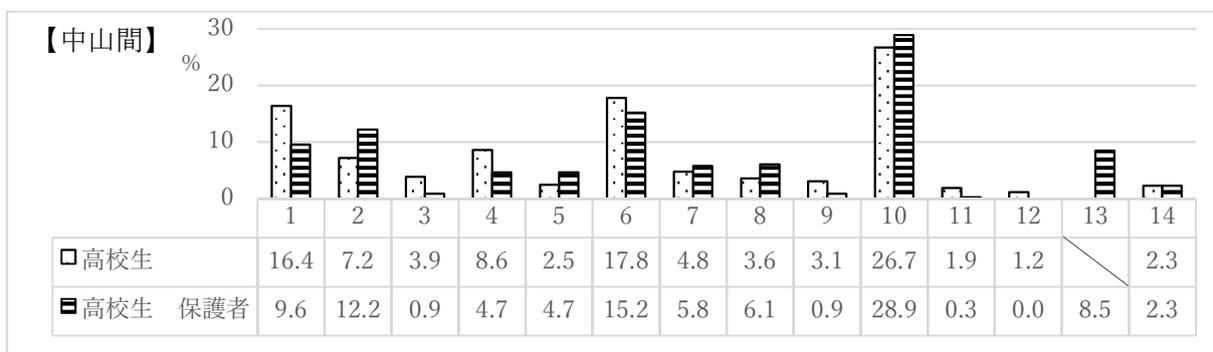
1. 高校の体験入学 2. 高校の先生による学校説明会 3. 高校の学校案内（パンフレットなど）
 4. 「こうちハイスクールガイド」 5. 高校の公式ホームページや公式SNS
 6. 中学校の先生による説明 7. 塾の先生の説明 8. 家族の意見（子どもの意見）
 9. 友達や先輩の意見（知人の意見） 10. 新聞やテレビの情報 11. その他

保護者の回答はどちらにおいてもあまり差がない。

高校生はどちらも「高校の体験入学」が一番多く選ばれている。中山間以外の高校生は「高校の学校案内（パンフレットなど）」の割合が高く、中山間の高校生では「家族の意見（子どもの意見）」、「友達や先輩の意見（知人の意見）」の割合が高い。中山間の高校生は、高校の学校案内などの資料を参考にするよりも実際に家族や友達などから聞いた意見が高校を選ぶうえで重視している。そのため、高校の情報を中学生だけでなく保護者や地域などに幅広く発信する必要があると考えられる。

あなた（お子様）が進学する高校を選ぶとき、重視した（する）ことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合（％）>



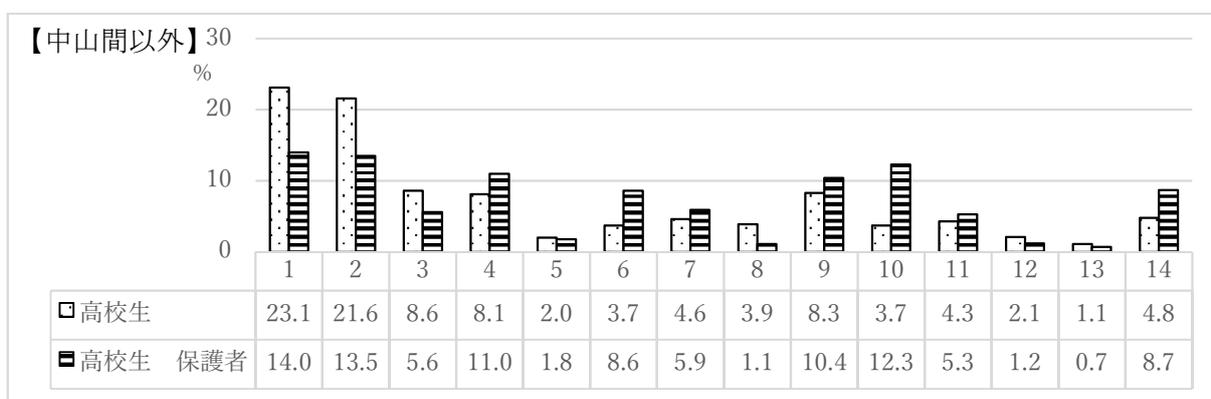
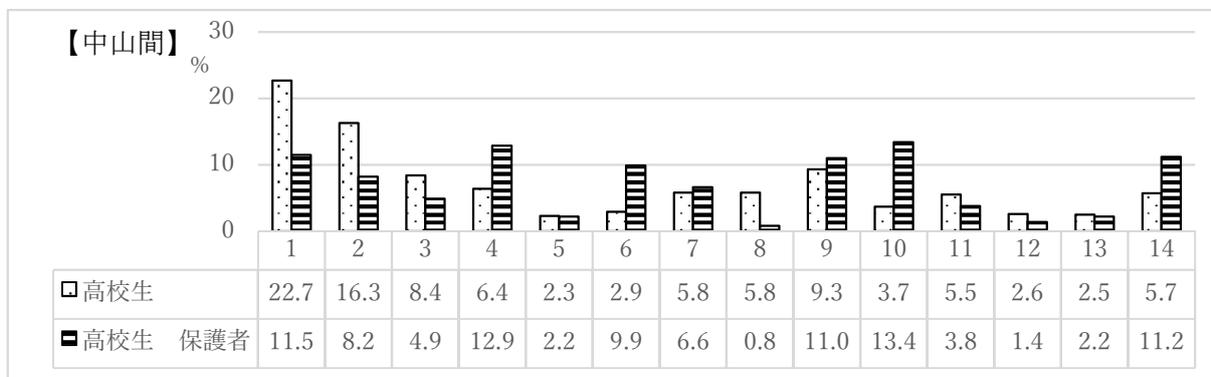
1. 学科やコースの内容 2. 進学や就職の実績 3. 学校行事の状況 4. 部活動の状況
 5. 高校の伝統や印象 6. 少人数での教育 7. 高校と地域との連携 8. 学校周辺の環境
 9. 施設や設備の充実 10. 通学のしやすさ 11. 資格取得への対応状況 12. 制服
 13. 市町村などからの進学支援 14. その他

- ① 高校生、保護者とも中山間以外においては「学科やコースの内容」、「進学や就職の実績」とした割合が高いが、中山間においては「通学のしやすさ」、「少人数での教育」とした割合が高い。
- ② 中山間においては「高校と地域との連携」とした割合が高く、学校外での活動を望んでいる人が多いと考えられる。
- ③ 保護者でみると「市町村などからの進学支援」とした割合が中山間以外に比べて高く、地域によって入学祝金や通学助成などの補助制度があり、市町村の支援状況も高校選択の一つとなっている。
- ④ 中山間に比べて中山間以外で「資格取得への対応状況」の割合が高いのは、中山間に専門高校が含まれないためと考えられる。

(3) 高校在学中に関する設問

あなたが（お子様に）高校等で身に付けたい（身に付けてもらいたい）力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合（％）>



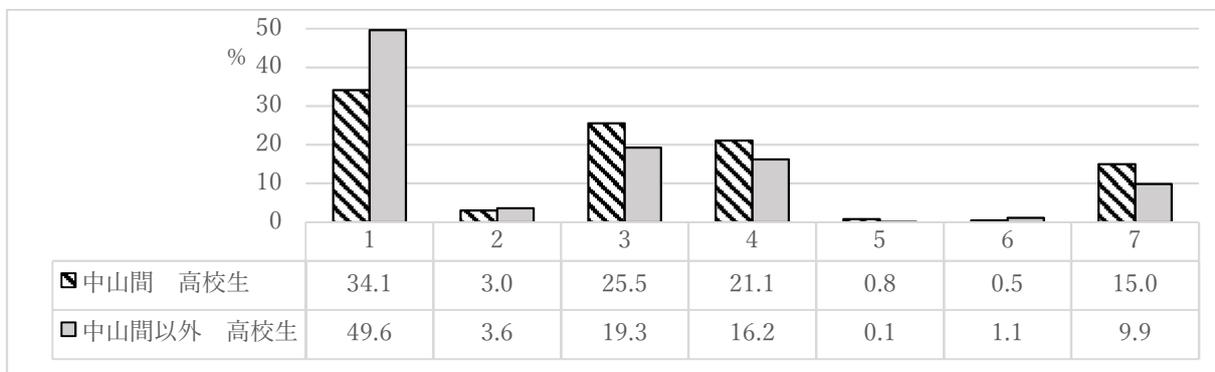
1. 基礎的・基本的な知識や技能 2. 大学等への進学に必要な学力
 3. 就職に必要な知識・技能やビジネスマナー 4. 一般常識や社会常識
 5. ICTや情報などを活用する力 6. 課題を見つけて解決していく力 7. 考えたことを表現する力
 8. スポーツや芸術の知識や技能 9. 良好な人間関係を築く力 10. 様々な環境に適応する力
 11. 自己を理解し管理する力 12. 規則正しい生活習慣
 13. 地域や国際社会に貢献しようとする意欲や態度 14. 新しいことや困難なことにチャレンジする行動力

中山間以外の高校生とその保護者は「大学等への進学に必要な学力」とした割合が中山間と比べて高い。保護者はどちらにおいても「一般常識や社会常識」、「良好な人間関係を築く力」、「様々な環境に適応する力」とした割合が高く、ほぼ同じ傾向がみられる。

(4) 卒業後の進路に関する設問

○あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合 (%)>

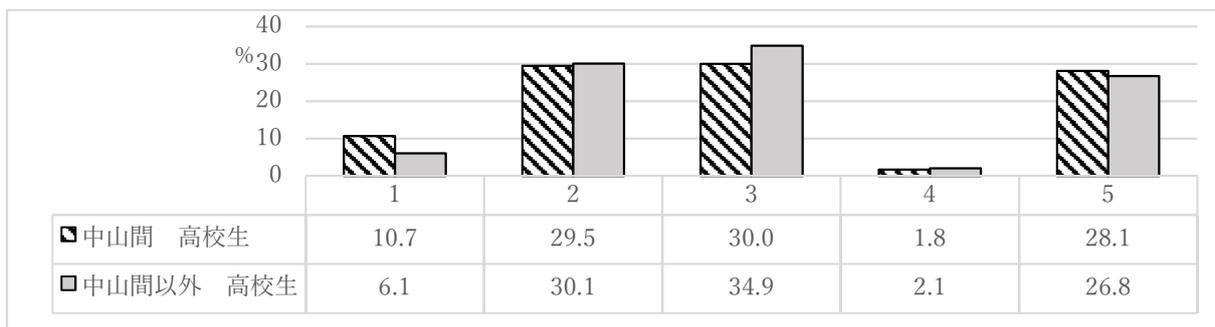


1. 大学 2. 短期大学 3. 専門学校 4. 就職 5. すでに働いている 6. その他
7. 未定 (まだ考えていない)

どちらにおいても「大学」への進学希望が多いが、中山間以外の高校生の大学進学希望は約半数となっている。中山間においては「専門学校」や「就職」を希望している人も多い。全頁の(3)高校在学中に関する設問で、「大学等への進学に必要な学力」の割合が中山間以外の高校生で高く、相関が見られる。

○あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の勤務地を選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合 (%)>



中山間、中山間以外はほぼ同じ傾向 (割合) となっている。「未定 (まだ考えていない)」とした割合も高く、進路について考える機会の確保が必要と考える。

8 資料〈アンケート書式〉

県立高等学校の在り方についてのアンケート (中学生用)

高知県教育委員会事務局
高等学校課・高等学校振興課

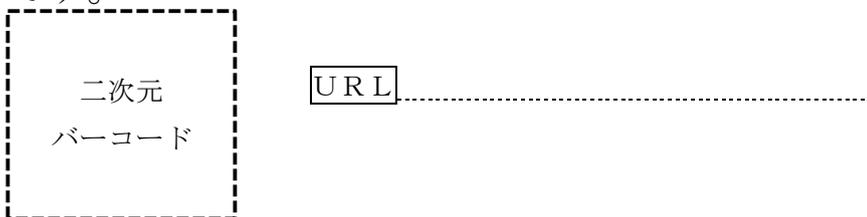


高知県教育委員会では、今後、社会環境や教育環境が大きく変わり続けていく中であっても、子どもたちが主体的・協働的な学びを実現できるよう、県立高等学校の在り方や方向性について検討していく予定です。

このアンケートは、現在、中学生である生徒の皆さんに、高校に求めるものや期待するものについてお聞きするものです。本アンケート結果は、高等学校の将来像を検討するための資料として活用や公表をしたいと考えていますので、ご了承のうえご協力をお願いします。なお、本アンケートに関する個別の情報が公開されることはありません。

※ アンケートは、タブレット端末等で、次の二次元バーコードまたはURLを読み込み、Google フォームから回答してください。

アンケートの設問は13問あり、回答時間の目安は10分程度です。



設問1 あなたの学校名を1つ選んでください。

※ google フォームでは、地域ごとの学校名が表示されます。

設問2 あなたの学年を1つ選んでください。

01_中学1年生 02_中学2年生 03_中学3年生

設問3 あなたは中学校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、働きながら高校に進学することを希望している人は、希望する高校を選んでください。

01_公立の全日制（昼間部）の高校 02_公立の定時制（夜間部）の高校
03_公立の通信制の高校 04_私立の高校
05_高等専門学校 06_その他
07_未定（まだ考えていない）

設問4 あなたは、進学先（高校等）までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 01_30分未満 | 02_30分～1時間未満 |
| 03_1時間～1時間30分未満 | 04_1時間30分～2時間未満 |
| 05_2時間以上 | 06_通学時間は特に気にしない |

設問5 あなたが進学する高校等を選ぶとき、参考にしている（したい）ものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 01_高校の体験入学 | 02_高校の先生による学校説明会 |
| 03_高校の学校案内（パンフレットなど） | 04_「こうちハイスクールガイド」 |
| 05_高校の公式ホームページや公式SNS | 06_中学校の先生による説明 |
| 07_塾の先生の説明 | 08_家族の意見 |
| 09_友達や先輩の意見 | 10_新聞やテレビの情報 |
| 11_その他（ → <u>自由記述</u> ） | |

設問6 あなたが進学する高校等を選ぶとき、重視することは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

- | | |
|---------------|-------------|
| 01_学科やコースの内容 | 02_進学や就職の実績 |
| 03_学校行事の状況 | 04_部活動の状況 |
| 05_高校の伝統や印象 | 06_少人数での教育 |
| 07_高校と地域との連携 | 08_学校周辺の環境 |
| 09_施設や設備の充実 | 10_通学のしやすさ |
| 11_資格取得への対応状況 | 12_制服 |

設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、どのようなことを評価してほしいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

- 01_その高校や学科・コースに進学したい理由
- 02_高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと
- 03_進みたい学科・コースに関する知識や技術
- 04_高校進学に向けて取り組んだことやがんばったこと
- 05_中学校の学習で取り組んだことやがんばったこと
- 06_中学校の総合的な学習の時間で取り組んだことやがんばったこと
- 07_中学校の生徒会活動や学校行事で取り組んだことやがんばったこと
- 08_中学校の部活動で取り組んだことやがんばったこと
- 09_中学校の学校生活の中で取り組んだことやがんばったこと
- 10_学校生活以外で取り組んだことやがんばったこと
- 11_得意なことや好きなこと
- 12_将来の夢や目標
- 13_その他（ → 自由記述 ）

設問 8 あなたが高校等で特に身に付けたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

- 01_基礎的・基本的な知識や技能
- 02_大学等への進学に必要な学力
- 03_就職に必要な知識・技能やビジネスマナー
- 04_一般常識や社会常識
- 05_ICTや情報などを活用する力
- 06_課題を見つけて解決していく力
- 07_考えたことを表現する力
- 08_スポーツや芸術の知識や技能
- 09_良好な人間関係を築く力
- 10_様々な環境に適応する力
- 11_自己を理解し管理する力
- 12_規則正しい生活習慣
- 13_地域や国際社会に貢献しようとする意欲や態度
- 14_新しいことや困難なことにチャレンジする行動力

設問 9 あなたは高校等で特に何を学びたいですか。次の中から2つまで選んでください。

- 01_人文学系（国語、英語、地理、歴史など）
- 02_社会科学系（政治、経済、法律など）
- 03_自然科学系（理科、数学など）
- 04_国際系（実践的な語学、国際関係など）
- 05_アート・デザイン系
- 06_音楽系
- 07_体育・スポーツ系
- 08_家庭系（調理・被服など）
- 09_農業系
- 10_工業系
- 11_AI・ICT・デジタル系
- 12_商業系
- 13_水産系
- 14_医療・看護系
- 15_福祉系
- 16_保育・教育系
- 17_その他（上記の 01～16 にないもの）

設問 10 あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。

- 01_大学 02_短期大学 03_専門学校
- 04_就職 05_その他 06_未定（まだ考えていない）

設問 11 あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。

- 01_地元（あなたの出身地やその周辺） 02_高知県内 03_高知県外
04_海外 05_未定（まだ考えていない）

設問 12 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。

- 01_農林漁業、動植物、環境などに関する仕事（自然に関すること）
02_機械、電気、化学、ICTなどに関する仕事（科学技術・ものづくり）
03_デザイン、音楽、書籍、ゲームなどに関する仕事（アート・表現）
04_スポーツ選手、インストラクターなど（スポーツに関すること）
05_観光、ブライダル、車・電車の運転などに関する仕事（旅・思い出・乗り物）
06_理美容師、ファッションデザイナーなど（ファッション・ビューティー）
07_調理師、栄養士、食品の製造・開発などに関する仕事（飲食・調理）
08_建築、道路工事、インテリアなどに関する仕事（住まい・街づくり）
09_医師、看護師、介護士、理学療法士など（医療・福祉）
10_教員、保育士、図書館の司書、塾の講師など（教育）
11_公務員、弁護士、翻訳者など（行政・法律・国際関係）
12_銀行、不動産、接客、販売などに関する仕事（金融・ビジネス）
13_その他（01～12にないもの）

設問 13 あなたは、どのくらいの大きさの学校で学びたいですか。1学年当たりの学級数（人数）を、次の中から1つ選んでください。

- 01_1学級（40人） 02_2～3学級（41～120人）
03_4～5学級（121～200人） 04_6～7学級（201～280人）
05_8学級以上（281人以上）

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

県立高等学校の在り方についてのアンケート (中学生の保護者用)

高知県教育委員会事務局
高等学校課・高等学校振興課



高知県教育委員会では、今後、社会環境や教育環境が大きく変わり続けていく中であっても、子どもたちが主体的・協働的な学びを実現できるよう、県立高等学校の在り方や方向性について検討していく予定です。

このアンケートは、中学生の保護者の皆様に、高校に求めるものや期待するものについてお聞きするものです。本アンケート結果は、高等学校の将来像を検討するための資料として活用や公表をしたいと考えていますので、ご了承のうえご協力をお願いします。なお、本アンケートに関する個別の情報が公開されることはありません。

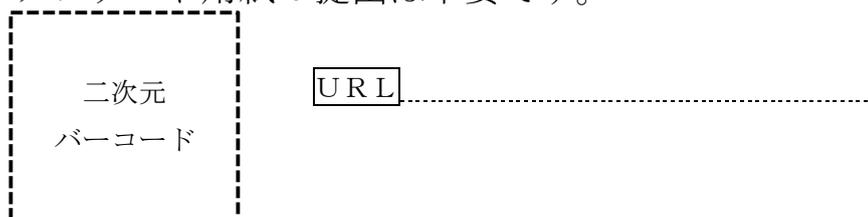
本アンケートにつきましては、高校生の保護者の皆様を対象としたアンケートも、同時期に実施しております。お子様が、県立高校と市町村（学校組合）立中学校（又は義務教育学校）との両方にお通いの場合は、「高校生の保護者用」のアンケートのみへのご回答で結構ですので、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

※ アンケートは、Google フォーム、または本アンケート用紙のいずれかで回答してください。

アンケートの設問は7問あり、回答時間の目安は5～10分程度です。

Google フォームで回答される場合

- スマートフォンやタブレット端末等で、次の二次元バーコードまたはURLを読み込んで回答してください。
- アンケート用紙の提出は不要です。



アンケート用紙で回答される場合

- 本アンケート用紙の回答欄に記入してください。
- 選択肢がある設問については、選択肢の番号のみの回答でかまいません。（回答例：03）
- 選択肢で「その他」を選ばれた場合は、「その他」の後の（ ）内も記述してください。
- 記入されたアンケート用紙については、お子様を通じて、お子様がお通いの中学校(又は義務教育学校)に令和5年7月20日(木)までにご提出ください。

設問1 あなたが現在お住まいの市町村を次の中から選んでください。

【回答欄】

- | | | | | |
|---------|--------|----------|---------|---------|
| 01_高知市 | 02_室戸市 | 03_安芸市 | 04_南国市 | 05_土佐市 |
| 06_須崎市 | 07_宿毛市 | 08_土佐清水市 | 09_四万十市 | 10_香南市 |
| 11_香美市 | 12_東洋町 | 13_奈半利町 | 14_田野町 | 15_安田町 |
| 16_北川村 | 17_馬路村 | 18_芸西村 | 19_本山町 | 20_大豊町 |
| 21_土佐町 | 22_大川村 | 23_いの町 | 24_仁淀川町 | 25_中土佐町 |
| 26_佐川町 | 27_越知町 | 28_橋原町 | 29_日高村 | 30_津野町 |
| 31_四万十町 | 32_大月町 | 33_三原村 | 34_黒潮町 | 35_県外 |

設問2 お子様の進学先（高校等）までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。

【回答欄】

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 01_30分未満 | 02_30分～1時間未満 |
| 03_1時間～1時間30分未満 | 04_1時間30分～2時間未満 |
| 05_2時間以上 | 06_通学時間は特に気にしない |

設問3 お子様が進学する高校を選ぶとき、参考になっている（したい）ものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

【回答欄】

() ()

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 01_高校の体験入学 | 02_高校の先生による学校説明会 |
| 03_高校の学校案内（パンフレットなど） | 04_「こうちハイスクールガイド」 |
| 05_高校の公式ホームページや公式SNS | 06_中学校の先生による説明 |
| 07_塾の先生の説明 | 08_子どもの意見 |
| 09_知人の意見 | 10_新聞やテレビの情報 |
| 11_その他（ _____ ） | |

設問4 お子様が進学する高校を選ぶとき、重視することは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

【回答欄】

() ()

- | | |
|--------------|-------------|
| 01_学科やコースの内容 | 02_進学や就職の実績 |
| 03_学校行事の状況 | 04_部活動の状況 |
| 05_高校の伝統や印象 | 06_少人数での教育 |

- | | |
|-----------------|------------|
| 07_高校と地域との連携 | 08_学校周辺の環境 |
| 09_施設や設備の充実 | 10_通学のしやすさ |
| 11_資格取得への対応状況 | 12_制服 |
| 13_市町村などからの進学支援 | |

設問5 高校入試のときに、学力検査以外で、お子様のどのようなところが評価されるとよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

【回答欄】 () ()
--

- 01_その高校や学科・コースに進学したい理由
- 02_高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと
- 03_進みたい学科・コースに関する知識や技術
- 04_高校進学に向けて取り組んだことやがんばったこと
- 05_中学校の学習で取り組んだことやがんばったこと
- 06_中学校の総合的な学習の時間で取り組んだことやがんばったこと
- 07_中学校の生徒会活動や学校行事で取り組んだことやがんばったこと
- 08_中学校の部活動で取り組んだことやがんばったこと
- 09_中学校の学校生活の中で取り組んだことやがんばったこと
- 10_学校生活以外で取り組んだことやがんばったこと
- 11_得意なことや好きなこと
- 12_将来の夢や目標
- 13_その他 (_____)

設問6 お子様に高校で特に身に付けてもらいたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

【回答欄】 () ()
--

- 01_基礎的・基本的な知識や技能
- 02_大学等への進学に必要な学力
- 03_就職に必要な知識・技能やビジネスマナー
- 04_一般常識や社会常識
- 05 ICTや情報などを活用する力
- 06_課題を見つけて解決していく力
- 07_考えたことを表現する力
- 08_スポーツや芸術の知識や技能
- 09_良好な人間関係を築く力
- 10_様々な環境に適応する力
- 11_自己を理解し管理する力
- 12_規則正しい生活習慣
- 13_地域や国際社会に貢献しようとする意欲や態度
- 14_新しいことや困難なことにチャレンジする行動力

設問7 あなたは、お子様にどのくらいの規模の学校で学んでほしいと思っていますか。県立の高校の1学年当たりの学級数（人数）を、次の中から1つ選んでください。

【回答欄】

01_1学級（40人）

02_2～3学級（41～120人）

03_4～5学級（121～200人）

04_6～7学級（201～280人）

05_8学級以上（281人以上）

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

県立高等学校の在り方についてのアンケート (高校生用)

高知県教育委員会事務局
高等学校課・高等学校振興課



高知県教育委員会では、今後、社会環境や教育環境が大きく変わり続けていく中であっても、子どもたちが主体的・協働的な学びを実現できるよう、県立高等学校の在り方や方向性について検討していく予定です。

このアンケートは、現在、高校生である生徒の皆さんに、高校に求めるものや期待するものについてお聞きするものです。本アンケート結果は、高等学校の将来像を検討するための資料として活用や公表をしたいと考えていますので、ご了承のうえご協力をお願いします。なお、本アンケートに関する個別の情報が公開されることはありません。

※ アンケートは、タブレット端末等で、次の二次元バーコードまたはURLを読み込み、Google フォームから回答してください。

アンケートの設問は13問あり、回答時間の目安は10分程度です。



URL.....

設問1 あなたが住んでいる市町村を次の中から選んでください。ただし、寮や下宿で生活している人は、中学生のときに住んでいたところを選んでください。

- | | | | | |
|---------|--------|----------|---------|---------|
| 01_高知市 | 02_室戸市 | 03_安芸市 | 04_南国市 | 05_土佐市 |
| 06_須崎市 | 07_宿毛市 | 08_土佐清水市 | 09_四万十市 | 10_香南市 |
| 11_香美市 | 12_東洋町 | 13_奈半利町 | 14_田野町 | 15_安田町 |
| 16_北川村 | 17_馬路村 | 18_芸西村 | 19_本山町 | 20_大豊町 |
| 21_土佐町 | 22_大川村 | 23_いの町 | 24_仁淀川町 | 25_中土佐町 |
| 26_佐川町 | 27_越知町 | 28_梶原町 | 29_日高村 | 30_津野町 |
| 31_四万十町 | 32_大月町 | 33_三原村 | 34_黒潮町 | 35_県外 |

設問2 あなたの学校名を1つ選んでください。(学校名は、高知県東部の学校から、全日制(昼間部) → 定時制(夜間部) → 通信制の順で、学科別に並んでいます。)

- | | | |
|----------------|-------------------|-------------------|
| 01_室戸高校(全日制) | 02_室戸高校(定時制) | 03_中芸高校(昼間部) |
| 04_中芸高校(夜間部) | 05_安芸高校(普通科) | 06_安芸高校(機械土木科) |
| 07_安芸高校(環境建設科) | 08_安芸高校(ビジネス科) | 09_安芸高校(情報ビジネス科) |
| 10_城山高校 | 11_山田高校(全日制, 普通科) | 12_山田高校(グローバル探究科) |
- ※ Google フォームでは、選択肢 13 以降も、同様の表記で学校名が表示されます。

設問3 あなたの学年を1つ選んでください。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 01_高校1年生 | 02_高校2年生 | 03_高校3年生 |
| 04_高校4年生 | 05_通信制課程 | |

設問4 あなたは、高校までの通学時間(片道)は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 01_30分未満 | 02_30分～1時間未満 |
| 03_1時間～1時間30分未満 | 04_1時間30分～2時間未満 |
| 05_2時間以上 | 06_通学時間は特に気にしない |

設問5 あなたが進学する高校を選ぶとき、参考にしたものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 01_高校の体験入学 | 02_高校の先生による学校説明会 |
| 03_高校の学校案内(パンフレットなど) | 04_「こうちハイスクールガイド」 |
| 05_高校の公式ホームページや公式SNS | 06_中学校の先生による説明 |
| 07_塾の先生の説明 | 08_家族の意見 |
| 09_友達や先輩の意見 | 10_新聞やテレビの情報 |
| 11_その他(→ <u>自由記述</u>) | |

設問6 あなたが進学する高校を選ぶとき、重視したことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 01_学科やコースの内容 | 02_進学や就職の実績 |
| 03_学校行事の状況 | 04_部活動の状況 |
| 05_高校の伝統や印象 | 06_少人数での教育 |
| 07_高校と地域との連携 | 08_学校周辺の環境 |
| 09_施設や設備の充実 | 10_通学のしやすさ |
| 11_資格取得への対応状況 | 12_制服 |
| 13_その他(→ <u>自由記述</u>) | |

設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、どのようなことを評価してほしいと思いますか。

次の中から2つまで選んでください。

- 01_その高校や学科・コースに進学したい理由
- 02_高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと
- 03_進みたい学科・コースに関する知識や技術
- 04_高校進学に向けて取り組んだことやがんばったこと
- 05_中学校の学習で取り組んだことやがんばったこと
- 06_中学校の総合的な学習の時間で取り組んだことやがんばったこと
- 07_中学校の生徒会活動や学校行事で取り組んだことやがんばったこと
- 08_中学校の部活動で取り組んだことやがんばったこと
- 09_中学校の学校生活の中で取り組んだことやがんばったこと
- 10_学校生活以外で取り組んだことやがんばったこと
- 11_得意なことや好きなこと
- 12_将来の夢や目標
- 13_その他 (→ 自由記述)

設問8 あなたの高校生活についてお聞きします。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。

設問8-1 授業や学習へのサポート体制には満足していますか。

- 01_大変満足している
- 02_まあまあ満足している
- 03_どちらでもない
- 04_あまり満足していない
- 05_不満である

設問8-2 学校行事には満足していますか。

- 01_大変満足している
- 02_まあまあ満足している
- 03_どちらでもない
- 04_あまり満足していない
- 05_不満である

設問8-3 授業や学校行事以外の活動（部活動や生徒会活動など）では、やりたいことができますか。

- 01_かなりできている
- 02_だいたいできている
- 03_どちらでもない
- 04_あまりできていない
- 05_全くできていない
- 06_活動はしていない

設問9 あなたが高校で特に身に付けたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

- 01_基礎的・基本的な知識や技能
- 02_大学等への進学に必要な学力
- 03_就職に必要な知識・技能やビジネスマナー
- 04_一般常識や社会常識
- 05 ICTや情報などを活用する力
- 06_課題を見つけて解決していく力

- 07_考えたことを表現する力
- 08_スポーツや芸術の知識や技能
- 09_良好な人間関係を築く力
- 10_様々な環境に適応する力
- 11_自己を理解し管理する力
- 12_規則正しい生活習慣
- 13_地域や国際社会に貢献しようとする意欲や態度
- 14_新しいことや困難なことにチャレンジする行動力

設問 10 現在、学んでいる授業以外にどんなことが学習できればよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 01_アート・デザイン系 | 02_音楽系 |
| 03_体育・スポーツ系 | 04_家庭系（調理・被服など） |
| 05_農業系 | 06_工業系 |
| 07_AI・ICT・デジタル系 | 08_商業系 |
| 09_水産系 | 10_医療・看護系 |
| 11_福祉系 | 12_保育・教育系 |
| 13_その他（01～12にないもの） | 14_現状に満足している |
| 15_特にない | |

設問 11 あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。

- | | | | |
|-------------|---------|-----------------|-------|
| 01_大学 | 02_短期大学 | 03_専門学校 | 04_就職 |
| 05_すでに働いている | 06_その他 | 07_未定（まだ考えていない） | |

設問 12 あなたは将来どこで働くことを希望していますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の勤務地を選んでください。

- | | | |
|---------------------|-----------------|---------|
| 01_地元（あなたの出身地やその周辺） | 02_高知県内 | 03_高知県外 |
| 04_海外 | 05_未定（まだ考えていない） | |

設問 13 あなたは将来どのような仕事に就きたいと考えていますか。自分の考えに最も近いものを1つ選んでください。なお、現在仕事をされている方で、卒業後もその仕事を継続される方は、現在の職業に近いものを選んでください。

- 01_農林漁業、動植物、環境などに関する仕事（自然に関すること）
- 02_機械、電気、化学、ICTなどに関する仕事（科学技術・ものづくり）
- 03_デザイン、音楽、書籍、ゲームなどに関する仕事（アート・表現）
- 04_スポーツ選手、インストラクターなど（スポーツに関すること）

- 05_観光、ブライダル、車・電車の運転などに関する仕事（旅・思い出・乗り物）
- 06_理美容師、ファッションデザイナーなど（ファッション・ビューティー）
- 07_調理師、栄養士、食品の製造・開発などに関する仕事（飲食・調理）
- 08_建築、道路工事、インテリアなどに関する仕事（住まい・街づくり）
- 09_医師、看護師、介護士、理学療法士など（医療・福祉）
- 10_教員、保育士、図書館の司書、塾の講師など（教育）
- 11_公務員、弁護士、翻訳者など（行政・法律・国際関係）
- 12_銀行、不動産、接客、販売などに関する仕事（金融・ビジネス）
- 13_その他（01～12にないもの）

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

県立高等学校の在り方についてのアンケート (高校生の保護者用)

高知県教育委員会事務局
高等学校課・高等学校振興課



高知県教育委員会では、今後、社会環境や教育環境が大きく変わり続けていく中であっても、子どもたちが主体的・協働的な学びを実現できるよう、県立高等学校の在り方や方向性について検討していく予定です。

このアンケートは、高校生の保護者の皆様に、高校に求めるものや期待するものについてお聞きするものです。本アンケート結果は、高等学校の将来像を検討するための資料として活用や公表をしたいと考えていますので、ご了承のうえご協力をお願いします。なお、本アンケートに関する個別の情報が公開されることはありません。

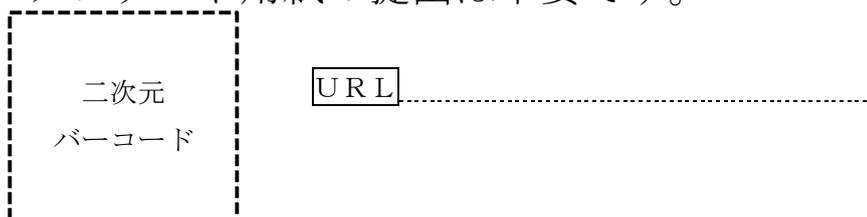
本アンケートにつきましては、中学生の保護者の皆様を対象としたアンケートも、同時期に実施しております。お子様が、県立高校と市町村（学校組合）立中学校（又は義務教育学校）との両方にお通いの場合は、「高校生の保護者用」のアンケートのみへのご回答で結構ですので、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

※ アンケートは、Google フォーム、または本アンケート用紙のいずれかで回答してください。

アンケートの設問は8問あり、回答時間の目安は5～10分程度です。

Google フォームで回答される場合

- スマートフォンやタブレット端末等で、次の二次元バーコードまたはURLを読み込んで回答してください。
- アンケート用紙の提出は不要です。



アンケート用紙で回答される場合

- 本アンケート用紙の回答欄に記入してください。
- 選択肢がある設問については、選択肢の番号のみの回答でかまいません。（回答例：03）
- 選択肢で「その他」を選ばれた場合は、「その他」の後の（ ）内も記述してください。
- 記入されたアンケート用紙については、お子様を通じて、お子様がお通いの高校に令和5年7月19日（水）までにご提出ください。

設問1 あなたが現在お住まいの市町村を次の中から選んでください。

【回答欄】

- | | | | | |
|---------|--------|----------|---------|---------|
| 01_高知市 | 02_室戸市 | 03_安芸市 | 04_南国市 | 05_土佐市 |
| 06_須崎市 | 07_宿毛市 | 08_土佐清水市 | 09_四万十市 | 10_香南市 |
| 11_香美市 | 12_東洋町 | 13_奈半利町 | 14_田野町 | 15_安田町 |
| 16_北川村 | 17_馬路村 | 18_芸西村 | 19_本山町 | 20_大豊町 |
| 21_土佐町 | 22_大川村 | 23_いの町 | 24_仁淀川町 | 25_中土佐町 |
| 26_佐川町 | 27_越知町 | 28_橋原町 | 29_日高村 | 30_津野町 |
| 31_四万十町 | 32_大月町 | 33_三原村 | 34_黒潮町 | 35_県外 |

設問2 お子様に通われている県立高校の学校名を次の中から選んでください。(学校名は、高知県東部の学校から順に並んでいます。)

県立高校に通われているお子様が複数名いらっしゃる場合は、下の学年のお子様の学校名を選んでください。

<例1> 県立高校3年生と県立高校1年生にお子様がいいらっしゃる場合は、県立高校1年生のお子様についてご回答ください。

<例2> 県立高校2年生と私立高校1年生にお子様がいいらっしゃる場合は、県立高校2年生のお子様についてご回答ください。

【回答欄】

- | | | | |
|----------------|--------------|-----------|------------|
| 01_室戸高校 | 02_中芸高校 | 03_安芸高校 | 04_城山高校 |
| 05_山田高校 | 06_嶺北高校 | 07_高知農業高校 | 08_高知東工業高校 |
| 09_岡豊高校 | 10_高知東高校 | 11_高知工業高校 | 12_高知追手前高校 |
| 13_高知追手前高校吾北分校 | 14_高知丸の内高校 | 15_高知小津高校 | 16_高知北高校 |
| 17_高知国際高校 | 18_伊野商業高校 | 19_春野高校 | 20_高岡高校 |
| 21_高知海洋高校 | 22_須崎総合高校 | 23_佐川高校 | 24_窪川高校 |
| 25_橋原高校 | 26_四万十高校 | 27_大方高校 | 28_幡多農業高校 |
| 29_中村高校 | 30_中村高校西土佐分校 | 31_宿毛工業高校 | 32_宿毛高校 |
| 33_清水高校 | | | |

設問3 設問2で回答された県立高校について、お子様が在籍している①学科名、②コース名・専攻名を、記入例にならって記入してください。

①学科名

②コース名・専攻名

<記入例1>

総合学科

<記入例2>

普通科

体育コース

<記入例 3 >

システム工学系学科

機械制御専攻

【回答欄】		
-------	--	--

設問 4 お子様の高校までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から1つ選んでください。

【回答欄】

01_30分未満

02_30分～1時間未満

03_1時間～1時間30分未満

04_1時間30分～2時間未満

05_2時間以上

06_通学時間は特に気にしない

設問 5 お子様が進学する高校を選ぶとき、参考にしたものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

【回答欄】

() ()

01_高校の体験入学

02_高校の先生による学校説明会

03_高校の学校案内（パンフレットなど）

04_「こうちハイスクールガイド」

05_高校の公式ホームページや公式SNS

06_中学校の先生による説明

07_塾の先生の説明

08_子どもの意見

09_知人の意見

10_新聞やテレビの情報

11_その他（ _____ ）

設問 6 お子様が進学する高校を選ぶとき、重視したことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

【回答欄】

() ()

01_学科やコースの内容

02_進学や就職の実績

03_学校行事の状況

04_部活動の状況

05_高校の伝統や印象

06_少人数での教育

07_高校と地域との連携

08_学校周辺の環境

09_施設や設備の充実

10_通学のしやすさ

11_資格取得への対応状況

12_制服

13_市町村などからの進学支援

14_その他（ → 自由記述 ）

設問7 高校入試のときに、学力検査以外で、受験生のどのようなところが評価されるとよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

【回答欄】

() ()

- 01_その高校や学科・コースに進学したい理由
- 02_高校入学後に取り組みたいことやがんばりたいこと
- 03_進みたい学科・コースに関する知識や技術
- 04_高校進学に向けて取り組んだことやがんばったこと
- 05_中学校の学習で取り組んだことやがんばったこと
- 06_中学校の総合的な学習の時間で取り組んだことやがんばったこと
- 07_中学校の生徒会活動や学校行事で取り組んだことやがんばったこと
- 08_中学校の部活動で取り組んだことやがんばったこと
- 09_中学校の学校生活の中で取り組んだことやがんばったこと
- 10_学校生活以外で取り組んだことやがんばったこと
- 11_得意なことや好きなこと
- 12_将来の夢や目標
- 13_その他 (_____)

設問8 お子様に高校で特に身に付けてもらいたい力は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

【回答欄】

() ()

- 01_基礎的・基本的な知識や技能
- 02_大学等への進学に必要な学力
- 03_就職に必要な知識・技能やビジネスマナー
- 04_一般常識や社会常識
- 05_ICTや情報などを活用する力
- 06_課題を見つけて解決していく力
- 07_考えたことを表現する力
- 08_スポーツや芸術の知識や技能
- 09_良好な人間関係を築く力
- 10_様々な環境に適応する力
- 11_自己を理解し管理する力
- 12_規則正しい生活習慣
- 13_地域や国際社会に貢献しようとする意欲や態度
- 14_新しいことや困難なことにチャレンジする行動力

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

県立高等学校の在り方についてのアンケート (中学校長用)

高知県教育委員会事務局
高等学校課



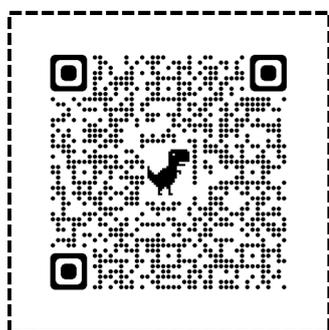
公立高等学校の入試をよりよい制度とするために、中学校の校長先生のご意見をお聞きしたいと思いますので、本アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。

なお、本アンケートは、令和5年7月25日(火)までにご回答ください。

※ アンケートは、タブレット端末等で、次の二次元バーコードまたはURLを読み込み、Google フォームから回答してください。

アンケートの設問は7問あり、回答時間の目安は10～15分程度です。

二次元バーコード



URL

<https://forms.gle/fGyCCLgyYCN6yv678>

設問1 県立高校の入学定員に対する県外生の割合(一家転住を除く)について、どう思いますか。ご自身の考えに最も近いものを1つ選んでください。

01_すべての県立高校で、入学定員に対する県外生の割合(内数の比率)は特に定めずに、募集した方がよいと思う。

02_近年の志願者数や定員充足率等を踏まえたうえで、入学定員に対する県外生の割合(内数の比率)を定める県立高校と定めない県立高校とをそれぞれ決定し、募集した方がよいと思う。

03_すべての県立高校で、入学定員に対する県外生の割合(内数の比率)を決定した方がよいが、その割合については、近年の志願者数や定員充足率等を踏まえたうえで、学校により異なる割合とし、募集した方がよいと思う。

04_すべての県立高校で、入学定員に対する県外生の割合(内数の比率)を統一したうえで、募集した方がよいと思う。

設問2 公立高校入試のA日程、B日程、C日程をすべて3月に実施していることについて、どう思いますか。ご自身の考えに最も近いものを1つ選んでください。

01_よいと思う (→ 設問3、設問4)

02_どちらかといえばよいと思う (→ 設問3、設問4)

03_どちらかといえばよくないと思う (→ 設問4)

04_よくないと思う (→ 設問4)

設問3 設問2で「01_よいと思う」又は「02_どちらかといえばよいと思う」と回答した方にお聞きします。その理由について、記入してください。

設問4 他県においてすでに実施している特色化選抜の導入について、どう思いますか。ご自身の考えに最も近いものを1つ選んでください。

※ 特色化選抜とは、志願者の目的意識や主体性をより重視する選抜方法のことで、志願者は、熱心に取り組んできたことや、志願先高等学校が示す「求める生徒像」に向けて努力したことを生かして受検することができます。また、各高等学校は、各校が実施する検査や志願理由書等を通して、「目的意識」や「学びに向かう力」、「思考力、判断力、表現力等」を総合的に判断します。

01_導入した方がよいと思う (→ 設問5、設問7)

02_どちらかといえば導入した方がよいと思う (→ 設問5、設問7)

03_どちらかといえば導入しない方がよいと思う (→ 設問6、設問7)

04_導入しない方がよいと思う (→ 設問6、設問7)

設問5 設問4で「01_導入した方がよいと思う」又は「02_どちらかといえば導入した方がよいと思う」と回答した方にお聞きします。特色化選抜をどの時期に実施した方がよいと思うか、記入してください。

なお、記入にあたっては、現行のA日程、B日程、C日程の実施時期に関わらず、特色化選抜の実施時期として適切だと考えられる時期を記入してください。

設問6 設問4で「03_どちらかといえば導入しない方がよいと思う」又は「04_導入しない方がよいと思う」と回答した方にお聞きします。その理由について、記入してください。

設問7 現行の入試制度に関する課題や改善点等について、ご意見等があれば記入してください。
(実施時期、選抜方法、事務手続など)

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

県立高等学校の在り方についてのアンケート (高等学校長用)

高知県教育委員会事務局
高等学校課



公立高等学校の入試をよりよい制度とするために、校長先生のご意見をお聞きしたいと思いますので、本アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。

なお、本アンケートは、令和5年7月26日（水）までにご回答ください。

※ アンケートは、タブレット端末等で、次の二次元バーコードまたはURLを読み込み、Google フォームから回答してください。

アンケートの設問は8問あり、回答時間の目安は10～15分程度です。

二次元バーコード



URL

<https://forms.gle/QoU2uAPXEgaKh62x8>

設問1 県立高校の入学定員に対する県外生の割合（一家転住を除く）について、どう思いますか。ご自身の考えに最も近いものを1つ選んでください。

01_すべての県立高校で、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）は特に定めずに、募集した方がよいと思う。

02_近年の志願者数や定員充足率等を踏まえたうえで、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）を定める県立高校と定めない県立高校とをそれぞれ決定し、募集した方がよいと思う。

03_すべての県立高校で、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）を決定した方がよいが、その割合については、近年の志願者数や定員充足率等を踏まえたうえで、学校により異なる割合とし、募集した方がよいと思う。

04_すべての県立高校で、入学定員に対する県外生の割合（内数の比率）を統一したうえで、募集した方がよいと思う。

設問2 公立高校入試のA日程、B日程、C日程をすべて3月に実施していることについて、どう思いますか。ご自身の考えに最も近いものを1つ選んでください。

01_よいと思う (→ 設問5)

02_どちらかといえばよいと思う (→ 設問5)

03_どちらかといえばよくないと思う (→ 設問3、設問4、設問5)

04_よくないと思う (→ 設問3、設問4、設問5)

設問3 設問2で「03_どちらかといえばよくないと思う」又は「04_よくないと思う」と回答した方にお聞きします。その理由について、記入してください。

設問4 設問2で「03_どちらかといえばよくないと思う」又は「04_よくないと思う」と回答した方にお聞きします。公立高校入試のA日程、B日程、C日程をそれぞれの時期に実施した方がよいと思うか、記入してください。

設問5 他県においてすでに実施している特色化選抜の導入について、どう思いますか。ご自身の考えに最も近いものを1つ選んでください。

※ 特色化選抜とは、志願者の目的意識や主体性をより重視する選抜方法のことで、志願者は、熱心に取り組んできたことや、志願先高等学校が示す「求める生徒像」に向けて努力したことを生かして受検することができます。また、各高等学校は、各校が実施する検査や志願理由書等を通して、「目的意識」や「学びに向かう力」、「思考力、判断力、表現力等」を総合的に判断します。

01_導入した方がよいと思う (→ 設問6、設問8)

02_どちらかといえば導入した方がよいと思う (→ 設問6、設問8)

03_どちらかといえば導入しない方がよいと思う (→ 設問7、設問8)

04_導入しない方がよいと思う (→ 設問7、設問8)

設問6 設問5で「01_導入した方がよいと思う」又は「02_どちらかといえば導入した方がよいと思う」と回答した方にお聞きします。特色化選抜をどの時期に実施した方がよいと思うか、記入してください。

なお、記入にあたっては、現行のA日程、B日程、C日程の実施時期に関わらず、特色化選抜の実施時期として適切だと考えられる時期を記入してください。

設問7 設問5で「03_どちらかといえば導入しない方がよいと思う」又は「04_導入しない方がよいと思う」と回答した方にお聞きします。その理由について、記入してください。

設問8 現行の入試制度に関する課題や改善点等について、ご意見等があれば記入してください。

(実施時期、選抜方法、事務手続、県外からの志願承認など)

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

